

政事堂記録に登る。年齢四十八。

何厚基 (Ho Hou—chi)

字 陟寅

奉天省遼陽縣人

前清時に知縣試用となり營口鑿務官地局等差に任ぜらる、民國六年更に遼陽殖邊銀行長となり現に其の職にあり。年齢四十二。

何杰 (Ho Chieh)

字 孟綽

廣東省廣州人

初め廣州嶺南學堂及び唐山路礦學堂に學び、宣統元年官費を以て米國に留學し、宣統二年科羅拉多礦業學校に入り探礦冶金科を修め、民國二年礦工程師の學位を得更に理海大學に入り、民國三年碩士の學位を得、是年歸國し北京大學探礦冶金科教員に任ず。年齢二十九。

何炳松 (Ho Ping—sung)

字 柏臣

浙江省金華縣人

初め金華中學堂及び浙江高等學堂に在りて肄業し常に首席を得、民國元年金華中學堂教員に任ず、民國二年官費を以て米國に留學し加利佛尼亞大學に入り、旋て威斯康心大學に轉じ政治學を習修し民國四年學士の學位を得更に普林斯頓大學に入り、民國五年碩士

の學位を得、論文を以て獎を得、留米學生會々員及び中國學生會副會長と爲る、又曾て威斯康心大學政治學助教と爲り、又留米學生季報編輯と爲る、民國五年夏歸國せり。年齢二十七。

何炳庠 (Ho Ping—hsiang)

字 甲三

安徽省人

前清中保定公巡局第一局巡官となる、民國二年三月直隸冀南觀察使に、三年五月大名道尹に、四年三月上大夫を授けられ、十一月陝西榆林道尹に轉任し、五年七月劉騰漢と交代せり。

何海濤 (Ho Hai—t'ao)

字 伯龍

甘肅省皋蘭縣人

壯歲天山南北に官游し又教育に従事して功を以て庫車直隸州知州となる。

第一革命當時新疆に在り革命運動をなし具さに艱難を嘗め民國二年參議院議員に擧げらる。年齢四十五。

何海鳴 (Ho Hai—ming)

字 伯龍

湖南省人

何君は前清の退伍兵なりといふ、後湖北大江報に主筆となり革命を鼓吹し爾來報界に名を知らる、第二革命の時孫黃失敗の餘を承

廣東省南海縣人

香港醫學校を卒業し第一革命の時廣東都督府衛生司副司長たりしが今や政界を脱して香港に在り。年齢四十。

何恭弟 (Ho Kung—ti)

字 伯龍

廣東省順德縣人

前清の拔貢にして廣東省城にて學校教員たるもの年あり、嗣いで廣東共和報主筆たりしが第三革命に當り香港共和報に執筆し革命に聲援せり、進歩黨系に屬す。年齢四十餘。

何恩溥 (Ho En—p'u)

字 伯龍

直隸省天津縣人

民國六年十二月現在江蘇督軍公署參謀長たり。

何清華 (Ho Ch'ing—hua)

字 篠聯

湖南省郴縣人

舉人にして前清中外務部に奉職し、民國成立後交通部郵傳會計司計理科主事に拜命す、六年十二月現在電政司總務科主事たり。

何國均 (Ho Kuo—chin)

字 伯龍

一九九

けて猶能く南京に入る、都督に推され北兵に抗せり、然るに大勢已に去り孤柱支へ難く遂に日本に亡命せり、民國四年項城帝を稱するや乃ち上海に返へり愛國報を發行し反對尤も力む、同五年汕頭に至り事を擧げんとせしが果さず香港に潜伏せり、後進歩黨に接近を計るといふ。年齢三十三。

何海清 (Ho Hai—ching)

字 震寰

湖南省人

曾て雲南講武學堂を卒業し同省軍界に入り始めて連長(中隊長)となり營長(大隊長)に昇任し、貴州に轉任して第一團長(聯隊長)に任ぜらる、嗣いで又雲南に返へりて歩兵第八團長となり、民國四年十二月雲南獨立するや護國第一軍第二梯團司令官趙又新に従ひ、第四混成支隊長として瀘州方面に出征す。

何君雲南軍界の急進派にして當時獨立の樞機に參畫せり。年齢三十八。

何剛德 (Ho Kang—tê)

字 肖雅

福建省閩侯縣人

前清の進士にして曾て蘇州知府に任ぜらる、民國三年六月江西省豫章道尹となり、四年三月上大夫を授けられたり。年齢五十六。

何高俊 (Ho Kao—chün)

字 伯龍

廣東省人

字 幹臣

雲南省宜良縣人

前清中候補道を以て四川、雲南の巡防營統領(略日本の聯隊長に相當す)に歴任す、民國成立後雲南都督府、將軍行署等の顧問となる。

何君日本陸軍士官學校の第三期留學生なりしが中途退學せしは惜むべし、邦語に通ず。年齢四十一。

何紹賢 (Ho Shao—hsien)

字 希古

江蘇省武進縣人

北洋武備學堂を卒業し奉天陸軍小學堂長となり、禁衛軍參謀に轉じ民國二年十二月馮國璋宣武上將軍に任じ南京に往くに及て、陸軍少將に補し馮將軍副官長に任ぜらる。年齢四十二。

何啓椿 (Ho Chi—ch'un)

字 壽芬

福建省閩侯縣人

前清の進士にして兵部主事、陸軍部軍樂司科長、郵傳部電政司郎中に歴任す。

民國成立後交通部參事となり四年七月中大夫を授けられ、五年七月文官甄用委員會委員を命ぜられ、同年十月病を以て辭職せしが、六年七月海軍部秘書となる。年齢四十七。

何雲 (Ho Wên)

字 宇塵

安徽省懷寧縣人

前清中日本に留學し法政大學を卒業す、歸朝後法政舉人となり湖南岑、揚、余各巡撫の文案並に憲政文案會議廳參事、湖南調查局法制科長に歴任す。

民國元年衆議院議員に舉げられ憲法起草委員となり、又王揖唐と共に北京に中華大學を創立し並に醒華、新中國報の主筆たりしが嗣いで帝制に反對するに因り、宋遂鶴と共に軍政執法處に繋かれ新中國報亦封禁せらる、項城長逝し國會復活するの後赦され再び議席に就きしが、その賦に在るや果辭二卷、居易錄一卷を著し、又湖南風土記十二卷、論符二卷、澄園二卷、龍潭室詩鈔二卷を著せり。年齢三十四。

何焱森 (Ho Yen—sên)

字 伯述

廣東省廣州人

初め廣東時敏學堂に學び光緒三十三年京師大學堂を卒業す、舉人及び内閣中書、農工商部七品小京官を授けらる、光緒三十四年官費を以て米國に留學し「オレゴン」大學に入り法律を修め宣統三年西北大學に轉じ教育及び經濟を修め民國二年碩士の學位を得留米學生會及び世界會々員、中國學生分會書記、華僑學堂教員と爲る民國二年歸國し米支油礦處勘礦主任と爲り、民國五年北京廣東學

校々長に任ず、中西教育概論の著あり。年齢四十。

何景新 (Ho Ching—hsin)

字 翼民

湖北省黃陂縣人

日本法政大學に修業すること二年、歸りて吉林省長春及び延吉の檢察廳に歴任せしが後辭して歸郷せり、民國五年二月又出て、吉林省琿春縣知事たり。人となり自負心強く又爭心あり。年齢四十一。

何煥典 (Ho Huang—tien)

字 慎五

湖北省廣濟縣人

光緒二十年縣學に入り夫れより江西白鹿洞書院、湖北江漢書院、兩湖大學等に在りて學を修め、同二十八年舉人を得たり、翌年湖北省城高等小學堂監學兼算學教育の任に當り、更に潛江縣師範學堂、支那師範庚壬堂、高等小學堂長、南學堂々長、江甯調查總局統計課正股員、江甯駐京調查員兼北京陶氏小學堂長、陶氏中學監督及び陶氏女子高等小學經理等の職を経て、宣統元年教育界より轉じて天津高等審判分廳刑事部長となり、更に天津高等審判分廳民事部長、粵漢鐵路公所科員、順天府民政科一等科員、安徽蕪湖道第一科主任、奉天公署文牘科長、錦縣稅捐徵收局長に歴任して最近鐵嶺稅捐局々長に陞任され六等嘉禾章を賞授さる、年齢四十。

何瑞麟 (Ho Jui—lin)

字 止齋

江蘇省武進縣人

初め官界にありしが民國成立後轉じて商業界に身を投じ今は中國銀行黑龍江分行管理たり。年齢四十四。

何煜 (Ho Yü)

字 南孫

四川省人

漢學に精通す、前清中黑龍將軍程德全の信任を受け文案長となる爾來程氏と親交を訂し民國成立の際程氏江蘇都督たるや氏往いて之を補佐し、民國三年六月黑龍江省龍江道尹に任ぜられ、五年六月免職せらる。年齢三十八。

何裕康 (Ho Yü—k'ang)

字 仲安

吉林省人

民國二年本省より選ばれて參議院議員となる。年齢三十五。

何寶笙 (Ho Pin—shêng)

字 芷舲

江蘇省丹徒縣人

舉人にして前清中法部都事司主事に任用せらる、民國成立後蒙藏

院總務廳僉事、會計科長となる、嗣いで民國四年八月少大夫を授けられ嗣いで中大夫を授けらる、六年十二月現在同院統計科長たり。

何福 (北京音 Ho Fu) (廣東音 Ho Fook)

字 澤生

香港人

何東の弟何甘棠の兄にして香港中央學校卒業生なり、往きに香港土木局の職員たりしが兄東に繼いで「ジャーデン、マヂソン」の買辦となり、後又弟甘棠に譲れり。

何君家資百萬、共和に賛成せず、従つて政事の爲めに義捐するを肯ぜざるなり、又守錢奴なりとの世評あり。年齢五十一。

何鋒鈺 (Ho Fêng-yü)

字 澤生

廣東人

民國二年八月少將に同年十二月中将銜加授、陸軍第九師第六旅長に任ぜらる。

何慶邦 (Ho Ch'ing-pang)

字 澤生

奉天省復縣人

前清の貢生にして實業に従事せり、復縣の資産家にして地方に勢力あり、その長男某明治大學卒業生にして、第一革命の時關外軍政府執法司總務課長たり。年齢約七十。

何慶德 (Ho Ch'ing-tê)

字 新齋

吉林省琿春縣人

前清中吉林省會議員となり、民國二年學務視察として東京に派遣せらる。年齢三十九。

何積祐 (Ho Chi-ku)

字 新齋

湖南省道縣人

舉人出身にして前清中軍諮府第二科員に任用せられ民國成立後曾て參謀本部代理高級副官に拜命す。

何錦棠 (Ho Chin-t'ang)

字 新齋

廣東人

ホノルルに生る、同地鄂湖學校に學び學校雜誌襄理と爲る、光緒三十四年自費にて米國に留學し威斯康心大學に入り經濟學を修め民國元年學士の學位を得又講演第二名獎を得、同地萬國會書記、中國學生會書記及會長、中部留米學生分會書記と爲る、民國元年ホノルルに歸り美檀銀行收支員に任じ民國五年同地比孝銀行保險部幹事員と爲る。年齢二十九。

何豐林 (Ho Fêng-lin)

字 新齋

廣東人

年會講演部書記と爲り米國に赴き世界基督教學生會代表に充たり民國四年遊米商業團名譽書記と爲り、五年中國基督教青年會總書記に任ず。年齢三十五。

余心靈 (Yü Hsin-ling)

字 新齋

江蘇省丹徒縣人

前清中戸部、度支部等に奉職し長官の信任を得嗣で四川省財政事務調査を命ぜられ詳細復命するところあり、當時の軍機大臣那桐其議を稱揚し留任して同省鑛務を處理せしむ、民國四年に至り巡按使署秘書に任ぜられたり。

余建侯 (Yü Chien-hou)

字 東屏

江蘇省丹徒縣人

前清の廩生にして資政院秘書廳三等秘書機要科員となり、民國成立後政事堂主計局稱辦に任ぜられ、民國四年二月中大夫上大夫銜を授けらる、六年十二月現在國務院統計局參事たり。年齢五十三。

余炳文 (Yü Hsin-wên)

字 東屏

河南省商城縣人

前清の舉人にして軍諮府第四廳第二科員に奉職し民國成立後參謀本部三角課長に任ぜらる六年十二月現在仍ほ該職に在り。

山東省平陰縣人

天津武備學堂を卒業す、民國元年十月少將となり、二年九月中將銜加授、陸軍第七旅長に任ぜられ、後陸軍第四師步兵第八旅長に轉ず六年十二月現在第八旅長兼浙江寧臺鎮守使たり。

何麟書 (Ho Lin-shu)

字 季剛

貴州省貴陽縣人

前清の舉人なり、民國二年一月貴州教育司長、四月民政公署秘書、十二月内務司長、三年七月政務廳長に歷任す、四年三月免職となり五年八月又政務廳長となる。年齢三十九。

余日章 (Yü Jih-chang)

字 季剛

湖北省武昌人

初め武昌文華書院に學び上海聖約翰大學を卒業し、武昌文華書院教員及び兵操體官に任じ文華教育界の編輯と爲る、光緒三十四年自費を以て米國に留學し「ハーバート」大學に入り教育を修め宣統二年碩士の學位を得選ばれて某名譽學會に入り「支那舊日の學校」なる一文を撰し獎を得、留米學生會々員、北米中國基督教學生會々員、及び職員、哈佛世界會々員と爲る、宣統三年歸國し武昌文華大學堂長、武昌赤十字會英文書記、黎副總統府外交官に任じ、民國元年北京に赴き全國教育界代表に充たり民國二年中國基督教青

余振興 (Yü Chên—hsing)

山東省人

江南水師學堂第四期卒業生にして、民國三年海軍上校(大佐)楚有艦長に任ぜらる。

余祐蕃 (Yü Yu—fan)

字 文岑

湖南省平江縣人

前清の附生にして神戸領事、駐日、駐佛公使館二等書記官、自耳義、伊太利各公使館隨員に歷任す。民國成立後外交部參事を以て瓜哇「バタン」領事となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢五十二。

余紹宋 (Yü Shao—sung)

字 越園

浙江省龍游縣人

前清中日本に遊び法政大學を卒業し歸朝後法政學人を授けらる、嗣いで外務部主事となりしが民國成立後衆議院秘書より司法部參事に累進せり、六年十二月現在仍ほ勤續せり。年齢三十五。

余紹琴 (Yü Shao—chin)

字 朋期

四川省平武縣人

前清中四川法政學校法律專門科を卒業し北京に入り辯護士となり嗣いで日本に留學し中央大學高等研究科を卒業し歸國せり。當時適國會議員選舉に會ひ選ばれて衆議院議員となりしが爾後屢次の解散に遭へり。年齢三十一。

余培森 (Yü P'ei—sên)

字 松崖

安徽省來安縣人

前清中舉人より知縣に選ばれ、前伊犁將軍長庚の上申に依り新疆に派遣せられて文案となり、參謀處提調となり、嗣いで同省孚遠奇台縣知縣に歷任せり。民國成立後迪化府知府、都督府秘書、阿爾泰辦事長官秘書、山西警備隊營務處等に勤務し、朔縣代理知事たりしが嗣いで朔縣知事に昇任し、六年十二月現在山西離石縣調署知事並に朔縣知事たり。

余斌 (Yü Pin)

安徽省懷甯縣人

前清中安徽法政講習所簡易科を卒業せり、民國成立後第三期知事試験に應じ優等に合格し民國四年八月雲南巡按使任可澄の上申に依り雲南維西縣試署知事に任ぜらる。

余榮昌 (Yü Ch'í—ch'ang)

字 戟門

浙江省紹興縣人

前清國子監卒業生にして日本帝國大學法科を卒業す、後度支部主事候補となり民國成立後法制局參事大理院庭長兼推事に任命せらる、嗣いで民國四年一月上大夫を授けられ後又文官高等懲戒委員會委員を命ぜらる、六年十二月現在大理院民事第二庭々長推事たり。年齢三十六。

余欽翼 (Yü Ch'in—i)

字 蔡蓀

湖南省武陵縣人

明治四十年十二月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸國後第四十九標の管帶(大隊長)に任じ第一革命の功を以て第一師長に任ぜらる、前清浙江巡撫余聯沅の子にして國民黨に屬す、王隆中、梅馨と同窓にして友善。年齢三十六。

余 燾 (Yü Chieh)

字 節高

安徽省望江縣人

前清の附生にして曾て度支部主事に拜命せり民國三年六月湖南省武陵道尹に任ぜられ民國四年三月上大夫を授けらる 五年九月免職せられたり。

余誠格 (Yü Ch'êng—ko)

安徽省望江縣人

光緒十五年進士に第す、同三十年四月廣西太平思順道、同年五月同省按察使、三十一年十二月署理布政使に歷任し宣統元年五月病を以て辭職す、同二年復出でて陝西布政使、湖南布政使、湖南巡撫となり第一革命の際纔に身を以て免かれ爾來上海に隠棲せり。年齢五十餘。

余際唐 (Yü Chi—tang)

字 蘊蘭

四川省榮昌縣人

光緒二十年日本に留學し東京商船學校を卒業せり、宣統三年歸國し翌民國元年本省水師司令長官に任ず日英兩國の語に精通すといふ、前同盟會員なり、六年十二月現在四川重慶鎮守使たり。年齢三十五。

余憲文 (Yü Hsien—wên)

字 鼎三

浙江省樂清縣人

北京陸軍大學を卒業す、民國五年四月浙江獨立後第六師騎兵團(聯隊)長となる、六年十二月現在浙江第一師騎兵第一營長たり。

余鶴松 (Yü Hao—sung)

字 鳴阜

江西省宜黃縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校工兵科卒業生にして、歸國後江西、雲南兩省の軍界に歴職す、第一革命の時南京都督府參謀に任じ後九江混成旅長に轉任せり。年齢三十五。

呂公望 (Lü Kung—wang)

字 戴之

浙江省永康縣人

前清中北洋陸軍速成學堂に入り、卒業後廣西兵備處軍事科員、考功科員、經理科員、浙江督練公所經理科員、第八十二標督隊官に歴任す、宣統二三年の頃故吳祿貞、王文慶等と通謀して大に革命を計畫し第一革命の際は浙軍參謀長に任じ都督程德全に從ひ南京を攻めて功あり、後第十一旅長、第六師長に累進し二年七月第二次革命に方り初め上海革命黨に通せしも後陳其美一派と相合はず遂に分離せり、三年七月嘉湖鎮守使に進み、三年十一月一等男に封ぜらる、嗣いて第三革命西南に起り浙江獨立を宣布するや嘉湖戒嚴指令官等に任じ上海北軍と相對峙し五年七月都督屈映光辭職するや推されて浙江督軍となり省長を兼ね、六年一月辭職して懷威將軍を以て將軍府に列せり。年齢三十九。

呂丹書 (Lü Tan—shu)

湖北省鄂城縣人

辛亥の秋湖北都督府軍事參議兼護軍司令官となり功を以て陸軍少將を授けらる、第二革命に際し復孫黃と通謀せしも其無能を慨し遂に同黨と相合はざるに至れり、故を以て五年二月漢口に於て排袁を計畫せしも討袁各派皆之を敬遠せりといふ。

呂志伊 (Lü Chih—i)

字 天民

雲南省恩茅縣人

前清中日本に留學し速成師範學校、早稻田大學政治經濟科に修業す、嗣いて中國同盟會成り雲南支部長に擧げられ、光緒三十四年夏雲南河口の事起るや同志と共に雲南獨立後援會を組織し義軍の後援を爲し、又同年十一月南洋に赴き起義を謀りしも成らざるなり。辛亥の春黃興趙聲等と事を廣州に擧げ復敗れ、上海に赴き民立報記者となり後香港に往き雲南に入り遙かに武昌に響應す。嗣いて雲南獨立し都督府秘書兼參議院參議に任じ南京臨時政府の司法部次長に擧げられ南北統一後は上海同盟會機關部副部長となり民國新聞の主事を兼ね、又南洋に赴き國民黨の支部を設立せり。民國二年參議院議員となり憲法起草委員たりしが第一次解散後上海に寄居し、五年春雲南に歸り第三革命に方り護國第一軍參議、南洋籌餉代表、肇慶軍務院法制顧問等に歴任せしが國會再蘇後同年夏復解散の厄に遭へり國民黨の心事轉た憐むべし。年齢三十七。

呂宗恪 (Lü Tsung—ko)

字 雪荷

安徽省旌德縣人

前清の舉人にして曾て度支部に奉職し民國成立後財政部會計司第三科長に任ぜられ民國四年七月少大夫を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

呂春煊 (Lü Ch'un—kuan)

字 芋農

廣西省陵川縣人

民國五年一月廣東嶺南道尹となり六年十二月現在勤續せり。

呂海寰 (Lü Hai—huan)

山東省人

前清中外務部尙書、督辦商務大臣、津浦鐵路督辦等の各要路に當り、民國三年五月袁政府の參政に任ず。

呂嵩壽 (Lü Sung—shou)

民國三年四月陸軍少將に任じ中將銜を加ふ、六年十二月現在廣東督軍公署參謀長たり。

呂渭英 (Lü Wei—ying)

字 文起

浙江省永嘉縣人

前清中官知府に至る、民國成立後少大夫を授けられ五年六月浙江地方實業銀行總理たり。年齢五十四。

呂復 (Lü Fu)

字 健秋

直隸省涿鹿縣人

前清中直隸高等學校に修學し又日本に留學し初め經緯學校に入り嗣いて明治大學を卒業せり。民國元年順直省議會議員に同二年衆議院議員に擧げられしが解散後復日本に游學し同五年三月歸朝して上海に中華雜誌及び新中國報の記者となり椽大の筆を振へり、同年八月國會再開し入京議員に復席し六年六月又解散せらる。年齢三十九。

呂慰曾 (Lü Wei—ts'eng)

字 渭生

河南省林縣人

進士出身にして前清中法部主事を拜命し民國成立後司法部僉事となり嗣て同部主事に任ぜらる、六年十二月現在同部總務廳第二科僉事たり。

呂調元 (Lu Tiao—yuan)

字 燮甫

安徽省太湖縣人

光緒癸卯の進士にして光緒三十二年天津縣知縣となる。民國二年一月河南省豫南觀察使に任じ十二月湖北民政長に榮轉、三年十月陝西巡按使に轉ぜしが五年六月辭職せり。年齢五十一。

呂鑄 (Lü Chu)

雲南省雲南縣人

前清の舉人にして曾て民政部民治司に奉職し 民國成立後内務部職方司長に任ぜられ民國四年七月中大夫を授けらる、嗣て洪憲元年一月上大夫に進む。

杜公化 (Tu Kung—hua)

字 子誠

山西省靈邱縣人

第一革命後山西省議會副議長に推され並に山西北路民團長たり。年齢五十餘。

杜竹軒 (Tu Chu—hsian)

字 統一

浙江省人

曾て北洋高等警察學堂を卒業し爾來習藝所書記官、民興報編輯、益興報言論部主筆となる。

氏は好んで各種會合に列席し民國四年の日支交渉の際は各會に日貨排斥演説をなせり、愛國家なりといふ。年齢四十。

杜貢石 (北京音 Tu Kung—shih) (廣東音 Tu Kung—shek)

廣東省南海縣人

前清の秀才にして日本法政大學を卒業せり、歸朝後廣東法政學堂教員となりしが民國元年廣東都督府參議に任じ第二革命に敗れて南洋に亡命せり。

氏は孫文派の中華革命黨員にして能文の聞えあり並に胡毅生、朱執信と同窓たりといふ。年齢三十七。

杜師業 (Tu Shih—yeh)

字 冠卿

浙江省青田縣人

曾て日本に留學し早稻田大學を卒業せり。

民國成立後衆議院議員に擧げられしが二年解散せらるゝや上海に赴き時事新聞編輯主任となり第三革命當時浙江獨立するや大に奔走せり嗣いで五年八月議會續開して上京せしも六年六月重ねて解散せられたり、六年十二月現在財政部清查官産處會辦たり。年齢四十一。

杜紹先 (Tu Shao—hsien)

山西省人

滿洲に於て特産物及び雜貨を營業し買賣街、大連に商店を有せり、資本金八十萬、現に奉天省梨樹縣に住す。年齢五十三。

杜淮川 (Tu Huai—ch'uan)

安徽省人

曾て日本陸軍士官學校に入り光緒二十七年歩兵科を卒業せり。清末鎮江新軍旅長たりしが第一革命後江蘇陸軍第二十六師長に任じ民國元年九月陸軍中將に補せらる。年齢四十餘。

杜蔭田 (Tu Yin—t'ien)

字 召棠

吉林省吉林縣人

前清附貢生出身にして吉林寧屬墾殖交涉總局總辦、屯兵營管帶、黑龍江衛隊幫統、警察廳長の官に歴任し 次で黑龍江清丈兼招墾總局長に進み龍江府知府を兼ね三等嘉禾章を有す、六年十二月現在龍江縣知事兼任清丈兼招墾總局長たり。年齢四十五。

杜樹勳 (Tu Shu—hsin)

字 黻臣

湖北省竹山縣人

前清中拔貢より知縣を考取し後北京大學法科を卒業し復醫學、算法を研究し並に政治を研究し醫義又醇、算數簡括、政治新論等を著せり、其後河南、陝西、四川各省知縣に歴任せしが光復の際辭職して歸郷し、民國二年衆議院議員となり爾後再度の解散を経たり、年齢六十一。

杜錫鈞 (Tu Hsi—chün)

字 鴻賓

直隸省故城縣人

光緒三十二年十一月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業せり歸國後湖北軍に入り標統となりしが、第一革命後湖北陸軍第二師々長を代理し 民國元年九月陸軍中將に進補、同二年六月漢口鎮守使に任ぜられ以て今日に及べり。

杜鍾駿 (Tu Chung—chün)

江蘇省江都縣人

前清中府員より推薦に依り知府補用となり海運洋務、撫署書記、解餉發審、平湖淳安各地知縣、蠡浦、湖城、絲綢、雲水橋、江干各地釐金局に歴任して政績大に揚がれり、民國三年七月鹽務を調査し奉天財政顧問となる、嗣て政事堂記録に登りしが六年四月解決せらる。

杜寶楨 (Tu Pao—chên)

字 小琴 天津人

曾て中華報を主宰せしが今商務總會顧問、自衛游行隊總隊長、商業研究所議長、體育社副社長、私立小學堂校長、軍警聯合團評議員等の公職に在り。
天津の名望家にして好んで公益事業に盡力せり。年齢四十六。

谷如壙 (Ku Ju—yung)

字 芙塘 山西省神池縣人

進士出身にして前清中度支部員外部となり四品卿銜を授けられ河南正監理財政官を拜命す民國成立後廣東粵稅關監督兼三水、江門九龍、拱北各地稅關事務管理に命ぜらる、四年三月辭職せり、年齢六十。

谷芝瑞 (Ku Chih—ju)

字 藹堂 直隸省臨榆縣人

前清翰林にして宣統中順直諮議局副議長となり並に國會連開運動をなせり、又山海關商務會總理に推されしが、民國成立後參議院庶政審查會常任委任に選舉せられ、民國四年帝制問題發生後國民會議立法院議員となる、蓋し山海關地方の有力者なり。

又日露戰役後滿洲に關する日清條約締結せらるゝや「直隸人民中日七月條約の爲め政府に上つるの書」なるものを草し該條約に反對せり、六年十二月黑龍江省綏關道尹に任ぜらる。年齢四十五。

谷思填 (Ku Ssu—tien)

字 仲言 山西省神池縣人

前清中山西大學に入り後日本に留學し當時孫黃等同盟會組織の議に與れり、嗣いて歸國して晋秦の大官に進説す、故に辛亥の革命に方りて兩省先づ獨立を宣布すといふ、當時清軍娘子關を攻むるや氏乃ち閻都督と共に歸化綏遠の間に轉戦せり。
民國成立後山西南京の間に往來し同二年衆議院議員に擧げられしが屢次の解散に遭ひ暫らく雌伏せりといふ。年齢三十六。

谷寅賓 (Ku Yin—pin)

貴州省順安縣人

前清の優廩生にして刑幕より法官試験に合格し雲南高等審判廳推事となり民國元年歸省して貴州司法籌備處長に任ぜられ、同三年裁撤されて鎮遠縣署理知事を命ぜられしが、嗣いて雲南文山縣署理知事たり。

谷嘉蔭 (Ku Chia—yin)

字 芷航 吉林省扶餘縣人

前清中恩貢生より候選通判となり黑龍江善後局委員に拜命し收稅事務を掌り又同省諮議局議員を兼ねたり民國二年正式國會成立して衆議院議員に選舉せらる。年齢五十七。

谷鍾秀 (Ku Chung—hsiu)

字 九峰 直隸省定縣人

前清の秀才にして清末の大儒吳汝綸の門人なり、曾て北京大學堂師範部を卒業し東渡して早稻田大學に遊べり、宣統元年浙江巡撫衙門憲政籌備處科長に任ぜられ嗣いで直隸省順直第一期諮議局議員に擧げらる。

第一革命後南京參議院に列席し、民國二年北京衆議院議員に當選し憲法起草委員に擧げらる、同年十一月國會解散後上海に正誼雜誌、新中華雜誌を發行し又四年十月中華新報を發行し反袁熱を高めたり、五年八月農商部總長に任じ六年六月辭職せり。
谷氏國民黨の中堅にして邦人相識のもの少からず然るに氏が農商部在職中は極力日支關係を阻害せりと傳へらる。年齢四十六。

谷耀山 (Ku Yao—shan)

字 岫巖 奉天省公主嶺人

吉林法政專門學校卒業生にして現に北京「北京新聞」の編輯員たり

り、七年三月北京報界赴日視察團を組織し東游せり、當時同團の編輯部員に擧げらる。年齢三十三。

故阮忠樞 (Yüan Chung—shou)

字 斗瞻 安徽省人

前清の舉人にして夙に文名あり、曾て袁世凱の幕僚となり頗る信任を得、第一革命の際命を以て袁氏の出處を促し、民國成立後總統府内史長に任ぜらる、六年七月復辟の際には郵傳部左侍郎を命ぜられしが十二月病故せり。

阮忠植 (Yüan Chung—chih)

字 公槐 安徽省合肥縣人

民國三年四月吉林東北路觀察使に任じ五月依蘭道尹に改め並に依蘭交涉事宜を兼ね以て今日に至れり。

阮性存 (Yüan Hsing—t'sun)

字 荀伯 浙江省餘姚縣人

日本法政大學を卒業し浙江省法政大學校長となる、民國五年六月浙江都督府秘書に任ぜられ、又杭縣律師會々長たり、現に杭縣に住す。年齢四十三。

阮貞豫 (Yüan Chên—yü)

字 奧伯

安徽省合肥縣人

前清中奉天法政學堂を卒業し候補知縣となり奉省各要職に歴任せり。

民國二年五等嘉禾章復五等文虎章を獎給せられ同三年陝西省に赴任し白河縣署理知事となり、漢陰縣知事に轉任し第四期知事試験を免じ六年十二月現在臨潼縣知事並に鎮巴縣試署知事たり。

阮開銓

(Yian Kai—ch'ian)

陝西省山陽縣人

前清の舉人にして宣統三年四川省江安縣知縣となり民國四年同省成都縣知事に任用せらる。六年十二月現在奉節縣知事たり。

辛 漢

(Hsin Han)

字 濯之

江蘇省江寧縣人

前清の附貢生にして曾て日本に留學し東京帝國大學法科を卒業し歸朝後法政學人に合格し民政部に分屬して主事となり、浙江巡撫の上申に依り新政を翼賛し、嗣いて浙江審判廳推事、法政傳習所監督、高等審判廳々丞並に浙江高等檢察廳檢察長に歴任せり。民國元年南京署理知府同三年直隸省寧津知事となり後奉天に派遣せられ遼陽地方審判廳長に任用せらる、並に前參議院議員たりしが六年十二月現在農商部參事なり。年齢四十。

辛 際唐

(Hsin Chi—t'ang)

字 述祖

江西省萬歲縣人

前清の舉人にして郵傳部主事たり。

民國元年郷に回へり地方自治に盡力し同二年衆議院議員に擧げらる、氏は國民黨員にして爾來屢次の解散と政府の壓迫に具さに艱苦を嘗めたりといふ。

辛 耀庠

(Hsin Yao—hsiang)

字 興黎

江蘇省上海人

初め上海聖約翰大學に學び學績を以て倫貝子獎牌を得聖約翰大學豫備館助教に任じ又聖約年報の編輯に任ぜらる、光緒三十三年官費を以て米國に留學し耶路大學に入り土木工學を修め宣統二年學士の學位を得、更に「ペンシルバニヤ」大學に入り鐵路運輸科及び數學地質學を修め宣統三年碩士の學位を得、又「マ」州工業學校に入り土木工學を修め選ばれて某名譽學會に入る、屢々學績最優等を以て獎を得、耶路會々員、「ペンシルバニヤ」大學會英文書記、留米學生會々員と爲り耶路大學數學助教と爲る、民國元年歸國し交通部々員に任じ民國二年川漢鐵路宜夔段副工程師に任じ、民國五年直隸山東電報局稽核員及び北京交通傳習所教員に任ず、又中國工程師學會々員となる。年齢二十九。

佟 文政

(T'ung Wen—ch'eng)

奉天省錦縣人

前清の進士にして曾て内閣中書、候補直隸州知州に歴任し退官後錦縣商務總會總理に任ず。

佟 堡

(T'ung Pao)

字 確屏

漢軍八旗人

前清中國子監を卒業し北京内城巡警總廳七品警官となりしが民國成立後京師警察廳總務處第二科員に拜命せり、六年十二月現在仍ほ勤續す。

佟 慶山

(T'ung Ching—shan)

字 祝三

吉林省人

氏は滿洲旗人にして家産豊にして地方の名望家なり、前清末年吉林省諮議局副議長となり又資政院議員に選ばれたり、民國成立後同元年籌辦國民捐總會副會長、臨時旗務籌備處總理に任ぜらる、同年八月内蒙古札鎮に騷亂起るや單騎入蒙して能く鎮壓の功を奏したるを以て大總統一等金色獎章を賞加し並に副都統候補となせり嗣て同四年吉林督理軍務孟恩遠、氏を稱揚して陸軍部記録に存せしむ。年齢四十四。

佟 聯貴

(T'ung Lien—kuei)

正黃旗滿洲人

前清中北京内城巡警總廳に奉職し八品警官となり民國成立後北京内城右一區警察署員に任命せらる。

邢 治清

(Hsing Chih—ch'ing)

字 鶴舫

直隸省天津縣人

前清時北京に在りて道勝銀行(露清銀行)員たり後吉林交通銀行の聘を受け現に其の職にあり。年齢四十五。

邢 契莘

(Hsing Ch'ih—hsin)

字 契莘

浙江省嶧縣人

初め杭州府中學堂、上海南洋中學、直隸高等學堂に學び宣統元年官費を以て米國に留學し「マ」州工業學校に入り造船科を修め民國三年學士の學位を得民國五年碩士の學位を得、曾て演說辯論を以て獎を得「マ」州工業學校造船學會々員、中國學生會々長、留米學生會評議員、留米學生季刊經理、國防報記者と爲る、又紐約造船所及び海軍裝置公司に在り建築技師に充たる、又前河造船公司に在り機器師に充たる、民國五年歸國し民國六年大沽造船廠の事に任ず。年齢三十。

七 畫 [邢、牟、但]

邢端 (Hsing Tuan)

字 冕之

貴州省貴陽縣人

前清の翰林にして日本に派遣せられ財政工業を研究せり、歸朝後試験に合格し檢討並に侍講銜を授けられ嗣て郵傳部承參廳に奉職す、徐世昌東三省總督となるや奉天八旗工廠總辦に任ぜられ、後又直隸省に轉任し學務實業等を處理し功績あり。民國成立後農商部鑛政司第一科長僉事となり四年七月中大夫を授けられ、六年十二月現在同部鑛政司長たり。

牟堆潼 (Mou Tui-tung)

山東省福山縣人

北京外交部俄文專修館の卒業生にして民國三年外交部より新疆巡按使署に派遣せられ同省交涉署科長となり第四期知事試験に合格し塔城縣署理知事となれり。

牟琳 (Mou Lin)

字 貢三

貴州省遵義縣人

前清の舉人にして曾て日本に留學し宏文學院師範科を卒業し歸朝後遵義中學校、師範學校々々長教員等並に勸學所總董に歷任せり、宣統元年貴州諮議局副議長に嗣いで資政院議員に擧げられ即ち命

二一四

を請ふて日本に赴き政治を考察し歸りて其職に就けり。

民國成立するや衆議院議員となり進歩黨に隸籍して交際科主任となり、帝政問題發生後貴州に回へり第三革命に參畫し、戴戡熊其勳等と共に師を蕪江に出せり、嗣いで帝制取消し項城長逝し國會再開し入京議席に就きしが六年六月復解散の厄に遭へり。年齡四十一。

但夢辛 (Tan Mêng-hsin)

四川省瀘縣人

前清中外省の知府に歷任す、民國元年歸川し成都府知府兼團防總局長に任ぜり、舊同盟會員なり。

但燾 (Pan Tao)

字 植之

湖南省蒲圻縣人

湖北經心書院出身者にして光緒二十九年日本に遊び初め同文書院に入り後中央大學英法科に學び宣統二年卒業せり、當時東京にて孫文等の組織せる中國同盟會に入り書記に任ぜらる。

第一革命起り民國元年南京に臨時政府組織さるや秘書となり又兼ねて公報局長たり、嗣いで國民黨(同盟會の後身)の幹事に推され南北統一後北京政府の國務院秘書に拜命す、嗣いで浙江高等審判廳の廳長に轉任せしが宋教仁暗殺事件起るに及び、辭職して上海に辯護士を開業し復官を謀らず、民國四年帝制問題起り五年

孫文海外より歸るや馳せ參じて奔走せり。年齡三十六。

那彦圖 (Na Yen-t'u)

字 巨甫

現住北京蒙古人

外蒙古喀爾喀の親王なり、光緒十九年鑲白旗都統兼領侍衛內大臣、同二十四年三月正紅旗都統、二十九年鑲黃旗都統、三十四年十一月健銳營都統に歷任せり。民國成立後共和贊成の功を以て烏里雅蘇台將軍に任ぜられしが事を以て赴任せず、民國三年參政院設立さるや參政に任ぜられ六年九月臨時參議院の副議長となる、並に綏威將軍を以て將軍府に列し、兼て滿洲鑲黃旗正副都統たり。年齡六十餘。

那桐 (Na Tung)

字 琴軒

現住天津

前清の舉人にして光緒二十五年鴻臚寺卿に、同二十六年義和團事件の謝罪使として日本に來り、同年總理衙門大臣に任ぜらる、爾來理藩院侍郎、禮部侍郎、戶部侍郎、正黃旗都統に歷任し同二十八年外務部左侍郎に、同二十九年載振貝子に隨ふて復東游す、同年六月戶部尙書となり外務部尙書、步軍統領等に轉ず、三十一年協辦大學士、翌三十二年大學士に進補、三十三年軍機大臣、閱兵大臣、太子少保、宣統元年頭等第三寶星を賜ひ署理直隸總督となる、其後督辦稅務大臣、弼德院顧問大臣となりしが民國成立後職を去

七 畫 [那、岑]

リ今や天津の一富翁たり。年齡六十餘。

岑春煊 (Ts'ên Ch'un-hsüan)

號 西林

廣西省西林縣人

前清總督岑毓英の長子にして清節骨硬の士なり、光緒十八年光祿寺少卿に、同十九年大僕寺少卿に、二十四年廣東布政使に歷任す、當時兩廣總督譚鍾麟と衝突し甘肅布政使に轉じ、二十六年陝西巡撫に昇任せり、此年偶團匪事變に遇ひ兩宮西安に蒙塵せらるや警衛奉侍頗る力む、二十七年三月山西巡撫に、二十八年廣東巡撫に、同年九月署理四川總督に二十九年署理兩廣總督に歷任し令名を疆場に馳せたり、三十二年雲貴總督に任ぜられしが未だ赴任するに至らずして四川總督に轉じ途にして郵傳部尙書に命ぜられしが又改めて兩廣總督となす、當時中央政界混亂せるを以て辭して任に赴かず悠々滬上に自適せり、宣統三年四川風雲急なるや朝廷氏を起用して四川督帥となせしが半道武昌革命起るに遇ひ復上海に返へり、民國元年命を以て福建の政争を鎮撫し、二年川漢鐵路督辦となり六月辭職す、第二革命後南洋に亡命し、第三革命の際には民軍の巨頭たり、袁氏歿後一び日本に遊び幾くならずして歸國し六年七月幼帝復辟の際には弼德院顧問大臣を命ぜられたるが氏の顧る所にあらず、氏今や南北調停に熱心し居れり。年齡六十。

岑春煊 (Ts'ên Ch'un-ming)

二一五

廣西省西林縣人

岑西林の弟なり、惜むらくは盛名阿兄に如かざるなり、光緒十九年湖北糧道に任ぜられ二十四年待命となる、二十七年湖北漢黃德道となり漢口に駐し、二十九年七月按察使に昇任す、三十一年貴州巡撫に榮轉し翌年九月湖南巡撫に轉任せしが宣統二年同省暴動起り省城擾亂せり、當時處理宜しきを得ず免職せられ、今上海に棲隱せり。年齡五十餘。

克希克圖

(K'o—hsi—k'o—t'u)

字 仲養

蒙古人寄籍江蘇鎮江

駐防鑲江旗

氏は漢名を恩浩といふ其先蒙古を出て江蘇鎮江駐防旗人となれり光緒二十六年江南常備軍右軍隨營學校に入り同二十八年卒業す時に年甫めて十六、又江南將備學堂に入りしが二十九年日本に留學を命ぜられ東京振武學堂を卒業し嗣いで明治大學東京高等警察學校に修業す、當時革黨の嫌疑を受け官費停止の厄に遭ひしが仍ほ在學し三十三年卒業歸國せり、嗣いで三十四年黑龍江交涉局翻譯科員、宣統三年清華學校教師に奉職し兼ねて印鑄局科員に任ず。民國二年外蒙古札薩克圖汗部より選ばれ衆議院議員となり第一次解散後は蒙藏院科員、五年編纂に薦任さる、嗣いで五年八月再び議席に就きしが六年六月再度解散せらる、同年九月臨時參議院議員となる、並に蒙藏院編纂たり。年齡三十一。

廷瑞

(T'ing Jui)

字 輯卿

北京滿洲旗人

前清の進士にして光緒二十八年奉天省海城稅捐局長となり、民國三年六月海城縣知事に昇任し以て今日に至る、氏人となり温厚にして治績あり。年齡四十四。

貝允昕

(Pei Yün—hsin)

字 元徵

湖南省瀏陽縣人

共和黨員にして前湖南督軍兼省長劉人熙の甥なり、曾て東游して法政大學を卒業し歸朝後は湖南大公報の總理となり、目下長沙に辯護士を開業せり。年齡四十餘。

車震

(Ch'è Chên)

山東省臨清縣人

曾て第二十師々長范國璋麾下の旅長となり民國四年十二月雲南獨立後湖南沅江上流に進發せり、嗣いで五年五月湖南督軍湯壽銘の推薦を以て長岳鎮守使に任ぜられ長沙戒嚴司令官として湯氏の意を受け民黨を抑壓せしが同年五月項城卒去して形勢愈々非となり七月五日湯氏と相携へて長沙を没落せり、然るに民軍の追擊急にして湘陰縣境内に苦戦し當時負傷せりといふ。年齡五十三四。

利寅

(北京音 Li Yin) (廣東音 Lee Yan)

字 壽峯

廣東省花縣人

倫敦大學理化學科卒業生にして中國化學會廣東支會々長たり、第一革命後廣東都督府實業司副司長となる。年齡三十五。

希賢

(Hsi Hsien)

正黃旗蒙古人

前清中鎮守伊犁地方副都統となりしが、民國に及び、山海關副都統を拜命す。

汲金純

(Chi Chin—ch'un)

字 殿一

奉天省海城縣人

農家に生長し莊歳にして綠林の魁馮麟閣に投じ本邑に横行せり、光緒末年馮の歸順と共に巡防隊々官に任ぜられ管帶に進み馮が第二十八師長に昇任するや第五十六旅長となり陸軍中將銜に補し二等文虎章二等嘉禾章を給せらる、民國六年十一月馮德麟の後を襲ぎ第二十八師長に任じ中將に進補せらる。年齡四十。

言微

(Yen Wei)

七 畫 「利、希、汲、言、延、余」

畫 「利、希、汲、言、延、余」

江蘇省常熟縣人

曾て東京に留學し宏文學院、日本大學を卒業す、光緒三十四年吉林に來り、提學司専門科長、普通學務科長、優級師範學校長に歷任す。

民國二年吉林省留日學生經理委員に、嗣いで教育部直屬中央留學生經理委員に、四年東往して留日學生監督となる。

氏は前内務次長言敦彦氏の弟にして陸宗輿、金邦平諸氏と親交あり、又周自齊、李思浩氏等と親族關係あり。年齡四十一。

延齡

(Yen Ling)

字 鶴年

鑲紅旗蒙古人

前清中民政部承政廳員外郎となり、民國成立後内務部警政司第五科僉事、禁煙督察處審查員兼評議員等に任命せられ、民國四年七月中大夫となる、六年十二月現在同部衛生司第四科々長たり。

余司禮

(Sh'è Ssu—li)

四川省人

前清中日本に留學し明治大學法科を卒業せり、歸朝後曾て警務公所科員たりしが民國成立するや軍事總廳科長に拔擢せられ嗣いで四川省少城巡警司令官、籌辦旗民生計等に歴任し民國二年六月四川省會警察廳々長となり同三年二月重慶警察廳々長に轉任し嗣い

七 畫 [狄、冷、沙]

て建昌道代理道尹に任用せられたりと稱するも詳かならず。

狄葆賢 (Ti Pao—hsien)

字 楚青

江蘇省溧陽縣人

保皇黨の一人にして光緒戊戌政變に關係せり、當時事露れて日本に亡命せしが光緒三十年上海にて保皇會の機關紙「時報」を發行せり、同三十四年江蘇諮議局議員に擧げられ又宣統三年に至り北京に京津時報を發行す。

狄君は上海の有正書局の主人にして近時新聞事業は家弟狄南士に譲り佛學を研究せり、但し人となり伶俐にして利害の觀念に敏なりといふ。年齢四十餘。

冷通 (Leng Yü)

第二革命に當り江蘇第三師長を以て浦口に在りしが、南京失敗するや日本に亡命し又返へりて上海に潛み帝制問題起るに及び鈕永建に屬し討袁軍を起さんとせり。

冷遇春 (Leng Yü—ch'un)

四川省人

直隸保定軍醫學堂第三期卒業生にして、第二革命當時南京軍醫院院長たりしが南京陥るに及び日本に亡命せり、第三革命に當り熊

二一八

克武より四川に派せられ、孫澤沛、吳慶澂の護國軍に力を戮はせ匪徒を糾合して四川獨立を激成す。年齢約四十。

沙元炳 (Sha Yüan—ping)

江蘇省如阜縣人

前清翰林院編修にして漢學の造詣深く、夙に心を育英に潛め本邑に學校を創立し自ら校長となれり、民國三年江蘇省議會副議長に選舉せらる。年齢五十餘。

八 畫

【周。林。金。郡。孟。易。岳。屈。尚。

杭。季。武。宗。來。邨。阿。卓。帕。

邨。松。忠。姒。門。花。祁】

周大鈞 (Chou Pa—chin)

浙江省杭縣人

前清の附貢生にして日本に留學し早稻田大學政治經濟科を卒業す、歸國後延試に應じ法政科舉人となり七品小京官に任ぜられ、知縣として赴任せり、民國元年財政部鹽務籌備處辦事員となり、同四年保鹽場知事に任ぜられ、嗣いて廣東博茂場代理知事に轉任せり、六年十二月現在察哈爾に北蒙鹽局長たり。

周之驥 (Chou Chih—hsiang)

字 驥儕

浙江省諸暨縣人

前清舉人出身にして曾て宣統年間山西鮮州知州たり、民國成立するや四年山西汾城縣知事に任ぜらる。

周之翰 (Chou Chih—han)

字 文山

甘肅省武威縣人

民國二年衆議院議員となる。年齢三十七。

周之楨 (Chou Chih—chên)

字 蘇群

廣東省順德縣人

廣東將弁學堂卒業生なり、曾て南洋に商榷せしが宣統三年三月二十九日黃興等と共に廣東總督衙門を襲撃せり。第一革命後廣羅綏靖處督辦となり陸軍中將に任ぜらる。年齢四十八。

周仁 (Chou Jen)

字 子競

浙江省杭州人

初め南洋中學に學び次で鎮江承志學堂及び南京江南高等學堂に學び、宣統二年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學に機械工程を修め、民國三年機械工程師の學位を得、四年碩士の學位を得、選ばれて某名譽學會に入る、又留米學生會々員、中國科學會職員と爲り、曾て獎學金を得科學雜誌の記者と爲る、民國四年歸國す。年齢二十六。

周文富 (Chou Wen-fu)

字 善亭

關東州旅順口人

光緒十八年旅順船塢局機器廠に入り工業を習ふ、爾來十餘年間露人日人と接觸しつゝ熱心業務に従ひ、宣統元年に至り初めて獨立し大連小崗子に順興鐵工廠を創立し、拮据經營遂に今日の盛大を致せり、後營口及び哈爾濱に大分廠を起し大に事業を擴張したり。年齡四十二。

周永麟 (Chou Yung-lin)

原名 永麟

京兆大興縣漢軍人

前清舉人出身にして曾て軍諮府製圖股班員たり、民國成立するや參謀本部製圖課班員に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

周玉柄 (Chou Yü-ping)

字 斗欽

四川省成都縣人

光緒三十二年の北京大學堂仕學館法政科出身、仕官して學部專門司主事となり、後黑龍江省公署秘書官に轉じ、次で嫩江、海倫、龍口各府の知府に歷任す、民國元年十月以來黑龍江高等審判廳長の職にあり三等嘉禾章を給せらる、現駐日公使章宗祥と親交あり同省には勢力ありといふ。年齡四十七。

周自齊 (Chou Tzu-chi)

字 子沂

山東省萊縣人

前清中官費を以て米國に留學す、歸國後州縣の職に歷任し又南洋各局に奉職す、清末外務部參議署左丞度支部證議官に歷任せり。民國元年三月山東都督、三年二月財政總長四年三月農商總長、五年四月兼辦中國銀行總裁、五年五月署理財政總長に歷任す、六月袁氏死去し即ち辭職せり、周氏は所謂帝制八兇の一人(楊度、孫毓筠、顧鼐、梁士詒、夏壽田、朱啓鈴、薛大可、及周氏)にして七月十四日帝制禍首として逮捕令を發せられ當時日本に亡命せしが六年七月歸國せり七年一月特赦せらる。年齡四十九。

周丕紳 (Chou P'ei-shên)

湖北省宣城縣人

前清廩貢生出身にして曾て陝西省咸陽縣知縣たり、民國三年五月陝西省政務廳長に任ぜられ、十月十日四等嘉禾章を給與せらる、同年十一月辭職せり。

周先登 (Chou Hsien-têng)

字 克群

四川省威遠縣人

前清舉人出身にして曾て北京外城巡警總廳五品警官たり、民國成

周克昌 (Chou K'o-ch'ang)

字 峻青

山西省平定縣人

前清中山西大學を卒業し同省の補用知縣となる、民國二年衆議院議員となり、爾來二次の解散を経たり。年齡四十四。

周廷弼 (Chou Ting-pi)

字 右卿

山東省壽光縣人

光緒二十九年山東師範學堂に修業するもの二年、嗣いで日本に留學し法政大學政治科速成科を卒業歸國せり。民國成立後臨時省議會議員となり、復衆議院議員に擧げらる。年齡四十七。

周廷勸 (Chou Ting-mai)

字 嚮晨

廣東省茂名縣人

民國六年九月廣東實業廳長に任ぜらる。

周沆 (Chou Hang)

貴州省遵義縣人

前清乙未科進士出身にして曾て雲南澂江府知府たり、民國三年六

立するや籌備立法院事務局評議に任ぜられ、六年七月内務部民治司第二科僉事となる。

周汝爲 (Chou Ju-wei)

字 仲軒

雲南省昆明縣人

前清の附生にして雲南高等學校卒業後日本に留學し、仙臺醫學專門學校を卒業せり。

民國三年歸國し雲南陸軍病院に入り二等軍醫正となる、四年七月陸軍醫院長に任じ、五年一月一等軍醫正に昇進、四月雲南中國紅十字會第一病院長を兼ね、邦語に精通せり。年齡三十一。

周汝翼 (Chou Ju-i)

湖北省雲夢縣人

曾て日本早稻田大學法政科を卒業す、第一革命の時湖北内務司長に擧げられたり、純革命員なり。年齡三十七。

周志中 (Chou Chih-chung)

奉天省新民縣人

前清中法政學堂卒業生にして北京法部主事、員外郎、北京地方審判廳推事、順天府公署々員に歷任せしが、後挂冠故山に歸臥せり。年齡三十五。

月雲南蒙自道尹に任ぜらる。

周忻 (Chou Hsin)

字 筱雲

雲南省普甯縣人

前清の附生、四川補用道となる、民國元年雲南愛國勸捐局協理に、同二年雲南商務總會協理に推される。周君省城寶宏號の業主にして生絲、白臘、棉絲を取引せり。年齢四十四。

周秉彝 (Chou Ping-i)

湖北省漢陽人

前清附貢生出身にして曾て河南榮澤縣知縣たり。民國成立するや河南省鄭縣署理事四年巡按使田文烈を経て地方の興利除弊に力めたる功に依り五月十七日政事堂の存記に登名せらる。

周宗華 (Chou Tsung-hua)

字 三農

浙江省湖州人

前清中北洋大學に入り光緒三十二年米國に留學を命ぜられ「アラウン」大學に入り土木工學を修め、同三十三年「エール」大學に轉じ、同三十四年卒業す、宣統元年又「シカゴ」大學に法律を修め同三年法學博士の學位を得。民國元年歸國、即ち河南高等學堂教務

長に任じ、同二年兩浙鹽稅稽核分所總文案に、同五年紹興鹽稅徵收局長に歷任す。年齢三十三。

周宗洛 (Chou Tsung-lo)

字 劍公

雲南省大理縣人

前清の秀才にして知縣より直隸州知州に昇り、雲南提督蔡標幕に聘せられ永化廳志及び順甯府志を編纂し、嗣いで順甯高等小學校、中學校、大理第一女子小學校を創立す、其後廣東に入り惠州府振坤女學校を興し爾來學界に歷任せり、又廣東提督李福興の幕僚となりしが適々第一革命に遭ひ廣東都督府秘書兼參謀長に任じ雲南都督府顧問に轉ず。年齢六十八。

周英杰 (Chou Ying-chieh)

字 漢三

湖北省漢陽縣人

前清獨逸に留學し柏林大學を卒業す、民國三年國務卿を經政事堂主計局僉事署理に推薦せらる、六年十二月現在國務院統計局僉事たり。

周保琛 (Chou Pao-chên)

湖北省黃陂縣人

前清の舉人にして後直隸省に派遣せられて官報局學務公所各職に

在り嗣いで東明縣署理知縣となる。

民國成立するや湖北鸚鵡洲竹木局長となり、第三期知事試驗を免ぜられ直隸財政廳科長に轉任せり、六年十二月現在直隸省南樂縣委署知事たり。

周厚坤 (Chou Hou-k'un)

字 厚坤

江蘇省無錫人

上海南洋公學を卒業後唐山路礦學校に學び、宣統二年官費を以て米國に留學し、「イリノイム」大學に土木工學を修め、宣統三年「マ州工業學校」に機械工學兼造船科を修め、民國三年學士の學位を得更に航空工學を修め民國四年碩士の學位を得、曾て航空學會の獎を得、次で米國卡梯斯航空會社の工程師と爲り、又留米學生會の書記と爲る、航空機振動促進法なる文を撰して航空世紀報に載せ次で漢文タイプライターを發明し、米國、日本、支那に於て專賣特許を得又倫敦航報の記者と爲りしことあり、民國五年歸國し上海商務印書館機械工程師と爲り、南京高等師範學校顧問を兼ね、米國大學同學會及び中國科學會等の會員たり。年齢二十八。

周典 (Chou Tien)

字 紹聞

北京人

前清中京師大學堂師範館を卒業し、光緒三十年英國に留學す、即ち「ビクトリヤ」大學商科に入り宣統元年卒業歸國せり、嗣いで米

國に留學を命ぜられ「ペンシルバニヤ」大學商科に入り、商科碩士の學位を得宣統二年歸國す、同三年以來北京大學教授、工商部僉事、農商部僉事等に歷任せり。年齢三十九。

周郁文 (Chou Yi-wên)

廣西省寧明縣人

民國六年十二月現在廣西陸軍第一師參謀長たり。

周家樹 (Chou Chia-shu)

字 仲玉

湖南省寧鄉縣人

明治三十七年十月日本陸軍士官學校砲兵科を卒業せり、歸朝後湖南陸軍學堂、講武堂の教官に歷任し、第一革命後湖南軍務司科員湖南都督府參謀官に任ぜらる。周君前清の名士周鐵貞の子にして國民黨に隸屬せり。

周家均 (Chou Chia-chün)

字 繼皇

湖南省寧鄉縣人

曾て日本明治大學を卒業し特に經濟學を研究せり、當時日本人を娶りて妻となし、歸國後縣の小學校教員となりしが、第一革命に際會して湖南財政司次長に拔擢せらる、邦語に巧なり。年齢三十五。

周家瑞 (Chou Chia-jui)

甘肅省武威縣人

前清中從九品より獻金して州同となり新疆に赴任して多年省内各縣に勤務す、民國四年洛浦縣署理知事に任ぜらる。

周家彦 (Chou Chia-yen)

廣西省桂林縣人

前清京師大學堂より日本に派遣せられ東京第一高等學校に入り成績優等を以て卒業し當時日本各學校支那人の爲めに特別班開かるるや之が通譯に當り宣統三年歸國後試験に應じて第一名を得たり、宣統三年武漢に革命勃發の際駐日本公使館公使汪伯棠の通譯官たりしが、民國成立し曾て南京政府に實業參事たり、臨時政府成立するや工商部參事に任ぜられ、三年二月汪伯棠の保荐に依り農商次長に任ぜられ四年一月二十七日上大夫を授けられ病に因り職を辭す。年齢三十七。

周家義 (Chou Chia-i)

江蘇省寶山縣人

曾て上海廣方言館、天津電報學堂を卒業す、民國二年十二月交通部僉事となり、電政局營業科長、郵傳局電業科副科長、郵傳司電

務科長に歴任し、嗣いで電政司考工科長技正となる、六年十二月交通部電政司長たり。年齢五十一。

周祚章 (Chou Tso-chang)

四川省瀘縣人

前清中日本法政大學を卒業す、歸朝中法政學人を授けられ七品小京官を以て内務部に出仕せり。民國成立後元年四川成都高等檢察廳檢察官となり、二年十月署理河南高等檢察廳長に轉任し、五年十月實任となる。

周桂斌 (Chou Kuei-pin)

正白旗滿洲人

前清監生潘譯舉人出身にして曾て北京内城巡警總廳五品警官たり民國成立するや京師警察廳總務廳第三科々長警正に任ぜらる六年十二月現在第二科々長たり。

周倫元 (Chou Lun-yuan)

浙江省寧波人

初め寧波浸會學校及び上海聖約翰書院に學び上海亞細亞石油會社員と爲り又寧波中學校の教習と爲る、宣統三年官費を以て米國に留學し理海大學に入り礦業工程を修め曾て某會社の分析係と爲り

又某炭礦會社礦地襄理員に充たる、民國四年歸國し五年萍鄉礦局副工程師に任ず。年齢二十七。

周浩 (Chou Hao)

安徽省人

秀才より起る光緒十一年江西省南康知府に任ぜられ嗣いで吉南贛甯道に、同二十六年直隸按察使、二十八年新疆布政使に累進せり、二十九年直隸、江西布政使に轉任し居ること三年にして官を罷め上海に棲隱せり。

周砥 (Chou Chih)

湖北省善化縣人

曾て日本に留學し某商業學校を卒業せり、宣統中天津銀行に勤務せしが、第一革命後回籍し湖南銀行湘潭分行主任に任ぜらる。年齢三十四。

周書 (Chou Shu)

江蘇省常熟縣人

商賈にして共和黨より國民黨に入り民國元年江蘇省議會議員に選ばる。年齢三十七。

周晉鏞 (Chou Chin-piao)

浙江省慈谿縣人

周氏儒家に生る、幼にして實業に志し上海寧波の間を往來す、中年官界に入り江西省廬陵、南昌等の知縣に歴任し到るところ令名あり、遂に道臺に擢任せられしが、又商務振興を願ひ辭職して電報局總辦に任じ華洋、華興保險公司、大有榨油廠、寧波通久源紗廠を創設し、又上海商務總會創立に盡力して同會坐辦議董に推さる、嗣いで同會總理に歴選するもの三回に至る、當時上海市場救済の爲め外款を入れしが農商工部より革職せらる、而して同會選舉せざるなり、宣統三年一たび辭職し、民國元年重ねて總理に任ぜらる。周老壽七旬尙ほ豊饒として壯者を凌ぎ磊落なる性行は克く其任に堪へ實に上海商界の重鎮たり、前に第二革命に反對し後に帝制問題に賛成して民國四年上海交涉員兼滬海道尹に任ぜられしが帝制失敗して漸く逆境に立てり、又曾て中日公司の重役として日本に遊べり。年齢七十二。

周恭壽 (Chou Kung-shou)

貴州省麻哈縣人

民國六年十二月現在四川西川道尹たり。

周紹昌 (Chou Shao-ch'ang)

字 霖卡叔

廣西省靈川縣人

前清甲午科翰林出身にして曾て刑部秋審處主稿及大理院權丞たり革命の亂當時は署大理院少卿の職にあり。民國成立するや司法部秘書直隸司法籌備處々長に歴任し、劉若曾直隸民政長たりし時内務部長に保薦され、四年七月二十六日平政院評事に八月十四日平政院を経て二等に昇り九月十二日上大夫を授けらる。

周連錫

(Chou Lien—hsi)

字 百朋

山東省濟南人

初め山東高等學堂に學び民國元年半官費を以て米國に留學し紐伯紡織學校に入り、三年法巴來蘇大學に入り商科を修め、五年學士の學位を得、是年歸國し江蘇南通紡織專門學校の教員に任ず、製棉要覽の著あり。年齡三十二。

周連昌

(Chou Lien—chi'ang)

字 興邦

奉天省蓋平縣人

前清中蓋平縣豫備巡警總長たるもの數年にして宣統中諮議局議員蓋平縣縣會議長に歴選せられ、第一革命以來保衛團總團長となる、周君才智あり機略に富むも、言行穩健にして地方の名望家たり。年齡五十一。

周國賢

(Chou Kuo—hsien)

字 希哲

福建省人

米國留學生出身にして芝加哥大學に於て哲學を修む、民國五年外交部及び國務院に職に任ず。年齡三十三。

周培炳

(Chou P'ei—ping)

字 荃蓀

原名 周燧 (Chou Sui)

前清中日本東京高等工學校を卒業す、歸國後北京高等巡警學堂提調となり、嗣いて憲政考察大臣の秘書となり本邦に隨行せり。民國成立後漢口交涉局副局長、海關副監督に拜命し、四年八月段芝貴が督理奉天軍務となりて湖北より赴任するや、即ち奉天へ分發せられ實業諮議官奉天開埠局長兼交涉局顧問に歴任せり。

周務學

(Chou Wu—hsieh)

甘肅省天水縣人

民國六年三月署理甘肅西寧道尹となる。

周燭伯

(Chou Chung—po)

字 新甫

四川省資中縣人

字 子建

江蘇省上海人

明治三十八年日本に留學し陸軍士官學校騎兵科を卒業せり、宣統三年歸國し第一革命起るや四川軍務司次長となる、六年十二月現在四川々邊鎮守使參謀長たり。中國同盟會員にして前四川都督尹昌衡、前四川軍務司次長曾承業と友善。年齡三十八。

周登皞

(Chou T'eng—kao)

字 希民

福建省閩侯縣人

前清舉人出身にして曾て遼瀋道監察御史たり、民國三年五月肅政廳肅政史に任ぜられ、六年十月綏遠道尹となる。

周森友

(Chou Sên—yu)

字 維誠

福建省廈門人

初め廈門醫院に學び上海聖約翰大學を卒業し學士の學位を得、南京之江高等學校々醫及び武昌文華書院化學教員と爲る、民國二年自費を以て米國に留學し西餘大學に入り醫科を修め、三年醫士の學位を得、五年醫學碩士の學位を得、繼て哈佛大學に入り旋て該校の化學教員に任ず、五年歸國し上海埃登醫院主任醫師と爲る。年齡三十七。

周開基

(Chou K'ai—chi)

初め天津陸軍學校及び南洋公學に學び私立學校の教員に任ず、宣統元年官費を以て米國に留學し加利佛尼亞大學に礦業工程を修め、宣統二年哥倫比亞大學に入り民國二年電氣工程師の學位を得、米國礦工程師會々員と爲る、曾て某銅會社及び炭礦會社に於て實習す、民國三年歸國し湖北官礦局地質技師に任じ、民國五年湖南華昌煉礦公司技師と爲る。年齡三十一。

周達

(Chou K'uei)

字 仲衡

安徽省旌德人

宣統二年自費を以て米國に留學し巴特拉學校に入り普通文科を修め宣統三年路易司尾來大學に入り醫科を修め民國四年醫學博士の學位を得、同年歸國し上海に開業す。年齡二十八。

周詒春

(Chou I—ch'un)

字 寄梅

安徽省休寧人

光緒二十九年上海聖約翰大學を卒業し同校數學理科の助教授及英文教員となる、同三十三年米國に留學し「エール」大學に普通文科に入り宣統元年卒業す、嗣いて「ウキスカンシン」大學に教育學を修め宣統二年碩士の學位を得て卒業す、同年歸國して上海中國公學英文歷史教員に任ぜられ同三年延試進士を授けらる、嗣いて復

上海復旦公學心理學、哲學教員となり。民國元年南京臨時政府外交部秘書、北京清華學校副校長兼教務長に、同二年清華學校々長に昇任し三等嘉禾章を給せらる、同四年聖約翰大學より文學博士の學位を贈らる、七年一月事を以て罷められたり。年齢三十五。

周詒柯 (Chou I—k'o)

湖南省湘潭縣人

民國三年二月湖北高等審判廳長となり、六年十二月現在廣東高等審判廳長たり。

周象賢 (Chou Hsiang—hsien)

字 企虞 上海人

初め上海南洋公學に入り宣統二年米國に留學を命ぜられ「マツサチュセツツ」工業學校に衛生工程の學を研究し卒業後世界會正副會長に歷任す。民國四年回國し北京市政公所工程師、五年内務部試署技正兼北京大學衛生工程教員となる。年齢二十七。

周冕 (Chou Mien)

字 少逸 浙江省嘉興縣人

に失敗して亡命するや尙ほ上海に潜み、民國帝制中又岑氏と共に反袁畫策を進めたり、五年二月一び日本に赴き軍務院肇慶に設立さるゝの後温宗堯と共に岑氏を佐け、同年七月岑氏を代表して入京善後を議せり。年齢四十二。

周敬培 (Chou Ching—p'ei)

湖南省湘陰縣人

前清中州吏目を以て新疆省に任命されしが、後法政學校を卒業し迪化縣地方審判廳練習推事に任ぜらる、民國元年警察廳科員に四年六月新疆知事試験に應じ縣佐に合格し、四年九月新疆巡按使楊增新の呈請により呼圖壁縣署理縣佐に任ぜらる。

周萬鵬 (Chou Wan—p'eng)

字 翼雲 江蘇省寶山縣人

前清中米國に留學し紐育格致書院を卒業す、歸國後四品銜候選道臺を以て電政總局總辦、機務科長となる、又電政視察の爲め外遊し葡萄牙萬國電報會議に列せり。民國三年交通部郵傳司長となり四年七月中大夫を授けらる、六年十二月現在兼理江蘇電政監督上海電報局長たり。年齢五十四。

周詢 (Chou Hsin)

八 畫 [周]

前駐哈爾濱黑龍江鐵路交涉總局總辦たり、現に哈爾濱に住し資産あり黒省開墾に従事す。年齢七十四。

周翔 (Chou Hsiang)

四川省彭山縣人

前清中法部の主事より累進し民國初年大理院檢察官となり嗣いで日本留學生監督官、四川高等學校々長、四川高等師範學校長に任ぜり。年齢五十一。

周善培 (Chou Shan—pei)

字 孝懷 浙江省紹興縣人

光緒二十二、三年中郷試に應じ副榜に及第し、當時已に文名あり、同二十四年湖南巡撫陳寶箴の幕に入り始めて官界生活をなす、嗣いで貴州憲駐日公使となり赴任するや參贊として隨行せんとせしが周君戊戌政變に關係せし爲め上海にて時の道臺蔡鈞に抑留せられ行を果さず、其後四川に入り鹿傳霖、奎俊、岑春煊の幕僚となり、岑氏兩廣總督に轉ずるや隨行して廣東將弁學堂總辦に任ぜらる。錫良四川總督となるに及び又入川して成錦道となり趙爾巽と交代して勸業道に轉任せり、茲に於て製革廠、勸業局を興し、多く邦人を聘して四川の殖産工業に貢獻す、其後趙爾巽代理總督となり提法使に任ぜらる。

第一革命の時難を上海に避け岑氏と連絡を取りしが岑氏第二革命

貴州貴筑縣人

前清舉人出身にして曾て宣統元年四川省梁山縣知縣たり民國成立するや四川省巴縣知事に任ぜらる。

周詩蘊 (Chou Shih—yin)

字 養純 江蘇省嘉定縣人

前清舉人出身にして曾て農工商部候補小京官たり民國成立するや駐西公使館署隨員に任ぜらる。

周傳德 (Chou Chuan—tè)

湖南省澧縣人

前清拔貢出身にして州判たり、民國成立するや第三期知事試験に甲等を以て合格し四年八月雲南巡按使任可澄を経て、龍陵縣代理知事に任ぜらる。

周傳經 (Chou Chuan—ching)

字 贊經 江蘇省嘉定縣人

前清中北京國子監並に同文館を卒業す、嗣いで外務部司務主事、駐奧公使館二等參贊官となる、民國成立後入りて外交部僉事より通商司長に昇任す、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十三。

周傳性 (Chou Chuan—hsing)

雲南勐戛縣人

前清丁酉科舉人丁未科進士出身にして度支部主事田賦司たり、嗣いで奉天、直隸、江寧、江蘇、山東、河南の各省科員に歴任し、度支部に入り供職五年、時恰も前清末葉に際し各省の財政紛亂し到底收拾すべからず、茲に於て財政清理に關する意見書を奏上せしに大に激賞せられ、次で意見書を各省に印刷交附し、以て清理の資料に供せらるゝに至れり。

民國成立するや辭職歸郷せしが元年六月政務廳參事兼造幣廠長に任ぜられ、十日代理財政司長、二年五月署理雲南財政司、十一月兼代理國稅廳籌備處長に歴任し、雲南政治會議委員となりて入京し四等嘉禾章を給與せられ、三年二月雲南財政會議委員に充てらる、後雲南民政長李鴻祥の保薦に依り國稅廳及鈔關監督に任用さるゝ事となりしが、五月政治會議停會となるや懷柔金にて大總統に接見し三等嘉禾章を給與せらる、四年七月振武上將軍龍濟光を経て擢用せられ政事堂の存記に登る。

周道剛 (Chou Tao—kang)

字 萃池

四川省双流縣人

明治三十七年十月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸國後四川の軍務を處理し又廣西に赴き標統(聯隊長)に任ぜり。

周鳳曦 (Chou Fêng—hsi)

湖北省咸寧縣人

長兼軍事總參議官各職に任じ陸軍中將に補せらる、民國五年四月浙江獨立當時は第四十九旅長たりしが嗣いで都督府參謀長に轉任せり、人となり溫和にして思慮深遠なりといふ。年齢三十七。月現在仍ほ該職に在り。

周嘉坦 (Chou Chia—tan)

字 履安

山東省長山縣人

光緒末年山東優級師範學校を卒業し宣統三年より民國四年に至り本省の農業專門學校の教師となれり。之より先き民國二年衆議院議員となり居ること半年にして適贛寧の役あり、項城遂に國會を解散するや、復省に回へり教育に従事し、嗣いで四年六月縣知事として浙江省に派遣せらる、昨年八月に及び國會再蘇し議席に復歸したるも武人跳梁再び解散せらるるに至れり。年齢三十一。

周維藩 (Chou Wei—fan)

第一革命の當時四川に歸り陸軍部長となりしが滿腔の霸氣儼々と相合はず復廣西に去れり、六年七月劉戴爭霸の際暫代四川督軍に任ぜられしも四川騷亂の爲め就職する能はざるなり、六年十二月現在保威將軍として將軍府に列す。年齢四十一。

周楚聲 (Chou Ch'u—sheng)

字 祖仁

江蘇省青浦縣人

初め上海中西書院、蘇州東吳大學、天津北洋大學に學び光緒三十二年官費を以て米國に留學し、「マ」州工業學校に入り化學及び礦業工程を修め、宣統三年學士の學位を得、更に哥倫比亞大學に入り兼ねて電氣工程を修め、民國二年碩士の學位を得、次で哈佛大學に入り民國三年電氣工程碩士の學位を得、哈佛工程學會々員と爲る、又一學説を撰し米國化學雜誌に載す、民國三年歸國し湖南高等工業學校教員に任じ、民國四年漢陽鐵廠運輸部及び磚瓦廠工程師に任ず。年齢三十三。

周鳳岐 (Chou Fêng—chi)

字 恭先

浙江省長興縣人

浙江武備學堂を卒業し、常備軍第二標隊官、同學兵隊々長官、同督隊長に歴任す。第一革命後浙軍總司令部參謀長、陸軍第五軍參謀長兼浙江都督府顧問官、同省水上警察籌備處長、同省都督府軍事參議、同府參謀

字 介臣

安徽省人

日本陸軍士官學校卒業生なり、歸國後陸軍部に奉職せしが、民國元年四月十五日山西太原鎮總兵となり、同年十二月三日該官制を裁撤せらる。年齢三十餘。

周墨史 (Chou Mo—shih)

福建省廈門人

前清の舉人にして法部の主事となる、第一革命當時廈門參事會員に擧げられたり、同地學界に稱々名望あるものなりといふ、年齢四十餘。

周肇祥 (Chou Chao—hsiang)

字 養庵

浙江省人

前清の舉人なり、宣統二年四川總督趙爾巽の保奏に依り四川補用道となり奉天に出張して警務を調査せり、同年七月四川巡警道に任ぜられしが赴任せず、却つて奉督錫良に擧げられて奉天警務局總辦に拜命せる奇事あり、宣統三年九月奉天勸業道に補せられ、十月署理鹽運使に嗣いで警務局督辦、屯墾局長を兼務せり。周君滑頭官海游泳に巧みにして奉天政界に勢力を有し同輩を凌駕し其の追従を容さざるの概ありと評せらる、然るに其家に在るや放逸にして閨門修まらず、公事に對しては民間怨嗟の聲ありとい

ふ、又統一黨支部首領なり。年齢五十三。

周際芸 (Chou Chi-yin)

字 亞芬

直隸省南皮縣人

前清中日本警察學校を卒業し並に邦語を解せり、第一革命後漢口警察廳長となり六年十二月現在仍ほ勤続せり、周君性質温厚にして伶俐なりと評せらる。

周際昌 (Chou Chi-chang)

字 憲文

奉天省新民縣人

前清の生員にして曾て新民縣署收捐處總董より同處々長に任ぜらる。年齢四十八。

周蔭榕 (Chou Yin-jung)

廣西省臨桂縣人

前清舉人出身にして曾て民政部候補主事たり、民國成立するや内務部民治司第一科主事に任ぜらる。

周慶雲 (Chou Ching-wen)

字 晴舫

京兆涿縣人

に當選し第二第三革命皆均しく奔走せり、人となり慷慨交遊を好み圭角なし。年齢四十三。

周樹模 (Chou Shu-mo)

字 少模

湖北省天門縣人

前清己丑科翰林出身にして曾て黑龍江巡撫會辦驛政大臣たり。民國三年五月平政院々長に任ぜられ四年十月二十三日病に因り職を辭す、五年七月復平政院長に任ぜらる。年齢五十餘。

周樹基 (Chou Shu-chi)

湖南省湘潭縣人

前清の附貢生にして從九品を以て湖北に派遣せられ、夏口廳統計、夏口地方審判廳推事となり、民國四年鐘祥縣代理知事に任ぜらる、同六年四月三十日同縣知事を實授さる。

周樹標 (Chou Shu-piao)

字 建龍

山東省安邱縣人

前清中日本法政大學を卒業す、宣統中山東省諮議局議員に推され、民國二年衆議院議員となる、同年十月解散後獵官運動をなし五年一月綏遠檢察廳長に任ぜられ現にその職に在り。氏は山東進歩黨の幹部なり、當年解散後進歩黨員にして任官せし

前清の廩生にして法律學堂を卒業したり。民國成立後京師地方檢察廳檢察官に任じ嗣いて京師地方審判廳推事に任用せられ民國四年十月京師高等審判廳署理推事となれり譯いて同廳推事に昇任す。

周慶恩 (Chou Ching-en)

字 次瑾

山東省歷城縣人

曾て官費生として日本に留學し法政大學を卒業せり、歸朝後京師内城東廳初級検査官試補、天津北洋高等警察廳法律教員、北洋譯學館教員、山東法政專門學校教官に歴任す。

第一革命の當時革命運動をなしたるに依り獄に繋かれ、民國元年赦されて臨時省議會議長、同二年衆議院議員に選ばれ、第一次解散後は北京大理院特約辯護士となり、同五年八月國會再開して議員に復歸せしが未だ一年ならずして六年六月復解散せらる。年齢四十二。

周震麟 (Chou Chen-lin)

字 道腹

湖南省寧鄉縣人

氏は十九歳にして秀才に擧げられ兩湖書院に入り科學を研究し又日本法政大學を卒業せり、故黃興吳祿貞並に張繼等と親交あり革命の運動に因り屢々日本に亡命す。第一革命の際は湖南籌餉局長となり軍務を補助し、後參議院議員

もの少なからず。年齢四十三。

周學熙 (Chou Hsiao-hsi)

字 緝之

安徽省建德縣人

前兩江總督周馥の實子にして前清獻金して道員の格を得直隸に任命せられ、曾て京師自來水公司總辦たり(北京水道株式會社々長)民國成立するや四年一月廿七日中卿を授けられ三月五日署理財政總長に特任せられ五年四月免職せらる。年齢約五十。

周澤南 (Chou Tsé-nan)

字 易堂

雲南省阿迷縣人

民國五年十二月國民黨系省議會議員に擧げらる。

周澤南 (Chou Tsé-nan)

字 達之

江西省萍鄉縣人

曾て日本に留學し早稻田大學政治經濟科を卒業し歸朝後法政舉人となれり、その後久しからずして國體改變し同二年參議院議員に擧げらる。年齢三十五。

周澤 (Chou Tse)

字 潤生

四川省犍爲縣人

曾て日本に留學し新學を研究し歸朝後育英事業に従へり、宣統二年官命を帯びて東渡し教育を考查し、歸來力を教育事業の改良に傾注す、民國二年衆議院議員に擧げられしが初次の解散後本省の高等師範學校長に任ず、嗣いで復議席に復し一年ならず再び解散を経たり。年齡四十三。

周澤春 (Chu Tsê-ch'un)

湖北省安陸縣人

獨逸伯林大學を卒業す、彼國法學博士なり、前清中北京軍機處、外務部に在勤し民國成立の年陸軍部、外務部に書記官たりしが、同四年八月二十三日四川交涉員に任ぜられ五年九月八日錢爲善と交迭す。年齡三十七。

周擇 (Chou Chai)

四川省成都縣人

氏は弱冠にして省の中等教員となり、嗣いで日本に留學し法政大學を卒業せり、歸朝後四川官立法政學校、成都中學校の教習、公立法政學校教務長、四川商報主筆、四川教育總會會長に歴職せしが、第一革命後四川都督府秘書、民政署顧問、臨時省議會議員、豫算審查委員會長等に任じ、又民國二年衆議院議員に擧げらる、第一次

國會解散後は四川巡按使署顧問、吉林省五常縣署理知事となり同五年議會再蘇して復議員となり六年六月又解散せらる。年齡三十八。

周興邦 (Chou Hsing-pang)

奉天省蓋平縣人

宣統二年蓋平議事會長に任じ爾來勤續せり、蓋平排日家の頭目となす。年齡五十七。

周錫經 (Chou Hsi-ching)

浙江省溫州人

日本高等商業學校卒業生にして民國五年六月現在省立高等商業學校校長兼官立法政學校教習たり。年齡三十四。

周儒臣 (Chou Ju-chên)

安徽省宿縣人

前清の拔貢にして光緒三十三年五月湖南岳常澧道となり、宣統元年同省按察使に進み、同二年五月省城暴動起るや爲に免職せらる、三年夏王人文の後を受け四川布政使に任ぜられ十一月雲南布政使を命ぜられたるも當時鐵道國有問題起り皆赴任せず終に上海に退隱せり。

周應時 (Chou Ying-shih)

江蘇省人

明治四十三年五月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸朝後新軍武官に歴任し、第一革命後第五旅長に任ぜらる。年齡三十四。

周鴻恩 (Chou Hung-en)

奉天省法庫縣人

前清の秀才にして民國成立當時法庫勸業學所長たり。年齡四十二。

周駿 (Chou Chin)

四川省金堂縣人

字 吉珊

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸朝後四川武備學堂教官、四川陸軍大隊長となる。

第一革命後曾て四川陸軍部長たりしが幾くならずして第一鎮統制官(師團長)に進み瀘州に駐防せり、第二革命に方り第五師長熊克武南京に呼應し敗走するや、其後を承け重慶に移駐し第十五師長となり兼ねて重慶鎮守使となる。

光緒十八年天津海關道に任ぜられ爾來長蘆鹽運使、直隸按察使に歴任せしが病を以て辭職し、嗣いで同二十五年四川布政使に拜命し、同二十八年直隸布政使に、翌二十九年山東巡撫に、三十年兩江總督に、三十二年閩浙總督に、未だ赴任せずして兩廣總督に歴進し居ること一年嗣いで待命となれり、六年七月復辟の際に協辦大學士に任ぜられたり、蓋し宗社黨の一人なり、現に青島に栖隱せり。

周禮 (Chou Li)

江蘇省丹徒縣人

前清附貢生出身にして曾て山東省泗水縣知縣たり、民國成立するや四年山東縣知事に任ぜらる、同六年五月曠職の廉を以て免職せらる。

周馥 (Chou Fu)

安徽省人

光緒十八年天津海關道に任ぜられ爾來長蘆鹽運使、直隸按察使に歴任せしが病を以て辭職し、嗣いで同二十五年四川布政使に拜命し、同二十八年直隸布政使に、翌二十九年山東巡撫に、三十年兩江總督に、三十二年閩浙總督に、未だ赴任せずして兩廣總督に歴進し居ること一年嗣いで待命となれり、六年七月復辟の際に協辦大學士に任ぜられたり、蓋し宗社黨の一人なり、現に青島に栖隱せり。

周寶恒 (Chou Pao—heng)

字 榮孫

直隸省撫寧縣人

幼にして理財の學を習ひ曾て興京稅捐局々員として功あり、遂に遼陽東三省官銀號經理に擧げらる。年齢二十八。

周繼濬 (Chou Chi—jung)

字 萍泗

浙江省臨海縣人

前清の舉人にして曾て上海麗澤學院を卒業し後日本早稻田大學を卒業せり、歸朝後台州中學堂監督、臨海教育會々長より民國二年衆議院議員に選ばれ同年解散後は地方實業教育に盡力す、同五年四月浙江獨立に功あり民政署秘書に任ぜらる。年齢三十六。

周鍾俊 (Chou Chung—chin)

原名 鍾俊

正紅旗直隸涿縣滿洲人

前清舉人出身にして曾て歩軍統領衙門左司事たり民國成立するや歩軍統領衙門參事廳副廳長兼秘書科々長に任ぜらる。

周藻祥 (Chou Tsao—hsiang)

字 紹丞

江蘇省如皋縣人

前清舉人出身にして曾て農工商部學習主事たり、民國成立するや農商部農林司第三科主事に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

周觀濤 (Chou Kuan—tao)

字 劒秋

江西省九江縣人

前清甲辰科進士出身にして曾て四川江津縣知縣たり、民國成立するや四年直隸省灤城縣知事に任ぜらる。

林大閻 (Lin Ta—li)

字 劒秋

浙江省瑞安縣人

前清中海外に游學し歸朝後廷試に應じ進士となり翰林院檢討に任ぜらる、民國成立するや農商部鐵政司第一科僉事に拜命し民國四年上士を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

林之宇 (Lin Chih—yu)

字 特生

湖南省武陵縣人

曾て湖南警察學校を卒業し前清中東三省警察官に奉職し、民國成立後曾て湖南警察廳長に任ぜり、氏は國民黨員にして仇鰲(前湖南民政司長)郭宗熙(現吉林民政長)と友善。年齢約四十。

林之夏 (Lin Chih—hsia)

福建省閩侯縣人

福建省武備學堂を卒業し曾て南清地方に在り軍界に奉職せり後張總督に不平福州に歸り第十鎮(師團)に入り聯隊長たり。第一革命の時軍務司長に推され、第二革命に當り浙江都督に聘せられ、陸軍圖書館編譯官長、兼兵事雜誌社總理に任ず、民國五年四月同省が獨立を宣言するや台州方面に兵を募りたり。年齢四十六。

林文瑛 (Li Wên—ying)

福建省閩侯縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校工兵科を卒業し、陸軍中校(中佐)に補し陸軍第一混成旅工兵營長(大隊長)に任ぜらる、六年十二月現在陸軍第十一混成旅歩兵第二團工程第一營長たり。

林文戩 (Lin Wên—yii)

字 應叔

福建省閩侯縣人

前清の海軍學生にして海軍部軍制司考核科々員となり、民國成立後海軍部軍學司輪機科々長に任ぜられたり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

林世瀚 (Lin Shih—han)

字 筱亭

廣東省梅縣人

北洋警務學堂卒業生にして光緒三十三年吉林省城巡警總局警務科長、宣統三年吉林省濱江廳同知、民國三年六月同省樺甸縣署理知事に歴任す、四年第三期知事試験を免じ同縣知事となりしが六年十二月現在樺甸縣知事、調署東寧縣知事たり。年齢三十九。

林世燾 (Lin Shih—tao)

字 次煌

廣西省賀縣人

前清甲辰科翰林にして翰林院編修となり、民國成立するや國史館纂修官に任ぜられ、民國四年八月中大夫を授けらる、六年九月臨時參議院議員に選舉せられたり。

林立 (Lin Li)

字 卓然

湖北省漢口人

光緒三十年江西省九江南偉烈大學を卒業し該校教員となる、同三十三年米國に留學し中央「ウエスレヤン」學校に普通文科を修め宣統三年卒業す、嗣いで「ミエロクス」大學に哲學及び教育學を研究せり、民國元年「アイオワ」州立大學に教育心理學を學び、同四年「米國市立學校々長の權利義務論」一書を著はし博士の學位を得、

民國四年歸國し九江南偉烈大學師範科主任となり、五年漢口輔德學校教務長に任ぜり。年齢三十五。

林永謨 (Lin Yung—mu)

福建省人

天津水師學堂を卒業し民國三年五月海軍少將海琛艦長となる。

林玉麒 (Lin Yi—chi)

浙江省永嘉縣人

前清中福建省莆田、永福各縣知縣に歷任し又本省の優級師範學校庶務長、廣東官銀號經理となれり、嗣いで民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢四十六。

林行規 (Lin Hsing—kuei)

浙江省鄞縣人

曾て英國倫敦大學に留學し法學士の稱號を得たり、民國元年大理院推事(判事)に任じ四年司法部民治司長に轉任し北京大學法科學長を兼ねしが、五年七月張耀曾司法總長となるに及び本務兼務共に辭職し北京にて辯護士を開業す。年齢三十三。

林仲壩 (北京音 Lin Chung—yung) (福州音 Ling Deng—ung)

福建省閩侯縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校騎兵科を卒業す、歸來福州第十鎮教官、騎兵大隊長に歷任し、第一革命後許崇智(日本士官學校卒業生にして孫派の驍將也)の參謀長、都督府軍事參議に任ず性行純潔の士にして許崇智、孫道仁(前福建都督)と親交あり。年齢三十三。

林先民 (Lin Hsien—min)

福建省閩侯縣人

前清の舉人にして曾て郵傳部小京官たりしが、民國成立後農商部工商司第四科僉事に任ぜられ、民國四年七月上士を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

林汝魁 (Lin Ju—k'uei)

廣東省番禺縣人

前清の海軍學生にして海軍部軍學司編譯科々長となり、民國成立後尙ほ前職を繼ぎ六年十二月現在仍ほ該職に在り。

林名正 (Lin Ming—ch'eng)

貴州省安順縣人

前清の舉人にして曾て雲南截取驛運使たり、民國成立後第三期知事試験に應じ乙等知事に合格し民國四年八月雲南寧民縣署理知事に任ぜらる。

林志鈞 (Lin Chih—chin)

福建省閩侯縣人

前清中日本に學留し中央大學を卒業す、歸朝後舉人となり曾て外務部司務科員となる、民國成立後外交部僉事、科長、司長、大理院推事、司法部參事に歷任し四年七月少大夫を授けらる、當時帝制に反對し辭職して北京法政學校教務長たりしが、帝制派勸誘の煩を避けて上海に去れり。年齢三十七。

林步隨 (Lin Pu—sui)

福建省閩侯縣人

前清癸卯科翰林にして曾て翰林院檢討たりしが、民國成立するや約法會議秘書廳科長に任ぜらる六年十二月現在國務院秘書たり。

林伯和 (Lin Po—ho)

廣東省雲浮縣人

前清中曾て廣州嶺南學校教員、澳門明新中學校々長となり民國二年衆議院議員に擧げらる。

林宗慶 (Lin Tsung—ching)

福建省閩侯縣人

民國六年十二月現在海軍練習艦隊司令處參謀たり。

林季商 (Lin Chi—shang)

林君の父祖元臺灣の匪魁、後清に歸順して武官となり又匪徒を討伐して功あり、林君かゝる來歴を以て一部の階級に勢力を有せり、嗣いで大正四年四月に至り事を以て台籍を除かれ、曾て廈門に商を營み邦商三五公司と樟腦賣買を競争せしが其後各種事業悉く失敗し名聲復昔日に如かざるなり。年齢三十餘。

林其幹 (Lin Chi—kan)

福建省莆田縣人

前清の舉人にして本省武平縣教育科長、資政院議員となり、後日本明治大學政治科に留學すること二年歸朝後奉天稅捐局員となり民國四年三月奉天省法庫縣稅捐徵收局長に任ぜらる稍々邦語に通ぜり。年齢三十九。

林虎 (Lin Hu)

廣西省陸川縣人

少年戎に服し歳甫めて十八統領に拔擢せられ勇武絶倫と稱す、桂贛の軍界に在り夙に重名を負ひ、第二革命の時江西の野に轉戦して屢々北軍を惱まし、虎將軍の名兒童走卒も知らざるなく、當時勇名を李烈鈞と並び稱せらる、然るに大勢革命に利あらざる遂に日本に亡命せり、嗣いて帝制問題起るや潜かに香港に據り李根源(日本士官學校卒業生岑春煊の股肱)と兩廣獨立を盡力す、廣西獨立後都司令部に屬し廣東民軍を率ゐて北伐軍師長となれり、六年十二月現在廣東高雷鎮守使たり、岑門の一猛者なり。年齢三十四。

林長民 (Lin Chang-min)

福建省閩侯縣人

前清中多年日本に留學し早稻田大學政治科を卒業す、歸朝後福建諮議局書記長、兼法政學堂教習に任ぜられ、宣統三年革命の亂起るや南京黃興の幕下に入り南京政府組織事務を擔任し法典委員を兼ね嗣いて福建臨時議會議員に擧げられ、北京に入つて參政院秘書となる、民國三年政事堂參議に拜命せり、同五年三月立法院秘書長、五月法制局々長に改任し、後辭職せり、六年七月十七日司法總長に任ぜしが十一月連袂辭職す。年齢四十二。

林秉彝 (Lin Ping-i)

福建省人

前清光緒中廣西邊防陸軍教導團を卒業し廣西謙武學堂見習武官となる、民國成立するや軍政府政務科々員陸軍速成學校監督に歴任し、嗣いて第一師砲兵團々長に任ぜられ、陸軍歩兵大佐に進み、更に少將に陞り、講習所閉さるるに及び耀武上將軍廣西軍務督理陸榮廷代理として大總統に謁見し、嗣いて陸軍部に拔擢任用さるることなれり。

林建章 (Lin Chien-chang)

福建省人

河南水師學堂第一期卒業生にして、民國二年海軍上校(大佐)に補し南琛艦長に任ぜらる。

林炳章 (Lin Ping-chang)

福建省閩侯縣人

林則徐(清の道光中兩廣總督となり阿片を禁じ英人と戦争す、死して文忠と諡す)の後裔にして前清中翰林院編修となり。後本省の學務を辦理す、光緒三十四年郵傳部承參統計處總辦に任じ、憲法編查館より憲政調査の爲閩浙兩廣に派遣せられ、後法制局參議

林桂芳 (Lin Kuei-fang)

福建省閩侯縣人

前清中北京國子監を卒業し直隸候選知縣となり、又直隸總督楊士驤の幕僚たり、民國元年張氏都督に任ぜらるや外交司廳一等科員に採用せらる、現に天津に居住す。年齢五十九。

林師望 (Lin Shih-wang)

福建省閩侯縣人

前清の進士にして工部主事となり、嗣いて禮部に入り宣統年中同部典禮院の要職に就き後崇奉科二等科員に任ぜらる、民國成立するに及び海軍部總務廳機要科々員となり六年十二月現在仍ほ該職に在り。

林恕 (Lin Shu)

福建省閩侯縣人

前清中日本に留學し歸國後湖北總督署文書係となり、民國四年に至り四川巡按使署秘書に任ぜらる。

林桐實 (Lin T'ung-shih)

に任ぜらる。

民國元年兩廣鹽運使、福建鹽運使に歴任し、功を以て四等嘉禾章を授けられ、嗣いで財政部新稅所兼舊所議員たりしも幾くならずして辭職し、民國四年奉天巡按使張元奇より財政廳長、鹽運使、海關監督適任者として推薦されたり、同五年十月二等嘉禾章を給與せらる六年十二月現在福建財政廳長となり福建水利局長を兼ね、又曾て第一革命の時宗社黨員の嫌疑を受け久しく監禁されたりとす。年齢四十三。

林炳勳 (Lin Ping-hsin)

福建省閩侯縣人

曾て日本に留學し日本大學に入り法科に修業せり、歸國後上海檢察廳長に任ず。六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十。

林俊廷 (Lin Chin-ting)

民國五年八月廣西桂林鎮守使となる。

林振峯 (Lin Chen-feng)

福建船政學堂製造科第三期卒業生なり、海軍造船中監に補し福州海軍製造學校總教官に任ぜらる。

字 敦民 福建省閩侯縣人

佛蘭西巴里大學を卒業す、前清中出使して駐佛公使館三等參贊に任ぜられ、民國成立後駐米公使館代辦使事參事兼駐巴總領事に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十六。

林祖彝 (Lin Tsu-i)

河南省洛陽縣人

前清中法部の主事となり民國三年九月湖北省建始縣試署知事となり同四年一月第一期知事試験に及第せしが猶ほ前職に留まれり、六年十二月現在同省長陽縣署理知事、並に建始縣試署知事たり。

林彪 (Lin Piao)

字 禮源 廣東省香山縣人

初め上海聖約翰大學に學び嗣いて米國「ウイスカンシン」大學に入り政治學を修め、民國元年卒業歸國す、同二年獨逸に赴き「バヴリアン」大學に入る、同三年「中國辛亥革命及び經濟殖民憲法各方面の研究」一書を著し政治學博士の學位を得、嗣いて伯林大學に入り法律學を修む、當時米國及び伯林の各新聞に寄稿し、並に駐獨支那公使館の翻譯員となりしが五年歸國し六年外交部に奉職せり。年齢二十九。

林培基 (Lin Pei-chi)

字 心栽 山東省登州府牟平縣人

初め慶生員に補せられしが科擧の廢止に會ひ山東高等學校に學び、卒業後身を實業界に投じて大連に至る、明治四十二年大連公議會評議員となり、同四十四年大連油坊聯合會監督會稽員に擧げらる、其の經營する同聚厚油房は初め小資本に過ぎざりしが逐年の發展に依り今や數十萬圓の富を成すに至れり。年齢四十五。

林國廣 (Lin Kuo-keng)

字 向今 福建省閩侯縣人

廣東水師學堂第八期卒業生にして、六年十二月現在海軍中校(中佐)海軍部軍法司審檢科々長たり。

林景行 (Lin Ching-hsing)

浙江省崇德縣人

明治三十八年日本に留學し中央大學に居ること六年なり、適々第一革命に遇ひ歸朝す。民國政府成立後入京して農商部に奉職し衆議院秘書を兼務せり、民國二年國會解散さるゝや故山に歸臥せしが、五年西南義を倡し浙江獨立するに及び出て、奔走し、上海時事新報の編輯主任とな

林源煊 (Lin Yuan-yü)

福建省閩侯縣人

前清の監生出身にして宣統三年山西省孟縣知縣に任ぜられ、民國四年に至り同省應縣知事に任ぜらる。

林葆綸 (Lin Pao-lun)

福建省閩侯縣人

前清海軍學生出身にして曾て海軍部軍需司々長に任ぜられ、民國成立するや海軍部軍需司々長に任ぜらる、同五年十月病を以て辭職し六年八月海軍部軍需司長に拜命せり。

林葆懌 (Lin Pao-i)

福建省閩侯縣人

福建船政學堂航海科を卒業し北洋艦隊に入り遂に艦長に至れり、宣統二年英國造船廠に赴き清國注文の軍艦筆和號の工事を監督し工竣るや自ら廻送せり。

民國二年七月海軍練習艦隊司令、同八月第一艦隊司令長官となりしが帝制問題に反對し、又袁氏殞落の後李鼎新と共に第一艦隊を率ゐて獨立し南方派を聲援せり。年齢五十五。

り、筆陣堂々雄を論壇に稱せり。氏は鄭孝胥(宗社黨の巨人)の親戚にして梁啓超崇拜家たり、容姿端麗にして才氣あり、又稍々邦語に通せりといふ。年齢三十四。

林榮 (Lin Chi)

字 少旭 福建省閩侯縣人

早稻田大學卒業生にして歸朝後舉人を授けられ、學部丞參廳參事となる、民國元年九月教育部教育司長となり、二年九月現司法總長江庸氏の後を承け京師高等審判廳長に任じ四年一月中大夫を授けらる。年齢三十七。

林尊儼 (Lin Tsun-yen)

字 幼梅 福建省閩侯縣人

前清供事出身にして曾て資政院秘書廳三等秘書候補機要科々員等となり、民國成立後政事堂主戰局主事に任ぜらる、六年十二月現在國務院統計局主事たり。

林揚光 (Lin Yang-kuang)

福建省閩侯縣人

前清の進士にして曾て陝西省安康縣知縣たり、民國成立後福建省邵武縣知事に任ぜらる。

林葆恒 (Lin Pao-hêng)

字子有

浙江省人

前清中直督楊士驥の推薦に依り直隸候補となり、總督衙門審儉兼直隸提法使を兼ね、民國成立後張錫鑾都督着任後學務科長となる。年齢五十七。

林輅存 (Lin Lo-tsun)

字景商

福建省安溪縣人

氏小にして臺灣に居り家貲巨萬、我が明治二十八年島を去り福建に歸籍し秀才より累進して經濟特科となる、戊戌の年上書して變法を言ひ德宗之を寵して總理衙門英國課章京に用ゐらる、嗣いで政變に遭ふや故兒玉伯爵氏を携えて難を東京に避けたり、所謂戊戌の政變なり、其後歸朝して道員を以て廣東に派遣せられ記名公使に推薦せられ、安溪同安、馬廐、龍溪各書院に教鞭を執り、又泉漳廈門南洋各地に學校商會を設立せしが唐戈常事件の嫌疑を以て歐米に流寓し、清末歸朝して福建諮議局議員となる。第一革命後福建臨時省議會、臨時參議院、衆議院等に連りに議員に擧げられしが、初次國會解散後福建暨南局總理に任じ移民事務を取扱ふ、嗣いで國民會議、立法院の議員に選ばれしも皆辭して就かず清節自ら持せり。年齢三十八。

林燾予 (Lin Ts'an-Yü)

字蔚岑

福建省新會縣人

民國成立後廣東進步黨支部幹事となり又華國報の主筆たりしが、袁氏帝制聲中筆禍を買ひ當時廣東都軍龍濟光に捕へられんとし纔に香港に遁れたり、目下同地中外新報に主筆たり。年齢三十九。

林軾垣 (Lin Shih-yian)

字蔚岑

福建省閩侯縣人

天津水師學堂を卒業し、駐英公使館隨員、福建洋務局編譯委員、バンクバー領事館通譯官、領事等に歴任せり、六年十二月現在署理組絲綸領事たり。年齢四十。

林頌莊 (Lin Sung-chuang)

字仲孫

福建省閩侯縣人

六年十二月現在海軍第一艦隊署理司令たり。

林萬里 (Lin Wan-li)

字少泉

氏は北京有數の大新聞公言報の編輯長にして漢學の造詣深く又邦

語に精通し文名都門に高し、七年三月北京報界赴日視察團を組織し東游せり、當時該團の交際部に擧げらる。

林肇民 (Lin Chao-min)

福州音 Ling Dien-ming)

福建省閩侯縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸國後福州陸軍第十鎮教官、大隊長、聯隊長等に歴任せり、第一革命の時參謀司次長に推さる、六年十二月現在福建陸軍測量局長たり。氏は前司法總長林長民氏の從弟なり。年齢三十一。

林爾嘉 (Lin Erh-chia)

福建省思明縣人

前清の侍郎衛、京堂候補たりしが商部一等顧問官、度支部幣制調査員、福建全省鑛務調査員、廈門商務總會總理等に歴任す、民國元年福建省獨立するや廈門の秩序維持に力め功を以て三等嘉禾章を授けられ、同三年内國公債募集せらるゝや率先して十萬元を引承けたるに依り二等嘉禾章を授けらる、嗣いで同四年福建巡按使許世英より紳僑案内に上申せられ大總統に覲見し政事堂銓叙局の記録に登れり。年齢四十三。

林毓彦 (Lin Yi-yen)

八 畫 [林]

字邦杰

廣東省潮州人

前清中元興洋行(Louis & Hoos loop)の給仕より身を起し稍々英語を操るの外學歴の稱すべきものなし、然るに爾來志を勵まし商界に活動し、資を積むこと半百萬、銀行業太古莊を經營し並に太古洋行(Butterfield & Swire Co.)の買辦たり、而して其人となり狡猾にして性質燥暴なりといふ。年齢六十。

林維祺 (Lin Wei-ch'i)

字壽芝

福建省閩侯縣人

前清中獻金して官を買ひ奉天錦州捐稅局長たりしが民國四年八月昌圖縣々佐として通江口分治委員となる。年齢四十八。

林蔚章 (Lin Wei-chang)

字碩田

福建省閩侯縣人

前清の舉人にして曾て郵傳部路政司主事となりしが、民國三年二月廣東高等審判廳々長に任ぜられ、四年八月辭職、六年九月參議院議員に擧げらる。

林潤釗 (Lin Jun-chao)

字抱恒

廣東省博羅縣人

香港「クインカレッジ」及び天津北洋大學を卒業し、後廣東大學堂教習、瓊州、欽州及び兩廣總督洋務委員に歴任す、嗣いで商工業視察の爲め「サモア」島に赴きしが遂に同島領事に任ぜらる。年齢四十三。

林震 (Lin Chên)

廣東省人

曾て廣東武備學堂を卒業す、前清の新軍武官にして第二十二師長に任ぜられたり。年齢三十六。

林樹芬 (Lin Shu-fên)

福建省閩侯縣人

福州英華書院卒業にして曾て福州駐在米國領事館の通譯たり、嗣いで福建總督府の命を受け福建移民調査の爲め南洋を遊歴し滞在數年にして歸れり、其後汕頭保工局長となり、第一革命後福建外交司次長に推さる、親米派の一人なり。年齢五十餘。

林樹藩 (Lin Shu-fan)

湖北省秭歸縣人

民國五年七月湖南衡陽道署理道尹となる。

林錫光 (Lin Hsi-kuang)

字 芷馨

福建省長樂縣人

前清の舉人にして曾て學部學習主事たりしが、民國成立後教育部普通教育司第三科主事に任ぜられ、民國四年七月少大夫を授けらる、並に視學を兼任す、六年十二月現在該部編審處審査股辦事兼視學たり。

林繩武 (Lin Shêng-wu)

廣東省信宜縣人

前清優貢出身にして曾て法部小京官候補たりしが民國成立後駐秘露公使館代理主事となれり。

林鷗翔 (Lin Hun-hsiang)

字 鐵錚

浙江省吳興縣人

前清の舉人にして知府の資格を得、後日本に留學して法政大學を卒業し、歸朝後直隸自治局科員憲法編查館諮議官等に歴任し、嗣いで駐日公使館參贊、代理留學生監督陸軍學生監督等に任ぜられ、民國四年十一月湖南財政廳長に拜命せり、同五年十月外交部特派浙江署理交涉員となる。

林騶 (Lin Tsou)

福建省閩侯縣人

前清中出使して駐露公使館三等通譯官となり、民國成立するや駐玫巴隨習領事となれり。

林攝 (Lin Shê)

字 贊侯

浙江省瑞安縣人

明治三十七年十月日本陸軍士官學校を卒業し又獨逸に留學し日獨語に通ぜり、歸來陸軍部軍衡司長となり民國四年十二月雲南が反袁獨立するや翌年一月滇中に雲南に入り都督府參議に任ぜらる、同年四月公務を以て陸榮廷及び岑春煊を兩廣方面に歴訪し、遂に岑氏の聘するところとなり軍務院出征軍動員計劃主任に任ぜらる、六年十二月現在山西塞北稅務監督たり。年齢四十一。

林鑑誠 (Lin Chien-ch'êng)

直隸省天津人

初め上海聖約翰大學を卒業し該校英文教員となる、嗣いで米國に留學し「バージニヤ」大學に土木工務を修む、民國元年「カーネル」大學に轉ぜしが同二年「バージニヤ」大學に復し、同四年土木工務師の學位を得卒業歸國せり、嗣いで上海「スタンダード」石油會社

建築補佐に任ず。年齢二十七。

林鑑 (Lin Chien)

字 農藤

浙江省人

南洋高等商業學堂に入り銀行科を卒業す初め大清銀行員となり、次で熱河吉林の財政廳科員に歴任す、民國四年に至り哈爾濱邊銀行副行長に進み兼ねて會計主任たり、後更に吉林殖邊銀行に轉じ仍ほ副行長兼會計主任の職に就く。年齢三十一。

金永 (Chin Yung)

浙江省錢塘縣人

前清中吉林省雙城府知府となり、民國三年五月山西巡按使に拜命し、一等男に封ぜらる。

金永昌 (Chin Yung-ch'ang)

字 助卿

蒙古卓爾圖喀爾沁旗人

曾て日本に留學す、民國二年蒙古より選ばれて參議院議員となり又憲法起草委員に擧げらる、共和黨員なり、六年十二月現在恰克圖佐理員三等秘書たり。年齢四十。

金玉振 (Chin Yi-chên)

字 作聲

奉天省西安縣人

民國元年西安縣商務會總理となり、後辭職し奉天殖邊銀行西安分行主任となる、大疝疽第一の富人にして同地商界に勢力あり、又常に公益事業に盡力す。年齢三十九。

金兆揆

(Chin Chao—yen)

字 仲蓀

浙江省金華縣人

前清の舉人にして北京大學堂を卒業し中書の官を授けられ、嗣いで浙江金華地方自治籌備處坐辦、金華府中學校監督、浙江第七中學校々長、全省農業教育講習所々長、同省臨時省議會議員、同省永嘉縣知縣、福建省福清縣知縣等に歴任す。民國樹立後復浙江都督府機要秘書となり、後參議院議員に擧げられ兼ねて憲法起草委員となりしが、五年の間二次の解散に遇へり、年齢三十有九。

金兆蕃

(Chin Chao—fan)

字 錢揀

浙江省嘉興縣人

光緒十五年の舉人にして前清中江蘇省候補知府たり、民國成立後財政部賦稅所議員兼會計司長、賦稅司長に歴任し、六年十二月現在清查官產處會辦參事上行走たり。年齢五十。

金邦正

(Chin Pang—chêng)

字 仲蕃

浙江省杭州人

初め南京江南格致學校天津南開學校、北京稅務學堂に學び、宣統元年官費を以て米國に留學し宣統二年康奈爾大學に入り林學科を修め、民國三年學士及び林學碩士の學位を得、選ばれて某名譽學會に入り、民國三年歸國し安徽省立第一農業學校の校長に任じ、安徽省立森林局々長を兼ね、仍ほ續任す、氏は前農商總長金邦平氏の弟なり。年齢三十。

金邦平

(Chin Pang—ping)

字 伯平

安徽省黟縣人

袁世凱帝政中の人物にして前清翰林院檢討たり、曾て日本に留學し早稻田大學を卒業し、歸朝後北洋大臣袁氏の文案、北洋督練處參議、日支馬關條約の際隨行員となり、又直隸省自治局督理、諮議局籌辦總辦、修訂官制編纂員、憲政編查館二等諮議官、資政院秘書長等に歴任す。

民國元年中國銀行籌辦處總辦、同三年政事堂參議、禮制館第五類評議員、四年三月農商部次長兼全國水利局副總裁となり、上大夫を授けられ又全國生計委員會々員を兼ね、此年九月二等嘉禾章を進授せられ五年四年農商總長に昇り嗣いで六月辭職せり。金氏人となり謹直にして機略あり蓋し日本留學生中の錚々たるも

の。年齢三十八。

金志瀚

(Chin Chih—han)

原名 志瀚

正黃旗滿洲人

前清皇室の隆生にして度支部員外郎となり、後民政部額外委員を命ぜられ、民國成立後、内務部職方第二科主事となれり。

金承新

(Chin Ch'êng—hsin)

字 子銘

山東省寧陽縣人

前清光緒中山东浙江に歴官す、同二十八年日本に遊び政治並に實業を調査せり、翌年歸朝して地方公益の事業に従ひしが民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢四十四。

金承誥

(Chin Ch'êng—kao)

字 謹齋

浙江省杭縣人

前清の候補道にして民國六年十二月現在は中國銀行杭縣分行主任たり。年齢四十六。

金尚誥

(Chin Shang—hsien)

字 苑秋

浙江省溫嶺縣人

前清中本邑の水利、工藝禁烟等各局總理となり、又中學校、自治研

究所を創立經營せり、遂に宣統中同省諮議局議員に擧げられ、嗣いで民國二年衆議院議員に選ばれたり。年齢五十。

金其相

(Chin Ch'i—hsiang)

字 琢齋

安徽省懷甯人

前清の監生、曾て吉林省長春巡警總局長となり、後同省理春權運局長に轉任す。年齢六十。

金其堡

(Chin Ch'i—pao)

字 侯城

江蘇省寶山縣人

民國成立後曾て江蘇都督府統計課長たりしが、六年十二月現在全國菸酒公賣局第二科長僉事たり。年齢四十五。

金浪瀾

(Chin Min—lan)

浙江省紹興縣人

前清中日本に留學し日本大學法律高等專攻科を卒業し同校學士號を得たり、歸朝後法政科舉人を授けられ、法部主事、寧波地方審判廳長、浙江官立法政學堂教習に歴任し、五年五月現在杭縣律師公會副會長たり。

金君今や辯護士たるの外東文育材館の主幹として育英に盡瘁せり又邦語に精通す。年齢三十九。

金厚詒 (Chin Huo—i)

京兆人

前清中順天高等學堂を卒業し、嗣て舉人となり、山東省洋務局繙譯委員並に補用知縣たりしが、民國四年に至り科布多佐理員署監獄官に拜命す。

金泰 (Chin T'ai)

字魯詹

直隸省天津人

天津中學及び北洋大學に學び光緒三十二年官費を以て米國に留學し、哈佛大學に入り政治經濟學を修め、宣統元年學士の學位を得、留米學生會員、哈佛聯合會々員及び哈佛世界會々員と爲る、宣統元年歸國し北洋大學英文々案に任じ、宣統三年農工商部主事及び内閣法制院科員に任じ、民國元年法制局參事に任じ今仍ほ在職す。年齡三十五。

金純德 (Chin Ch'un—tê)

字馨齋

黑龍江省人

民國成立後同省民政長署實業司長となり、民國三年西布特哈總管に任ぜらる、氏は齊々哈爾の紳士にして思想穩健なり。年齡五十三。

金章 (Chin Chang)

字浩亭

廣東省番禺縣人

前清の舉人にして日本法政大學速成科を卒業し並に邦語に通ぜり、曾て胡漢氏、汪精衛等と革命思想を鼓吹し、歸國後法政學堂警察學堂、自治研究所の教員となりしが、民國元年南京參議院議員となり後廣東都督府總務科長に任ぜらる、同四年袁氏帝制聲中國民代表に選ばれたり。年齡三十四。

金開祥 (Chin K'ai—hsiang)

貴州省貴陽縣人

前清中廣西省龍州廳同知たりしが、民國三年五月廣西省桂林道尹となり、民國四年三月中大夫を授けらる。

金詒厚 (Chin I—hou)

字直生

京兆大興縣人

宣統二年順天高等學堂を卒業し同三年山東高等學校英文教師となり、民國成立後直隸省議會議員となり、民國二年復衆議院議員に選舉せられ、爾來再度の解散を経たるが袁氏帝制發生當時は遠く蒙古に遁晦せりといふ。年齡三十三。

金紹會 (Chin Shao—ts'êng)

字益庭

直隸省天津縣人

前清の陸軍部參事官にして、民國に至り、陸軍部參事處參事に任ぜらる、六年十二月現在軍衛司々長たり。

金紹城 (Chin Shao—ch'êng)

字息侯

浙江省歸安縣人

前清中に大理院刑事第三廳推事となり、民國に至り、内務部警政司第一科僉事兼秘書處辦事を拜命す、嗣て民國四年七月中大夫を授けらる。

金梁 (Chin Liang)

字息侯

滿洲旗人

清初八大家の一たる滿洲瓜爾佳家の出にして生粹の旗人なり、夙に進士館卒業後進士と爲り、内閣中書より大學堂提調、内城警廳知事、民政部參議會議政務處委員、奉天旗務處總辦、新民府知事、奉天全省清文局局長に歴任して民國五年五月奉天政務廳々長に昇り最近洮昌道尹に轉ず、氏は博覽強記兼て文を草し詩を賦し著書亦少からず、奉天古蹟考の如き好著として世に行はる。本年四十歳。

金朝樞 (Chin Ch'iao—shu)

字礪生

四川省成都人

明治三十八年日本法政大學に留學し四十二年歸國す民國成立後内務部に奉職し、民國三年奉天巡按使張元奇の秘書、同公署機要處事宜、軍務科々長となり、四年八月遼陽縣知事に轉任す、金君張元奇の幕下にして張氏奉天を去るに及び稍々失意の境に在りといふ、年齡三十九。

金會澄 (Chin Ts'êng—ch'êng)

字湘帆

廣東省番禺縣人

前清中廣島高等師範學校を卒業し邦語及び英語に通ぜり歸國後第一革命に遭ひ廣東都督府教育科參事に任ぜられたり。年齡四十五。

金華林 (Chin Hua—lin)

字梁園

湖北省黃陂縣人

湖北武備學堂を卒業し曾て興武將軍署參謀長兼守備隊司令官となりしが、民國五年四月浙江獨立の際反對し纔かに身を以て免かれり、性不遜なるも果斷にして敏腕家なりといふ。年齡四十一。

金鼎 (Chin Ting)

字 峙生

江蘇省江寧縣人

前清中道尹として軍機處記録に登り、湖北省善後局總辦、荆宣道尹等に歴任す、又曾て清理財政局會辦に隨つて歐洲を遊歴したり、歸朝の後湖北省襄陽黃州の知府となり、又巡警、鹽法諸官衙に奉職せり。

氏は財政に關する知識を有するを以て、民國成立後、江蘇省江寧財政司副長、江蘇省國稅廳籌備處長に擧用せられ、嗣て民國四年十月奉天官地清丈局長となり、巡按使署政治顧問を兼ねぬ。四等嘉禾章を有せり、五年六月段芝寅奉天を去るに及び辭職す、六年十二月現在武昌造幣分廠々長たり。年齢五十五。

金鼎勳

(Chin Ting—hsün)

字 叔奮

吉林省吉林縣人

曾て日本に留學し始め東斌學校に入り後轉じて明治大學を卒業せり。

辛亥の秋吉林軍司令に任じ功あり、元年臨時參議院議員に、二年參議院議員に歴選し、國會停止するや湖北に赴き、五年五月江漢道尹に任ぜられ内務部參事となる、五年八月國會恢復後辭職して議員に復歸せしが、六年六月重ねて解散せらる、六年十二月現在東三省署理鹽運使たり。年齢三十九。

金溶熙

(Chin Yung—hsi)

府主計課長に任ず。

金毓紱

(Chin Yü—fu)

號 謹庵

奉天省遼陽縣人

曾て奉天中學堂を卒業し該校國文教員となる、嗣いで北京高等師範學校に入り民國二年北京大學文科に轉じ同五年六月優等首席を以て卒業せり、歸郷後奉天省議會秘書となり中學校教員を兼ね、金君温厚の君子人にして甚だ親むべし、又篤學家なり。年齢三十。

金慶章

(Chin Ching—chang)

字 靜初

江蘇省上海縣人

舉人出身にして、前清中外務部に勤務せしが、民國成立後、仁川領事館署理隨習領事を拜命す。

金興華

(Chin Hsing—hua)

江蘇省武進縣人

優生出身にして前清中度支部七品小京官となり、民國に及び、財政部會計司僉事第五科長となる、民國四年七月少大夫を授けられたり。

金樹仁

(Chin Shu—jên)

八 畫 [金、邵]

字 溶仲

浙江省杭縣人

氏は浙中著名の織物業者なり民國元年率先して株式會社を組織し或は「ジャカート」織機を日本より輸入する等實に斯界の先覺たり民國二年衆議院議員に當選し又同年大正博覽會觀光團員として日本を遊歴し實業を視察す、氏現に振新、日新兩絹織公司の總辦にして斯業視察の爲め屢日本に往來し邦人中知人亦少なからずといふ。年齢五十二。

金猷澍

(Chin Yu—chu)

字 慰儂

安徽省休甯縣人

父祖以來官吏の家に生る、初め直隸高等學堂に學び後北洋大學に轉ず、更に米國に留學し高等學校、工業專門學校を経て「ウイスコンシン」大學を卒業、歸國後奉天全省務處及び師範學堂商業學堂等に教鞭を採り、又中外各新聞に主事たる事數年、後轉じて實業界に入り米國電工廠練習員、ウエストハウス、試験工務司、中華工學會董事、民國第一圖書局及び神州編譯社總理等の各職に従ひ、次で哈爾濱殖邊銀行々長に榮轉現に其の職にあり。年齢三十六。

金猷琛

(Chin Yu—chên)

字 芎齡

浙江省人

曾て法政學堂を卒業し省の財政官たりしが、第一革命後江蘇都督

甘肅省導河縣人

金礪

(Chin Li)

字 石逸

江蘇省淮陰縣人

篤學の士にして屢試験に合格せり、前清中甘肅高等學堂を卒業し宣統元年拔貢の試験に合格し、後新疆省知事試験に應じ優等にて合格したり。民國成立後、導河縣高等小學校長、同縣師範學校長、新疆省軍務廳書記官兼一等科員等に歴任し、民國四年九月新疆省巡按使楊增新の推薦に依り、阿克蘇縣署理知事となれり。

前清中北京法政專門學校を卒業し、北京警察廳科員、山東省司法籌備處科長等に任じ、嗣て黎元洪の推薦に依り、試験を免じ吉林省縣知事に赴任す、六年十二月現在和龍縣署理知事たり。

金鶴章

(Chin Hao—chang)

字 鳴九

奉天省義縣人

滿洲旗人にして曾て奉天高等警察學堂を卒業す、後莊河縣、奉化縣の警務長となり、民國元年以來昌圖縣警察事務長に任ぜらる。年齢三十八。

邵文鐸

(Shao Wên—to)

字 愷泉

浙江省慈谿縣人

前清時花銅三品銜知府たり今は公主嶺 中國銀行管理の職にあり。年齡五十四。

邵孔亮 (Shao K'ung—liang)

安徽省懷寧縣人

前清進士出身にして曾て直隸即用知縣たり、宣統三年南和縣知縣に補せらる、民國成立するや應山縣委署知事に任ぜられ、三月一日知事試験に免試し嗣いて驗契稅徵收に功勞あり五等金質單鶴章を給與され、四年七月湖北巡按使段雲書の上申に依り引續き應山縣署理知事として其職にあり。六年五月事を以て解職せらる。

邵兆中 (Shao Chao—chung)

字 子峯

奉天省鳳城縣人

光緒二十七年始めて一兵卒となり果進して營長(大隊長)に至る、第一革命の時南軍に呼應せんとし罷められ 民國成立後同省莊河縣警務長に任ぜらる、當時莊河縣知事王某後桓仁縣知事に轉任し民國五年()事を以て免職せられしが公款缺損して事務を引續ぐ能はざるを見るや往いて王を説きて遼東護國軍を起せしが忽ち起り忽ち滅し遂に大連に奔る。

邵仲康 (Shao Chung—k'ang)

黑龍江省巴彥縣人

曾て師範學校を卒業し地方の教育に従事せしが民國二年衆議院議員に擧げらる。年齡三十五。

邵尚儉 (Shao Shang—chien)

字 慎亭

關東州金州城内人

父祖は山東萊州府即墨縣より金州に移住し商業に従ひ富豪として聞ゆ天興福主人たり、初め兄弟と共に金州に本店を創め後擴張して大連、長春、張家灣、甜草崗等に支店を設け、大連に於ては東亞煙草會社の代理を兼ね、光緒三十三年大連に油坊を設立し次で民國元年金州に果園を創設せり大連に市政布かるゝと共に選ばれて議員となる。年齡三十七。

邵長光 (Shao Ch'ang—kuang)

字 裴子

浙江省杭縣人

光緒三十一年官費を以て米國に留學し加利佛尼亞大學に入り商業を修め三十三年「スタンフォード」大學に轉じ經濟及び社會學を修め宣統元年學士の學位を得世界會々員と爲る、宣統元年歸國し浙江高等學堂教員に任じ宣統三年該校教務長に任じ又北京國立法政專門學校經濟財政科々長に任じ民國二年以來該校教員に任じ又財政部泉幣司主事たり。年齡三十三。

邵長鎔 (Shao Ch'ang—jung)

字 冶田

江蘇省灌雲縣人

前清の議員生となり農學校を卒業す、清末本省の諮議局議員に選舉せらる。

民國元年江蘇都督府審計科員、實業科長、臨時省議會議員となりしが同二年衆議院議員に當選したり、初次解散後は巴拿馬博覽會出品準備名譽經理を任ぜらるゝといふ。年齡五十四。

邵恒濬 (Shao Hêng—chin)

字 筠農

山東省文登縣人

前清監生出身にして曾て學部實業司郎中たり 民國成立するや外交部露文專修館校長に任ぜられ、六年十二月現在駐浦鹽總領事たり。

邵修文 (Shao Hsiu—wên)

字 竹琴

山西省安邑縣人

前清舉人出身にして曾て法部小京官候補たり 民國成立するや京師高等檢察廳署檢察官に任ぜられ四年九月四日上士を授けらる、六年十二月現在大理院檢察總廳檢察官たり。

邵振青 (Shao Chên—ching)

字 平子

浙江省杭縣人

前清中浙江高等學堂を卒業し、第一革命當時杭州に漢民日報を經營せしが議論過激なるの故を以て停刊を命ぜられたり、遂に日本に留學し寺尾博士經營の法政專門學校に學び並に同志と謀り東京通信社を組織し上海各新聞に通信す、又北京御用紙北京日報(主筆朱琪屢々沒常識の社説を掲ぐるを以て著はる)に投書せり、歸國後上海時事新報、申報に執筆せしが六年春間北京に來り新聞編譯社を組織し通信記事を内外各新聞社に分配せり。年齡二十七。

邵章 (Shao chang)

字 伯綱

浙江省杭縣人

前清癸卯科翰林出身して曾て翰林院編修たり 民國成立するや約法會議々員に任ぜられ四年一月二十七日上大夫を授けられ嗣て平政院評事となり十月十日三等嘉禾章を給與せらる。六年十二月現在同院第一廳長評事たり。

邵啓賢 (Shao Chi—hsien)

字 蓮士

浙江省餘姚縣人

民國三年八月十八日署理江西贛南道尹となり、四年十二月十八日本任を實授さる、六年十二月現在仍ほ勤續せり。

邵從恩 (Shao Ts'ung—ên)

字 明叔

四川省青神縣人

光緒三十年日本に留學し法政大學速成科を卒業す、歸來本省川西法政學堂監督たりしが、民國二年一月十九日司法籌備處長に任命せられ、同年九月二十三日該處撤裁せらる。年齢三十九。

邵貽穀 (Shao I—ku)

浙江省杭縣人

前清中法律學堂を卒業し浙江温州地方審判廳推事に任ぜらる。民國成立後第二期知事試験に合格し福建省長泰縣署理知事となれり。

邵萬壽 (Shao Wan—ho)

字 子向

浙江省東陽縣人

前清舉人出身にして曾て郵傳部電政司主事たり民國成立するや交通部郵傳司電務科主事に任ぜられ六年六月試署僉事に昇任す。

邵福瀛 (Shao Fu—ying)

字 厚夫

江蘇省常熟縣人

前清舉人出身にして曾て農工商部右參議たり民國四年四月江關監

督兼九江通商交涉員に任ぜらる、六年十二月現在内務部參事たり年齢四十七。

邵廣仁 (Shao Kuang—jên)

字 恩溥

奉天省西豐縣人

奉天掏鹿の造酒家にして地方に名望あり、民國五年三月西豐商務會長に擧げらる。年齢三十三。

邵義 (Shao Hsi)

浙江省仁和縣人

前清慶貞生出身にして曾て資政院議員たり。民國成立するや鹽政署秘書、總務處總理等に任ぜられ嗣て財政部清查官産處評議員に任ぜられ四年八月十一日上士を授けらる。

邵鍾音 (Shao Chung—yin)

字 季和 原名 鍾音

京兆宛平縣人(原籍正黃旗漢軍人)

前清の舉人出身にして曾て民政部營繕司員外郎たり民國成立するや内務部總務廳統計科主事に任ぜらる。六年十二月現在仍ほ該職に在り。

孟昭常 (Mêng Chao—ch'ang)

江蘇省武進縣人

前清の舉人にして曾て日本に留學す、宣統中資政院議員となり當時盛名あり、並に立憲公會の副會長に推され政界に活動せしが第一革命起るや南旋して家に隠る、民國成立後又出て農商部僉事より六年九月黑龍江省實業廳長に任ぜらる。年齢四十七。

孟昭漢 (Mêng Chao—han)

字 羨亭

山東省鄒縣人

前清中地方公益事業に従事し功を以て知縣の資格を得、民國二年衆議院議員に選舉せらる、六年九月臨時參議院議員となる、年齢四十九。

孟恩遠 (Mêng Ân—yuan)

字 樹村

直隸省天津人

孟氏出身極めて猥賤、曾て身を卒伍に起し爾來軍界に累進し直隸巡防隊の管帶、統領より光緒三十四年吉林巡防督辦に歴任す。民國成立後第二十三師長となり元年十一月吉林騰軍使に任じ、三年六月鎮安左將軍督理吉林軍務、五年七月吉林督軍と改む。六年七月復辟の際孟氏適々北京に在り當時吉林巡撫に任ぜられ大

孟森 (Mêng Sên)

字 莼生

江蘇省武進縣人

曾て日本法政大學に留學す、宣統元年江蘇諮議局の書記長となり並に豫備立憲會(鄭孝胥主宰)の幹事たり。民國二年衆議院議員に擧げられ憲法起草委員に推さる、同年十一月國會解散後上海に旋り時事新報を主宰せしが四年之を辭して實業に従事せり。

孟君は孟昭常の兄にして共に鄭孝胥の門人なり、東部蒙古、東三省開墾事情に精通し屢々同地方を遊歴せり、又清朝史を精研し清朝史料の著あり、共和黨に隸屬す。年齢五十。

孟富德 (Mêng Fu-té)

字 潤堂

吉林省甯安縣人

滿洲人にして現に間島局子街に駐在す、前清中身を卒伍に起し吉林靖邊軍哨官(中隊長 管帶(大隊長)統領(聯隊長相當)、巡防統領、吉甯軍統領に累進し、嗣いで吉林駐延軍第一混成旅第二團長(聯隊長)となる。孟君性質温厚謙讓、能く士卒の心を得邊疆に徳望あり。年齢五十四。

孟廣鈞 (Mêng Kuang—chün)

字 玉雙

山東省德縣人

前清中吉林省樺川縣知縣となりが民國成立後尙前職に留任せり、六年十二月現在同省富錦縣知事たり。

孟錫珪 (Mêng Hsi—chieh)

字 玉雙

京兆宛平縣人

前清中翰林院編修たり、民國三年七月肅政廳肅政史に任じ上大夫を授けらる、六年九月臨時參議院議員に擧げられたり。

孟錫綬 (Mêng Hsi—shou)

字 次乾(名字同一)

廣東省鶴山縣人

前清中黃埔水陸師學堂及び水雷學校を卒業し爾來革命主義を鼓吹す。辛亥の秋廣東獨立して廣軍の參謀に任じ南北統一後宋教仁が農林部長たるや同部の編纂僉事及び公報處々長となり、民國二年衆議院議員に選舉されしが第一次解散後上海に走り唐紹儀等と金星保險公司を組織しその總理に任ぜり、嗣いで帝制に反對し項城長逝し國會再開し議席に復せしが未だ幾くならずして再度の解散を見るに至れり。年齢三十七。

易克臬 (I K'o—nieh)

字 敦白

湖南省長沙縣人

前清中湖南求實學堂師範科を卒業し候補同知となる、民國成立後教育部參事專門教育司長に任用せられ、民國四年七月上士少大夫銜を授けられたり、嗣いで教育部秘書に昇任し、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十四。

易宗夔 (I Tsung—k'uei)

字 蔚儒

湖南湘潭縣人

氏は幼にして孤貧勤苦力學せり、光緒三十年日本に游學し歸朝後

字 範九 一字 潛齋 直隸省宛平縣人

孟子の後裔と稱し前清歲貢生たり光緒二十八年聘に應じて露京に赴き東洋言語大學漢文教習となり同時に露清道勝銀行稽查主任を兼ね、光緒三十一年歸國後支那各地の道勝銀行稽查の職に任ず、同年更に東三省官銀號總辦に轉じ宣統元年東三省東北邊外交勘界委員となり、次で依蘭道署外交科長に昇り、民國元年北京交通總行より派せられて長春交通分行經理の職に就き功を以て五等嘉禾章を給せらる。年齢五十一。

孟憲彝 (Mêng Hsien—i)

字 從泉

貴州省綏陽縣人

幼にして私塾に通學し漢學に通ぜり、前清中鐵嶺知縣に任ぜらるるもの前後二回、嗣いで奉天知府、賓州知府、長春知府より吉林西南路兵備道に歴任し、後挂冠天津に歸臥せり、六年十二月現在督辦永定河工事宜たり。年齢五十二。

易文燿 (I Wên—k'uei)

字 從泉

貴州省綏陽縣人

民國五年十月署理雲南高等檢察長に任ぜられ以て今日に及べり。

易次乾 (I T'zu—ch'ien)

長沙の各學校教員となり又宣統元年資政院議員に擧げられ慶親王を痛劾せり。民國元年北京に入り法典編纂會纂修となり、二年外蒙古札薩克圖汗より推され衆議院議員となりしが後屢次の解散を経たり。年齢四十三。

易宗羲 (I Tsung—hsi)

字 佑恂

湖南省善化縣人

光緒三十四年湖南諮議局議員となり後資政院議員に選舉せらる、民國成立後湖南會計檢查院長に任ず、又會て宣統中體育學堂總辦たり、革命思想を有す。

易抱一 (I Pao—i)

字 重孚

湖南省長沙縣人

民國六年九月新疆教育廳長に任ぜられ政務廳長を代理せり。

易恩侯 (I Ên—hou)

字 重孚

湖北省隨縣人

前清中日本に留學し東京帝國大學法科を卒業す、歸朝後法政科舉人を授けらる、民國二年一月湖北高等審判廳長に任じ六月辭職、三年三月陝西省高等檢查廳長に任ぜられ以て今日に及べり。

易順鼎 (I Shin—ting)

字 實甫

湖南省漢壽縣人

前清の舉人にして廣東欽廉各地に兵備道たり、民國成立後政事堂、參事兼て政治公報事務を管し民國四年四月印鑄局長代理を命ぜらる、六年十二月現在印鑄局帮辦兼參事たり。年齢五十九。

易鼎新 (I Ting—hsin)

字 修吟

湖南省醴陵縣人

曾て長沙中學、長沙游學豫備科、奉天方言學堂、北京財政學堂に修學し、江西省萍鄉縣稟江學堂教員となる、宣統二年米國に留學を命ぜられ「リカイン」大學に電氣工程を學び、民國三年卒業せり、嗣いて又「ユニオン」學校に入り同四年碩士の學位を得たり、爾來「リカイン」大學中國學生會々長、同校電氣學會員となり同年歸國す、乃ち湖南工業專門學校教員となり、五年漢口「シーメンス」公司工程師、湖南高等師範學校教員に歷任せり。年齢三十二。

岳兆麟 (Yo Chao—lin)

山東省長沙縣人

民國六年十二月現在陸軍第十二師步兵第二十四旅長たり。

岳秀夫 (Yo Hsin—fu)

字 宋生

河南省蘭封縣人

前清中本省の高等學校豫科、優級師範學校理化專門科を卒業し後各校教員に歷任す、民國成立後臨時省議會議員、衆議院議員等に擧げらる。年齢三十六。

岳昭燭 (Yo Chao—yii)

字 鞠如

浙江省嘉興縣人

前清中駐露公使館附留學生となり、歸朝後湖北、江蘇督撫衙門の洋務文案、考察憲政大臣隨員、南洋、北洋大臣の洋務文案、並に洋務局會辦、外務部法律科員、白耳義二等書記官、代理公使等の各官に歷任す、嗣いて駐佛公使館一等參贊官(我書記官に相當す)に轉任せり、六年十二月現在同館署理一等秘書たり。年齢三十九。

岳蓬壺 (Yo Fêng—hu)

直隸省定縣人

前清の舉人にして曾て軍諮府地形班股員たりしが民國成立後參謀本部地形課審査に任用せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

屈永秋 (Ch'ü Yung—ch'in)

字 柱庭

廣東省廣州人

前清の監生にして天津醫學館を卒業し並に英語に通ぜり、光緒十四年旅順醫院正醫官、同二十一年天津施醫局醫官、翌年醫學堂監督、同二十五年騎兵隊軍醫官、同二十六年北洋醫學堂兼醫局正醫官、三十一年候補道、三十二年留學醫學試驗委員、同三十三年天津衛生局總辦に任ぜられ今總統府醫官たり、又曾て光緒三十二年中歐米を游歴せり。年齢五十五。

屈映光 (Ch'ü Ying—kuang)

字 文六

浙江省臨海縣人

初め浙省赤城公堂を卒業す、嗣いで同公堂教習、臺州印山商業學堂監督、安徽陸軍測繪學堂教習等に歷任す、民國元年以來浙江第五軍顧問官、浙江民政司長、同內務司長、浙江民政長、浙江巡按使等に漸次榮達し故袁項城の重倚と一方民黨の推重を承けて四年十二月一等伯に封ぜられ五年四月浙江獨立の際同省都督に推さる、然るに氏が北京政府に對する關係上民黨の一派と相合はず挂冠歸去來を賦せり。年齢三十七。

屈德澤 (Ch'ü Tê—tsê)

前清の舉人にして四川省奉節縣知事たり曾て日本に留學し某農學校を卒業す、歸朝後農商部農商司、湖北省高等農業學堂坐辦、四

尚其亨 (Shang Chi—hêng)

字 會臣

現住上海

漢軍鑲藍旗人にして光緒十八年の進士なり、同二十四年十一月山東の道員より二十六年十二月山東按察使に、三十一年一月布政使に昇進せしが、父の喪に丁り辭職す、同年考察憲政大臣となり日

尚秉和 (Shang Ping—ho)

字 節之

直隸省行唐縣人

前清の進士にして知縣に歷任し吏部主事に任ぜられ、民國成立後內務部職方司僉事を命ぜらる、六年十二月現在同部土木司第一科長たり。

屈蟠 (Ch'ü P'an)

字 鈞侯

江蘇省常熟縣人

川省農業學堂監督及學務公所、習藝所、農事試驗場等に歷任す、民國成立するに及び湖北省實業司參事となり嗣て同副司長となりしが後又正司長に歷任せり、後教育總長湯化龍の推薦を蒙り政事堂記録に登れり。年齢四十餘。

尚秉和 (Shang Ping—ho)

字 節之

直隸省行唐縣人

前清中農工商部學習主事となり民國成立後農商部工商司第四科主事を命ぜらる、六年十二月現在國務院統計局僉事たり。

尚其亨 (Shang Chi—hêng)

字 會臣

現住上海

漢軍鑲藍旗人にして光緒十八年の進士なり、同二十四年十一月山東の道員より二十六年十二月山東按察使に、三十一年一月布政使に昇進せしが、父の喪に丁り辭職す、同年考察憲政大臣となり日

尚其亨 (Shang Chi—hêng)

漢軍鑲藍旗人にして光緒十八年の進士なり、同二十四年十一月山東の道員より二十六年十二月山東按察使に、三十一年一月布政使に昇進せしが、父の喪に丁り辭職す、同年考察憲政大臣となり日

本及び歐米を遊歴し、三十三年福建布政使に任ぜらる、宣統三年秋第一革命 遇ひ難を上海に避けたり、而して氏福建に在るや感情頗る邦人に洽密なりしといふ。年齢五十餘。

尙毓贊 (Shang Yi-tsan)

直隸省冀縣人

民國六年十二月現在黑龍江省陸軍第一師長たり。

尙鎮奎 (Shang Chên-k'uei)

字 連池

陝西省大荔縣人

前清中省の宏道高等學校に修業し後日本に留學して早稻田大學豫科、東京實科學校理化專修科に修學す、當時同盟會陝西分會を組織しその役員となり卒業歸國後革命主義を鼓吹せり。辛亥の歲陝省の軍事に盡力し嗣いで臨時省議會議員衆議院議員に選舉せらる。年齢四十三。

杭辛齋 (Hang Hsin-chi)

字 辛齋(名字同一) 浙江省海甯縣人

氏は光緒二十三年天津に國聞報を創刊せり蓋し北支那に於ける新聞の嚆矢なり、同二十六年以後北洋官報商報の要務に任じ嗣いで北京に中華日報、京華日報を創刊し筆禍を得て繫獄さるゝもの一

年なり、爾來新聞雜誌界に勢力を傾注す。

民國成立後乃ち國民協濟會幹事、浙江工會總理、國民公所主任、團體聯合會副會長に歴職し又漢民日報を發刊し民主主義を鼓吹す、嗣いで衆議院議員となり帝制發生後反對せし爲め復繫獄さるゝもの七ヶ月共和恢復後赦さるゝを得たり、蓋し報界の元老と謂ふべし。年齢四十八。

杭祖良 (Hang Tsu-liang)

江蘇省蘇州人

蘇州城内紗綬莊の主人にして前清中候補員外郎の官位を有し商業會議所議員、平糶局、施粥局董事、市公所議董、商團長等に歴任せり、又清末國會速開請願者の一人たり。民國成立後商團長より民團長となり各種公益事業に盡力し事を處す公平に民望あり、積極的進行策を採る。年齢六十三。

季雨霖 (Chi Yi-lin)

字 良軒 湖北省天門縣人

前清中湖北軍第三十一標の中尉たり、第一革命の時湖北西北招撫使となり功を以て湖北第八師長に擢進す、第二革命に失敗して日本に亡命し、民國二三年の間白狼匪河南に跳梁するや、歸來漢水の土匪を煽動し地方良民を苦め、自ら第三革命と稱せり、民國四年日支交渉起るや袁總統の幕下に馳せ總統府顧問となる、五年

二月又北京を脱し青島長沙より上海に來り四月漢口に革命運動を起せり七年一月十三日事を以て黎天才の命に依り斬殺せらる黎蓋し中央に對して獨立を宣言せるものなり。

季通 (Chi T'ung)

字 融五

江蘇省常熟縣人

前清の秀才にして上海神州法政學校を卒業す、前清中常熟の郷董となり第一革命後江蘇省議會議員となる。秀君剛復瞻量あり法律文學に秀て自ら一郷の聞人なり。年齢五十二。

武桓 (Wu Huan)

字 一亭

直隸省武清縣人

前清中保定師範學校を卒業し、民國元年直隸臨時省議會議員に擧げられ、同二年國民黨直隸支部交渉主任となる、第二革命當時上海に在り全國省議會聯合會に盡力す、南京失敗後吉林に逃れ民國四年十二月雲南獨立するに及び江浩と共に奉天に至り匪徒を糾合せり。

武樹勳 (Wu Shu-hsün)

字 佐臣

山東省登州人

宗世川 (Tzung Shih-ch'uan)

字 子田

吉林省磐石縣人

曾て吉林延吉廳商務分會長となり、民國四年八月帝制問題發生するや延吉縣國民會議々員に選ばる、氏は二十年前山東より間島に移住したる一農民に過ぎざりしが、今や燒酎釀造、豆粕製造、材木商を營み、使用人約百名に達せり、現に間島頭道溝に住せり。年齢四十。

故宗能述 (Tzung Neng-shu)

直隸省人

前清光緒中江蘇省に任官し、民國成立後蘇州臨時民政長に任ぜられ嗣いで吳縣知事となり馮上將軍の推薦に依り道尹の資格を得民國四年六月廣西道蒼梧道尹に任ぜられ同年八月病故せり。

宗鶴年 (Tsung Hao-nien)

字 子立

江蘇省江寧縣人

前清副榜出身にして曾て外務部司務廳司務たりしが民國成立後政務司商務科僉事に任ぜられ同四年八月中大夫を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

來玉林 (Lai Yi-lin)

字 醉樵

浙江省蕭山縣人

前清福建省知縣候補たり、該省釐茶稅務の要職に歴任し民國元年仙游縣署理知事に任ぜられ四年十月思明縣署理知事に轉じ七等嘉禾章、五等文虎章を給與せられ、嗣いて同縣知事に昇任せり、六年十二月現在思明縣知事並に署理永春縣知事たり。年齢四十餘。

來偉良 (Lai Wei-liang)

字 醉樵

浙江省紹興縣人

曾て浙江武備學堂を卒業す、民國五年四月浙江獨立前後第六師步兵第二十二團長たりしが六年十二月現在浙江第一師步兵第一旅長たり。

邱岱 (Chiu Tai)

江蘇省武進縣人

前清の舉人にして曾て軍諮府三角股班員となり民國成立後參謀本部三角課審査に任用せらる、六年十二月現在北京陸軍測量局副官たり。

なり。

邱冠棻 (Chiu Kuan-fen)

字 贊宣

江西省吉安縣人

前清中日本に留學し早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し、宣統二年法政學人を授けらる、嗣いて翌年知縣を以て陝西に派遣さる、民國元年江西理財局長、同二年財政司主計長に歴任し同年衆議院議員に擧げらる、第一次國會解散後は江西法政學校教員となり並に辯護士を開業せしが國會再開後入京し重ねて解散せられたり。年齢三十二。

阿旺根敦 (A-wan-ken-tun)

字 雲亭

西藏功布人

西藏人にして漢語漢文に通曉し西藏商務局翻譯員となり、又光緒三十四年駐藏大臣の奏請に依り北京に駐在し西藏學翻譯員に拜命せり、又民國二年衆議院西藏議員に選舉せらる。年齢五十九。

阿穆爾靈圭 (A-mu-erh-lin)

字 安甫

蒙古科爾沁左翼後旗人

民國三年五月參政院參政となり、六年九月臨時參議院議員となる六年十二月現在並に鎮遠旗漢軍都統たり。

卓康成 (Cho K'ang-ch'eng)

廣東省香山縣人

光緒二十二年布哇に赴き高等學校を卒業す同三十三年米國本土に航し「スタンフォード」大學に土木工を研究し宣統三年學士を以て卒業す、乃ち又「カーネル」大學に入學し民國元年土木工師の學位を得歸國す、同二年上海黃浦水利局副工師、同三年宜昌川漢鐵路副工師、同四年湖北大冶鐵礦擴充部長に歴任し並に中國工師會々員たり。年齢三十三。

卓鏞詩 (Cho Yung-shih)

廣東省香山縣人

嚴君冀堂商を業とす、初め南京金陵大學及び上海聖約翰大學に學び、宣統三年渡米「スタンフォード」大學經濟科に入り。民國四年卒業せり、嗣いて世界會副會長、西米留學生會々長、西米基督教留學生會副會長に歴任す、同四年歸國し上海青年會教育科書記となる。年齢二十六。

帕勒塔 (Pa-la-ta)

八 畫 [卓、帕、初、鄒]

なり。

邱冠棻 (Chiu Kuan-fen)

字 贊宣

江西省吉安縣人

前清中日本に留學し早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し、宣統二年法政學人を授けらる、嗣いて翌年知縣を以て陝西に派遣さる、民國元年江西理財局長、同二年財政司主計長に歴任し同年衆議院議員に擧げらる、第一次國會解散後は江西法政學校教員となり並に辯護士を開業せしが國會再開後入京し重ねて解散せられたり。年齢三十二。

阿旺根敦 (A-wan-ken-tun)

字 雲亭

西藏功布人

西藏人にして漢語漢文に通曉し西藏商務局翻譯員となり、又光緒三十四年駐藏大臣の奏請に依り北京に駐在し西藏學翻譯員に拜命せり、又民國二年衆議院西藏議員に選舉せらる。年齢五十九。

阿穆爾靈圭 (A-mu-erh-lin)

字 安甫

蒙古科爾沁左翼後旗人

氏は新疆蒙古土爾扈特郡王にして支那語に熟達し又日本語に通ぜり、光緒三十三年日本振武學校に留學し歸朝後京に入りて官に任ぜしが幾くならずして罷め去る。

民國成立後陸軍上將衛に補し阿爾泰辦事長官に拜命し赴任せしが民國四年入京待命す、又曾て共和翼贊の功を以て親王に進爵し勳一位に叙せられ、六年九月臨時參議院議員となる、並に襄威將軍を以て將軍府に列せり。年齢三十餘。

初兆聲 (Ch'u Chao-sheng)

字 鶴阜

吉林省人

前清中吉林簡易師範學堂を卒業し模範小學校長、女子師範學校長、吉林縣講演所長に歴任し並に吉林巡按使署顧問を兼ねたり。初君第一革命當時活きて亡國の慘を見んよりは寧ろ死せんと歎じ數日絶食せし頗る愛國者なり、又本邦の東省發展を憤り、常に日貨排斥、國貨維持の急先鋒となる、吉林由來排日家多し蓋し皆初君の黨なり。年齢三十九。

郚克莊 (Ping K'o-chuang)

字 敬如

奉天省盤山縣人

前清中郷勇を招募して地方の安寧を計り嗣いて奉天高等警察學校

に入り卒業後警察協會を創設し省議會議員に選ばる、民國二年衆議院議員に當選し第一次解散後は奉天民政署顧問に任じ兼て保衛團員講習所を經營せり、帝制問題發生後北馬南船同志を糾合せしが國會再開後又議員に復せしも嗣いで復解散せらる。年齢三十六。

松 毓 (Sung Yi)

字 秀濤

吉林省人

氏は滿洲旗人にして同族中最も新思想を有するものなり、初め吉林將軍富順の幕僚となり、嗣いで廣東に赴き兩廣總督岑春煊に採用せられしが久しからずして籍に回へり、それより營務所協理、武備學堂總辦、巡警局總辦、商務會總理に歷任し光緒三十四年各省に率先して自治會を創設し又公民日報を發行して大に民權の伸張に努めしが、之がために宣統元年東三省總督徐世昌より革職せらるゝに至れり、嗣いで復職の恩典に浴したるも復出で仕へず。辛亥の秋武漢革命の狼火を揚ぐるや遙かに孫中山に呼應せしが時の吉林巡撫孟恩遠の威嚇を受け、その主宰するところの省城各團體、聯合會等皆解散せり、民國成立後陰に國民黨吉林支部を置き新吉林報を發行せしが、亦袁政府の干渉を受け雄志遂に挫折し、意氣挽み家産傾き、復世事を論ぜざるなり。年齢四十七。

忠 芳 (Chung Fang)

字 硯香

正黃旗滿洲人

字 硯香

江蘇省儀徵縣人

前清の附貢生にして陸軍部主事となり民國成立するや陸軍部軍衡司科々員に任命せらる、六年十二月現在軍需司科員たり。

祁 耀川 (Chi Yao—ch'uan)

字 勁庵

廣東省東莞縣人

前清中會て法部主事となり民國成立後大理院推事に任ぜらる、六年十二月現在同院刑事第二庭推事たり。

前清の舉人にして日本に留學し警察學校を卒業す、歸國後八旗高等學堂監學官、八旗學務處提調、奉天警務學堂總教習、巡警道、署理僉事、高等警務學堂總辦、全省警務所々長、同省木稅局總辦各職に歷任せり。

民國成立後與京懷安縣各署理知事となり第一期知事試驗に合格し直隸禁烟善後局稽查員に任ぜらる、六年十二月現在直隸雄縣署理知事たり。

奴 錫章 (Su Hsi—chang)

字 繼先

浙江省紹興縣人

前清舉人にして會て直隸省宣化縣知縣となり日本に留學し法政學堂を卒業す、民國成立後同省天津縣知事に任ぜられ民國四年巡按使朱家寶の稱推するところとなり五等嘉禾章を給與せらる、六年十月直隸津海道尹に任ぜられたり。年齢四十九。

門 書紳 (Mên Shu—shên)

字 笏丞

山東省廣饒縣人

前清中軍諮府總務廳第四科員に拜命し民國成立後參謀本部第一局第四科員となる。六年十二月第二科員たり。

花 錫穀 (Hua Hsi—ku)

字 錫穀

九 畫

【胡。范。姚。俞。施。章。段。姜。侯。洪。奎。南。查。紀。苗。恒。柏。柯。英。禹。胃。春。郎。帥。洗。秋。柳。彥。計】

胡人杰 (Hu Jen—chieh)

字 石庵

湖北省天門縣人

前清の秀才にして湖北經學堂を卒業す、宣統三年漢口に大成印刷公司を開設し第一革命後は大漢報を出版せり、民國三年時の都督段芝貫の醜狀を掲載したる爲め軍法處に監禁せられたるが、四年八月王占元湖北將軍となるに及び釋放せられたり、嗣いて日本租界に移り、五年五月天聲報を發行し武漢官憲を痛刺せり。胡君人となり温厚舊同盟會員にして文筆に長じ武漢文壇に雄視せり。年齢三十八。

胡人鏡 (Hu Jen—ching)

湖北省沔陽縣人

前清中湖北省將弁學堂及軍營の教習兼督隊官たりしが、民國成立するや陸軍少佐となり黎副總統の副官を命ぜらる。

胡大崇 (Hu Ta—ch'ung)

字 慕姚

湖北省武昌縣人

前清の進士にして度支部主事及廣東清理財政副監理官に歷任す、民國成立後審計院第一廳第二股主任署理協審官に任ぜられ、民國四年六月署理審計官並に審計院文官甄別會委員を命ぜられ嗣で中大夫を授けらる、六年八月職務を免ぜられたり。

胡大猷 (Hu Ta—hsien)

字 子謨

福建省人

前清中福建武備學堂を卒業す、民國五年六月現在福建第六師第十九團長たり。

胡子明 (Hu Tzu—ming)

湖北省天門縣人

前清中候補知縣となる、民國二年第二期知事試験を免じ雲南に派遣せられ嗣いて福建に轉じ同四年尤溪知事浦城縣署理知事等に任ぜらる、六年十二月現在浦城縣知事に昇任す。

胡仁源 (Hu Jen—yuan)

字 次珊

浙江省吳興縣人

前清の舉人にして曾て日本に留學し仙臺高等學校に修學し當時頗る秀才の名あり嗣いて英國に航し「テールモ」大學を卒業し工學碩士の稱號を得歸朝後工學進士を授けらる、爾來京師大學堂教員、上海江南「ドック」副總理、北京工業專門學校主任教員に歷任す、宣統三年再び北京大學に入り豫科學長、工科學長より民國三年北京大學校長に昇任せしが六年正月辭職す、然るに教育部之を優待して官費を支出し米國に遊歴せしむ。氏家貲百萬、人となり都雅謙德あり、英語に精通し並に邦語に達せり。年齢約三十五。

胡元倓 (Hu Yuan—fan)

字 子靖

湖南省湘潭縣人

前清の優貢生にして北京明德大學、湖南明德中學校、明德小學校の創立者なり。氏は老革命黨員にして黃興、龍璋、譚延闓、龍絞瑞等皆郷友なり、又曾て日本に遊べり。年齢約六十。

胡以魯 (Hu I—lu)

字 仰曾

浙江省定海縣人

前清中日本に留學し初め日本大學法科を卒業し後東京帝國大學文

胡光璧 (Hu Kuang—pi)

字 諷洲

北京人

曾て北京大學師範館、北京農科大學を卒業す、民國三年吉林模範學校長より農業學校長に轉任す。年齢約四十。

胡汝麟 (Hu Ju—lin)

字 石青

河南省通許縣人

民國六年十二月全國菸酒公賣局總辦たり。

胡成立 (Hu Ch'êng—li)

字子信

貴州〇人

前清中米國に留學す、歸朝後候選知府を以て曾て直隸都督衙門統計局一等科員たり。年齡五十。

胡宏恩 (Hu Hung-ên)

字偉堂

安徽省懷寧縣人

前清中北京初級審判廳推事に任じ、民國成立後北京地方檢察廳書記官を拜命す、四年九月少大夫を授けられ嗣いで檢察官に昇任せり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

胡克 (Hu K'o)

字子美

南京人

初め南京同文書館及び上海「バーネット」高等學校に學び嗣いで上海中西書院教員となる、光緒二十五年米國に留學し西南學校に入り普通文科に修學す、同二十八年「バンダービルト」大學醫科に、二十九年「バーネット」大學醫科に入り同三十二年卒業し三十四年歸國す、即ち天津交涉司副司長に任じ、宣統元年南京高等學堂教員に、同三年臨淮關軍醫科長に歷任す。
民國元年安徽外交司長となり嗣いで上海交通部工業專門學校に轉ぜり。年齡四十。

胡宗虞 (Hu Tsung-yü)

字邵周

貴州省紫雲縣人

前清中大理院に奉職す、民國成立後司法部總務廳第一科主事となり、六年十二月現在山西省臨縣試署知事たり。

胡宗瀛 (Hu Tsung-ying)

字玉軒

安徽省休寧縣人

光緒二十二年第一期留學生として東游、宏文學院及東京農學校を卒業す、歸朝後農商工部僉事、吉林勸業道僉事、吉林農學校長、農事試驗場長、宣統三年鴨綠江材木公司理事、農商工部僉事に歷任す。
民國三年日本大正博覽會を開くや出品監督として東航し同會中國事務所長となる、四年農商部農林司僉事を以て東三省林務局長を兼ねたり。年齡四十七。

胡其炳 (Hu Chi-ping)

字燮卿

江西省九江縣人

初め獨逸に留學し神學を修め光緒十九年卒業歸國せり、爾來鎮江學校教員となり又九江にて宣道師となりしが、同三十一年米國に留學し「チャールレス」市學校に入る、即ち又神學普通文學を修め

三十四年卒業歸國せり、嗣いで九江南偉烈大學教員に任ず。年齡四十六。

胡昌鶴 (Hu Chang-hao)

字九泉

江西省九江縣人

光緒三十年九江同文大學を卒業し該校教員となり、又九江高等小學校教員、九江民立第一小學校長に歷任す、宣統三年米國中央「ウエスレヤン」校に留學し化學哲學を學び三年にして卒業せり。
民國三年又「デ、パウ」大學に化學、教育學を修め、同四年卒業するや、復約育大學に教育學を修め五年卒業せり、即ち「中國教育新制度」なる一書を著し博士の學位を得、歸國して九江同文大學理科主任教員となる。年齡三十四。

胡叔麒 (Hu Shu-ch'i)

字漢民

安徽省皖北人

曾て北洋武備學堂を卒業す、民國成立後湖南混成旅長たり、政黨に關係せず。年齡四十三四。

胡思義 (Hu Ssu-i)

字幼腴

江西省宜豐縣人

前清の附生にして安平廳同知、候選道、政事堂存記財政廳長、雲

南省南安州判、蒙自縣、通海縣知縣、護理臨安開廣道等に歷任す。
民國成立後財政部籌備議員、兼國稅廳總籌備處主任、安徽中華銀行監理官、安徽審計分處長、四年五月吉林官銀錢號兼東三省官銀錢號監理官、同年八月兩浙鹽運使、六年四月淮安關監督に歷任す。年齡三十九。

胡洛慶 (Hu Lo-ching)

字慶山

奉天省柳河縣人

現に柳河縣種子商務會長たり。

胡初泰 (Hu Jeng-fai)

字白屏

江蘇省寶山縣人

前清時代日本に留學し歸朝後民政部郎中並に資政院議員となる、民國成立して日本長崎駐在領事となり、民國六年七月交通部航政司長に任ぜらる。年齡四十一。

胡衍鴻 (Hu Yen-hung)

字漢民

廣東省番禺縣人
原籍浙江山陰縣

氏は胡漢民を以て世に知らる、前清中日本留學を命ぜられ法政大學に入る、當時東京に在り孫逸仙と交を訂し諸同志と共に同盟會を組織し並に民報を發行して革命主義を鼓吹せり、該報停刊を命

ぜらるゝに及び汪兆銘と共に新嘉坡に『新聞』を發行せり。
第一革命に及び廣東獨立するや臨時都督蔣尊簋の後を襲ひ廣東都督となる、民國元年南京臨時政府成立後大總統孫中山の聘に應じ辭職して總統府秘書長に任じ樞機に參畫せり、嗣いて南北統一するや孫氏に従ふて廣東に歸り再び廣東都督となりしが、第二革命の時日本に亡命せり、爾來日本、上海、南洋の間を往復し討袁を計畫し五年春間又上海に返へる、陳其美暗殺せらるゝの後同派の首領に推されたり。
由來孫氏の股肱にして胡瑛と共に孫黨兩胡の目あり、六年十二月現在智威將軍の名を以て將軍府に列せり。年齡三十餘。

胡俊采 (Hu Chin-tsai)

字 顛門

河南省潢川縣人

民國三年湖北省巴奈馬博覽會出品事務員となり北京より同省に出張を命ぜらる、嗣いて同年十二月湖北政務廳長に任ぜらる、六年十二月現在湖北水利分局長たり。

胡家祺 (Hu Chia-chi)

字 玉孫

直隸省天津人

前清の舉人にして袁世凱直督時代日本に派遣せられ宏文學院師範科を卒業せり、歸國後天津府中學堂監督となり、後嚴修の推薦に依り直隸初級師範學堂監督に任ぜられ、勤続十餘年に及び民國六

年九月直隸教育廳長に任ぜらる、前清中又天津議事會副會長、順直諮議局議員、資政院議員を兼ね、人となり平和にして教育に熱心なり。年齡四十八。

胡祖舜 (Hu Tzu-shun)

字 玉齋

湖北省嘉魚縣人

戊戌政變後志を立て革命の事に従ひ會て革命機關本部參議となり。
辛亥の歲武昌革命旗を翻へすや即ち鄂軍都督府參謀秘書及び交通事務管理となり、清軍南下の際民軍の輜重管帶に任ぜり、嗣いて南北統一するに及び副總統府參議、漢口警察部幫辦、漢口警察上局々長、中央稽勘局名譽審議員等に歴任し功を以て陸軍少將銜、四等嘉禾章を授けらる。

民國二年衆議院議員に當選し第二革命の際は退いて江漢の間に韜晦し帝制問題起るや同志を糾合し計畫するところあり、又武漢新報を創刊し共和主義を鼓吹せり、後未だ幾ならずして國會再蘇し議席に復せしも六年夏再び解散せらる。
氏前清中黎元洪の部下に屬し湖北陸軍第十一團長たり、政派は共和黨に屬せり。年齡三十三。

胡爲楷 (Hu Wei-k'ai)

字 型芝

四川省巴縣人

前清中法部主事を拜命し、民國に及び京師地方審判廳廳長兼推事に任ぜられ、民國四年九月少大夫を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

胡商彝 (Hu Shang-i)

字 珍府

雲南省石屏縣人

前清の進士にして直隸任邱、宣化、天津、成安、灤州各縣知縣、宣化府知府に歴任し到る處令聞あり、民國成立後天津に棲隱せしが同三年三月約法會議々員となり、四年六月籌備全國生計委員會委員、同年九月山東政務廳長に任じ嗣いて五年七月察哈爾興和道尹となる。年齡四十五。

胡章 (Hu Chang)

字 樂溥

廣東省城人

初め兩廣高等學堂、兩廣游學豫備科に學び光緒三十四年米國に留學し「ボンス」豫備學校に入る、宣統元年「カリホルニヤ」大學に入り機器工程學を修め、二年「ウイニカンシン」大學に化學工程を學ぶ、民國二年「アイオワ」大學に入り學士號を得、卒業し、二年歸國して廣東高等學堂教員に、三年廣東高等師範學堂數學教員兼宏興製革公司總理となる。年齡二十七。

胡惟賢 (Hu Wei-hsien)

九 畫 [胡]

前清中姜桂題の幕下に投じ多年軍務の要職に當り後試用知縣に進み第一革命の起るや武漢に派遣せられ功を以て陸軍歩兵上校を授

胡國棟 (Hu Kuo-tung)

字 再恩

四川省順慶縣人

前清の舉人にして法部小京官候補となる、民國成立するや京師地方檢察廳檢察官を拜命し民國四年九月上士を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

胡國洸 (Hu Kuo-kuang)

字 再恩

四川省順慶縣人

前清中拔貢より出で、浙江省大平縣知縣に進み、民國成立後平陽、餘姚、蕭山、嘉興、黃巖諸縣の署理知事に歴任し、嗣て四年江蘇省丹陽縣署理知事を拜命し、同年八月同省巡按使齊耀琳之れを推薦して實任知事たらしむ、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

胡爲和 (Hu Wei-ho)

字 再恩

貴州獨山縣人

前清中法部主事を拜命し、民國に及び京師地方審判廳廳長兼推事に任ぜられ、民國四年九月少大夫を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

字 仲孺

浙江省吳興縣人

上海中西書院を卒業し江西省の各縣知縣に歴任し、又駐奉鐵路提調、東三省總督秘書官、郵傳部路政司、駐獨公使館二等參贊たり、民國成立後新嘉坡總領事に任ぜらる。年齢四十八。

胡惟德 (Hu Wei-té)

字 馨吾

浙江省吳興縣人

初め上海廣方言館を卒業し光緒十四年舉人に合格す、同十五年駐英、駐佛公使の隨員となり、十九年駐露公使館參贊に任じて手腕を振ひ、三十年同公使に昇任す、三十三年歸朝外務部右丞、三十四年二月駐日公使となる、宣統二年三月海牙公斷院裁判員、四月歸朝外務部右侍郎、六月同左侍郎、三年九月署理外務大臣に昇任せり、並に稅務大臣幫辦を兼ね一等勳章を給せらる。

民國元年一月北京臨時政府の外交部首領、三月總長に署し稅務督辦を兼ね、六月大總統府外交顧問、十一月駐佛公使に任じ、二年二月勳二位を授けられ同四年中卿に叙せらる、胡氏在外多年能く海外の事情に精通し又共和成立に大功ありといふ。年齢五十一。

胡祥麟 (Hu Hsiang-lin)

字 子賢

廣東省順德縣人

前清の舉人にして曾て法部小京官に奉職し民國成立後司法部總務

廳第一科僉事に任ぜらる、民國四年七月少大夫を授けられ、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

胡翔林 (Hu Hsiang-lin)

字 海帆

安徽省泗縣人

光緒十七年の舉人なり、前清中廣西省勸業道に任ぜられ、民國四年四月江蘇財政廳長を拜命し、同年五月上大夫を授けられ、嗣て三等嘉禾章を給與せらる、六年十二月現在該職に在り。年齢五十六。

胡景伊 (Hu Ching-i)

字 文瀾

四川省巴縣人

光緒二十七年日本陸軍士官學校に留學し同三十年九月步兵科を卒業す、歸朝後四川武備學堂長兼教官、雲南兵備處總辦、廣西陸軍協統等に歴任せり。
第一革命の時四川軍團長となり民國成立後重慶鎮撫府總長となる同府撤廢さるや元年七月護理四川都督に任じ二年六月都督に實補さる、三年六月成武將軍督理四川軍務に任じ、四年六月上京入覲し毅武將軍を以て將軍府に列し並に參政院參政に任ぜらる。
氏謹嚴なる君子人にして曾て廣西巡撫沈秉堃、四川都督尹昌衡の推重するところたりといふ。年齢四十。

胡鄂公 (Hu Ê-kung)

字 新三

湖北省江陵縣人

幼にして豪邁不羈風に革命の志を懷き全國を遊歴せり、第一革命の當時鄂軍水陸軍の指揮を執り親しく清軍の銳に當れり、嗣いて黎元洪の命を以て燕趙に赴き北方革命協會を成立し並に北方總司令となる。

民國元年荆州旗民善後督辦に任じ同二年衆議院議員に擧げられしが初次國會解散後は北京法政專門學校々長、總統府諮議、四川將軍署秘書等の要職に歴任し、帝制問題發生後は陳四川將軍と提挈して同省の獨立を宣布せり、六年十二月現在廣東潮循道尹たり。
氏又古文辭を能くし農藝に精しく五十家論文書牘一卷、古文詞粹八卷、原農、原林各一卷を著せり。年齢三十三。

胡棟朝 (Hu Tung-ch'ao)

字 振廷

江蘇省上海人

廣東に生る、初め香港皇仁書院、北洋大學を卒業し香港ドックの製圖員となる、光緒二十六年官費を以て米國「カリホルニヤ」大學に入り土木工學を學び、同二十九年「カーネル」大學に轉じ三十一年卒業し土木工學師、碩士の學位を得、三十三年歸國せり、即ち成都川漢鐵路工學師、宣統元年蘇浙閩粵四省鐵路監理官、同二年上海南洋公學教務長に歴任し、民國三年南京甯湘鐵路工學部部長に任

ぜり。年齢四十五。

胡詒穀 (Hu I-ku)

浙江省慈谿縣人

初め上海聖約翰大學に學び嗣いて同校圖書館管理及び文案、上海南洋公學英文教員等に任じ英漢字典を著せり、光緒三十二年官費を以て米國に留學す、初め「カリホルニヤ」大學に法律、政治學を學び後「シカゴ」大學に轉じ法律を修め同三十四年卒業せり、宣統元年歸國し郵傳部法律顧問、京師大學堂法科教員となる。
民國元年上海南洋公學教務長に、同二年大理院推事に歴任し、曾て三等嘉禾章を給せらる、六年十二月現在大理院民事第二庭推事たり。年齢四十一。

胡朝宗 (Hu Ch'ao-tsung)

字 改菴

湖北省武昌人

前清中兩湖書院を卒業す、辛亥の役黎元洪氏の幕に入り武昌都督府參議、秘書官となり、民國元年九月湖北外交司長に任ぜらる。資性濃厚、共和黨に隸屬す。年齢三十六。

胡鈞 (Hu Chün)

字 千之

湖北省沔陽縣人

清末山西大學監督となる、嗣いで候補知府となり湖北に來りて民聲日報を經營す、民國成立後黎元洪氏の推薦に依り總統府秘書となり、三年五月參政院參政となる、六年九月臨時參議院議員に擧げらる。

胡瑞中 (Hu Jui-chung)

湖北省鄂城縣人

舉人出身にして前清中内閣中書を拜命し、民國三年陝西省潼關縣委任知事、翌年七月邵陽縣知事に任ぜられ七等嘉禾章を給せらる。

胡瑞霖 (Hu Jui-lin)

湖北省人

第一革命の時武昌軍政府の實業司長となり、二年十二月署理湖南内務司長兼財政司長に任じ三年五月解職上京す、嗣いで六月湖南湘江道尹となりしが同年十二月湖南銀行事件を以て解職せらる、項城帝制聲中湖南將軍湯薊銘より湖南代表として上京を命ぜられ討論して一致君憲を議決し後又勸進代表となる、五年七月福建省長に進みしが六年七月病を以て辭職せり。

胡瑞棟 (Hu Jui-tung)

江蘇省人

論を勃興せしめ潜かに事を擧げんとせしなり、嗣いで安慶に敗れ中國同盟會の成立するに及び中國北部支部長となる、光緒二十九年萍鄉(江西)醴陵(湖南)の擧義又敗れ同志多く捕はれ、胡君獨り遁がれて漢口に潜みしが翌年遂に捕はれて武昌の獄に投ぜらる、然るに獄中に在りて猶ほ同志と氣脈を通じ漢口にて大江報、夏報を發行し嗣いで第一革命に及べり。

辛亥の秋十月武昌義旗を翻へすや即ち出獄して武昌都督府外交部長に推され、上海に於ける南北議和會議の參議となり、南京臨時政府より山東都督に命ぜられしが同省軍民の心をせず、辭して北京に至り新疆青海墾屯使に任命せられたるも赴任せざりき。胡氏當年前廣東都督胡漢民と共に黃興の股肱と稱せられ、同黨の間に重きを爲せり。年齢三十三。

胡嗣瑗 (Hu Szu-yuan)

貴州省貴陽縣人

前清中翰林院編修より出で、候補道を以て天津北洋法政學堂總辦に任ず、第一革命後野に下りしが馮國璋氏江蘇督軍となるに及び入りて幕僚となり、四年三月金陵道尹、將軍府諮議廳長に歴任し馮氏の樞機に參畫す、嗣いで五年一月辭職せり。氏は由來宗社黨の一人にして鄭孝胥、姚文藻、沈曾植等と通謀し清室再興を企て六年七月復辟の際には内閣々丞となる學識德望あり民國四五年間袁氏の帝制に極力反對せり。年齢四十九。

稍々英語を解す、曾て吉林省理春電報局長たり。年齢四十一。

胡源滙 (Ho Yuan-hui)

直隸省永年縣人

前清中日本に留學を命ぜられ早稻田大學政治經濟科を卒業し歸朝後北洋法政學校々々長、北京法政專門學校教員、直隸省臨時省議會議長、全國平民生計籌備委員等に歴職す。

民國二年衆議院議員に選舉せられ共和黨に屬せり初次解散後は復育英事業に従ふ六年十二月現在財政部印刷局長たり。年齢四十一。

胡煥 (Hu Huan)

浙江省杭縣人

舉人にして前清中四品京堂たり、浙江興業銀行の大株主にして杭縣實業界に勢力あり。年齢五十七。

胡瑛 (Hu Ying)

湖南省桃源縣人

少にして長沙經正學堂(黃興の設立せる私塾)に修業し後湖北陸軍學堂に入る、當時革命思想を鼓吹され秘密結社同仇會に加盟し嗣いで日本に留學し傍ら黨勢擴張に力めたり、當時文部省に於て留學生取締規則を發布するや諸生を煽動し歸國せしむ、蓋し對日議

胡鳳藻 (Hu Fêng-tso)

安徽省秋浦縣人

前清中奉天安東縣地方檢察廳錄事たりしが民國成立後北京地方審判廳書記官に任用せらる、六年十二月現在江蘇省江寧地方檢察廳署理書記官たり。

胡鳳夔 (Hu Fêng-k'uei)

江蘇省寶應縣人

前清中拔貢となり度支部主事、軍餉司に奉職し民國成立後財政部賦稅司主事僉事上行走となれり、六年十二月現在仍該職に在り。

胡漢民 (Hu Han-min)

胡衍鴻の部參照。

胡壽暉 (Hu Shou-ping)

湖南省寶慶縣人

氏幼より陽明學を修め知行同一の旨を得るといふ、前清中本省の各學校に教鞭を執り又故蔡鐸等の聘に應じ廣西に赴き陸軍學堂の教官となる。

民國元年臨時省議會議員となり又同二年衆議院議員に當選せり又其子晁曾て日本に留學し海軍を研究せり。年齢四十九。

胡銘盤 (Hu Ming—p'an)

字 日新

浙江省烏程縣人

前清中北京國子監(舊制大學)を卒業し廣東に派遣せられ兩廣總督岑春煊の幕僚となり、嗣いで廣西勸業道となる、第一革命の際浙江財政司長に推されたり。

胡氏人となり都雅、由來その官遊するや岑氏の後援に依るもの多し、又曾て日本歐米に遊び財政を研究せり。年齢四十五。

胡慶培 (Hu Ching—pei)

安徽省太平縣人

監生出身にして前清中度支部郎中に任じ、民國成立後中國銀行南昌分行經理兼江西民國銀行監督官となる。

胡慶格 (Hu Ching—ko)

原名 慶格

順天大興縣人

前清中軍諮府第五廳第一科員たりしが、民國成立後參謀本部第二局第四科員に任用せらる、六年十二月現在該部第一局第四科々員たり。

胡潤德 (Hu Jun—tê)

現住南京北浮橋

布哇に生る、光緒三十五年米國に内渡し「バーネット」大學醫科に入り宣統二年美利堅醫學校に入る、民國元年卒業醫學士となり四年歸國す、嗣いで南京高等師範學校及び金陵大學の校醫となり兼ねて寧湘鐵路醫官に任ず。年齢二十九。

胡毅生 (北京音 Hu I—shêng) (廣東音 Wu Hgai—sang)

廣東省番禺縣人

前清中日本に留學し法政大學に修業せり、歸國後曾て陸軍小學堂教習となり、第一革命の時廣東都督府海軍司令長となる、後第二革命に敗れ日本に亡命せしが民國五年春歸國せり、氏は胡漢民の弟なり。年齢三十九。

胡賢燿 (Hu Hsien—yao)

湖北省江陵縣人

前清の舉人にして度支部に奉職し、民國成立後財政部清查官産處第二股主任に任ぜらる。

胡熹江 (Hu Hsi—chiang)

江蘇省上元縣人

前清の廣西知縣にして又清鄉審案各職に歷任せり、民國二年廣東鎮撫副使參謀及廣惠鎮守使參謀長となり同三年萬寧縣署理知事となれり。

胡憲生 (Hu Hsien—shêng)

江蘇省無錫縣人

光緒中東吳大學、南洋公學、京師譯學館に修學し、宣統二年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學森林科に入り、民國三年卒業、五年碩士の學位を得、此年八月歸朝せり。年齢二十七。

胡懌 (Hu I)

江西省人

明治四十二年早稻田大學を卒業し、第一革命の時江西交通司長となる、同盟會員なり。年齢四十。

胡錫璋 (Hu Hsi—chang)

字 天然

四川省簡陽縣人

光緒三十一年日本に留學し明治大學專門部法律科を卒業す並に邦語に通ぜり、第一革命前四川法政學堂教員となり、後四川大學を

創立し校長となる。又大同黨々長たり、蓋し該黨は緩和なる社會主義なるが同省猶他に社會主義を唱道する者少なからざるなり。

胡駿 (Hu Chin)

字 葆森

四川省廣安縣人

前清中翰林院編修に任ぜられ嗣いで資政院議員たりしが民國成立後政事堂禮制館第五類編纂に任用せらる、六年十二月現在四川東川道尹たり。

胡鴻猷 (Hu Hung—yu)

字 徵若

江蘇省無錫縣人

前清中上海南洋公學に學び嗣いで光緒三十四年官費を以て米國に留學し「ベンシルバニヤ」大學に財政、商業學を修め宣統元年卒業す、同三年又獨逸に留學せしが民國元年歸國し上海工業專門學校教員、南京江蘇銀行經理、同三年無錫江蘇銀行經理に歷任し六年十二月現在交通部路政司稽核科署僉事たり。年齢三十。

胡龍驤 (Hu Lung—hsiang)

字 百城

湖北省黃陂縣人

北京陸軍大學を卒業し官陸軍少將に至る、曾て教練所總辦、陸軍學堂總辦、車站司令官に歷任し、嗣いで豫備陸軍大學校長に任ぜ

る、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十五。

胡襄 (Hu Hsiang)

字 湛枝

江西省新建縣人

前清中北京譯學館を卒業す、民國成立後外交部に入り、主事より僉事に昇任し、嗣いて駐墨西哥公使館三等秘書官に任ぜられしが後鎮南浦副領事に轉任せり。年齢三十。

胡薰 (Hu Hsin)

江西省南昌人

曾て日本に留學し明治四十四年中央大學を卒業せり歸國後直ちに第一革命に遭ひ江西交涉司長に任ぜらる、革命黨員にして舊同盟會員たり。年齢三十五。

胡璧城 (Hu Pi-ch'êng)

字 夔文

安徽省涇縣人

前清の舉人にして嗣て北京大學を卒業し商部に奉職せり、其後安徽學務公所秘書科員、普通科副科長、安慶府中學堂監督安徽公學監督、諮議局秘書長等に歴任す、又改革の際安徽臨時省議會議長に充てられしが民國成立後北京臨時參議院議員となり、二年十月袁氏議院を解散するの後政事會議秘書、同會秘書長代理、約法會議

員、審計院協審官等に轉じ、民國四年八月上士を授けらる、嗣いで審計院協審官となりたり。年齢四十七。

胡曜 (Hu Yao)

字 良翰

湖南省寧鄉縣人

廩貢生にして前清中法津學堂を卒業し嗣いて湖南高等審判廳長を拜命す。

民國六年四月貴州高等檢察廳檢察長に任ぜらる。

胡贊采 (Hu Tsan-tsai)

字 雲谷

河南省潢川縣人

前清中直隸省樂亭縣知事となり嗣いて京師地方審判廳民科推事に陞進し、民國成立後湖北省黃梅縣知事を委任せられ嗣いて第一期知事試験に合格し六年四月遂に本任となれり。

胡繼賢 (Hu Chi-hsien)

字 志道

廣東省廣州人

曾て廣州育材書社、嶺南學校に學ぶ、宣統二年官費を以て米國に留學し「ミシガン」大學に入り政治學を修め、民國三年學士となり、又「コロンビヤ」大學に入りしが、民國四年歸國せり、嗣いて廣州嶺南學校經濟學及び英文教員となる。年齢二十六。

胡韞玉 (Hu Yin-yii)

字 樸安

安徽省涇縣人

前清の附生にして民國成立後上海中國公學教員、福建巡按使公署教育科長、及編輯部主任、福建省立圖書館長に歴任し五年十一月現在交通部署理秘書となる。年齢四十。

范之杰 (Fan Chih-chieh)

字 俊丞

山東省歷城縣人

民國四年三月江西署理高等檢察長に任ぜられ、六年十二月現在仍ほ勸業せり。

范可宗 (Fan K'o-tsung)

字 重三

奉天省開原縣人

少にして私學に通學しその狡猾の性は同學の嫌棄するところたり、年十七鐵嶺に來り商業を營み漸次勢力を得宣統二年鐵嶺工務會長に推されたり。

民國三年十月同會が鐵嶺商務會に併せらるゝや復同會の商事公斷所長に任じ一面同地質商公益當の支配人たり。年齢五十一。

范先和 (Fan Hsien-ho)

九 畫 [胡、范]

字 貴三

大連管内革鎮堡人

二十四歳の時大連政記公司に入り其の手腕を認められ二十九歳の時擧げられて政記公司安東支店主任となり爾來其の職にあり。年齢三十五。

范治煥 (Fan Chih-huan)

字 秉鈞

湖南省長沙縣人

民國六年十二月現在財政部泉幣司長たり。

范其光 (Fan Chi-kuang)

字 賓臣

江蘇省江寧縣人

前清中北京同文館を卒業し嗣いて露都に留學し同地師範學校及び鐵道學校を卒業せり。

歸來吉長、開徐鐵道の技師、津浦京張鐵道の調査員、蒙藏院僉事、庫倫辦事大臣秘書長に歴任し中大夫に叙せらる、五年五月黑龍江省交渉員に任ぜられ以て今日に至れり。年齢三十六。

范厚澤 (Fang Hou-tse)

字 漢生

安徽省黟縣人

初め湖北自強學堂に遊び後日本高等學堂に學ぶ歸國後奉天學務公

所編輯長、延吉邊務公署諮議官兼外交科一等繙譯官、及び吉林交涉司東文正繙譯官に歴任し又安徽籌辦處理事長となり、次で湖北に赴き黎元洪の外交顧問に聘せらる、後再び吉林に赴き交涉署顧問及び同省政治討論會調査員、巡按使公署調査員を経て現に外交部吉林交涉署顧問兼日秘書の職にあり。年齢三十六。

范書田 (Fan Shu-t'ien)

字 雲經

山東省陽穀縣人

前清中身を卒伍に起し曾て北洋准軍巡防管帶、親軍水師統帶、淮軍左路幫統等に歴任す。

第一革命後天津鎮臺に進み民國二年六月陸軍中將に補し直隸准軍右路統領より十月署理薊榆鎮守使に任ぜらる、六年十二月現在將軍府參軍たり。年齢五十餘。

范國璋 (Fan Kuo-chang)

字 子瑜

直隸省天津縣人

前清中身を卒伍に起し爾來功を軍旅に樹て遂に陸軍少將第二十師歩兵第四十旅々長に任ぜられしが民國四年九月前師長吳氏の後を襲ぎ陸軍中將第二十師々長に昇進し、以て今日に至る。年齢四十餘。

范燭泰 (Fan Ch'ung-t'ai)

字 績三

浙江省杭縣人

前清の附貢生にして曾て北京内城巡警總廳五品警官に拜命し民國成立後北京警察廳行政處第二科員警佐に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

范雲梯 (Fan Yin-ti)

字 靜生

湖南省湘陰縣人

前清の拔貢にして曾て龍州邊防に入つて就職し縣官に推薦せられ廣東省知縣に歴任せり、民國元年廣西將軍陸榮廷より潯州知府に推薦せられ嗣いで南寧知府、同二年四月粵南觀察使となり三年六月解職せらる。

范源濂 (Fan Yuan-lien)

字 鶴侶

陝西省郃陽縣人

光緒二十四年中湖南時務學堂に學び嗣いで日本に遊び東京高等師範學校に入り宏文學院速成師範科、法政大學速成法政科の通譯を擔任せり、歸朝後支那の教育界に貢獻するところ多し。民國元年四月教育次長となり同七月蔡教育總長(現北京大學校長)の後任となり民國二年一月辭職せしが第三革命後又入つて教育總長となり六年五六月の間各總長辭職の際留任せるもの氏只一人のみ嗣いで十一月又辭職す。年齢約四十六。

范殿棟 (Fan Tien-tung)

字 雲卿

吉林省榆樹縣人

前清の附貢生にして本邑の自治を處理し又縣議事會議長に擧げられ民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢五十一。

范壽銘 (Fan Shou-ming)

字 紀陔

湖北省黃陂縣人

前清の舉人にして河南省内黃縣知縣となり民國三年六月同省河道尹に昇り民國四年五月四等嘉禾章を給與せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

范緒良 (Fan Hsi-liang)

字 明甫

江蘇省江寧縣人

前清中務部主事候補に擧げられ民國成立後外交部政務司禁令科長に任ぜられ民國四年八月中大夫を授けられたり、六年十二月現在仍ほ該職に在り、並に俄文專修館校長を兼ねぬ。

范熙績 (Fan Hsi-chi)

字 耀文

浙江省杭縣人

范樵 (Fan Ch'iao)

字 仰喬

陝西省郃陽縣人

氏既に舊學を極め又新學を修む。民國二年衆議院議員に選ばれ爾來二次の解散に遭へり。年齢三十四。

范賢方 (Fan Hsien-fang)

字 仰喬

浙江省鄞縣人

前清中日本に留學し法政講習所を卒業す、歸來革命を鼓吹す。第一革命後浙江都督蔣氏の知を得同省提政使署理に擢任せられしが、民國二年第二革命の時辭職復日本に遊び法政補習班に入學し四年九月卒業歸朝せり、當時袁氏帝制說盛んなりしが極力之に反對し第三革命の時浙江獨立を助け五年六月浙江高等審判廳に奉職し嗣いで辭職せり。年齢三十九。

范耀雯 (Fan Yao-wên)

字 耀文

浙江省杭縣人

前清の舉人にして曾て本縣の教育科長に任じ教育家として地方に知らるといふ。年齡五十九。

姚大榮 (Yao Ta-yung)

字 儷桓

貴州省安順縣人

前清の進士にして大理院刑科第四庭推事となり民國成立後平政院第三廳書記官に任ぜられ民國四年八月中大夫を授けらる、六年十二月現在平政院文牘科書記官たり。

姚文柁 (Yao Wen-nan)

字 子讓

江蘇省上海縣人

前清の舉人にして知縣に補せられ曾て上海全縣學務公會長、勸學所總董、江蘇諮議局議員、財政審查長等に歴任す。民國元年同省臨時省議會議員、上海市議會議長、同二年衆議院議員に擧げられ第一回解散後は南旋して上海志續修主纂員に推さる。

姚文藻 (Yao Wen-tso)

字 賦秋

江蘇省蘇州人

李鴻章存命中袁世凱、鄭孝胥と盛名を齊ふせり、日清戰役以前北洋水師提督丁汝昌の幕僚たり、又仁川總領事たりしが、當時駐韓公使袁世凱と議合はず挂冠して家居せり、嗣いで大東汽船會社の

創立、字林滬報の經營皆その力を盡せり。

第一革命後は上海に隠れ復官を謀らず、清室の中興を念とし鄭孝胥、李瑞清、沈曾植、瞿鴻機、康有爲等と共に復辟派の中堅たり、又馮國璋(今の民國大總統)升允等と連絡し青島の恭親王と通謀し、袁の死後學義を謀りしが、六年七月張勳一敗地に塗れ、中興の業復問ふべからず、氏は從來其事業上邦人と關係深く又能く日本を了解せる一人なりといふ、現に上海に在り。年齡六十三。

姚永樸 (Yao Yung-po)

字 仲實

安徽省桐城縣人

姚氏は清の桐城派の學祖姚惜抱先生の子孫にして世々家學を傳へて氏に至る、寔に現代の碩學たり、前清中舉人に第し曾て山東高等學堂、安徽高等學堂、京師法政專門學校の國文教員に歴任し宣統二年一月京師大學堂(北京大學の前身)經學科教授に任ず、爾來該校に教鞭を執りしが民國六年三月辭職歸郷せり。

姚氏二子あり皆日本早稻田大學に學し當時秀才の名あり、後北京法政專門學校教員となりしが民國三四年の間共に先ち病故す、茲に於て姚氏膝下只幼孫あるのみ。年齡七十。

姚宇新 (Yao Yu-hsin)

貴州省普定縣人

前清國子監卒業生にして奉天度支部主事となり民國成立後内務部

警政司第五科主事及禁烟督察處審查兼評議員に任命せらる。

姚任支 (Yao Jen-eh)

字 仲伊

安徽省阜陽縣人

前清中陸軍豫備大學を卒業し陸軍第二鎮二等參謀、河南混成協參謀等に任ぜらる、第一革命の當時之に響應せんとして成らず南京に奔りて參謀部第三局科長兼安徽軍事顧問となれり、民國元年參謀本部第四局長に任ぜらる、六年十二月現在第三局長たり。年齡三十九。

姚守先 (Yao Shou-hsien)

字 警宏

陝西省西鄉縣人

曾て地方の教育を提倡し前清中小學校を創立するもの七十餘校に及び又中學校學監、國文教員等に任ぜり、民國成立後衆議院議員に擧げられ爾來屢次解散せらる。年齡四十七。

姚廷楓 (Yao Ting-feng)

字 瘖臣

奉天省開原縣人

曾て西豐縣師範學堂を卒業す、現に掏鹿に在り資産豊にして宣統二年西豐縣高等小學校長に任ぜり、民國二年同縣勸學所查學員、三年教育會長に推され兼ねて農務會長たり。年齡三十三。

姚志强 (Yao Chih-chiang)

字 勇忱

浙江省吳興縣人

前清中杭州蠶桑學堂に修學し又姚永元と共に日本に來り蠶業を視察せり、歸國後河南蠶桑學堂の教師となり暗に革命志想を鼓吹せしが、辛亥の革命起るや南旋して革業に參畫し、同盟會駐滬機關部正部長に任ぜり。年齡三十九。

姚佐寅 (Yao Tso-yin)

安徽省桐城縣人

前清中國子監を卒業し直隸省昌平に知州たりしが民國四年同省文安縣知事に任ぜられ、六年十二月現在仍ほ勤續せり。

姚雨平 (Yao Yu-ping)

廣東省梅縣人

曾て日本に留學す夙に革命の志を抱き第一革命の時廣東軍を率ゐ南京に應接し、第四軍々團長たりしが、民國元年五月事平らぐの後該軍を解散せり。

民國二年七月第二革命に敗れ日本に亡命せしが後志を翻して袁總統に葵向し入京して軍事參議に任ぜらる、然るに其妾姚君を怒り其亂黨と通謀せるを密告せしかば、獄に囚はれしも幾くならずし

て放たる。民國四年十二月雲南起義の後南旋して復討袁軍を起せり。年齢三十九。

姚受唐 (Yao Shou-t'ang)

字 畏塵

奉天省遼陽縣人

明治四十三年五月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業し官陸軍大佐を以て陸軍部軍學司科員たりしが、六年十二月現在同部軍務司軍事科長たり。年齢三十二。

姚建屏 (Yao Chien-ping)

安徽省毫縣人

從來鹽運緝私隊長たりしが曩に新軍の際李將軍(厚基)の知遇を承け福建第一旅長に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り、姚君體格雄偉にして膽力なく機略に缺く、李氏を以て護身符となすのみ。

姚春魁 (Yao Ch'un-k'uei)

安徽省合肥縣人

前清中江蘇省江靖軍文案、稽查發審處、安徽正陽、江蘇清江分銷鹽局等に歴任せしが喪に丁り歸郷し嗣いで雲南維西通判、中甸同知、麗江府知府に漸次昇任せり。

民國成立するや平彝縣知事瓊崖道尹に就職し、民國四年八月廣東巡按使李國筠の上申に依り政事堂記録に登れり。

姚桐豫 (Yao T'ung-yü)

字 吾剛

浙江省臨海縣人

前清中郷試に及第し舉人となり又日本に留學し法政大學を卒業す歸朝後廣西巡撫秘書、桂林地方審判廳々長、廣東審判準備處々長に歴任せり。

民國元年浙江都督府秘書長兼法制局々長となり、嗣いで同二年衆議院議員に選舉せられしが初次解散後は京師高等審判廳檢察官に奉職し同五年國會復活するに及び又議席に就けり。年齢四十九。

姚晉圻 (Yao Chin-chi)

湖北省羅田縣人

光緒十八年の進士にして翰林院編修を授けらる、宣統末年湖北諮議局副議長たりしが、民國成立後同省教育司長に推されしも辭退せり。年齢六十五。

姚國楨 (Yao Kuo-chên)

字 幼枝

安徽省貴池縣人

前清の舉人にして曾て郵傳部に學習郎中となり民國成立後交通部

姚震 (Yao Chên)

字 次之

安徽省貴池縣人

前清中日本早稻田大學を卒業す歸國後法政科舉人を授けられ法部員外郎を以て大理院(日本の大審院に相當す)五品推事(判事)に任ぜらる。

民國成立後仍ほ前官に在り嗣いで民事第一庭々長に昇進し六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十三。

姚聯奎 (Yao Lien-k'uei)

字 星五

安徽省桐城縣人

民國四年十一月直隸大名道尹となり、現に仍ほ勤續せり。

姚錫光 (Yao Hsi-kuang)

字 石泉

江蘇省丹徒縣人

前清戊戌の舉人にして張之洞湖廣總督時代其の陸軍學堂の監督となり、後道員候補に推奏せらる、其後日本に游學し歸國後宣統二年陸軍部侍郎に任ぜられ、革命當時は廣東軍隊を指揮せり。

民國元年に至り該軍解散さるゝや蒙藏局を管理し嗣いで辭職後蒙古宣撫使、參政院參政等に歴任せり。年齢四十九。

僉事、總務廳文書科長兼統計委員會副會長に任ぜらる、六年七月交通部參事に拜命し郵政總局々長を兼任せり。

姚詒慶 (Yao I-ch'ing)

字 翼堂

浙江省餘杭縣人

前清の舉人にして度支部の主事となり民國成立後財政部賦稅司署理司長に任ぜらる、六年十二月現在戰時財政金融審議會專任審議員參事上行走たり。

姚華 (Yao Hua)

字 重光

貴州省息烽縣人

前清中郵傳部船政司主事となり民國成立後北京女子師範學校長に任ぜられ、並に參議院議員たり、六年九月臨時參議院議員となる。年齢四十二。

姚煜 (Yao Yü)

浙江省海寧縣人

北京國子監の卒業生にして獻金して奉天候補知縣となり、光緒三十三年蓋平縣署理知縣に任ず、宣統二年復捐昇して候補道となり民國元年營口交通銀行總辦に任命せらる。年齢五十。

姚翰卿 (Yao Han—ch'ing)

字介忱

黑龍江省青江縣人

清末地方實業、教育に心を注ぎ本省の開墾事業を處理し學校を設立し吉林双縣の輕便鐵道を布設し電話電燈を創設したり、民國二年に至り地方の輿望を負ひ遂に參議院議員に選舉せられたり。年齢四十。

姚鍾琳 (Yao Chung—lin)

字仲瑜

直隸省天津人

初め北洋大學に學び官費を以て米國に留學し「ペンシルバニヤ」大學商科に入る、宣統三年博士の學位を得歸國す、即ち直隸交涉司書記となりしが民國二年中法實業銀行書記に轉ず、現に北京に住す。年齢二十九。

姚鴻法 (Yao Hung—fa)

江蘇省丹徒縣人

前清山西省新式陸軍混成協統領に任ぜられ民國成立後陸海軍大元帥統率辦事處軍事參議となる。

姚寶來 (Yao Pao—lai)

字琴詒

浙江省錢塘縣人

曾て上海同文館を卒業す光緒三十四年唐紹儀に隨ふて渡米し歸りて主事に推薦せらる、後復唐氏英國に赴くや英文翻譯官を以て隨行し歸來員外郎に補せられ、郵傳部に奉職し鐵路總局通譯科長を兼ね、宣統三年第一革命の時南北議和大臣唐紹儀に隨ふて上海に赴くや民軍の抑留するところとなる、嗣いで南北講和し共和宣布後唐氏に隨ふて入京し印鑄局長に任ぜらる。年齢三十九。

俞迪新 (Yü Ti—hsin)

字午山

安徽省婺源縣人

前清中國子監を卒業し北京外城巡警總廳八品警官に任用せられ、民國成立後北京警察廳衛生處第三科員警佐に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

俞承霖 (Yü Ch'êng—lin)

字沛泉

浙江省紹興縣人

前清中郵傳部九品錄事に奉職し民國成立後交通部路政司總務科主事に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

俞明頤 (Yü Ming—i)

安徽省桐城縣人

前清中日本に留學し曾て軍諮府第五廳長となり民國成立後軍事處參議官に任ぜらる。

姚觀順 (Yao Kuan—shun)

廣東省香山縣人

曾て米國に留學し光緒三十三年「グラスベリー」高等學校に入る、宣統三年「カリホルニヤ」大學工科に入り、民國三年法孟州兵學校に轉じ同州騎兵團將校に任ぜらる。民國三年歸國し、四年上海麥倫書院教員、廣東水利局副工程師に任ぜり。年齢二十五。

俞人鳳 (Yü Jen—feng)

字翹梧

直隸省天津縣人

前清中北洋武備學堂鐵路科を卒業し京奉鐵道、京張鐵道工事に從事す、嗣いで粵漢線副技師長、張綏正技師に歷任せり。民國元年路政司科長技正、京張、張綏車務總管、民國四年七月京漢鐵道局長に昇任、六年六月三等文虎章給與、八月交通部技正に歷任す、兼て鐵路管理學校長たり。年齢四十五。

俞文鼎 (Yü Wên—ting)

浙江省紹興縣人

前清中曾て奉天省東邊道尹となり安東に館せり、六年九月湖南實業廳長となる。年齢四十七。

俞紀琦 (Yü Chi—chi)

字仲韓

浙江省紹興縣人

前清の國子監卒業生にして宣統年間直隸高等審判廳々丞に任ぜられ民國三年九月江蘇省政務廳長に任用せられ五年一月江蘇省金陵道に轉じ今日に及べり。年齢四十三。

俞泰初 (Yü Tai—ch'u)

字彙占

浙江省人

前清の秀才にして直隸保安の知州に任ぜられ知府に昇任す、後直督楊士驤其能を認め候補道に推薦す、陳夔龍繼任するに及び復擢んで直隸清理財政局庶務課長となす。民國元年張錫鑾直隸都督となるや財政課長に任ぜらる。年齢六十。

俞紹瀛 (Yü Shao—ying)

浙江省紹興縣人

曾て日本陸軍士官學校(?)を卒業す、民國成立後曾て陸軍中佐と

なり、福建省福州警備隊參謀長となる、六年十二月現在福建省警務處長、省會警察廳長、並に水上警察廳長たり。

俞鳳韶 (Yu Fêng-shao)

字 震澄

浙江省吳興縣人

前清の舉人にして湯壽潛の子なり夙に革命の志を抱き曾て故陳其美、張人傑等と訂交せり又曾て佛國巴黎に往き通運公司、通義銀行を經理し得るところの資を以て革黨を補助せりといふ。第一革命の際上海の軍警を聯絡して陳其美を助け滬軍都督參謀兼財政總參議となり、湯氏が浙江都督に就任するに及び湖州軍政分府長に任じ匪徒を掃蕩せり。民國元年工商部秘書長に、同二年衆議院議員に選ばれ第一次解散後は上海に在りしが、同五年夏浙江獨立の際財政參議、銀行監理、機要秘書等を兼務せり、同年九月中國銀行總裁に任じ六年七月辭職す。年齡三十七。

俞鳳翔 (Yu Fêng-hsiang)

字 子梧

浙江省紹興縣人

奉天高等審判廳員、錦州稅捐局長より民國二三年の間遼陽稅捐局長たりしが辭職するの後復職せり。年齡五十七。

俞慶恩 (Yu Ch'ing-ên)

曾て日本測量學校を卒業し第一革命後江西軍務局長となる、同盟會員中純革命派の一人にして當時軍政府内に在りてその勢力都督を壓せりといふ。年齡四十一。

俞鍾穎 (Yu Chung-ying)

江蘇省昭文縣人

前清の拔貢にして光緒三十四年廣東瓊崖道となり、宣統廣東按察使に、同三年河南布政使に累進せしが到るところ令名あり、民國成立後辭して家居せり、人となり磊落不羈治民の術に長ず。

俞鏞 (Yu Hêng)

字 毓吳

浙江省紹興縣人

前清の舉人にして農工商部學習主事となり民國成立後農商部工商司第一科僉事に任ぜられ民國四年七月少大夫を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

施作霖 (Shih Tso-lin)

福建省侯官縣人

前清中海軍學堂を卒業し海軍部二等參謀官に任ぜられ民國成立後駐英海軍留學生監督となりたり。

字 鳳賓

江蘇省上海人

光緒三十一年上海聖約翰大學を卒業す、嗣いて同仁醫院に入り實習し三十四年卒業せり、即ち醫學士の稱號を得同仁醫院醫師、南洋公學の校醫となる、民國元年渡米し「ペンシルバニヤ」大學に公衆衛生及び熱地醫術を研究し二年「鼠の血精の研究」一書を著はし博士となる、三年歸國、四年上海交通部工業專門學校々醫となり並に江蘇教育會衛生學講員となる、五年中華醫學會副會長、上海寰球中國學生會職員等に任じ並に著書あり。年齡三十二。

俞煒 (Yu Wei)

浙江省嵊縣人

前清中浙江武備學堂正則科を卒業し、後辦日學堂區隊長、第八十一標第三營營帶官(教官)、司令部參事官兼鎮江兵站司令官、歩兵第七標營帶(大隊長)に歷任す。民國元年浙江稽勸局長、總務課長、歩兵第九十八團長(聯隊長)、同省都督府軍事顧問官、陸軍部諮議官、浙江興武將軍署顧問官に歷辦し、五年六月現在豫備第一旅長兼都督府顧問たり。年齡四十六。

俞應麓 (Yu Ying-lu)

江西省廣信人

施厚元 (Shih Hou-yuan)

字 培生

江蘇省上海人

隴海鐵路督辦施肇曾の子なり、初め上海純正學堂、聖約翰大學に學び光緒三十二年米國に留學す、即ち「クック」學校に入り翌年「マシヤースパーデ」學校に入る、宣統三年轉じて「ペンシルバニヤ」大學に普通文科を修め、民國二年學士號を得、同三年歸國せり。年齡二十八。

施炳燮 (Shih Ping-hsieh)

字 理卿

浙江省紹興縣人

前清中兩江總督の幕賓たるもの實に三十年、三江(江蘇安徽江西)對外國との通商條約の實情に精通し缺くべからざるの人物たり。民國成立後支那各地稅關に支那人の監督を置くに至るや乃ち上海關監督に任ぜられたり、梁士詒と關係深しといふ。年齡六十六。

施振元 (Shih Chên-yüan)

字 玉聲

江蘇省上海人

光緒三十年米國に留學し「クック」學校及び「カーネル」大學に理科を修め民國二年歸國す、同三年隴海鐵路公所文案となり五年審計院第三股協審官に任ぜり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齡

施紹常 (Shih Shao—ch'ang)

字 伯彝

浙江省吳興縣人

前清の舉人にして刑部主事、法部の員外郎、檢察官、駐露三等書記官、海牙平和會議書記官、和蘭、白耳義二等書記官、外務部員外郎に歴任す。

民國成立後外交部參事、禮制館第三類編纂、「ヒリッピン」總領事に任ぜしが民國六年二月病を以て辭職せり、嗣いで同年十月吉林濱江道尹、兼鐵路交涉總局總辦、並に外交部特派吉林交涉員に任ぜらる。年齢四十四。

施從濱 (Shih Ts'ung—pin)

字 漢亭

安徽省桐城縣人

前清中北洋武備學堂を卒業す、爾來北洋軍界に歴職し、民國四年七月陸軍中將に進補、第一混成旅旅長山東前路巡防營兼兗州鎮守使に任ぜられ滋陽縣に駐防す、六年十二月現在混成第一旅長を以て兗州鎮守使たり。年齢五十一。

施愚 (Shih Yu)

字 鶴雛

號 小山 四川省涪陵縣人

施肇祥 (Shih Chao—hsiang)

浙江省杭縣人

曾て上海聖約翰大學に學ぶ光緒二十三年渡米し華聖頓中央高等學校に入り二十七年「カーネル」大學に機器工程を學び、三十一年機器工程師の學位を得歸國す、光緒三十二年天津造幣廠工程師兼天津高等工業學校教員、三十三年京奉鐵路車務副總管、並に代理事務總管に歴任せり。

民國元年津浦鐵路車務總管及び天津開灤礦務局會辦となる。年齢三十八。

施肇會 (Shih Chao—ts'eng)

字 省之

浙江省杭縣人

前清中知縣知府に奉職し、順直熱河工賑事宜辦理、駐米公使館隨員、組育正領事、漢陽鐵廠提調、京漢鐵道總辦、滬寧鐵道總辦、京漢鐵道南段會辦に歴任す、民國二年隴秦豫海鐵路督辦兼同成鐵路事宜會辦となる、六年十二月現在仍勤續せり。年齢五十二。

施調元 (Shih Tiao—yuan)

字 伯和

江蘇省震澤人

曾て上海聖約翰大學に學ぶ、光緒三十二年渡米し「ヒラデルヒヤ」

光緒戊戌の進士にして主事を以て戶部江西司に出仕す、嗣いで海外に留學し歸朝後憲政編查館總務處科員、勸業院參議に歴任す。民國成立後總統府秘書、法政局長となり民國諸法規多く氏の手に成れり、民國三年約法會議副議長、兼參政院參政に任じ憲法起草委員に擧げらる、四年十月少卿勳四位を授けらる。年齢四十六。

施爾常 (Shih Erh—ch'ang)

字 端生

江蘇省松江縣人

前清中陸軍部軍法司一等司法官となり民國成立後陸軍部軍法司長に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

施肇基 (Shih Chao—chi)

字 植之

江蘇省震澤人

曾て上海聖約翰大學を卒業す、光緒十九年渡米し華聖頓高等學校に入り同二十三年「カーネル」大學に入る、二十七年學士となり卒業、二十八年碩士の學位を得、同年歸朝し兩湖總督張之洞、同端方の文案に任ず、三十二年郵傳部主事となり、又京漢鐵路總辦に任ぜらる、三十三年北方鐵路總辦に三十四年哈爾濱海關道となる、宣統二年外務部參議に同三年署理外務部左侍郎に昇任せり。民國元年交通總長、二年總統府太禮官より三年六月駐英公使に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十一。

紡織學校に入り、宣統二年「ペンシルバニヤ」大學に普通文科に修學せり。

民國二年學士を得て歸國し上海三新棉紗廠襄理に任じ四年江蘇無錫振新紗廠經理となる。年齢二十九。

施聯元 (Shih Lien—yuan)

上海人

前清中江西分宜縣知縣となりしが光緒三十一年渡米して「イサカ」學校に入り、同三十三年「ヒラデルヒヤ」紡織學校に羊毛業を學ぶ、宣統二年歸國して京奉鐵路唐山車廠監工、北京捷成洋行經理、江蘇金陵關稅處主任、徐州交通銀行經理に歴任す。年齢四十。

施贊元 (Shih Tsan—yuan)

字 君翼

號 蔭生 江蘇省吳縣人

初め上海純正學堂、聖約翰大學に學びしが光緒三十年渡米し米京中央高等學校に入る、宣統二年華聖頓大學醫科に學び民國三年醫學博士の學位を得、五年歸國し北京清華學校々醫に任ぜり。年齢二十八。

施履本 (Shih Li—pên)

字 長卿

湖北省江陵縣人

施君は頗る邦語に通じ民國四年日支交渉の際には親しくその議に興
れり、六年十二月現在外交部秘書たり。

施懷榮 (Shih Huai-jung)

字 耕莘

江蘇省人

民國成立後曾て江蘇都督府經理科長たり。

章以黻 (Wei I-fu)

字 作民

浙江省吳興縣人

初め湖州「メンフエイス」學校に學び後上海南洋公學を卒業す、光
緒三十四年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學に機械工學を
修む、民國元年工程師の學位を得て卒業し歸國せり。
嗣いて江南製造局兵工學堂機械主任、天津高等工業學校物理專任
教員に歴任し民國三年九月北京大學豫科教員に任ぜり、六年十二
月現在交通部技正たり。年齢三十。

章以黻 (Wei I-fu)

字 文伯

浙江省湖州人

前清中曾て本省の中學校を卒業し嗣いで中等教員に歴職し第一革
命の際は浙江都督府民政部僉事に任ぜり。年齢四十七。

章汝聰 (Wei Ju-tsung)

廣東省香山縣人

光緒二十七年九月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業し歸朝後重要軍
務に歴任し第一革命前より廣東講武堂監督、同洲給學校々長兼同
陸軍測圖局長たり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十九。

章昭章 (Wei Chao-chang)

字 頌冠

湖北省漢口人

曾て武昌文華大學、上海聖約翰大學に學ぶ、光緒三十三年米國に
留學し「ホプキン」豫備學校に入り同三十四年「シヨースーモー」豫
備學校に轉ず、宣統元年「カーネル」大學農科に修學し、民國二年
學士號を得卒業歸國す。
民國三年鐵業公司副經理に、五年滬甯及び滬杭甬鐵路書記に歴任
せり。年齢二十九。

章榮昌 (Wei Jung-ch'ang)

民國五年十月廣西桂平鎮守使となり以て今日に至る。

章樹模 (Wei Shu-mo)

字 聖楷

廣西省武鳴縣人

民國六年五月廣西署理鎮南道尹に任ぜられ兼ねて龍州關監督たり。

韋寶珊 (Wei Pao-shan)

(北京音 廣東音 Wai Po-shan)

字 韋玉

廣東省香山縣人

氏は往年香港中央學校を卒業し又倫敦に留學せし事あり、爾來香
港に對しては公私の關係深く、千八百七十二年父の業を襲ぎ香港
有利銀行の買辦となり殆ど四十年に達せしが、數年前辭職して現
に寶臣洋行組合たり、又千八百九十六年十月以來香港立法會議員
に推され以て今日に至り、嗣て千八百九十八年英國が九龍半島を
租借するに方り土人の暴動を勸解し、或はベスト防疫地方公益事
業に盡力せしを以て英國政府は「セント、ミカエル、エント、セント
ヂョージ」勳章を贈り其功績を表彰せり、時に千九百〇九年なり。
民國成立の際は廣東政府の顧問となる。年齢約七十。

段母怠 (Tuan Wu-tai)

江蘇省肅縣人

民國六年八月江蘇徐海道署理道尹に任ぜらる。

段永彬 (Tuan Yung-pin)

字 古香

安徽省合肥縣人

段芝貴 (Tuan Chih-kuei)

安徽省合肥縣人

前清の監生にして候補道を以て陸軍第四鎮(師團)參謀官、同參謀
處提調、天津北段巡警局統領、正任兗曹濟道より天津河間兵備道
に任じ、六年七月直隸長蘆運使兼緝私督察長に任ぜられたり。
段芝貴の弟にして人となり剛直、曾て袁氏の帷幄に參せり、現に
天津に住す。年齢四十一。

段書雲 (Tuan Shu-yün)

字 香岩

安徽省合肥縣人

故袁世凱と密接の關係あり袁氏帝政の當時東三省の軍務を總べ並
に奉天巡按使を兼ね奉天に在りしが張作霖と合はず、遂に職を辭
して北京に入れり、曾て天津武備學堂を卒業し天津南段巡警局總
辦、布政使衙署理、黑龍江巡撫に歴任し、又宣統年間鑲紅旗蒙古
副都統を拜命す、往年妓女楊翠喜を載振貝子に獻するに因り御史
の彈劾するところとなれり。
民國三年二月湖北都督となり陸軍上將を授けらる、同四年八月鎮
安上將軍に任じ奉天軍務を督理し兼ねて黑龍江吉林兩省の軍務を
節制す、九月奉天巡按使を兼ね十二月一等公に封ぜらる、同五年
辭して天津に歸臥せしが偶復辟の擧起るや段祺瑞に従ひ東路軍司
令となり北京を攻め數日にして奪回せり六年八月輔威上將軍を授
けられ、十一月陸軍總長となる。年齢四十九。

段芝貴 (Tuan Chih-kuei)

安徽省合肥縣人

段書雲 (Tuan Shu-yün)

字少滄

江蘇省蕭縣人

光緒十一年拔貢生となり、十二年七品京官に任ぜられ刑部員外郎、郎中、十九年軍機章京、北京外城巡警廳丞署理、同年三月署理廣東提學使、宣統元年九月直隸清河道等に歴任し、同二年二月喪に丁り歸郷す。

民國二年徐淮海清鄉事宜督辦、同三年五月辭職す、同年十月湖北巡按使に、五年五月又辭職せり。年齡六十二。

段雲錦 (Tuan Yin—chin)

安徽省英山縣人

前清の舉人にして直隸省行唐縣知事たり、民國成立に及び安徽省貴池縣知事を拜命し、同四年功を以て五等金質單鶴章を給せらる。

段雄 (Tuan Hsiung)

字裕如

雲南省思茅縣人

清末日本に留學し鐵道學校に修業せり當時革命諸名士と訂交し同盟會を組織し、又對英佛交涉事件を慨し歸國して雲南獨立大會を開けり、光緒三十三年義師河江に敗れ日本に亡命す。

辛亥の秋武昌に革命起るや、即ち同志と上海に赴きしが會漢陽守を失へり、此に於いて計を定め上海を取り南京を攻め、上海軍政府先鋒隊の指揮長に任ぜり、嗣いで南京を収め臨時政府組織成る

に及び司法部僉事に任じ、南北統一後者に回へり黨務を視しが、民國二年衆議院議員に選ばれ、第一次解散の際に幾んど捕へられんとす、辛ふじて雲南に歸へり第三革命に方り大いに奔走せりといふ。

段祺瑞 (Tuan Chi—jui)

字芝泉

安徽省合肥縣人

現に中華民國の國務總理として文勳武功隱然大總統と拮抗せり、袁氏凶焰隆んなるの日その帝制に反對するの故を以て西山に幽閉せられ死せざるもの縷の如し、項城世に就き復出でて臺閣に登り爾來茲に一年有半具に艱屯に邁ひ勳名愈々顯はる、段氏資性廉潔寡黙思慮深遠好個の武人となす、復項城の黠猾に似ずと雖も自ら洪憲以後の一人なり。

光緒十一年北洋武備學堂に學び同十五年獨逸に赴きクルップ砲廠に入り造砲用砲の理その他兵術を研究し居ること一年にして歸朝す、時に袁世凱北洋新軍創設に際し砲兵第一營管帶となり並に陸軍學堂監督を兼ね、同二十四年任滿つるや功を以て袁氏の獎薦を蒙り、二十五年新軍を改めて武衛右軍となすや復訓練に任じ、袁氏山東巡檢となるの時尙ほ武衛右軍を統べ、並に陸軍各堂の統辦に任ず、庚子の年拳匪亂を稱し京畿大に亂れ山東本亂匪出づるところの地なるも袁氏の雍容坐鎮に依り大局搖かざるを得たり、而して公實に與つて力あるなり、功を以て三品銜を賜ふ、同二十八年李鴻章薨じ袁氏北洋大臣直隸總督に昇るや氏亦北洋陸軍參謀長に昇

任し期滿ちて二品銜を賜ふ、此年七月氏威廉各地の逆匪を討伐して功あり花翎を賞戴し奮字勇號を賞せらる、同二十九年十一月練兵處軍令司正使副都統銜に、同三十年兼務常備軍第三鎮翼長に、同三十一年一月第四鎮統制官、八月第六鎮統制官に任ぜらる。

此年秋河南の野に於て第一回陸軍大演習の舉行せらる、や氏北軍總司令官となり籌畫せり、同三十二年一月第三鎮統制官に轉じ北洋武備學堂監督、福建汀州鎮總兵、行營軍官學堂總辦を兼ね、同三十三年陸軍各學堂の督辦、鑛黃旗漢軍副都統を授けられ、同三十四年會考陸軍遊學卒業學生主試大臣となり、宣統元年九月會考陸軍卒業學生主試大臣に、十一月復第六鎮統制官に任ぜらる、同二年九月留學士官卒業主試官となる、氏が由來北洋軍界に重名を負ふもの偶然にあらざるなり嗣いで十一月江北提督に轉ず。

宣統三年の秋武昌革命起るや第二軍を統率して南征せり、此時漢陽已に下る、自ら以爲らく同族相殘す殊に計にあらず縱へ戦勝つも救國に資するなく民生を塗炭に免かれしむるなしと、又時勢を默察し遂に各將軍と連衡退位を奏請し、五千載專制の國遽然共和に改建せり矣。

民國既に成り元年五月氏陸軍總長代理國務總理に任じ、陸軍上將を授けられ、十月勳一位に叙し二等嘉禾章を給せられ、後一等嘉禾章を進給す、同二年十月黎副總統入京し氏湖北都督を領す、同三年二月河南都督に轉じ四月入りて陸軍總長となり建威上將軍を授けられ將軍府の事務を兼管す、同四年籌安會發生するや病に托して辭職を請ふ、一縷の命脈朝夕を慮らざるもの實に此時に在り、同五年第三革命の軍容熾んにして帝業頗る難む、四月再び氏を起

して國鈞を乘らしむ、六月袁氏長逝し黎元洪繼任するや責任内閣を組織し國務總理に任じ陸軍總長たるもの故の如し、十月一等大綬寶光嘉禾章を給せられたり、然るに六年に入り偶歐戰加入の議起り南方反對派は氏を推倒せざれば已まざるの勢を示し、各省督軍亦氏に迫まり國會を解散せんとす、此の時に方り五月二十三日突如として免職の厄に遇ふ、爾來津門に歸臥せしが此間宣統復辟の舉あり、張勳牛耳を執り徐東海馮河間康南海及各督皆贊成せりと稱す、民國の危難一髮千鈞を引く、七月一日復辟宣布越えて數日討張を發表し自ら討逆軍總司令に任じ、東西並に進攻し、未だ旬日ならずして再び共和を規復せり、此間自ら獻策の士なきにあらずと雖も氏の盛名に附するに非らずんば焉んぞ能く大功を收むるを得んや、此月復國務總理に任じ陸軍總長を兼ね、嗣いで北洋派の内訌に依り十一月辭職し十二月參戰督辦に任ぜられ七年三月三たび國務總理となる。年齡五十三。

段爾源 (Tuan Erh—yuan)

字問泉

雲南省蒙自縣人

前清の附生にして曾て廣西講武學堂に學ぶや偶々土匪剿討に功あり知縣に推薦せらる、爾來龍濟光の幕下に在り其信任を得、濟光四天王の目あり、嗣いで幫帶、管帶、分統、統領に歴任し、新軍編成後は混成旅長に昇任す。

第二革命の役龍濟光廣東都督陳炯明を逐ふや段君實に其首功に居る、爾來廣東の要衝佛山に駐防し西方の隣辱たり、民國五年廣東

獨立するや廣東護國第一軍總司令に任ぜらる。

姜文熙 (Chiang Wen—hsi)

江蘇省川沙縣人

民國六年十二月現在陸軍部軍醫司長たり。

姜兆璜 (Chiang Chao—huang)

字襄廷

安徽省亳縣人

前清中陸軍部長七品小京官となりしが、民國成立以後、内務部警務司第一科主事に任命せらる。六年十二月現在仍ほ該職に在り。

姜雨田 (Chiang Yü—tien)

字襄廷

奉天省海城人

光緒三十三年海城商務分會長に推され同地商界に信用あり、復泰號油房の支配人なり。年齢五十。

姜思治 (Chiang Ssu—chih)

字文成

浙江省人

光緒三十一年趙爾巽が盛京將軍たりし時奉天巡警局總辦たり、其後久しく閑地に在りしが民國元年趙氏又奉督たるに及び軍械局總

辦に任ぜらる、統一黨員にして人となり誠實なり。年齢五十八。

姜春宗 (Chiang Ch'un—tsung)

奉天省海城縣人

海城の豪商裕泰號の支配人にして海城縣商務分會總理たるもの十餘年本縣に勢力あり、人となり頑固なるも邦人に對しては感情洽密なり。年齢四十七。

姜桂題 (Chiang K'uei—ti)

字翰卿

安徽省亳縣人

前清中身を卒伍に起し眼中殆んど一丁字なく功を軍旅に樹て累進して直隸提督に至れり。

民國二年八月熱河都統に任ぜられ嗣いで昭武上將軍督理熱河軍務となり一等公に封ぜられ以て今日に及べり。

姜氏は元李鴻章の統帥せる淮軍の老将にして李經羲との關係も淺からず、故に六年五月李内閣の組織に盡力せりと傳へらる。年齢七十餘。

姜登選 (Chiang T'eng—hsian)

字超六

直隸省人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校工兵科を卒業し宣統中四川

朱慶瀾の幕僚たり、民國二年十一月黑龍江省護軍使朱慶瀾の推薦に依り同省參謀長に任じ陸軍少將に補せらる。年齢三十六。

姜毓英 (Chiang Yü—ying)

字孟斐

奉天省蓋平縣人

曾て奉天法政學校を卒業し諮議局司選員、奉天提學使署科となり嗣いで統計講習所を卒業し統計員に拜命せり。

民國二年衆議院議員に擧げられしが初次國會解散後は黑龍江に赴き墾務を經營し地方公益に従事す、又適湯原縣の饑饉に當り氏大に賑恤事務を處理し里人甚だ感激せりといふ。年齢四十一。

姜濟寰 (Chiang Chi—huan)

字汝翼

湖南省長沙人

前清中の邑庠生にして明德學堂教員たりしが民國成立後長沙縣知事、湖南都督府參議に歷任す、黃興、龍璋、譚延闓と親友なり、又曾て本邦に遊歴せり。年齢四十五。

侯旬 (Hou Hsin)

字印琴

河南省永城縣人

前清の附貢生にして獻金して知縣となり民國成立後河南省濬縣署理知事、泌陽縣署理知事に任ぜられ七等文虎章七等嘉禾章を給與

せらる、嗣いで第四期知事試験に合格し陝西省澄城縣試署知事として赴任せり六年十二月現在仍ほ該職に在り。

侯汝信 (Hou Ju—hsin)

字意樵

河南省杞縣人

前清中本縣の農林分會々長、巡警局正警董、城議會議員、縣議會議員に歷任す、嗣いで參議院議員補缺となり山東兵工廠火藥工監、鑄鐵所工監、管庫員、陝西蠅蚶蛤百貨徵收局々長等に歷任せしが民國五年參議院補缺議員となり六年六月解散せられ同年十二月現在於酒行政評議會會員たり。年齢四十九。

侯延爽 (Hou Yen—shuang)

字雪舫

山東省東平縣人

進士にして前清中學部主事を拜命し後日本に留學し日本法政學校を卒業したり、民國成立後中國銀行哈爾濱支店長となり嗣て三年三月濱江關監督を命ぜらる其後同地に信託會社を創設し五年一月株式會社農產銀行を設立せり、六年十二月現在該關監督たり。年齢四十六。

侯保廉 (Hou Pao—lien)

字心泉

吉林省吉林縣人

前清時代監貢生として法政學堂に入り業を卒へて奉天釐捐分局及び吉林蜂蜜山招摺總局收支委員、伯都納釐捐分局帮辦、吉林商務會坐辦、出品協會評議員、禁煙會總稽查、諮議局議員に歴任し宣統元年吉林省城大火災の時火災善後局總辦たり、民國元年吉林永衡官銀錢號總經理となり、同三年には岔路河徵收局々長に陞り功に依り五等金質車鶴章を授けらる、四年雙陽稅捐局々長に轉じ五年十月再び營口吉林永衡官銀錢分號經理に任ぜらる。年齢四十五。

侯祖齋 (Hou Tsu—yii)

字 筱汀

直隸省南皮縣人

前清中湖北巡撫衙門の一委員となり後漢口洋務會審公所委員代理に任ぜらる民國成立後仍ほ前職に在りしが民國二年漢口鎮守使署翻譯官を兼務せり、四年十月署理夏口縣知事に奉職す、六年十二月現在同縣知事たり。

侯景飛 (Hou Ching—fei)

字 駿千

江蘇省無錫縣人

曾て上海南洋公學、保定高等學堂、天津北洋大學に學び、嗣いで南京學務公所專門科長に任じ、宣統元年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學に機械工業を修め民國二年學士號を得歸國せり、其後京綏鐵路張家口製造廠々務視察員に任じ五年廠長に昇進す。年齢三十一。

侯趙鈞 (Hou Chao—chin)

字 金門

江蘇省武進縣人

常州慎豐票莊經理より永年人壽保險公司分經理に進み常州賑捐分局に兼務し居たりしが後鐵嶺交通銀行の聘を受け同行主任に就職せり。年齢四十三。

洪兆熊 (Hung Chao—hsung)

字 渭漁

浙江省慈谿縣人

初め郷里の中學校卒業後更に四明專門學校に入り銀行科を畢へ次で日本大阪高等豫備學校に學ぶ、歸國後汕頭商業學校の聘に應じ經濟科教師となる、後山東中國銀行主任の職に就き次で殖邊銀行成立するや總行計檢を兼ね、遂に拔擢せられて殖邊銀行長春分行副行長に進めらる、六年十二月現在遼源中國銀行分行管理たり。年齢二十九。

洪兆麟 (Hung Chao—lin)

字 德彬

福建省閩侯縣人

前清中一營長たりしが第一革命の時廣東惠州を攻撃し功を以て惠州軍務督辦に拔擢せらる、第二革命失敗後日本に亡命し復屢々廣東に潜行し事を擧げんとせしも皆成らず、民國五年香港に潜みし

が香港政廳は革命黨員に對して逐客令を下せし爲め復日本に奔れり、第三革命に當り又惠州に據り附近の六縣を略取せり、中華革命黨員なり。年齢四十六。

洪延祺 (Hung Yen—chi)

字 蔭芝

安徽省桐城縣人

民國三年六月甘肅政務廳長に任ぜられ今日仍ほ該職に在り。

洪承點 (Hung Ch'eng—tien)

字 蔭芝

江蘇省人

第一革命當時上海に義勇隊を組織して南京攻撃に参加し功を以て第七師長となる、同盟會員なり。年齢三十三。

洪述祖 (Hung Shu—tsu)

字 蔭芝

江蘇省常州人

前清中獻金して知縣となり福建候補を命ぜらる、巡撫劉銘傳上奏して文案となせしが、嗣いで劉氏臺灣商務振策として汽船會社を起し二汽船(駕時號斯美號)を日本に訂購せしが、洪は當時其公金を私せしを以て免職となり、且つ追徴を命ぜられたるも返済する能はず臺灣淡水縣獄に繋がるゝもの八年に及び、後臺灣の巡撫邵友濂の奏請に依り放釋せらる、其後俞廉三湖南巡撫となるや其

文案となり公務壟斷の廉に依り御史の彈劾を受け復革職せられたり、茲に於て湖北に至り幕僚たらんとせしも總督張之洞之を斥く、終に又獻金して道員となり礦務局總辦に任ぜられしが直隸總督陳夔龍の彈劾に依り重ねて革職せらる。民國成立後趙秉鈞內務總長となるや秘書となりしが同二年上海にて宋教仁を暗殺せしものは洪の手に出づと稱せられ當時青島に潜み法網を免かれたり、然るに六年春間某外人と訴訟事件にて告訴せられしは到底良からぬ男と見えたり。年齢六十三。

洪楨 (Hung Chên)

字 德彬

湖北省黃梅縣人

前清中湖北自強學堂を卒業し黑龍江省交涉科並に司法科等に奉職す、民國成立後第一期知事試験に合格し同省の候補縣知事となり四年九月烏里雅蘇臺佐理員公署秘書廳秘書長に任命せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢三十七。

洪達 (Hung Ta)

字 德彬

福建省閩侯縣人

曾て私塾に學ぶ、光緒三十一年奉天省懷仁縣警務長となり三十三分省候補知縣の資格を授けらる。民國元年の間福建に在り省の法政速成學堂に法政を研究し、二年十月復奉天に來りて洮南縣豫備巡警總長に任ぜられ、四年四月

西安縣警察事務所長に拜命せり、大瘡疽に住ず。年齢四十五。

洪蔭生 (Hung Yin—shêng)

雲南省人

前清中滇黔防營陸軍兵營文書係、雲南陸軍第七十四標第二營書記長に任ず、民國元年貴州都督府監印官、二年雲南都督府書記官に任用せられ四年縣知事の資格を得たり、同六年四月二十九日第三革命の功に依り六等嘉禾章を給せらる。

洪鴻儒 (Hung Hung—ju)

福建省同安縣人

前清の貢生にして宣統中福建諮議局員、廈門商務會總理に任ず、第一革命の時曾て廈門參議會員たり、家米穀雜貨を營業として資産六七萬を有せりといふ。年齢五十二。

洪鎔 (Hung Jung)

安徽省蕪湖縣人

前清の進士にして嘗て海外に游學し歸國後試験に合格し工料專門編修の職を得學部二等諮議官となれり、民國成立後北京工業專門學校長を拜命し、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

署員となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

南元超 (Nan Yuan—ch'ao)

民國六年十二月現在陸軍第十八師步兵第三十五旅長たり。

南庚厚 (Non Kêng—hou)

京兆宛平縣滿洲人

前清の舉人にして軍諮府製圖股班員となり 民國成立後參謀本部製圖課班長に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

南佩蘭 (Nan P'ei—lan)

字 桂馨 山西省晉武縣人

日本留學生にして山西巡警道、河東稅務司に歷任す。年齢三十餘。

查步衢 (Ch'a Pu—chü)

江西省義寧縣人

前清中湖南省芷江縣知縣に任ぜられ 民國成立後同省平江縣代理知事に轉じ徵稅上の功に依り五等金質單鶴章を給せらる。

奎印 (K'uei Yin)

鑲藍旗滿洲人

前清中河南省孟縣知縣に任ぜられ 民國成立後同省署理溫縣知事となりしが巡按使田文烈其功を上申せるに依り嘉獎せらる、六年十二月現在溫縣知事、濬縣署理知事たり。

奎明 (K'uei Ming)

奉天城滿洲旗人

曾て八旗學堂を卒業し遼陽城守尉となり、宣統二年開原城守尉に轉任す、在留邦人と感情圓滿なり。年齢七十五。

奎保 (K'uei Pao)

奉天省新民縣人

前清の舉人にして 民國成立後曾て奉省開原縣濛茨縣知事に歷任せり。年齢五十三。

南文林 (Nan Wên—lin)

鑲紅旗滿洲人

前清中北京内城巡警總廳に奉職し 民國成立後北京内城右三區警察

查富機 (Ch'a Fu—chi)

安徽省合肥縣人

前清の舉人なり、光緒三十三年奉天省昌圖府知府、宣統二年海龍府知府及び昌圖府知府に歷任す。

民國元年奉化縣(今の梨樹縣)稅捐局長となり 同四年東路西安清丈局長に轉任す。年齢六十。

查裕 (Ch'a Yu)

京兆大興縣人

前清中北京内城巡警總廳七品警官となり 民國成立後北京内城右二區警察署長に任ぜらる。

查鳳聲 (Ch'a Fêng—shêng)

江蘇省吳縣人

前清中度支部七品小京官となる、 民國成立後財政部收入印紙發行處主任、運銷廳第三科署理科長、進款綜核所兼任僉事となる、六年十二月現在財政部會計司會辦、帮辦豫算事宜、兼印花稅所代理總辦たり。

查爾崇 (Ch'a Êrh—ch'ung)

京兆宛平縣人

前清光緒乙酉科の舉人となり山東省治水工事に功あり知縣より道員並鹽運使銜に進み四川省に派遣されしが都督岑氏之を劾奏して同知に左遷せり、嗣いで武漢革命の際敵前に功を樹て原官に復せり、民國成立後湖北に赴任し模範大工廳、警備處文案に歷任せしが巡按使段雲書の推薦に依り政事堂記録に登れり。

紀波瀾 (Chi Po-lan)

福建省同安縣人

廈門の三姓吳、陳、紀の一にして同族の牛耳を執る。年齢五十三。

紀品三 (Chi Pin-san)

奉天省懷德縣人

前清の秀才にして稍々漢文に通ぜり、前清中懷德縣緝私局總理、同縣警務長に任ぜしが近年辭職して専ら農に従へり。年齢五十五。

紀堪謹 (Chi Kan-kin)

直隸省獻縣人

舉人出身にして前清中廣西省各地方兵備道に奉職し、民國三年七月、同省政務廳長となりしが、民國四年七月病を以て辭職せり。

苗文華 (Miao Wen-hua)

奉天省鐵嶺縣人

宣統三年奉天法政專門學校を卒業して初めて遼西河防總營處司事となり次で鐵嶺高等小學校長に任ぜられ轉じて鐵嶺分監看守長、新民總監獄第二科長、代理典獄官に歷任して民國三年四月現任奉天第二監獄長に榮進し今日に及べり又民國六年日本に赴き各監獄を視察研究せり。年齢三十五。

苗經魁 (Miao Ching-k'uei)

直隸省樂亭縣人

吉林商界に活動するもの三十載、直隸派商人の領袖にして民國三年以來同地商務會の協理に任ず、錢舖永衡茂の支配人なり。年齢四十七。

恒鈞 (Heng Chin)

京兆宛平縣人

曾て日本に留學し早稻田大學を卒業し歸朝後大同報總理となり、民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢三十一。

恒璋 (Heng Chang)

湖北省江陵縣人

前清の附貢生より湖北師範學堂に入り卒業後日本に留學し弘文學院、中央大學法制專門科を卒業す、歸朝後黑龍江省綏化地方審判廳推事に拜命せり。

民國元年同省高等審判廳推事に同二年代理民庭長に同四年高等審判廳署理廳長に昇り五等嘉禾章を獎給し上士を授けらる、六年十二月現在同廳次席たり。

柏崑 (Po K'un)

鑲藍旗滿洲人

清の皇族なり曾て陸軍部主事に任ぜられしが、民國成立後軍衛司副官に任ぜらる。

柏文蔚 (Pai Wen-wei)

安徽省鳳陽縣人

氏狀貌魁偉儼然たる大丈夫なり、平素岳飛を推尊し自ら字を烈武と稱せり、蓋し飛の謚號武穆と稱するに取る歟、革命の鬪將にして又討袁の急先鋒たり。

前清の秀才にして始め本省の高等學堂に學びしが事を以て退學を命ぜられ後轉じて武備學堂に入り卒業せり此より軍界に歷官せしが國命の競はざるを歎じ潜かに同志を糾合して革命思想を鼓吹し

柯劭忞 (K'o Shao-wên)

山東省膠縣人

前清の進士にして湖北提學使學部署右參議、典禮院學士となり民國三年五月參政院參政、兼約法會議々員を命ぜらる。年齢六十餘。

柯鴻烈 (K'o Hung-lieh)

四川省中江縣人

前清中日本に留學し明治大學を卒業す、歸朝後外務部小京官となり、民國成立後釜山領事を命ぜられ六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十三。

九 畫 [英、信、禹、冒、春]

英華 (Ying Hua)

字 歛之

住北京滿洲人

氏幼にして武を練り力能く三百觔を擧ぐ、中年感憤して書を読み遂に漢學に精通す、光緒二十四年戊戌政變後廣東安南を遊歴し二十六年雲南に遊べり、二十八年に天津に大公報を創刊し初めて言文一致體を用ゐたり、三十一年又日本に遊び歸りて天南小草、借鏡録を著はし遊東所感を述べ、又也是集、敬帶千金等の著あり。英氏は天主教徒にして慈善會、赤十字社に盡力し又曾て親露主義の人なりしが近年親日を主張せり、意志鞏固性質果斷、邦人中交友乏しからず。年齡五十二。

英順 (Ying Shun)

字 積華

吉林省人

滿洲人なり、曾て東三省講武學堂を卒業し多年黑龍江省巡防隊の營長たり、民國二年馬瑞祿の後を襲ぎて同隊第二路統領となりしが、三年兵制改革の際陸軍少將に補し同省騎兵第四旅長に任ぜらる、六年十二月現在黑省清鄉督辦たり。年齡四十七。

信鵬超 (Hsin P'êng—ch'ao)

字 象三

奉天省昌圖縣人

前清中北京外城巡警總廳總務處僉事に任ぜられ民國成立後警察隊消防督察長となれり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

郎國楨 (Lang Kuo—chên)

字 麗生

江蘇省崑山縣人

曾て上海南洋公學電機科を卒業す、宣統二年米國に赴き西方電氣公司學習工程師となる。

民國元年「ワイスカンシン」大學に入り電氣工程を學び二年電氣工程師の學位を得、三年歸國し中國電報總局副工程師となり五年天津電話局長兼總工程師に任ず。年齡二十九。

帥文秀 (Shuai Wên—hsiu)

字 子掄

奉天省遼陽縣人

年少商に志を立て研究數年の後獨立して錢商東來正號を營む事四年更に義聚和號鹽商たる事五年、而して十一年前より義成和號米穀商を營み兼ねて油商たり、今や巨萬の富を積み遼陽商業界の重鎮として民國二年商會々董に擧げられ民國五年以來更に推されて遼陽縣商會々長たり。年齡三十九。

洗德芬 (Hsien Tê—fên)

九 畫 [郎、帥、洗、秋、柳、彦]

三〇六

奉天法政學堂を卒業す、珥春延吉地方第二分廷檢察官たり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齡三十八。

禹瀛 (Yü Ying)

字 餘珊

湖南省寶慶縣人

前清中本省西路師範學校、高等學校、武備普通學校に在學せしが明治三十七年日本に留學し東京宏文學院、明治大學、法政大學等に修學數年にして歸國せり。第一革命の時湖北總督府秘書となり、民國元年衆議院議員に擧げられ、二年十月國會解散後北京に留まり三年袁總統を暗殺せんとせしも成らず、虎口を脱して天津より日本に亡命せり、四年十二月復天津に歸り劉揆一等と公民日報を起し排袁を主張せり、又邦語を解す。年齡三十五。

昌廣生 (Mao Kuang—shêng)

字 鶴亭

江蘇省如皋縣人

前清の進士にして農工商部商務司郎中に拜命し民國元年十二月浙江省賦稅關監督兼温州交涉員に任ぜられ民國四年三月上大夫を授けらる、六年十月辭職せり。

春壽 (Ch'un Shou)

字 洗鮮

香港人

曾て香港中央學校を卒業す、英漢學に通ぜり、初め「ステーション、ホルムス」の法律事務所書記となり、後伊尹氏 (Ewings) 法律事務所を開設す、洗氏香港律師中の錚々たるもの、家貲三十餘萬弗あり、雜種兒なりといふ。年齡六十二。

秋桐豫 (Chiu T'ung—yü)

字 仲謨

浙江省紹興縣人

前清中吉林長將軍の幕僚となり令名あり遂に吉林知府より黑龍江省道臺に昇任し、嗣いで同省提法使に任ぜらる。

民國元年八月宋小濂民政長に昇任するや其後を繼ぎ民政使となり、二年一月十九日同省司法籌備處長に轉じ同年九月十三日該官制は裁撤されたり、六年一月安徽政務廳長に任ぜらる。年齡六十三。

柳旭 (Liu Hsi)

字 曙初

湖南省衡山縣人

前清廩貢生なり曾て安徽省汀州同知に任ぜられ民國成立するや審計院第三廳第三股主任、署理審計官となり、民國四年七月中大夫を授けらる、六年十二月現在同股主任審計官たり。

彦惠 (Yen Tê)

三〇七

正黃旗滿洲人

前清中學部總務司郎中となり民國成立後京師學務局長に任ぜらる。

計大雄 (Chi Ta-hsiung)

字 心然

江蘇省南匯人

曾て松江府中學校、上海南洋公學に學ぶ、嗣いて魯家匯高等小學校教員となりしが宣統二年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學に土木工程を修め土木工程師の學位を得。
民國三年歸國上海浦東中學校教員となり、四年南京河海工程專門學校教員となる。年齢二十六。

十 畫

【徐○馬○袁○高○孫○唐○夏○秦○凌○耿○柴○容○原○恩○祝○桂○殷○席○倪○翁○涂○郝○宮○師○倉○晏○修○索○茹○貢○桑○荊○祖○書○恭○烏】

徐之榮 (Hsi Chih-ch'i)

字 戟門

浙江省建德縣人

前清軍機處存記湖南候補道にして湖北督撫各署の幕僚となれり民國成立後同省監利縣知事、鹽法長寶道兼長沙稅關監督に歴任し民國四年興武將軍朱瑞の申請に依り政事堂の記録に登れり嗣いて五年七月山西省冀寧道尹となり同六年五月職務に熟達せるを以て獎揚せらる。

徐之琛 (Hsi Chih-ch'en)

字 保權

雲南省大理縣人

前清の秀才にして曾て佛領東京河内にて佛蘭西語を學べり、前清

十 畫 [徐]

中雲南候補知縣となり、廣西邊防交涉員、雲南省河口麻栗坡邊防督辦に歴任し民國成立後雲南交涉司長に任ぜらる、五年十月雲南蒙關監督となれり。年齢三十二。

徐士俊 (Hsi Shih-chün)

字 頌熙

江蘇省江陰縣人

前清中陸軍部筆帖式となり、民國成立後陸軍部總務廳委員に任用せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐士瀛 (Hsi Shih-ying)

山西省玉山縣人

前清の度支部主事なりしが民國成立後曾て四川建昌權運局長に任ぜられたり。

徐文霽 (Hsi Wên-wei)

字 霽如

浙江省海鹽縣人

前清國子監出身にして度支部候補郎中となりしが、民國成立後財政部會計司長に任ぜられ民國四年七月少大夫を授けらる、六年十二月現在會計司會辦參事上行走たり。

徐仁鏡 (Hsi Jên-ching)

京兆宛平縣人

前清の翰林にして翰林院の編修となる 民國三年五月參政院秘書廳 總務科秘書に任ぜられ 民國四年八月中大夫を授けられたり。

徐元誥 (Hsi Yuan—kao)

江西省吉安縣人

同盟會員にして前清中日本中央大學を卒業す、民國元年十二月江 西省司法司長となり、二年一月司法籌備處に改任し、二年九月免 ぜらる。年齢三十三。

徐世章 (Hsi Shih—chang)

字 端甫

直隸省天津縣人

氏は徐世昌氏の弟なり、民國六年十二月現在津浦鐵路管理局長兼 管浦信鐵路督辦事宜たり。

徐世揚 (Hsi Shih—yang)

字 聲甫

直隸省天津縣人

前清中北洋陸軍速成學堂を卒業し、吉林兵備參謀、教練各處の會 辦、幫辦、總辦、第四十六旅長に歴任す、民國四年八月混成第三 旅長兼吉林寧阿蘭鎮守使となり陸軍少將に補せらる、五年九月十

日陶祥貴と交迭せり。

氏は徐世昌の第六弟にして庸才なりといふ。年齢三十八。

徐世光 (Hsi Shih—kuang)

字 少卿

直隸省天津縣人

氏は徐世昌の弟にして前清中舉人となり山東省登、萊、青、膠各地 の海防を管理し兼て水利兵備道、東海稅關監督となれり。

民國四年四月少卿を授けられ濮陽黃河水防工事監督となり功を以 て勳四位を特授せらる、嗣いて近畿疏通河道事務督辦となりしが 同五年七月病氣辭職せり。

徐世昌 (Hsi Shih—chang)

字 菊人

號 東海

直隸省天津縣人

徐氏儒家に生れ夙に文名あり、年少孤、山東巡撫袁丙三(故袁世 凱の父)に養はる、曾て内閣侍讀學士となり、光緒二十九年九月 商部右丞より兵部侍郎民政部尙書に進む、同三十二年十二月貝子 載振に隨ふて滿洲政務を視察し、三十三年四月東三省總督に任ぜ らる、宣統元年二月郵傳部尙書に轉じ同年七月津浦鐵道總辦を兼 ぬ、同二年二月協辦大學士、同七月軍機大臣、八月實錄館正總裁 兼務、十月體仁閣大學士、三年憲政編查餘大臣、弼德院顧問大臣 に累進せり、蓋しその功半ば袁氏の後援に頼る。 第一革命後宣統帝退位後世續と共に勅帝の師傅となる、嗣いて日

徐玉魁 (Hsi Yü—k'uei)

字 奉天

奉天省開原縣人

開原城内の銀細工商にして 民國元年二月以來開原工務會協理とな り同地商工界に勢力あり。年齢三十八。

徐占鳳 (Hsi Chan—feng)

字 江蘇

江蘇省銅山縣人

民國六年十二月現在陸軍第八混成旅長兼歩隊第八營長たり。

徐旭 (Hsi Hsi)

字 安徽

安徽省望江縣人

前清の舉人にして雲南省河西縣知縣に任ぜられたり、民國成立後 安徽省懷寧縣知事となり 同四年驗契稅徵收の功に依り五等金質單 鶴章を給せらる。

徐兆熊 (Hsi Chao—hsung)

字 江蘇

江蘇省江都縣人

前清中附貢生となり後獻金して鹽大使の官を買ひ福建省光澤、邵 安等の官運局に奉職す。

本に遊ばんとし陸宗輿等を従へて大連にて桂公爵、後藤男爵に會 見せしが後病の爲め行を果さずして北京に歸る、民國三年五月國 務卿に任じ籌安會發生するに及び四年十月辭職す、五年三月復國 務卿となりしが四月段祺瑞と交代せり。 氏は支那の老政治家にして 六年七月復辟事變以來一層問題の人た り、是より先き陸潤庠(幼帝の師にして 民國四年死去せり)從容と して菊人に謂ふて曰く『前朝盛なるの日我等項城と共に北面臣席 に就けり、既に前朝の恩を承け、其亡滅を視て而して救ふ能はず、 願くば二君に見えざらん、以て晩節を保たん』と徐氏肯諾す、項城 即位の日、徐氏を嵩山四友に列し趙爾巽、李經羲、康南海と共に、 復た臣を以て之を呼ばざる也。 復辟當時幼帝屢々優詔を下し氏を招きしも、時勢の非なるを洞觀 し微辭に應ぜず、屢々張勳に忠告電を發したり、嗣いて張勳敗れ 清室優待の儀廢減せられんとするや七月十六日入京して段氏と凝 議せり。年齢六十一。

徐可陞 (Hsi K'o—sheng)

字 可陞

浙江省南潯人

初め蘇州博習書院、上海中西書院に學び、宣統三年上海基督教青 年會より米國に留學を命ぜられ「オバーリン」學校に入り哲學、神 學を修め、民國三年學士號を得卒業す、同年歸國し上海青年會書 記となれり。年齢三十三。

民國四年保羅場知事より浙江省東江場代理知事に任命せられ、六年五月東江場知事を實授せらる。

徐兆璋 (Hsi Chao—wei)

字 璋如

江蘇省常熟縣人

前清の翰林にして曾て日本大學法科を卒業せり、民國二年江蘇省より選ばれて衆議院議員となる、元國民黨員なり。年齢五十餘。

徐宏志 (Hsi Hung—chih)

奉天省撫寧縣人

新民屯富通質店の支配人にして同地商務會長なり。年齢五十九。

徐孝剛 (Hsi Hsiao—kang)

字 申甫

四川省華陽縣人

明治三十四年日本に留學し同三十七年十月陸軍士官學校砲兵科を卒業せり、歸朝後四川軍界に歷辦せしが時の川督趙爾巽と相合はず憤然立つて北京に入る。

第一革命起るや川人徐君の才幹を認め篤く歸省を促がせしが動かず、終に在京郷人の苦勸を以て民國元年六月回籍せり、蓋し川中軍界の要人にして六年十二月現在四川兵工廠總辦兼四川陸軍第一師長たり。年齢三十七。

徐沅 (Hsi Yuan)

字 止笙

江蘇省吳縣人

前清の舉人にして經濟特科の試験に合格し山東省聊城縣知縣に任ず、光緒三十三年直隸候補道を以て直隸洋務局會辦に任じ宣統二年記名道に補し三年津海關道に拜命す。

民國成立後仍ほ該職に在り、民國二年四月外交部特派直隸交涉員を兼ねしが三年解兼、四年十二月本官を准免し肅政廳肅政史に任ぜらる。年齢四十一。

徐志誠 (Hsi Chih—ch'êng)

字 振麟

上海人

初め上海聖約翰大學に學び宣統二年官費を以て米國に留學し「ウイスカンシン」大學に教育學を修む、民國元年學士號を得更に「ハーバート」大學に入り商業管理法を學ぶ、同二年又「シカゴ」大學に社會學を修め碩士の學位を得たり、同三年歸國し北京清華學校教員となり、五年上海中華書局の編輯となる。年齢二十九。

徐志勳 (Hsi Chih—hsiang)

江蘇省上海縣人

初め上海聖約翰大學に學び宣統二年官費を以て米國に留學し「イ

辦事員となり並に上海各報に通信せり。年齢二十五。

徐佛蘇 (Hsi Fo—su)

原名 君勉

湖南省長沙縣人

光緒二十八九年の頃東京に留學し師範學校を卒業す、當時梁啓超と共に新民叢報を刊行し、歸來黃興、劉揆一と革命を謀りしが失敗して日本に亡命せり、之より梁啓超、蔣智田、湯覺頓等と政聞社を組織し「政論」を發行せり。

第一革命起るに及び歸國し嗣いで北京に國民公報を發行せり、民國三年梁啓超は氏を湖南巡按使に推薦せしが閣員之に反對して成らず、政治堂參議に任ぜり、四年一月中大夫を授けられ又生計委員會委員となりしが、五年二月辭職して南旋し反袁を昌言す。年齢三十八。

徐承錦 (Hsi Ch'êng—chin)

字 尙之

貴州省銅仁縣人

前清の民政部參議廳參事にして民國三年五月肅政廳肅政史に任ぜられ民國四年一月上大夫を授けらる、又前參議院議員たり。年齢四十三。

徐庚孫 (Hsi K'êng—sun)

民國四年保羅場知事より浙江省東江場代理知事に任命せられ、六年五月東江場知事を實授せらる。

徐兆璋 (Hsi Chao—wei)

字 璋如

江蘇省常熟縣人

前清の翰林にして曾て日本大學法科を卒業せり、民國二年江蘇省より選ばれて衆議院議員となる、元國民黨員なり。年齢五十餘。

徐宏志 (Hsi Hung—chih)

奉天省撫寧縣人

新民屯富通質店の支配人にして同地商務會長なり。年齢五十九。

徐孝剛 (Hsi Hsiao—kang)

字 申甫

四川省華陽縣人

明治三十四年日本に留學し同三十七年十月陸軍士官學校砲兵科を卒業せり、歸朝後四川軍界に歷辦せしが時の川督趙爾巽と相合はず憤然立つて北京に入る。

第一革命起るや川人徐君の才幹を認め篤く歸省を促がせしが動かず、終に在京郷人の苦勸を以て民國元年六月回籍せり、蓋し川中軍界の要人にして六年十二月現在四川兵工廠總辦兼四川陸軍第一師長たり。年齢三十七。

辦事員となり並に上海各報に通信せり。年齢二十五。

徐佛蘇 (Hsi Fo—su)

原名 君勉

湖南省長沙縣人

光緒二十八九年の頃東京に留學し師範學校を卒業す、當時梁啓超と共に新民叢報を刊行し、歸來黃興、劉揆一と革命を謀りしが失敗して日本に亡命せり、之より梁啓超、蔣智田、湯覺頓等と政聞社を組織し「政論」を發行せり。

第一革命起るに及び歸國し嗣いで北京に國民公報を發行せり、民國三年梁啓超は氏を湖南巡按使に推薦せしが閣員之に反對して成らず、政治堂參議に任ぜり、四年一月中大夫を授けられ又生計委員會委員となりしが、五年二月辭職して南旋し反袁を昌言す。年齢三十八。

徐承錦 (Hsi Ch'êng—chin)

字 尙之

貴州省銅仁縣人

前清の民政部參議廳參事にして民國三年五月肅政廳肅政史に任ぜられ民國四年一月上大夫を授けらる、又前參議院議員たり。年齢四十三。

徐庚孫 (Hsi K'êng—sun)

廣東省香山縣に生る、初め上海梅溪書院、中西書院、北洋大學に學び光緒二十六年渡米して「オークランド」工業學校商科に入る、同二十七年東人學校に入り二十九年復「ニューベッドフォード」染織學校機織科に學べり、三十一年歸國し三十三年奉天勸業道署理僉事に、三十四年奉天礦務局長兼任、宣統二年津浦鐵路局長となる民國二年京奉鐵路局長に轉じ天津に住す、曾て三等嘉禾章、五等文虎章を給せられたり。年齢四十一。

徐廷爵 (Hsi Ting—chüeh)

字 健侯

直隸省天津人

徐良 (Hsi Liang)

字 善伯

廣東省廣州人

初め廣東高等學堂に學び後日本に留學す、光緒三十一年渡米し華聖頓大學、哥倫比亞大學に普通文科を研究す。
民國二年學士號を得て歸國し司法部主事、廣東行政公署秘書、巴拿馬博覽會委員、駐米公使館隨員に歷任す、同五年外交部秘書廳

字宜之

江蘇省吳縣人

曾て北京度支部の屬吏たりしが宣統三年五月趙爾巽東三省總督たるに隨ひ、往いて稅捐局長となる。民國元年奉省錦縣中國銀行分行主任となり同三年各營に分行に轉せり。年齡四十三。

徐定超 (Hsi Ting—ch'ao)

字班侯

浙江省温州人

前清の翰林院編修にして御史となる、第一革命の時温州軍政分府長官、興武將軍署顧問、巡按使署顧問に歴任し、五年四月都督府顧問に任せらる。年齡七十一。

徐 虛 (Hsi Chung)

字森玉

浙江省吳興縣人

前清の舉人にして詩、書に巧なり、曾て山西大學を卒業し雲南省知縣となり、嗣いて奉天將軍署文案、奉天測圖局長、同高等工業學校監督、江蘇工業學校監督、學部圖書局編譯員に歴任す。民國三年一月北京大學圖書館長に拜命し現に該職に在り。年齡約五十。

徐 珍 (Hsi Chên)

奉天省遼陽縣人

光緒二十六年北清事變當時鄉團を組織し地方の安寧を保ち、功を以て候補知縣となる、同三十二年遼陽巡警事務開設に盡力し、三十四年奉天諮議局議員に擧げられ、嗣いて奉天中路巡防營幫統に任せられたり。年齡六十九。

徐昭儉 (Hsi Chao—chien)

字純甫

浙江省吳興縣人

前清宣統年間山西省蒲縣知縣となり民國四年同省汾陽縣知事に任せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐則恂 (Hsi Tsé—hsün)

字允中

浙江省青田縣人

前清の附生にして南洋陸師學堂卒業後新湘軍教習、江西豫備前軍幫帶、浙江步隊管帶官等に任ず。民國元年浙江步隊統帶官、第五軍顧問官、浙江都督府高等軍事顧問に歴任し陸軍少將に補せらる、六年十二月現在浙江内河水警察廳長たり、又曾て前清中米國聖路易博覽會委員として渡米し並に日本軍政考察員として來游せりといふ。年齡三十九。

徐家璘 (Hsi Chia—lin)

浙江縣吳興縣人

字容光

浙江省吳興縣人

前清中國子監を卒業し河南省太唐縣知縣に任せらる、民國成立後河南省永城縣署理知事となり、民國四年巡按使田文烈の稱推するところとなり五等嘉禾章を給せられ、嗣いて同縣知事に昇任し並に調署商邱縣知事となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐致善 (Hsi Chih—shan)

字元撫

直隸省完縣人

前清の進士にして花翎二品銜記名海關道より陸軍部軍牧司々長、禁衛軍々諮官となる。民國二年一月安東關監督、同年二月山西國稅籌備處長八月十日辭職、後直隸行政公署秘書となり、六年十二月現在稅務處第二股長たり。年齡四十七。

徐振鵬 (Hsi Chên—p'êng)

廣東省香山縣人

前清中海軍處參贊廳一等參贊官に任せらる。民國元年六月海軍右司令に、同年十二月第二艦隊司令に、四年七月練習艦隊司令に歴任し、十二月免ぜられたり。

徐恩元 (Hsi Ân—yüan)

前清の附生にして曾て上海南洋公學上院を卒業し後渡英して倫敦財政大學を卒業せり、嗣いて光緒三十四年考察英國憲政大臣の隨員となり、宣統三年度支部より倫敦に派遣され幣制借款事務を會議し、並に歐洲各國銀行幣制々度を視察せり。民國成立して南京財政部公債司々長となり、南北統一後財政部籌備處幫辦兼借款稽處總稽核に任せらる、民國二年二月幣制委員會專員に、八月財政部特派會議賠償外人損失事務に、十月審計處總辦に、同三年一月財政部制用局々長に、二月總統府財政委員會々員に歴任し、幣制局副總裁を兼ね、嗣いて三年六月審計院副院長に任せられしが五年六月中國銀行總裁を兼務し、六年四月事を以て解職せらる、六年十二月現在國務院參議たり。

徐 書 (Hsi Shu)

字靜遠

江蘇省無錫縣人

初め上海聖約翰大學に學び宣統三年官費を以て米國に留學し「ブロード」大學に電氣工學を學ぶ、民國三年學士號を得、同年「マツサチュセツツ」州工業學校に電氣鐵路工學を研究し同四年歸國す、嗣いて交通部上海水底工事を管せり。年齡二十六。

徐崇欽 (Hsi Ch'ung—chin)

字敬侯

江蘇省崑山縣人

曾て米國に留學し「ウイリアム、ゼウエル」學校を卒業し學士號を得、又「エール」大學に入り碩士となる、嗣いで歸國して上海南洋公學教務長に任ぜり。
民國元年入京して北京大學豫科學長に就職し曾て三等嘉禾章を給せらる。
徐君英語に長じ又社交を好み、人物圓滿にして才氣あり。年齢三十九。

徐陸 (Hsi Lu)

直隸省天津人

曾て日本、英國に留學す、宣統中上海某校々長たりしが、第一革命の時辭職せり。
氏は徐世昌の弟なり、資縁を以て官を謀らざるは欽仰すべし、年齢三十五。

徐國樑 (Hsi Kuo-liang)

直隸省天津人

前清中北洋警察學校を卒業し京津の間に警務に従事せしが、第二革命後上海開北警察廳長、淞滬警察廳長に歷任せり、而して革黨彈壓の功を以て陸軍少將に補し勳五位を授けられ、民國四年秋上海肇和號奪回の功に依り又陸軍中將に進補せらる、五年六月袁氏逝去後尙ほ革黨を壓迫せる爲め同派の反對を受けたるも六年十二月現在猶ほ其職に在り。年齢四十。

字 文言

江蘇省上海縣人

前清中上海約翰書院卒業後英國に航し「アパルト」公學を卒業して駐英公使館留學生となる、爾來駐葡公使館の三等通譯官、外務部通譯官、候補主事、長崎領事、桑港總領事、「バナマ」總領事に累進せり、六年十二月現在該職に在り。年齢四十一。

徐善梅 (Hsi Shan—mei)

字 琴芳

山東牟平縣人

光緒三十二年哈爾濱に阜升祥を創立し糧藥及雜貨商を營む、宣統三年同地商務總會議董に擧げられ民國元年中央工商會議代表に選ばる、翌二年商務總會協理兼旅哈公學々董となり、三年遂に總理兼學董及び山東同鄉會々長に推さる、此年八月山東義捐により孟督軍五等獎章を授く、同五年五月商會組織變更後擧げられて正會長となる、六月山東の義捐の功に依り六等嘉禾章を給せらる。年齢三十八。

徐善祥 (Hsi Shan—hsiang)

字 鳳石

江蘇省上海縣人

光緒三十年上海聖約翰大學を卒業し上海南洋高等學堂教員となる同三十二年官費を以て米國に留學し「エール」大學に入り化學を學び宣統元年學士號を得、嗣いで「ミシガン」大學に入學し又「エー

月現在猶ほ其職に在り。年齢四十。

徐國瑞 (Hsi Kuo—jui)

湖北省應山縣人

湖北陸軍學堂を卒業し武昌陸軍に入る、民國三年陸軍大佐に昇り五等文虎章を給せらる。年齢四十一。

徐紹楨 (Hsi Shao—chên)

廣東省番禺縣人

光緒二十年の舉人にして、前清兩江總督張之洞の門人なり、同三十一年八月江蘇省松江鎮の總兵(中將相當)兼陸軍第九鎮統制(師團長)となり同三十四年五月署理江北提督(大將相當)を兼ね、南京に在り新式陸軍を訓練し、嗣いで第九師長に任ぜられ以て辛亥革命に及べり。

當時民心已に清室を去れるを視已を得ずして南京攻撃に参加せるを深く憾みとし、南京政府成立後參謀總長、倉場總督に推されしも皆辭して受けず、終に上海に來り愛國女學校、競進會名譽會長となれり、徐氏文人にして將才あり、資性溫厚文學に造詣深く「論語質疑」を著はし世に行はる。年齢五十七。

徐善慶 (Hsi Shan—ching)

ル「理科學校試驗室助教となる、宣統二年歸國上海商務印書館編輯に、民國三年財政部化驗員に、五年長沙湘雅醫學校化學教員に歷任せり、並に定性分析、民國新教科書等の著あり。年齢三十五。

徐景文 (Hsi Ching—wên)

現任 北京

香港に生る、曾て香港聖保羅書院、上海聖約翰大學に學びしが光緒二十八年米國に赴き「ヒラデルヒヤ」齒科醫學校に入學し三十一年博士の學位を得三十二年歸國せり、三十四年廣東省商務會代表となり馬來半島に出張し、又上海保險公司經理となる、宣統三年京奉鐵路局名譽醫官に推され、現に北京及天津に齒科醫を開業せり。年齢三十二。

徐象先 (Hsi Hsiang—hsien)

字 慕初

浙江省永嘉縣人

曾て北京大學を卒業し北京高等巡警學堂教員、順天學堂教務長、郵傳部主事、江蘇省知事に歷任す、民國二年衆議院議員となりしが解散後辯護士を開業せり。年齢三十八。

徐傅霖 (Hsi Fu—lin)

字 夢巖

廣東省和平縣人

前清の副貢生にして北京國立法政專門學校を卒業し又日本に留學し法政大學法學士となれり。
歸朝後廣東按察使衙門幕友たるもの數年、嗣いで第一革命に奔走し後廣東省議會議員、臨時參議院議員、衆議院議員等に歴職す、國民黨員にして院内に重名を負へり、第一次解散後は日本に往き同志と籌畫するところあり、民國四年四月上海に歸り正誼雜誌、新中華雜誌を編輯し帝制問題發生後谷鍾秀歐陽振聲等と共和維持會を組織し、帝制反對の先聲を擧げ、復中華新報を創刊して大に筆陣を張る、五年八月國會再蘇して北上議員に復せしが未だ一年ならずして再び解散の厄に遭へり。年齡三十九。

徐華清 (Hsi Hua—ching)

字 靜瀾

廣東省長樂縣人

前清天津醫學堂を卒業し光緒十四年天津鐵路公司醫官、同十五年旅順水師水電學校教習、二十一年陸軍官醫總局總辦、民國元年北洋軍醫學堂總辦に歴任せり、又會て出使大臣戴鴻慈に隨ひ露西亞に赴くや露皇之に三等勳章を給せり。
民國成立後總統府醫官長に擢任され同五年二月軍醫總監に昇任せり。年齡六十。

徐彭齡 (Hsi P'eng—ling)

字 企商

江蘇省上海縣人

徐雋 (Hsi Chün)

字 果人

江蘇省武進縣人

前清の附生にして宣統中江蘇諮議局秘書官となり、嗣いで雲南第三礦務監督僉事、同署長代理、雲南財政廳總務科長、同巡按使署諮議官、同都督府秘書官等に歴任せり。年齡三十八。

徐勤 (Hsi Chin)

字 君勉

廣東省三水縣人

康有爲の高弟にして前二十年の頃澳門に知新報の主筆たり、光緒二十三年日本に赴き横濱華僑を勧誘して大同學校を設立し校長に推さる、嗣いで歸國し廣東に國事報、香港に商報を發行し民智開發に盡力す、又南洋歐米華僑に游説し革命を鼓吹せり。
民國成立後廣東進步黨支部の支部長となり、同二年梁啓超が司法總長となるや墨西哥公使、廣東民政長に推薦されしが辭して就かず、蓋し十年官祿を食まざるを以て自ら誇るものなり、同四五年の間香港に在り屢々難を廣東に構へ總司令と自稱せしが五年四月十二日廣東海珠島會議の時龍派の警兵に襲はれ譚學衡、湯覺頓之に死し徐君銃傷を受けたるも幸に死に至らざりき、當時香港政廳が革黨に壓迫を加ふるや澳門に移居せり。
又四年日支交渉の際に黨策上盛んに日貨排斥を唱道せり、黎元洪繼任後上海を経て入京す。年齡四十五。

前清國子監の卒業生にして日本中央大學法科を卒業し進士となる、歸朝後花翎同知銜知縣となり浙江省仁和鹽場大使に任ぜらる。民國二年司法部刑事司長に轉任し、民國四年七月中大夫を授けらる、六年十二月現在該職に在り。年齡四十二。

徐鼎康 (Hsi Ting—k'ang)

字 錫丞

江蘇省嘉定縣人

前清中北洋巡警學堂總辦、吉林巡警道同度支使に累進す、民國三年六月安徽省安慶道尹に任ぜられ民國四年三月上大夫を授けらる六年十二月現在該職に在り。

徐鼎襄 (Hsi Ting—hsiang)

字 仲謨

江蘇省嘉定縣人

民國四年三月外交部特派安徽交涉員兼蕪湖關監督となる。

徐經鄂 (Hsi Ching—fu)

字 守之

江蘇省松江縣人

會て上海南洋公學に學ぶ、光緒三十三年官費を以て米國に留學し「ペンシルバニヤ」大學經濟科に入る、宣統元年學士、同二年碩士の學位を得同三年歸國せり、嗣いで上海交通部工業專門學校教員となり民國元年同校豫科學長に任ず。年齡三十六。

徐禎祥 (Hsi Chên—hsiang)

字 星曙

江蘇省嘉定縣人

前清の直隸候補道にして水師營務處事務を兼ね民國成立後交通部總務廳秘書となり民國四年七月中大夫となる、六年十二月現在該職に在り。

徐維震 (Hsi Wei—chên)

字 旭瀛

浙江省屠甸鎮人

初め上海南洋公學を卒業し清の附生となる、光緒三十一年官費を以て米國に留學し「カリホルニヤ」大學法科に入る、同三十二年「シカゴ」大學に轉じ三十四年「インディアナ」大學に學び宣統元年法學士の稱號を得、同年歸國し郵傳部參議廳法律參訂員、郵路交渉課々長に、二年法政科舉人を授けられ學部主事、海軍部司法官、法制院辦事に歴任す。
民國成立後財政部大借款辦事、上海鎮守使署法律顧問、大理院推事、北京財政學堂交通傳習所、國立法政專門學校、北京大學教員に歴任せり、六年十二月現在大理院刑庭第一庭推事たり。年齡三十六。

徐墀 (Hsi Chih)

字 夢塘

廣東省台山人

曾て直隸唐山路礦學校に學び並に北京日報通信員となる、宣統二年官費を以て米國に遊び「イリノエ」大學に鐵路管理、工學を研究し民國元年學士號を得、嗣いで「ペンシルバニヤ」大學に入り民國二年碩士の學位を得、又「コロンビヤ」大學に經濟學を研究せり、同四年「鐵路問題」一書を著はし博士となり同五年歸國す、嗣いで京奉鐵路局員に拜命し北京に住せり。年齢三十一。

徐蔭楷 (Hsi Yin—k'ai)

字 仰剛

江蘇省大倉縣人

前清中日本早稻田大學を卒業す、光緒三十三年江南法政講習所の教員となり革命思想を鼓吹せり、兩江總督端方徐君を擧げて自治局法制課長、兩江法政學生教務長に任ぜしがその同盟會員なるを知るや即ち罷めたり、宣統二年江蘇諮議局議員に擧げられしも就かず、第一革命の際國事に奔走し、民國元年南京臨時政府成立するや司法部秘書長となれり。年齢三十七。

徐儉霖 (Hsi Nai—lin)

字 敬宜

吉林省吉林縣人

奉天に在り徐世昌の幕僚たるもの年あり、嗣いで哈爾濱鐵路交涉總局幫辦、黑龍江省警務辦理、興東、兵備道に歷任す。民國成立後黑龍江省都督府軍政署總辦となり、四年四月參政院參政に擧げられ同年五月上大夫を授けらる、六年九月臨時參議院議

員に當選せり。年齢五十三。 徐 鐵珊

徐 釁 (Hsi Nai)

字 鐵珊

浙江省餘姚縣人

前清中北京同文館日語科を卒業す、後外務部通譯となり、又日本に遊歴す、歸朝後慶親王の翻譯官、安東鹽釐局總辦、興鳳道交涉科長に歷任せしが、嗣いで實業界に入り安東華商公議會長に擧げらる。年齢四十。

徐 瑾 (Hsi Chin)

字 瀛從

廣東省人

前清中日本に留學し東京高等工業學校を卒業せり、歸國後曾て農商部諮議となり現に北京有數の大新聞北京日報の編輯長たり、七年三月北京報界赴日視察團を組織し東游す、徐君邦語に巧にして該團の交際部員に擧げらる。年齢二十九。

徐興倉 (Hsi Hsing—ts'ang)

字 子石

直隸省平鄉縣人

前清中海軍學堂を卒業し海軍部軍制司機輪科長に拜命し民國成立後海軍部參事に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐翰章 (Hsi Han—chang)

字 文林

吉林省人

前清中吉林巡警學堂を卒業す、民國二年吉林電話局總理となり、五年時宜火柴(マツチ)公司を經營し並に木材業を開けり、同地商界の活動家となす。年齢三十七。

徐樹錚 (Hsi Shu—ch'eng)

字 又錚

江蘇省肅縣人

少壯段祺瑞の文案たりしが段氏其才能を認め日本に留學せしむ、明治四十三年五月陸軍士官學校歩兵科を卒業せり。民國元年段氏陸軍總長となるや同三年五月十四日陸軍中將を以て該部次長に任ぜられ、四年六月二十六日項城帝制聲中段氏と共に辭職せり、五年六月項城卒し段氏國務總理となるに及び同月十三日國務院秘書長となりしが、當時總統府秘書長丁世燾と相争ひ同年十一月二十二日辭職せしは世人の記憶に新なるところなり、嗣いで六年夏將軍府事務廳長に任じ七月復辟戦後又陸軍次長となり十一月北洋派の内訌に依り段氏と共に又辭職し大に畫策するところあり。

徐君蓋し將來を有する軍人政治家にして且つ段門の智囊たり、目下段派の復活の爲め大に活動中なり。年齢三十六。

徐 謙 (Hsi Chien)

甘肇省導河縣人

前清中新疆省迪化道庫大使兼按司獄に任ず、民國三年十二月新疆内務司長に、四年八月中大夫を授けられ、五年一月同省政務廳長に改め、三月十七日同省喀什噶爾道尹に轉任し嗣いで辭職す。

徐 謙 (Hsi Chien)

安徽省歙縣人

民國元年四月司法次長となり、同年七月十六日辭職、五年九月又司法次長に任じ六年六月辭職せり。

徐 聲 金 (Hsi Sh'eng—chin)

字 蘭如

湖南省天門縣人

前清中日本大學法律科を卒業す、民國二年曾て湖北、江蘇の高等檢察廳長となり嗣いで四年十二月甘肅高等檢察廳長に轉任し、六年十二月現在該職に在り。

徐 鴻 賓 (Hsi Hung—pin)

字 雁山

山東省濟寧縣人

前清中保定陸軍大學を卒業す、爾來山東軍界に入り果進して陸軍少將に至り第五師第九旅長に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十六。

徐 駿 (Hsi Chün)

字 公則

浙江省杭縣人

前清中四川省資州の吏目となり民國成立後運城分行經理となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐 鏘 鳴 (Hsi Chiang—ming)

前清中曾て吉林候補通判となり嗣いて海軍交渉、發審、學務、邊務、旗務、鹽務文案の各職に歷任す、民國四年京畿執法處總長雷震春の申請に依り政事堂記録に登る。

徐 寶 彤 (Hsi Pao—tung)

字 仲賢

京兆通縣人

前清中民政部七品小京官に奉職し、民國成立後安徽賑捐委員後内務部總務廳會計科主事に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

徐 鏡 心 (Hsi Ching—hsin)

字 子鑑

山東省黃縣人

芝罘牟公學堂の創立者なり曾て日本法政大學に留學し少しく邦語に通ぜり、其日本に在るや黃興と訂交し中國同盟會を組織せり。第一革命の際革命急進黨の主謀者となり登州府黃縣を占領し、元年山東臨時省會議員に選ばれる、性爽直詩酒を好む、山東同盟會派の重鎮たり。年齢三十七。

徐 鏡 清 (Hsi Ching—ching)

福建省人

前清の舊式武官なるが第二革命後多く淘汰されたるも徐氏尙ほ留任するを得、陸軍中將警備隊統領となり本省に勢力あり、民國四年帝制反對の際浙江將軍府顧問林之夏より獨立運動の勸誘を受けたるも拒絶せりといふ。

徐 蘭 墅 (Hsi Lan—shu)

字 樹馨

江蘇省崇明縣人

光緒二十九年上海師範學堂に入り同三十三年日本に游學し早稻田大學政治經濟科を卒業し宣統三年歸國せり。

民國成立の際本縣の學務科長となり嗣いて辯護士を開業し、二年

衆議院議員に選舉せらる、初次解散後浙江省杭縣地方審判廳推事となりしが五年一月議員に復職し、六年六月又解散を経たり。年齢三十三。

徐 驥 (Hsi Hsiang)

字 策雲

浙江省杭縣人

前清の國子監卒業生にして陸軍部主事に任用せられ民國成立後陸軍部軍械司に奉職せり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

馬 小 進 (Ma Hsiao—chin)

字 退之

廣東省臺山縣人

曾て廣東法政學堂、香港高等學堂を卒業し渡米して「コロンビヤ」大學文科、紐約大學商業財政科に修業せり。氏元同盟會員にして民國二年衆議院議員となり國民黨に隸屬せしが、第二革命後脱籍し、民國三年總統府秘書、財政部秘書、稅務處幫辦に歷任す、國會復活後又議員となりしが六年六月重ねて解散せらる。年齢二十九。

馬 士 杰 (Ma Shih—chieh)

江蘇省高郵縣人

舊學の素養あり曾て京官となりしが清末資政院議員に選ばれる本省

の名望家たり。

第一革命後江蘇省副民政司に任ぜられ、第二革命後曾て籌濟江北運河工程局總辦に就職せり。年齢四十八。

馬 文 煥 (Ma Wên—huan)

字 化封

直隸省香河縣人

光緒三十二年始めて直隸省に新警察制度を施すや氏乃ち本縣の警務總董に任じ、創設に際し辦理その宜を得たり、同三十三年直隸總督の選拔を以て北洋法政專門學校紳班に入り、卒業後本縣の自治を處理し、宣統二年貢舉會考に及第し山西補用知縣として要職に歷任す、宣統三年九月大同に赴かんとするや適大原の兵變に遭ひ道路梗塞し達する能はずして歸郷せり。

民國元年香河縣高等小學校々長、勸學所長、理財所長、保衛局長に歷任す、當時管内匪賊蜂起す氏乃ち銃器を購入し民團を組織し閭閻を安んぜり、遂に民望の歸するところとなり二年衆議院議員に選舉せらる。年齢六十二。

馬 文 芳 (Ma Wên—fang)

吉林省磐石縣人

日本東京高等師範學校卒業にして宣統三年歸朝するの後奉天省の聘に應じ奉天師範學校主任教師に任ぜらる。年齢三十五。

馬太和 (Ma T'ai—ho)

字 鳴鑾

直隸省樂亭縣人

曾て奉天通江口に赴き現に同地商務會長たり。年齢三十八。

馬玉仁 (Ma Yü—jên)

字 伯良

江蘇省鹽城縣人

曾て鹽阜徐寶山の部下となり靖江一帯に出沒し私鹽を密賣せしが徐が歸順するに際し隨ふて武官に採用せられ、江蘇第十五團長、左混成旅長に累進す。

民國二年九月第二革命當時陸軍中將に任じ揚州游緝隊司令に拜命せり、六年八月劉詢免職の後を承け淮揚鎮守使となり並に江蘇陸軍第一混成旅長たり。

馬永發 (Ma Yung—fa)

字 拜冕

廣東省南海縣人

氏は原と漢軍八旗に屬し廣東水師學堂を卒業す、前清中朝鮮元山に副領事となり民國成立後尙留任し、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢四十一。

馬正乾 (Ma Chêng—kan)

四川省成都縣人

前清中法政學校を卒業し通判を以て試用せらる。

民國元年四川省樂山縣署理知事となり、嗣いて嘉定府知府を代理す、後嘉定縣知事に改められ第三期知事試験に合格し、陝西省武功縣署理知事に轉任し、匪徒を捕へて功あり六等嘉禾章を獎給せらる、同四年涇陽縣試署知事に轉任し六年十二月現在該職に在り。

馬吉樟 (Ma Chi—chang)

河南省人

前清中湖北按察使たりしが民國成立後總統府內史に任ぜらる。

馬吉笙 (Ma Chi—shêng)

安徽省懷寧縣人

前清の通判にして法政大學卒業後第一次知事試験に合格し四川省に赴任し民國三年七月德陽縣署理知事となり嗣いて同縣知事に昇任せり。

馬名海 (Ma Ming—hai)

字 仙嶠

直隸省濮陽人

を給與せらる、六年七月復辟の際甘肅提督を命ぜらる。年齢六十五。

馬式古 (Ma Shih—ku)

山東省黃縣人

光緒十七年本省の高等學堂を卒業し嗣いて鐵嶺に來りしが宣統二年義順號執事となり、民國元年華商會副會長に擧げらる。年齢四十四。

馬汝琛 (Ma Ju—chên)

字 玉航

廣東省陸豐縣人

前清中將弁學堂を卒業し日本に留學し警務を研究すること二年にして歸朝せり。嗣いて第一革命に及び鹽務公所管理より廣東都督府軍政科參事に任ぜり、氏は曾て同盟會に加入し爾來陳炯明と親交を訂し他日陳が擧兵するに方り其軍餉を補助せりといふ。年齢四十。

馬良 (Ma Liang)

字 子貞

直隸省清苑縣人

前清中北洋武備學堂を卒業し山東省の軍界に投じ聯隊長に累進せり。

初め濮陽學堂、大名府中學堂に學び嗣いて直隸高等學校を卒業す宣統二年官費を以て米國「ウイスマン」學校に入り、三年同大學に物理數學を學ぶ、民國四年學士號を得又「ロンビヤ」大學にて數學教育學を修めたり、五年碩士の學位を得、圖角三分器を發明す、嗣いて緬育高等學校に幾何學教員となりしが同年歸國せり。年齢二十九。

馬存發 (Ma T'sun—fa)

字 順雲

雲南省廣南縣人

前廣東督軍龍濟光の部下にして多年武官に歷任し、民國四年五月廣東潮梅鎮守使吳祥達死去するや其後任者として汕頭に赴任し、並に陸軍中將廣東陸軍第一混成旅々長たり、嗣いて五年三月第三革命當時其部下草肇字、陳德春等が龍に叛して獨立を主張せるを反對し、莫が同月二十七日潮陽及び潮州に獨立するに及び遂に之を討伐せしが其軍獨立軍に合し汕頭の形勢非なるに至れるを以て同三十日倉阜汕頭獨立を宣布し、仍ほ險を米國領事館に避け嗣いで海上廣東に向つて去れり。年齢五十二。

馬安良 (Ma An—liang)

甘肅省人

氏は回々教徒にして前清中軍隊に歷職し官甘肅提督に至れり。民國元年十二月陸軍中將上將銜加授となる二等文虎章二等嘉禾章

第一革命の際黃縣一帶を守備し芝罘軍の西嚮を拒ぎ功を以て少將に任ぜらる、民國成立するの移獨立第四十七旅長となり濟南に駐屯し、第三革命に方りて濟南鎮守使を兼管し嗣いで陸軍中將衛を加授せらる、六年十二月現在濟南鎮守使兼第四十七旅長たり、氏性質溫雅にして善く地方の官民と融合せり、回々教を信仰し國民黨に隸籍すといふ。年齢四十三。

馬良 (Ma Liang)

字 湘泊

江蘇省丹陽縣人

氏は舉人出身にして學界に名望あり久しく南清に講學せり、梁啓超曾て日本に在り政聞社を組織するや其常務幹事長となり、後商業に従事し復時事を談ぜず、其後第一革命起るに及び江蘇都督府外交司長に推され嗣いで政務長となる。

民國元年北京大學校長となり幾ならずして辭職し、三年三月約法會議々員、憲法起草委員等に任せられ、四年一月上大夫を授けらる氏は曾て少年にして西洋に留學し其基督教を信じ宗規を守り復娶らずといふ。年齢七十八。

馬克耀 (Ma K'o-yao)

直隸省青縣人

民國四年十一月江西贛西鎮守使となり嗣いで交代せり。年齢四十八。

馬和 (Ma Ho)

字 君武

廣西省桂林縣人

氏は廣西の大族なり、馬君武の名を以て世に知らる、六年春民國議會に於て對獨宣戰に極力反對せるは今尚ほ世人の記憶に新なるところなり光緒二十七年東游して京都帝國大學工科を卒業し又獨逸に航し、留學五年工學博士の稱號を得たり、人となり溫雅頭腦明晰工學哲學文學に亘り並に憲法を研究し各得るところあり、政籍を國民黨に置き同黨幹部たり。

第一革命の際廣東を代表し南京臨時政府の成立に盡力し民國二年參議院議員に推され、同年孫中山に隨行して東渡し當時兩國の産業連絡を主張す、嗣いで第二革命敗るや廣西に再舉を謀りて成らず、遂に日本に亡命し復獨逸に往き、民國五年五月伯林を發し丁抹米國日本を経て歸國せり、此時に當り袁氏業に死し國會再開す乃ち入京して議席に復せしも六年六月重ねて解散せらるゝに至れり。年齢三十七。

馬宙伯 (Ma Chou-po)

字 錫爵

湖北省人

前清の天文科舉人なり、資性溫厚なりと雖も復た好んで政事を談ぜり漢口政界の要人なり。

馬廷亮 (Ma Ting-liang)

字 拱宸

廣東省南海縣人

光緒三十年駐日公使館の參贊官に任ぜられ、同三十二年朝鮮京城總領事に轉任す。民國二年七月駐橫濱總領事となり、同年八月汪公使歸國に付き臨時代理公使となりしが、同三年特派奉天交涉員に轉任し、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢五十一。

馬君武 (Ma Chin-wu)

廣西省桂林縣人

馬和を參照すべし。

馬秉虔 (Ma Ping-chien)

字 益堂

直隸省人

前清の舉人なり資性尊大にして最もよく支那人の缺點を發揮し又排外思想に盛んにして事に觸れ輒ち愚民を煽動すといふ。曾て直隸省樂亭縣及び天津地方の學校に教鞭を執りしが傲慢にして儕輩に容れられず遂に七年前長春に來り同地商務總會の文案科長となれり、爾來常に小策を弄し漸く同地の官商各界に勢力を張り現今に至りては會務を專行し衆人の厭棄するところたり。年齢

前清中雲南に在りて土地測量に従事せしが偶第一革命に遭ひ歸郷す、初め共和黨に加盟し後湖北進歩黨漢口交通部長に推さる民國四年帝制聲中湖北國民代表として入京せしが雲南軍發展するに従ひ漢口の舊共和黨員を糾合し排袁を運動せりといふ、六年十二月現在宜昌沙市交涉員兼宜昌監督たり。年齢四十一。

馬忠駿 (Ma Chung-chin)

字 蕙卿

奉天省海城縣人

前清中將軍裕祿が奉天に駐するの時始めて出仕して文案となり爾來累進して奉天省寧遠州鹽務局長、同省通江口稅務局長、同營口釐金局長兼漁業局長、吉林省鹽務總局長等に歷任す。民國三年十月黑龍江將軍朱慶瀾の推薦に依り駐哈黑龍江省鐵路交涉局總辦に任ぜられたり。

氏は官場の交際に嫻らひ私財を投じて公費を補ふを吝まず、最も親露の傾向あり而して聲望亦淺からずといふ。年齢四十七。

馬官敬 (Ma Kuan-ching)

字 丹銘

山東省日照縣人

山東法政學堂を卒業し山東日報の主筆となり濟南報界に重きを爲せり、國民黨に隸籍すといふ。年齢三十六。

馬空古 (Ma K'ung-ku)

字 洗凡

奉天省遼陽縣人

前清中奉天法政學校を卒業す、六年十二月現在彈春延吉地方審判廳第二分廷署理推事たり、曾て民國五年三月上士を授けられたり。年齡四十六。

馬其昶

(Ma Ch'i—ch'ang)

安徽省桐城縣人

前清中曾て學部總務司主事案牘科長に拜命し、民國三年五月參政院參政となり民國四年一月中大夫を授けらる。

馬振理

(Ma Chên—li)

字 叔文

安徽省桐城縣人

前清の貢生にして曾て法部律學館に學び嗣いで參議廳七品小京官、主事、京師地方檢察廳檢察官、司法部主事、奉天行政公署科長福建行政公署秘書、同巡按使公署諮議、南安縣知事に歴任し、民國五年八月交通部總務廳機要科々長僉事となる、六年十二月現在同部郵政司經畫僉事たり。年齡四十四。

馬泰鈞

(Ma T'ai—chün)

字 韻初

直隸省天津縣人

士の學位を得、更に哥倫比亞大學に入り並に米國國際法學會々員同政治學會々員となる、五年歸國して米國派遣北京清華學校交換教授麥克洛氏の書記となる、六年武昌高等師範學校齋務長及教員に任ぜり。年齡二十九。

馬啓華

(Ma Ch'i—hua)

字 瑜輝

雲南省新興縣人

前清の舉人にして曾て貴州省玉屏縣知縣、赤水廳同知、大定府知府に果進し又曾て貴州善後局、釐金局、官錢局文案に奉職す。民國成立するや本省に回へり東川鑛業公司協理となりしが、民國四年十二月雲南獨立するに及び都督府諮議官に任ぜり。年齡五十一。

馬啓祥

(Ma Ch'i—hsiang)

字 心泉

雲南省新興縣人

前清中身を行伍に起し曾て候補道を以て雲南新驛團練督辦に任ぜり民國成立後同省都督府參議官、開武將軍行署諮議官に歴任せり。年齡五十三。

馬景南

(Ma Ching—nan)

直隸省博野縣人

氏性質謙讓溫和職務に忠實にして而して毫も吏臭なしとの評あり前清中曾て天津北洋大學を卒業し嗣いで米國に留學し「ハーバート」大學を卒業して「マスター、オブ、アーツ」の稱號を得たり、歸國後保定高等師範學堂に英文を教授せしが、民國二年奉天驛務稽核分所主任となり營口に赴任せり、六年十二月現在職に在り。年齡三十七。

馬紹武

(Ma Shao—wu)

雲南省河西縣人

前清宣統元年甘肅省に在り自ら軍器糧食を備へ崇義馬步第一團を組織し其後靈州の土匪を蕩掃し改めて彰武步軍各營統領を命ぜらる。

民國元年に至り蒙藏事務局より甘新兩省の調査兼宣慰事務を委任せられ同二年新疆巡按使署總務處科長、三年庫車縣知事、四年疏附縣知事署理となれり。

馬國驥

(Ma Kuo—chi)

字 紹良

上海人

光緒三十四年上海聖約翰大學を卒業す、嗣いで該校教員、松江中學校教員、上海商務印書館編輯に歴任し宣統三年復北京清華學校に入學し民國二年卒業せり。乃ち官費を以て米國に留學し「ハーバート」大學法科に學び四年碩

前清の舉人にして軍諮府製圖股班員たりしが、民國成立後參謀本部製圖課班長に任ぜらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

馬廉溥

(Ma Lien—p'u)

民國二年八月陸軍少將に任じ同年十一月中將銜を加授す。

馬殿選

(Ma Tien—hsuan)

字 俊卿

雲南省宜良縣人

前清の附生にして雲貴督標、中協、統領、鐵路上段巡防官等に歴任す。民國成立後雲南都督府參謀本部參事、都督府諮議官に任ぜり、又同省回々教徒中に於ける勢力偉大なりといふ。年齡四十九。

馬葆琛

(Ma Pao—ch'en)

直隸省高陽縣人

民國六年十二月現在陸軍第六師參謀長たり。

馬毓寶

(Ma Yü—pao)

字 孝先

安徽省人

前清の福建汀州鎮總兵馬盛明の子にして前清中安徽武備學堂並に

北洋陸軍大學を卒業し福建軍界に奉職せしが、江西巡撫馮汝驤が乃父と深交あるに因りその推薦を以て江西に轉じ九江陸軍第三十五標々統に任ぜらる。

辛亥の秋武昌義を興すや九江之に應ず、即ち九江都督に推され嗣いて江西都督吳介璋、彭程萬辭職の後を承けて就任し南昌に赴きしが久しからずして病を以て辭職す民國元年十月革命の功勳を調査し陸軍中將上將銜を授けられ總統府顧問に任ぜり。

馬福祥 (Ma Fu—hsiang)

字 雲亭

甘肅省導河縣人

前清の武科舉人にして新疆省巴理坤各地の地方總兵官に任ぜられ民國二年九月甘肅省護軍使となれり民國六年五月勳三位を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

馬肇敏 (Ma Chao—min)

字 紹戎

安徽省懷寧縣人

前清國子監卒業生にして軍諮府總務廳第四科員たりしが、民國成立後參謀本部第一局第四科員に任ぜらる、六年十二月現在同部第一科員たり。

馬維麟 (Ma Wei—lin)

り。年齡四十六。

馬聯甲 (Ma Lien—chia)

民國二年一月陸軍少將となり同年八月中將に進み署理安徽第一師長に任ぜらる。

馬隣翼 (Ma Lin—i)

字 振吾

廣東省邵陽縣人

光緒二十八年舉人に第し國史館纂修官に任ぜられ候選知縣の資格を得、更に獻金して學部總務司審定科主事兼文牘科長に進めり。民國元年九月甘肅提學使に二年三月同省教育司長に轉じ、三年一月上京教育部參事となり、六年六月又甘肅教育廳長に任ぜらる。年齡四十五。

馬麒 (Ma Chi)

舊式武官にして前清中甘肅西寧鎮總兵に至り、民國元年十月陸軍少將となり中將銜を加授せらる、四年十月甘省甘邊寧海鎮守使となり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

馬彝德 (Ma I—tê)

字 豫勤

甘肅省導河縣人

氏は回々教徒にして曾て本省の高等學校を卒業す、民國元年臨時省議會議員に、二年參議院議員に選ばる、回教徒の議員を出だす氏を加へ只二人あるのみ、而して憲法條項中孔子を以て國教をなすの案に極力反對せり、初次解散後歸郷し教徒の振興を提唱し、五年八月再び議席に就き六年六月復解散せられ六年九月復臨時參議院議員となる。

馬德潤 (Ma Tê—jun)

字 梅饒

湖北省棗陽縣人

前清の舉人にして外務部主事たりしが民國三年五月平政院第二庭評事に任ぜられ、民國四年一月中大夫上大夫銜を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り、

馬蔭榮 (Ma Yin—jung)

字 樾盦

山東省莒平縣人

前清の進士にして翰林院編修となれり、曾て留日山東學生監督となりしが歸朝後山東學務公所議長、自治籌辦處會辦、優級師範學堂、全省農會協理、山東都督府參議、高等農業學校監督、省議會議員等に歴職す。民國二年參議院議員に選ばれ嗣いて五年の間二次の解散に遇へ

字 秉心

四川省會理縣人

前清の舉人にして法部候補小京官となり民國成立後京師高等檢察廳檢察官に任ぜられ、民國四年九月上士を授けらる、六年十二月現在大理院總檢察廳檢察官たり。

馬璞 (Ma P'o)

字 太璞

京兆大興縣人

前清中資政院速記學堂を卒業し嗣いて善誘學校、東部第二學校の國文教師に歴任す、現に北京愛國報社長として令名あり、七年三月北京報界赴日視察團を組織し東游、當時該團の調査部員に擧げらる。年齡三十一。

馬鴻烈 (Ma Hung—lieh)

直隸省高陽縣人

前清中北京武備學堂を卒業し教練官、營隊官、營長連長諸職に歴任す。民國成立後陸軍歩兵少校となり、民國四年陸軍第十師第卅八團々長に昇進し十一月陸軍少將銜を授けらる。六年十二月現在仍ほ該團長たり。

馬鴻逵 (Ma Hung—ta)

字 俊卿

奉天省遼源縣人

遼源の資産家にして地方に名望あり、民國四年袁氏帝制聲中立法院議員に當選せり。年齢四十八。

馬龍潭

(Ma Lung—tan)

字 騰溪

直隸省豐雲縣人

革命以來屢々革黨に壓迫を加へ相合はざるも、地方安秩に功あり滿洲東南に於て頗る聲望ありしといふ、曾て光緒三十一年の頃孫葆璋が奉天交渉局總辦たるや該局委員となり漸次累進して奉天右路巡防隊統領に任じ鳳凰城に駐在せしが、民國三年巡防隊を改組するや東邊鎮守使陸軍中將に昇進す、六年十二月現在該職に在り。年齢五十六。

馬龍標

(Ma Lung—piao)

字 錦門

山東省人

氏支那軍界に在るもの數十年なり、前清中身を卒伍に起し累進して山東護軍使となり、山東陸軍第五師長、蒙古正紅旗副都統に歴任し現に官陸軍中將たり、又民國成立後曾て二等文虎章を給與せらる、六年十二月現在京師軍警督察長たり。

馬應彪

(Ma Ying—piao)

北京音

廣東音

廣東省香山縣人

早歲桑港に渡航し料理人を勤めたり、從つて英語に巧みなるも舊學の素養なく、好んで各種慈善事業に名を掲げ遂に一面基督教青年會員となり一面孔聖會に入會するに至れり。

十六年前歸朝し香港に在りて實業に従事し、目下先施公司の理事となり、又香邑僑商會所主房に推さる。年齢四十餘。

馬濟

(Ma Chi)

民國六年十二月現在暫編廣東陸軍第一混成旅長たり。

馬聰

(Ma Ts'ung)

雲南省昆明縣人

民國六年十二月現在雲南陸軍第四師步兵第九旅長兼第十八團長たり。

馬觀政

(Ma Kuan—chêng)

雲南省昆明縣人

曾て功を軍伍に樹て後雲南商埠清查局長、雲南普濟堂、豐備堂、義倉管理員たり。

民國成立後雲南都督府參議官兼臨時省議會議員、巡按使署諮議官

に歴任し、民國四年十二月雲南第三革命後は同省都督諮議官に任ぜらる。年齢七十一。

袁大化

(Yuan Ta—hua)

字 行南

安徽省舒城縣人

前清の進士にして江西九江道たるもの六年、嗣いで署理江西度支司より度支司となり、李鴻章の奏請に依り清河道となる、日露戰爭の時奉天東邊道として鳳凰城に在り、當時我軍少なからず便宜を蒙れり、爾來河南巡撫、邊疆巡閱大臣に歴任し、宣統三年新疆巡撫を命ぜられ第一革命後野に下り清節を全ふせり、氏は宗社黨の一人にして六年七月一日幼帝復辟の際には内閣議政大臣に任ぜられたり、現に天津に住す。年齢六十五。

袁允楠

(Yuan Yün—su)

字 仲墨

浙江省桐廬縣人

前清中國子監を卒業し法部宥恤司員外郎となり、民國成立後稅務處第一股幫辦に任ぜらる、六年九月現在山東青城縣代理知事たり。

袁永廉

(Yuan Yung—lien)

字 履卿

貴州省貴陽縣人

前清の進士にして度支部主事、山西清理財政副監理官に歴任す。

民國成立後財政部金事賦稅司第一科長兼代理司長に任ぜられ民國四年七月中大夫を授けらる、嗣いで印花稅處會辦となり、六年十二月現在財政部賦稅司長たり。

袁世範

(Yuan Shih—fan)

字 鴻鈞

河南省項城縣人

故袁世凱の族弟にして前清中安徽試用縣丞を以て安徽江橋緝私掣驗局長、江蘇鹽榆縣漕捐局長、河南開封府發審局長、拱衛軍糧餉局幫辦、潼關百釐征收局長に歴任せしが袁總統逝去後罷め去る。年齢四十九。

故袁世凱

(Yuan Shih—k'ai)

字 慰亭

河南省項城縣人

前清山東巡撫袁丙三の子にして光緒八年朝鮮事件に關し李鴻章の命を衝み京城に赴き同十九年駐韓公使として京城に館し大に敏腕を振へり、二十三年直隸按察使に轉じ翌年八月候補侍郎となる、當時天津附近小站に新軍を創練せり、二十四年戊戌の政變に裏切り志士亡命し德宗幽閉せらる、二十五年五月工部侍郎に、十一月署理山東巡撫に任ず、二十六年拳匪の亂に功あり二十七年十月直隸總督に任じ太子少保を授けらる、十二月政務大臣並に關(山海關)内外鐵路局總辦を兼ね黃馬褂を賜ふ、二十九年練兵處大臣に、三十三年八月外務部大臣及軍機大臣となる、三十四年兩宮崩じて幼

帝大統を繼ぐや太子太保に進む、此時北京の政相袁氏に利あらず十二月骸骨を乞ふ、宣統三年十月革命起り即ち起用せられ十一月内閣總理大臣となり終に三百年の清鼎を移せり、民國成立後初次の大總統に推されしが望蜀の念は竟に民黨と相善からず、宋教仁の暗殺となり、第二革命となり、議會解散となり籌安會となり、友邦の忠告を排して皇帝の位を踐む、時に民國四年十二月十三日なり、五年一月改元して洪憲と稱す、之より先き唐繼堯雲南獨立を宣言し嗣いで蔡錫等廣西四川に進攻し數月の間西南響應し形勢袁氏の非なるを以て五年二月二十三日帝制延期を申令し五月二十二日遂に之を取消せり、然るに反袁思想反て熾にして孫黃の活動、軍務院の設立、陳樹藩の獨立、陳宦の退位勸告等續出し外交特に棘手を極めたり此に於て憂憤病を成し五年六月六日前十一時溘焉長逝せり。享年五十六。

袁克瞻 (Yuan K'o—hsian)

字 仲仁

河南省項城縣人

曾て保定畿輔學堂を卒業す、前清中米、墨、秘、玖駐在公使館二書記官となり、民國成立するや外交部參事に任ぜられ民國四年七月少大夫を授けらる、六年十二月現在外交部參事たり。年齢三十三。

袁克定 (Yuan K'o—ting)

河南省項城縣人

故袁項城の長子なり日露戰爭後候補道となり奉天總督衙門に勤務し、光緒三十三年三月農工部右參議に任ぜられ宣統二年右丞に進めり、曾て日本に遊び又民國二年中獨逸に遊びしが乃父の歿後河南に退隱し復世事を問はず。年齢四十。

袁希濤 (Yuan Hsi—tao)

字 觀瀾

江蘇省寶山縣人

前清光緒二十三年の舉人にして上海廣方言館教員、龍門師範學堂教員、監督兼江蘇學務公所議紳、直隸學務公所總科長に歷任す。民國成立後教育部普通司長、教育部視學、政事堂教育諮議より教育次長に昇りしが民國五年段氏責任内閣成るに及び辭職せり、同年八月又教育次長となり編纂處長を兼ね。年齢五十二。

袁青選 (Yuan Ch'ing—hsian)

湖北省人

前清の優廩生にして日本法政大學に留學す、宣統元年黑龍江省龍江地方檢察廳檢察官、民國元年京師地方審判廳推事、京師高等檢察廳檢察官に歷任し、二年三月奉天高等檢察長となり三年六月辭職、又福建巡按使署諮議に任ず、六年二月交通部秘書となり五月免職となる。

袁金鎧 (Yuan Chin—k'ai)

奉天省遼陽縣人

前清中奉天書院の教職に在り、光緒二十六年義和團の起るや遼北自衛團練を組織し、日露戰役後遼陽巡警事務を辦理し後遼陽巡警局長に任ぜらる、嗣いで趙爾巽東三省總督たるや、援いて督署の參議となる、宣統元年には奉天諮議局副議長に、同三年には四品京堂候補に上奏せられたり、民國元年副議長を辭職し同年三月參政院參政に任ぜられ、後奉天將軍公署秘書長となる。氏は進歩黨に屬し奉天政界の有力者なり、曾て奉天巡按使に擬せられたり。年齢四十七。

袁思永 (Yuan Ssu—yung)

字 无咎

湖南省湘潭縣人

前清中日本駐在公使館參贊官兼橫濱總領事となり、外交界に令名あり歸朝後杭嘉湖道兼杭州稅關監督、民政部諮議官及軍事諮議官浙江省警察及兵備教練參謀等に歷任し軍警整理上全力を盡せり。民國元年南京軍隊解散事務官として派遣せられ、嗣て鎮江稅關監督兼同交涉員となり、成績良好の故を以て五等嘉禾章を給與せらる、同四年浙江督軍朱瑞の推薦に依り政事堂記録に登りしが、六年一月に至り職務を免ぜらる、嗣いで八月兩浙鹽運使に任ぜられ六年十二月仍ほ該職に在り並に兼任緝私營督察長たり。

袁思亮 (Yuan Ssu—liang)

字 伯夔

湖南省湘潭縣人

前清兩廣總督袁樹勛の子にして曾て舉人となり農工商部庶務司郎中に任ぜらる。民國二年十一月印鑄局長、禮制館第五類評議員となり、民國四年一月上大大夫少卿銜を授けられ、同五年五月辭職せり。年齢三十九。

袁彦薰 (Yuan Yen—hsün)

湖南省寧鄉縣人

前清中文童より楚湘の各軍に入り漸く進んで知府銜、直隸州知州となり、新疆省に赴任し車庫縣知縣に委署せられ事を以て免職せらる其後都督袁大化の申請を以て原官に復し民國三年駐阿援軍糧台委員に推薦せられ後又た試験を免じ疏勒縣署理知事に任ぜらる。

袁炳煌 (Yuan Ping—huang)

字 經凡

湖南省湘陰縣人

曾て天山南北を跋渉し游牧の事情を調査するもの數年なり、後省城の警察學校を卒業し省の幕僚となれり。民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢三十七。

袁秋生 (Yuan Chiu-shêng)

字 昆蘇

江蘇省吳縣人

前清中秀才より昇りて東三省知府に至り、令聞あり第一革命後江蘇省議會議員に推さる、人となり謹嚴にして博識、畫家袁培基の兄なり。年齢五十二。

袁書寶 (Yuan Shu-pao)

廣東省人

前清の州目より各省督撫幕僚に歴任し革命後貴州都督府秘書、雲南巡按使署總務科主任となり民國四年十二月知事に推薦せらる。

袁家驥 (Yuan Chia-chi)

河南省正陽縣人

前清中知縣を以て直隸省武衛右軍糧餉局委員となり、民國成立後拱衛軍々需處運輸長、後軍米局長となり、成績著はれたるを以て四等文虎章を給與せらる、嗣て民國四年陝西省巡按使呂調元推薦して政事堂記録に登る。

袁家普 (Yuan Chia-p'u)

湖南省醴陵縣人

前清中日本に留學し法政大學を卒業せり、民國元年五月雲南財政司長、二年六月國稅籌備處長、三年五月財政廳長に歴任し、同年八月免ぜらる、國民黨員にして故蔡鏐と相好し。年齢三十九。

袁泰 (Yuan Tai)

字 文白

浙江省杭縣人

光緒二十六年浙江武備學堂に學び、二十七年日本に留學し東京成城學校體育科に入り、二十八年明治大學政治經濟科に修學す、稍々邦語を解せり、同三十年浙江師範學堂教員となりしが、三十一年奉天留日陸軍學生監督として又日本に來れり、宣統元年奉天清理財政局彙編科長となる。

民國元年浙江財政部總務科長、同年浙江都督三等軍需官、同二年浙江水上警察廳の第三科長、三年分任奉天知事を以て派遣せられ四年奉天清丈局調査委員に同年十二月西安縣知事に任ぜらる。年齢三十九。

袁祚屨 (Yuan Tso-i)

貴州省修文縣人

前清の監生にして獻金して分省同知となる、光緒二十八年直隸南部の土匪討伐に功あり分省知府に補せらる、同三十一年北洋將弁

學堂設立の功を以て分省道員に進み、三十三年日露戰爭に當り嚴正中立を守りたるに依り軍機處記録に登り、並に奉天省内貧民救助の功を認められ二品銜を加へらる、爾來北洋督署文案、武備司正參議官、奉天駐津後路轉運局總辦、天津習藝所會辦、官報局總辦、禁烟局總辦に歴任す、又曾て礦務調査の爲め黑龍江漢河地方に出張し、又山西山東に巡視せしことあり、宣統三年五月署理奉錦新山海關道員に同十一月營口道臺となる。

袁啓瑞 (Yuan Chi-jui)

河南省南陽縣人

前清の學人にして優等を以て直隸法政學堂を卒業したり、嗣いて河南法政學堂教務長、兼優級師範學校教習、南陽縣教育會長となり、宣統年間保府發審局委員、交河、東光各地の鹽務委辦を命ぜらる、民國元年歸郷して第四選區視察員、二年南陽總鎮執法官、南陽城防局長に歴任し、同三年第三期知事試験に甲等合格し同四年九月新疆省溫宿縣署理知事に任ぜらる。

袁弼臣 (Yuan Pi-chên)

字 朝佐

四川省長寧縣人

曾て四川師範學校、北京法律學堂を卒業し又前清の拔貢たり、第一革命後南京臨時政府の内務部禮教局科長となり民國二年衆議院議員に當選せり。年齢四十六。

袁景熙 (Yuan Ching-hsi)

字 光泗

山東省濟寧縣人

前清中連りに志を科擧に得ず附貢生より嶺南尚志學堂校長に任ぜらる。光緒二十四年新政を條陳せるに依り山東巡撫に登用せられ巡撫衙門文案となり、同二十五年曹縣書院々長に、二十六年山東右路防軍總文案兼營務處出仕に歴任し、同二十七年善後十八策を北洋大臣に上陳し、保定府に派遣せられ兵備處文案提調に補し、嗣いて北洋財政局提調に任ず。

民國元年山東都督府政治顧問兼秘書となり、又山東統一黨及び共和黨支部長に推され、同二年衆議院議員に當選せり、初次國會解散後塞北關監督塞北釐稅徵收局長に拜命し、嗣いて帝制に賛成せざるの故を以て免職せらるといふ。年齢四十六。

袁華選 (Yuan Hua-hsian)

字 士權

湖南省新化縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校騎兵科を卒業す、前清中湖南新軍に歴任し、第一革命後第十旅長となる、六年十二月現在參謀本部第四局長たり。年齢三十七。

袁嘉穀 (Yuan Chia-ku)

字 南畝

雲南省石屏縣人

前清中浙江提學使となり、又留日雲南學生監督となり、本邦に滞留せり、民國成立後國務院顧問となり、二年參議院議員に選ばれる、嗣いて雲南都督府顧問官兼參議並に團保局會辦となる。現時雲南督軍唐繼堯以下各要路の大官、多く氏の在日中その監督の下にありたることあり。故にその尊敬を受くといふ。年齢四十五。

袁鳳曦 (Yuan Fêng-hsi)

字 烈青

湖北省咸寧縣人

民國三年六月署理安徽高等檢察長に、五年十二月實任となる。

袁毓慶 (Yuan Yü-lin)

字 文敷

浙江省杭縣人

民國六年十一月甘肅財政廳長兼官銀錢局監理官となる。

袁鍾祥 (Yuan Chung-hsiang)

字 麟伯

江蘇省江寧人

前清中法政科舉人となり、民國二年上海地方審判廳長に任ぜらる。年齢四十三。

袁鍾銓 (Yuan Chung-ch'ian)

字 叔衡

江蘇省江寧縣人

上海地方審判廳長袁鍾祥の弟なり、初め浙江高等學堂、順天高等學堂に學び、宣統元年官費を以て米國に留學し、「ウエヌンヤン」學校に入り、宣統三年「マ」州工業學校に電氣工學を學び民國四年「コルゲート」大學に入り同五年學士號を得て歸國す、現に杭州に住す。年齢二十八。

袁翼 (Yuan I)

浙江省人

前清の舉人にして學部に奉職し民國成立後農商部第八區礦務監督署技正に任用せらる。

袁齡 (Yuan Ling)

字 夢九

廣東省南海縣人

曾て香港「クインスカレッジ」を卒業す、嗣いて同校教員、船政司總翻譯、英國辯護士翻譯、京奉鐵道局洋務處總翻譯、津浦鐵道浦口辦事處長に歴任す、民國三年交通部路政司長に任ぜらる。年齢

高士儻 (Kao Shih-pin)

字 燕儒

直隸省天津縣人

北洋陸軍學堂及び陸軍豫備大學校を卒業して後直に吉林第二十三鎮參謀官に任ぜられ次で參謀長に進み、更に安佐將軍公署高級參謀及び軍械局長に歴任して陸軍少將に昇り、又吉林督軍公署參謀長となる、民國六年十月督軍孟恩遠の免職命令發せらるゝや吉林軍民之を不當とし獨立を聲明して不穩の兆を呈せしかば政府は遂に讓歩して督軍の轉職を中止したり氏と妻其勳とは實に此の運動の中心たりき、六年十二月現在吉林扶農鎮守使たり。年齢三十一。

高允中 (Kao Yün-chung)

直隸省樂亭縣人

長春附屬地に協和棧を經營し同地商業界の雄たり。年齢五十七。

高而謙 (Kao Êrh-chien)

字 子益

福建省長樂縣人

前清の舉人にして光緒三十四年八月外務部右丞に任ぜられ、同三十四年二月雲南省鹽安開廣道に、同月雲南交涉使に宣統元年劃界大臣に任ぜられ清佛交渉の任に當り、翌二年七月外務部左丞に昇

り、同三年四川布政使に轉ず。

第一革命起り遂に辭職して上海に栖隱せり、六年七月幼帝復辟するや氏を外務部右侍郎に任命せり、六年十二月現在外交次長たり。年齢五十六。

高仲和 (Kao Chung-ho)

字 重源

湖北省棗陽縣人

前清中日本に留學し早稻田大學法科を卒業し歸朝後黑龍江陸軍學堂正教習となりたり。第一革命の際は南歸して湖北民政部參事となり、又宣城棗陽隨州地方に北征し功あり、民國成立後湖北民政部僉事に任ぜり、民國二年參議院議員に選舉せられ、第一次解散後帝制問題發生するに及び上海に赴き民信報民意報等に筆陣を張る、六年十二月現在内務部編譯處專任編譯員たり。年齢四十一。

高步瀛 (Kao Pu-ying)

字 闡山

京兆霸縣人

光緒甲午科の舉人にして曾て畿輔大學、直隸優級師範學堂の教員となり、後日本に留學を命ぜられ某校師範科を卒業せり、歸國後直隸學務處省視學、直隸優級師範學堂に教鞭を執り嗣いて學部の主事に任ぜらる。

民國成立後教育部僉事、社會教育司長に昇進し、民國五年帝制中

中央選會より碩學通儒議員に擧げらる、六年十二月現在社會教育司長たり。年齢四十五。

高佐國 (Kao Tso—kuo)

湖北省人

明治四十年十二月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、並に邦語に熟練せり歸來軍界の要職に歴任し、第一革命の時は湖北第一師長たり。年齢三十九。

高松如 (Kao Sung—ju)

字 佑諸

直隸省清苑縣人

宣統二年直隸銀行總辦より湖北勸業道に轉任す、民國成立後兩湖官銀錢局事務督辦兼湖南銅元廠事務會辦となり、四年湖北礦務督辦を兼任す、六年十二月現在兩湖官銀錢局事宜、兼武昌造幣分廠會辦、湖南銅元廠事宜並に督辦湖北官礦事宜たり。

高秉貞 (Kao Ping—chên)

字 繩之

應東省澄海縣人

前清の舉人にして道員の官を有するも任官せず、多年汕頭商界に勢力あり、曾て汕頭商務總會總理に推さる。第一革命の際汕頭民政長に推され地方公安維持の爲め私財を以て

高祖佑 (Kao Tzu—yu)

陝西省米脂縣人

拔貢出身にして前清中北京外城巡警總廳司法處僉事となりしが、民國成立後同處長となりたり、六年十二月現在護軍管理處司法科々長たり。

高家驥 (Kao Chia—chi)

字 季詰

黑龍江省巴彥縣人

清末北京法政專門學校法律科を卒業するの後日本に留學し法政大學を卒業せり。

民國元年臨時參議院議員となり、嗣いで同二年參議院議員に擧げらる、氏は進歩黨に隸籍し又憲法起草委員に擧げられ所謂天壇組に屬す、然るに他日帝制問題起るや豹變して洪憲を謳歌せりといふ。年齢四十。

高凌漢 (Kao Ling—han)

字 仰雲

浙江省澄海縣人

舊學に通じ又少しく英語を解す、前清中多年閩浙總督府の文案となり、知府の格を得、並に漸次府内に勢力を占め世人其の横恣を責むるに至れり、郵傳部大臣陳璧地方を巡視し京に返へり彈劾し

補助するもの三十萬元、人その徳を稱せり、今や同地にて銀行業(商號嘉發)豆粕製造業(商號綿發)米穀業(商號有發)を營み並に水道公司、電燈公司の總理となり、此外澄海(浙江にて綿布業(商號振發)香港にて南北貨店(商號文發)を經營し日々に起色ありといふ、高氏蓋し汕頭第一の巨賈資産三四百萬に達せり。年齢五十二。

高尚志 (Kao Shang—chih)

字 固群

湖北省巴東人

前清中湖北陸軍特別學堂を卒業し湖北陸軍の小隊長に任ぜらる、爾來軍界に歴任し第一革命の時は陸軍中將湖北禁衛師長たり、嗣いで該隊解散さるゝや鄂岸糧運局長となり、第二革命に方り北京に招かれ總統府軍事參議官に拜命せり、民國四年十二月雲南獨立するや上海に走り五年三月漢口に來り討袁を計畫す。高君素と黎元洪氏の乾兒にして共和黨に屬す。

高种 (Kao Chung)

字 子來

福建省閩侯縣人

光緒三十三年日本に留學し法政大學を卒業す、歸國後法部主事となり資政院秘書官となる。民國成立後法制局參事、大理院推事、民國三年三月山東高等審判廳長に歴任、六年二月大理院民庭推事となる。年齢三十六。

遂に革職せられたり、爾來汕頭に居をとし官民の間に令名あり、第一革命の時梁金蒸、高立村の後援に依り汕頭民政長たらんとせしが遂に熄む。年齢六十一。

高凌壽 (Kao Ling—wei)

字 澤奮

直隸省天津人

舉人出身にして光緒三十四年湖南提學使に、宣統二年同省布政使に昇進す、三年春間官を辭し第一革命に方り難を上海に避けたり、氏は學識あり時務に通じ温厚篤實の士なり、後共和黨の幹事となる、六年九月臨時參議院議員に選舉せらる。

高峻峰 (Kao Chün—fêng)

字 秀山

直隸省天津人

曾て北洋陸軍學堂を卒業し七八年前吉林教練所科員となり、騎兵團教練官、輜重兵營長、第三混成旅歩兵第一團長に歴任す、陸軍歩兵中佐たり。年齢三十七。

高崱瑾 (Kao Lun—chin)

字 季瑜

江蘇省南京人

曾て南京金陵大學を卒業し南京米國領事館翻譯員、南京陸軍學校教員となる、宣統元年官費を以て米國に留學し「ミシガン」大學に

入り民國元年學士號を得、同三年「ペンシルバニヤ」大學に商業財政を修め、四年碩士の學位を得留米賠款官費學生會々長となり又鐵路管理法を實習す、五年歸國し交通部主事に任じ、六年十二月現在郵政司稽核科長主事たり。年齢三十一。

高培德 (Kao Pei-té)

民國六年六月署理廣西田南道尹に任ぜらる。

高景祺 (Kao Ching-ch'i)

字養祉 河南省人

袁世凱直隸總督時代家庭教師に聘せられ、頗る其信任を蒙りたり、民國成立後山東民政長を命ぜられ、民國二年總統府内史處内史となり、同四年八月上大夫少卿銜を授けられ、六年八月國務院秘書に任ぜらる。

高翔 (Kao Hsiang)

字集安 江蘇省無錫縣人

前清の舉人にして吉林省敦化縣知事新城知府寧安知府となり民國成立後吉林省政務廳長に任ぜらる、六年八月免職。年齢四十九。

高雲寬 (Kao Yün-k'un)

字芷玉 奉天省遼陽縣人

奉天警務學堂卒業後警察教習、安東巡警副官、通化縣漂木局委員、水警分局長、安東縣警務長に歴任し、民國二年安東縣警察廳長に昇る、六年十二月現在該職に在り。年齢三十五。

高雲麟 (Kao Yün-lin)

字白舛 浙江省杭縣人

前清の舉人にして曾て候選道たり、杭縣の紳士なり。年齢六十四。

高登鯉 (Kao Têng-li)

字魚門 福建省順昌縣人

前清の舉人にして曾て府縣教官となり、福建の教育家として令名あり、宣統中福建諮議局議員に擧げられ嗣いで議長に推さる、民國成立の際民政司長となり、六年九月臨時參議院議員に選舉せらる。

人となり率直人格高潔、思想穩健、政黨に關係せず、劉崇佑、陳之麟等その親友なり。年齢五十一。

高楫五 (Kao Chi-wu)

高增爵 (Kao Tsêng-chieh)

字少農 陝西省米脂縣人

前清中舉人より内閣中書となり、四川省に派遣せられ巡警道に任ず、第一革命の時陝西に歸り推されて民政長に任ず。高氏人となり深沈、事を處する精緻にして明晰なり、民國三年五月參政院參政に擧げらる。

高鳳城 (Kao Fêng-ch'êng)

字鳴岐 山東省膠縣人

北洋陸軍參謀學堂卒業後吉林省にありて巡防隊管帶、統帶たりし事数年會々新軍組織に際し四十五旅長に任ぜらる、民國四年八月又組織變更あり次で混成第二旅長となり兼ねて延運鎮守使たり官陸軍少將に進む、六年十二月現在該職に在り。年齢五十一。

高鳳德 (Kao Fêng-té)

字懿臣 安徽省合肥縣人

前清の候選道にして浙江杭縣の通益公紗廠總理となる、民國三年通益公組織を變更し、鼎新紗廠となすに及びその顧問役となる。年齢五十八。

吉林省阿城縣人

曾て吉林城内の某藥舖に修業し民國元年哈爾濱傅家甸に永德堂藥舖を開設せり、現に傅家甸商務總會の總理となる。高君地方公益事業に盡力し官商兩界に名聲あり。年齢四十八。

高逸 (Kao I)

江蘇省長沙人

前清中北洋海軍學堂を卒業し又日本に留學し海軍兵學校を卒業す嗣いで駐日公使館隨員歐洲留學生總監督となり、民國四年總統府外交諮議に任ぜらる。

高增融 (Kao Tsêng-jung)

字仲昭 陝西省米脂縣人

光緒十五年の進士にして戸部の主事となり爾來順天鄉試受卷官、江南四川兩司正主稿、則例館纂修に歴任し、同三十二年田賦司々長、總計處總辦、湖廣銅元局總辦、造幣鄂廠會辦、甘肅清理財政監理官等に奉職せり。

辛亥の秋西安響應し隴秦の境戰爭激烈にして死傷多し、氏乃ち赤十字會を組織し兩軍の救済に従事せり、嗣いで衆議院議員に擧げられ爾來二次の解散を経たり、六年九月臨時參議院議員となる。年齢五十五。

高福廷 (Kao Fu-ting)

字全五

奉天省西豐縣人

民國三年西豐商務會の副會長となる、現に拘鹿に住し材木商を営み商界に稍々勢力を有す。

高爾登 (Kao Erh-teng)

字子白

浙江省錢塘人

曾て上海約翰書院を卒業し後日本振武學校を卒業す、當時東京に在り同盟會に加入し、第一革命後浙江財政部長、財政司長、浙江銀行總理に歷任す、高君蓋し杭州の名門にして家産豐に州に名望あり、故陳其美と親交あり、辛亥の秋共に上海機器局を襲ひ、高君敢死團長に任じ遂に功を奏せり、但し性酒色を好み浮滑にして賤劣なる人物なりといふ。年齡三十二。

高維嶽 (Kao Wei-yao)

奉天省錦縣人

民國六年十二月現在陸軍第二十七師署理參謀長たり。

高蔭藻 (Kao Yin-tso)

前清中北京内城巡警總廳に奉職し革命後曾て北京内城左一區警察署警佐に拜命せり。

高鴻飛 (Kao Hung-fei)

吉林省長春縣人

前清の舉人にして文學に長ず、曾て獻金して知府となり長春府下四郷巡警局長に任ず、素と共和思想を抱き第一革命の際奉天長春に在り響應せんとせしが皆成らざるなり。人となり輕躁傲慢にして爭氣あり、曾て董事會董事、長春日報主筆、土木請負業を營み現に長春に住せり。年齡四十五。

高蘊杰 (Kao Yün-chieh)

江蘇省泰來縣人

監生出身にして前清中海防費に捐金して縣丞の資格を得、嗣て知縣に推薦され永定河工事を監督し成績あり、後直隸州知州に進み邯鄲、新河、固安等の知縣代理に歷任す。

民國四年七月察哈爾都督の推薦に依り興和縣署理知事に任ぜらる。

孫乃祥 (Sun Nai-hsiang)

字瑞丞

奉天省瀋陽縣人

宣統元年の優貢生にして直隸補助知縣となり自治研究所を卒業し

字際唐

安徽省合肥縣人

曾て日本に留學し長崎高等學校を卒業せり、當時民國成立して安徽都督府參事官、同府高等顧問官、安徽殖邊銀行創立事務所副辦、皖報館總經理等に歷任せしが民國二年參議院議員となり嗣いて屢次解散せらる。年齡三十七。

高魯 (Kao Lu)

字曙青

福建省長樂縣人

曾て福州船政學校製造班を卒業す、後白耳義「ブラッセル」大學に入り工科學士の稱號を得たり。民國成立後中央觀象臺長に任ぜられ、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

高彝 (Kao I)

陝西省長安縣人

前清中甘肅省寧翔縣知縣となり、革命後曾て同省慶陽縣知事となりたり。

高懋賢 (Kao Mou-hsien)

江蘇省江陰縣人

て、諮議局議事課員省議會秘書長に歷任す。民國二年に至り參議院議員に擧げられしが爾來二次の解散を経たり。年齡四十二。

孫士珍 (Sun Shih-chên)

字雅齋

直隸省天津縣人

吉林第二十三師騎兵團副軍醫官、吉林都督府軍醫課一等課員、第三混成旅軍醫官に歷任し、嗣いて鎮安左將軍(孟恩遠)署軍醫課長に任ぜらる。年齡五十四。

孫文 (Sun Wên)

字逸仙

號中山 廣東省香山縣人

孫氏は蓋し支那革命の母なり、孝欽垂簾清威尙ほ熾んなるの日、夙に革命を倡道し國事に奔走するもの二十年、屢危地に處し具に困苦を嘗む、終に克く三百年縣歴の清室を移し五千載未曾有の鴻基を闢けり、赫奕たる勳功中山に推さずして將誰にか歸せんや、然るに大功成るの日事願と違ひ政權武人に歸し、號して民國と稱するも民權何處にか在る、江寧の役以來名聲漸く微にして今やその徒を率ゐて南海に零丁せり、人生の不遇中山に至りて極れりと謂ふべし矣。

孫氏生れて而して貧、歲甫めて十三私塾に通學し既に頭角を顯はせり、當時長髮賊の巨魁洪秀全其將楊秀清の事績を聽講し私に感

憤するところあり、氏が他日革命を遂行するもの實に此に胚胎す嗣いで家兄に頼り海を航して布哇に赴き彼地基督教學校に學び又深く該教を尊信せしが其兄耶蘇を思むに因り竟に相合はず又故郷に歸へる、時に歳十六なり、その後廣東中西醫學校、香港醫學校に學び卒業後醫を澳門に行ひ浸くその名を知らる、此より又去つて廣東に赴き醫に託して革命を鼓吹し、自ら革命の傳道主を以て任ぜり、嗣いで入京して李鴻章の邸に詣り清廷の腐敗滿人の横暴を説き革命の免かるべからざる所以を力陳せしが用ふるところとならず、後幾くならずして光緒二十年日清戦争起り清軍到るところ皆敗る、此に於て革命實行に着手し、同二十三年秘密結社中興會を組織し同志を糾合して事を企てしが、期に先ちて謀洩れ遂に英國に亡命す、其後再び廣東惠州攻撃に敗れ又歐米を歴て日本に赴けり、當時東京に於て革黨の名士黃興、章炳麟、陳天華、劉揆一、宋教仁等と締交し、中華同盟會を組織し推されて會長となる、此に於て各派の運動始めて統一さるゝを得たり、此より又日本を辭し歐米華僑の間に遊説せり。

如此して革機大に熟し辛亥の秋十月十日武昌首として義旗を掲げ檄を全國に飛ばすや、月餘響應するもの十三省、時に消長なきにあらずと雖も大勢革命に利あり、乃ち米國より還へり初め上海に據り推されて大元帥となる、越えて民國元年一月南京に臨時政府を組織し國號を中華民國と定め臨時參議院を召集し、又推されて臨時大總統となる、此に於て孫中山の名兒童走卒も知らざるなく盛名四表に輝けり、遂に南北議和を策し清帝を退位せしめしがその善後策猶ほ徹底せざるもの多く、袁氏をして臨時大總統となせ

しは實に民黨千秋の恨事たりしなり。同年八月北京に入り袁氏と會見し全國鐵道事宜を委ねらる、然るに二年三月宋教仁上海に於て袁氏の刺客に斃ふるゝに及び民黨の憤恨一時に爆發し竟に第二革命となる、嗣いで湖口南京皆敗れ領袖相率ひて日本に奔り更に中華革命黨を組織し機を相て袁氏を推倒せんとす、然るに氏が革命の動機排滿の始まり遂に同族相殘に終らんとす、名に於て稍充實せざるを憾まずんばあらざる也、四年中帝制問題起り十二月西南義を倡するに及び居正を山東に、陳其美、許崇智を上海に、宋執信、鄧鑑を廣東に、石青陽を四川に、其他湖北湖南に各黨員を派し、倒袁に力めしめしが成功の稱すべきものなし、所謂第三革命の功孫氏實に興らざるなり、六年五月對獨宣戰に反對し、七月段氏復活後益中央に抗命し、章太炎、李烈鈞等と海道廣東に奔り、非常國會を開き軍政府を組織し大元帥に推されたるも兵權屬するなく空しく邊海に彷徨せり憫むべきかな、然りと雖も天下百年の後平心民國の史を論ずるものあらば誰か逸仙の功を逸せんや、中國四萬々人、主義と共に興敗して貳はざるものそれ中山乎(參照黃興傳)。年齡五十餘。

孫文明 (Sun Wen-ming)

字 雲鄉

直隸省天津縣人

前清時奉天城內夏召號にありて經濟界の事を實習し、民國元年交通銀行に聘せられて哈爾濱交通銀行管事となり支店長の職を務む。年齡四十二。

孫元方 (Sun Yuan-fang)

字 景西

安徽省壽縣人

孫多祿の甥なり、光緒二十九年米國に留學し「ウエスレヤン」學校理科に學ぶ、同三十二年「マ」州工業學校礦科に入り、又宣統元年「アラウン」大學に銀行學を修め民國元年學士號を得て歸國す。此年北京中國銀行監理官となり爾來漢口中國銀行副支店長、財政部幣制委員會委員、財政部官產處駐漢委員、上海阜豐麵粉公司總理に歷任す、又會て五等嘉禾章を給せられたり。年齡三十四。

孫玉亭 (Sun Yu-ting)

字 調元

奉天省新民縣人

第一革命の時滬軍北伐軍參謀長となり、南北統一會總會長に任ず、嗣いで雲南講武學校砲兵科長、雲南陸軍砲兵第一團長、歩兵第一旅長等より第三革命後雲南都督府參謀廳第二部長に至れり。年齡三十二。

孫日溫 (Sun Yieh-wen)

字 文山

山東省牟平縣人

氏は芝罘の豪商にして同地製絲廠恒興徳の店主なり、從來商務總會、商業銀行、廣仁堂の理事となり、民國五年同地にて日本觀光團を組織し商業視察の爲め東游せり。年齡六十四。

孫永安 (Sun Yung-an)

字 竹青

雲南省昆明縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校砲兵科を卒業す、歸朝後湖北第三中學校教官、雲南講武學堂教官、庫倫兵備處幫辦、騎兵團長、獨立機關銃營長に歷任す。

孫世杰 (Sun Shih-chieh)

字 俊之

貴州省銅仁縣人

光緒二十九年優貢生となり日本に留學し師範學を修め卒業歸國せり、其後貴州公立中學校、優級師範學校、開封法政學堂、北京女子師範學校、教育部主事學に歷職したり。民國二年衆議院議員に擧げられ初次解散後は復教育に従事せり、六年九月臨時參議院議員となる。年齡四十六。

孫世偉 (Sun Shih—wei)

字 叔仁

浙江省紹興縣人

民國六年十二月現在河南政務廳長たり。

孫多祺 (Sun To—chi)

安徽省壽縣人

前清中河南省蔡陽縣知事に任ぜられ、民國成立後祥符、商水、武陟、豐等各縣に署理知事となり民國四年八月江蘇巡按使齊耀琳の推薦に依り試験を免じ豐縣知事に昇任し、六年五月免職せらる、其後鳳陽關署理監督となりしが同年七月復免ぜられたり。

孫多森 (Sun To—sen)

字 蔭庭

安徽省壽縣人

前清の貢生にして初め上海文報局幫辦となる、光緒二十七候補道に昇任し、上海商務總會協理、京師勸工陳列所名譽贊助員、直隸商務議員、北京水道公司協理、憲法研究所副長、啓新セメント公司協理に任ぜられ、嗣いて袁氏直督時代に至り直隸工藝局總辦、楊氏時代直隸全省工藝總局督辦、灤州官礦公司協理、漁業公司監督となり、後南京に赴き南洋勸業會々董、同會參議員、井陘礦務總局總辦、宣統元年直隸勸業道に補せられ第一革命の際には唐紹儀に隨

孫兆暖 (Sun Chao—nuan)

四川省新寧縣人

明治三十八年日本に留學し陸軍士官學校を卒業せり、歸朝後四川軍界に入り標統となり、第二革命後本省第三鎮統制官に昇進せり。

孫武 (Sun Wu)

字 堯卿

湖北省夏口縣人

氏は革命の過激派なり、前清中岳州防營隊長となり後官を辭して日本に遊び留まるもの三年専ら革命志士の間を往來し大に劃策するところあり宣統三年武昌舉義は専ら氏の企圖に出づといふ。嗣て革命軍軍務部長となり大に所信を實行せしが、遂に舊軍人派の喜ぶところとならず職を擲ちて民社を組織し武漢支部長となれり、嗣て民國三年獨逸に派遣せられ軍務を調査し歸國後同年十二月義威將軍に任ぜられ將軍府に列す。年齡四十一。

孫孝詔 (Sun Hsiao—chi)

字 士頤

浙江省杭縣人

光緒二十八年駐米公使館三等參贊、同三十年駐在秘魯公使館二等參贊、代理公使、同三十一年香港總領事、宣統二年「マニラ」總領事に歴任し、宣統三年橫濱總領事に任ぜられしも赴任せず民國元

行して上海に赴けり。

民國元年安徽勸業司長、二年民政長兼都督となり三年五月參政院參政に轉任す、六年六月三十日中國銀行總裁、同年七月二十一日辭職、後全國農工銀行籌備處籌議員に擧げらる。年齡五十一。

孫多鈺 (Sun To—yü)

字 章甫

安徽省壽縣人

前中國銀行總裁孫多森の弟なり、光緒二十五年米國に留學し「カーネル」大學に土木工學を修め、宣統元年卒業歸國す、即ち吉長鐵路副工程師、同三年吉長鐵路局長、民國三年甯湘鐵路局長、五年滬甯鐵路局長兼株欽鐵路局長に歴任す、現に上海に住せり。年齡四十。

孫百斛 (Sun Pai—hu)

字 鼎臣

奉天省人

前清光緒己丑年進士に登第し増祺の奉天將軍たりし時善後局總辦並に奉天商務會總理に任ぜられ、未だ一年ならずして東三省官銀號總辦となる、宣統三年諮議局議長に擧げられ、民國元年趙督軍の下に奉天布政使に任ぜられ趙奉天を去ると共に辭職す、後再び奉天省商務會總理事の職に就きしが、今又張作霖に任ぜられて其の秘書たり。年齡五十七。

年辭職せり、孫君は前外交總長汪大燮の親戚にして本邦に來遊すること二回に及べりとす。年齡四十九。

孫其昌 (Sun Chi—chang)

字 鍾武

奉天省遼陽縣人

滿洲人なり、前清附生より東京に留學し宏文學院豫科、高師師範學校を卒業せり、歸國後遼陽師範學校々長、奉天商業學校長に歴任し、民國四年項城帝制聲中國民議會議員に推さる。年齡三十餘。

孫金章 (Sun Chin—chang)

字 未詳

奉天省蓋平縣人

前清の附貢生出身にして河南省孟縣知縣となる、民國成立後同省署理商邱縣知事に任じ、六年十二月現在同縣實任知事並に署理許昌縣知事たり。

孫昌烜 (Sun Ch'ang—hsuan)

字 宇晴

江蘇省崇明縣人

前清中國子監を卒業し外務部庶務司主事に任ぜられ、民國成立後曾て駐西公使館署理二等秘書たり。

孫松齡 (Sun Sung—ling)

直隸省人

前清の舉人なり日本に留學して法律を研究し歸朝後獻金して道尹候補となり、天津自治局參議、山東調查局科長、法政學校監督等に歴任し、民國四年十一月京兆自治籌辦所長に委任せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

孫恒謙 (Sun Hêng—ch'ien)

奉天省柳河縣人

奉天師範學校卒業生にして柳河縣教育公所長に任ず。年齢四十。

孫恒 (Sun Hêng)

字慕潮

浙江省杭縣人

曾て浙江高等學校を卒業し後北京大學に入る、宣統二年官費を以て米國に留學し「エール」大學に經濟政治學を修め民國二年卒業す又「ハーバード」大學に商業管理法を研究し、同四年碩士の學位を得、同年歸國し北京中國銀行稽核員、北京中華大學商業教員、通惠實業公司顧問、國防編輯等に任ず。年齢二十五。

孫星煜 (Sun Hsing—yi)

山東省蓬萊縣人

前清の進士にして湖北省枝江縣知縣に任ぜらる、民國成立後同省年縣知事なり、驗契稅徵收に功あり五等金質單鶴章を給與せらる、六年十二月現在同省孝感縣署理知事たり。

孫洪伊 (Sun Hung—i)

字伯蘭

天津人

孫氏は天津の豪家なり宣統三年國會速開運動に成功し名を馳せたり、第一革命後湯化龍と共に民主黨を上海に組織し政海に活動せり、民國元年衆議院議員となり國會解散後は上海に在り常に袁氏に反對せり、五年七月教育總長となり内務總長に轉じ爾來政界は紛擾に紛擾を重ね遂に辭職するの已むを得ざるに至れり、氏人となり操守堅固氣宇高邁威武に屈せず富貴に淫せられず滬上の陋巷に閑臥して氣焰虹の如く孫中山の信望衰へたる今日氏は南方民黨の領袖たり。年齢四十七。

孫衍芹 (Sun Yen—ch'in)

字樂齋

山東省蓬萊縣人

幼にして商業を習ひ十七歳の時營口に至りて實業界に入る、居る事三年經驗する所多し次で安東に赴き東泰恒棧貨絲棧を開設し、勤儉力行遂に今日の成功を贏ち得たり、現に公舉されて安東縣總商會副會長たり。年齢四十七。

孫晉陞 (Sun Chin—pi)

山西省人

前清の舉人にして曾て大學堂に入り西學を専攻し山西省の學界に頗る貢獻するところありたり。

民國成立後同省平定縣代理知事、教育司秘書、行政公署教育司科長、行政會議長等に歴任し、嗣て同省都督閻錫山及民政長陳鈺の推薦を經巡按使署教育科主稿兼主任となり、復巡按使金永の推薦に依り北京教育部に任用せらるるに至れり。

孫烈臣 (Sun Lieh—ch'ên)

字占熬

奉天省黑山人

身を卒伍に起し累進して陸軍少將となり、奉天前路巡防帶管を歴て陸軍第二十七師第五十四旅長となる、更に陸軍中將銜に進み二等文虎章、四等寶光嘉禾章を授けらる、六年十二月現在第二十七師長たり。年齢四十七。

孫起 (Sun Chi)

字雲峰

奉天省懷德縣人

中年に至り儒を捨て、商に就き宣統元年公主嶺に來りて三盛棧糧棧を創め、貿易を業として遂に今日の盛況を致す、現に擧げられ

て公主嶺商務總會總理たり。年齢五十一。

孫啓濂 (Sun Chi—lien)

字吉臣

湖北省漢陽人

初め文華大學、聖約翰大學に學び宣統元年米國に留學し「クック」學校に入る、同二年「サイロクス」大學に法律を學び民國三年卒業す同年歸國し六年總統府翻譯員となる。年齢二十七。

孫啓椿 (Sun Chi—ch'un)

字吉臣

江蘇省南京人

前清の舉人にして舊學に精通し又稍々英語を解せり、曾て崇文學堂校長となり教育會長を兼ね、六年十二月現在江蘇官產處會辦たり。年齢五十。

孫國安 (Sun Kuo—an)

字吉臣

湖北省黃岡縣人

前清中武昌軍隊の一武官たりしが、第一革命後累進して湖北陸軍第一師第一團長に至り民國三年沙市に駐防せり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

孫君は舊式武官にして學術に乏しきも實戰に勇なりといふ。年齢四十。

孫培 (Sun P'ei)

字 澤蕃

安徽省桐城縣人

前清中民政部民治司員外郎に奉職し、民國成立後内務部僉事兼國會準備事務所委員に任ぜられ、民國四年文官高等懲戒委員となり同年七月少大夫を授けらる、六年十二月現在内務部參事たり。

孫發緒 (Sun Fa—hsi)

字 蕪齋

安徽省桐城縣人

孫君言辭に巧にして縦横の術に長ず、蓋し當代の張蘇なり、前清中曾て湖北候補縣丞たりしが辛亥の秋武昌革命起るや、孫恰も本籍に在り巡撫朱家寶の命を衝み湖北に來り軍情を偵察す、偶巡邏の獲るところとなり遂に黎都督の前に奉かる、孫乃ち説くに方略を以て大に賞識を蒙り是より黎公の上客となる、爾來燕楚の間を往復し獻策するところ多く、功を以て勳五位に叙し三等嘉禾章を給せらる、其後入京して袁氏に侍せしが居ること之を久ふして總統談士を厭ふを知り遂に自ら請ふて直隸定縣知事となる、時に民國三年なり、同五年六月袁氏殂落し黎公繼任するに及び孫即ち官を辭して晋京し又韓榿に贊襄す、遂に殊遇を蒙り七月山東省長に躍進し十月山西省長に轉任、十二月二等大綬嘉禾章を給せらる、眞に當世の快男兒といふべし、然るに六年六月四日山西反黎獨立するや孫君の術策復施すべきなく潜行北京に入る、爾來杳として

消息を聞かざるなり。年齢四十八。

孫智敏 (Sun Chih—min)

字 廬才

浙江省錢塘縣人

曾て法政學堂を卒業す、嗣いて翰林院編修、浙江高等學堂監督、浙江提法司僉事等に歴任す。人となり輕佻浮華、大言壯語し賭博に耽溺す、舊同盟會員にして又前浙江大學堂監督吳雷川と交友あり。年齢三十餘。

孫景章 (Sun Ching—chang)

字 志堂

安徽省黟縣人

多年漢口に在り、綿絲布商葆和章を經營せり、又漢口商務綿絲帮董となる、葆和章は漢口同業者中尤も有力なるものなり、又民國四年漢口第一紡績工場創立を計畫せり。

孫傳芳 (Sun Ch'uan—fang)

字 馨遠

山東省歷城縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、歸朝後近畿北洋第二師に入り歩兵第六團長となり湖北將軍公署顧問官を兼ね、六年十二月現在陸軍第二十一旅長たり、孫君王占元將軍の信任を受け又頗る邪語に通ぜり。

孫鼎烜 (Sun Ting—hsuan)

字 君夔

江蘇省崇明縣人

前清の舉人にして學部見習主事に拜命し、民國成立後教育部普通教育司主事に任用せらる、六年十二月現在該職に在り。

孫葆縉 (Sun Pao—chin)

字 幼毅

福建省閩侯縣人

前清の舉人にして光緒三十一年奉天交涉局總辦に任ず、嗣いて洮南府知府に轉任し名聲疆場に高く二品銜花翎を賜ひ留直補用道に進む。民國元年一月奉天知府に、二月一日奉天交渉使に、九月一日辭職せり。

孫道仁 (Sun Tao—jên)

字 靜珊

湖南省慈利縣人

廕生出身なり、前清福建陸路提督孫開華の子にして父に従ふて清佛戰爭に出征し、功を以て福建候補道臺となる、嗣いて福寧鎮總兵、陸軍武備學堂總辦、長門統領に歴任し、新軍編成の際陸軍第十鎮統制官(師團長)に任じ、宣統三年五月福建水陸提督を兼ね、而して第一革命の時福建都督に推されたり。

氏は臺灣の豪族林本源の親戚にして又蔡展龍(英商乾記洋行の買辦)と親交あり、人となり温厚にして雅量あり、又曾て東往陸軍大演習を參觀せりといふ。年齢五十四。

孫煥緩 (Sun Huan—huan)

字 紐堂

奉天省金縣人

光緒三十三年奉天東平縣巡警局員となり、宣統二年安東道臺署に民國元年西安縣警務長に、同三年五月東豐縣警務所長に歴任せり。年齢三十二。

孫鳴皋 (Sun Ming—kao)

字 子義

江蘇省人

前清の進士にして直隸各縣知縣に任用せらる、民國成立後保定女子師範學校監督、教養局總辦となる。

孫鳴臯 (Sun Ming—kao)

字 子義

直隸省易縣人

前清中候補道となり曾て保定商務總會總理に推されしが後天津に織布工場を設立す、天津商會に勢力を有すといふ、年齢四十一。

孫毓筠 (Sun Yü-yün)

字 少侯

安徽省壽縣人

前清の大學士孫家鼐の孫にして曾て日本に留學す、宣統三年革命嫌疑を以て兩江總督端方の捕ふるところとなり獄に繋がれしが武漢義を擧ぐるに及び始めて釋さる、即ち推されて安徽都督となり民國元年七月辭職、同二年參議院西藏議員に選舉され政友會を組織して大に御用振りを發揮せり、同年十一月國會解散後は政治會議々員、三年三月約法會議々長、同年五月參政院參政に歷任す、四年楊度劉師培等と籌安會を發起し帝制運動をなせり、五年六月袁氏死去し七月十四日新政府より逮捕令を發せらる。所謂帝制八兇の一人にして楊度、顧鼐、梁士詒、夏壽田、宋啓鈴、周自齊、薛大可及孫君なり。
六年七月復辟失敗後同派の内情を發表して曰く、「曩に復辟に賛成するもの豈に數省督軍のみならんや、而して張勳一人犠牲に供せらるゝ所以は復辟成功せば張氏首功に居るを妬むに因る」云々。
年齢四十六。

孫毓琇 (Sun Yü-hsin)

浙江省紹興縣人

前清國子監出身にして直隸省臨榆縣知縣に任ぜらる、民國成立後同省曠山縣知事となり民國四年巡按使朱家寶の稱揚を蒙り五等嘉

禾章を給せらる。六年十二月現在仍ほ該職に在り。

孫嘉祿 (Sun Chia-lu)

字 嘉祿

浙江省吳興縣人

初め上海聖約翰大學に學び、光緒三十年米國に留學し「クック」學校理科に入る、同三十一年「カーネル」大學に機械工學を修め宣統元年學士號を得卒業歸國す、同二年京奉鐵路橋樑工程副經理に同三年京奉鐵路唐山工場副經理、民國二年隴海鐵路工場副經理、及び機車總監督、五年滬杭甬鐵路機關車副經理に歷任せり。年齢三十三。

孫鳳藻 (Sun Fêng-tso)

字 子文

直隸省天津人

前清中育才館を卒業し英語に通じ並に少しく邦語を解せり、曾て北洋高等工業學校教習、直隸工藝局主席事務員、北洋水産練習所々長に歷任し宣統三年天津議事會副會長に擧げられ地方自治に盡力せり、又曾て工藝及び水産業視察の爲め日本に赴くもの二度、北支那の實業開發に功勞少なからず、又邦人中交友甚だ多しといふ。年齢三十五。

孫鳳珠 女士 (Sun Fêng-chu)

字 嶧洞

江蘇省嘉定縣人

初め湖州湖郡女塾、蘇州英華女學校に學び同校の教員となる、宣統二年米國に留學し雅興學校に普通文科及び音樂を修め民國三年學士號を得て卒業す、此年夏「ジョージ・ビーボディ」學校師範科に入り同年歸國せり。
嗣いで蘇州英華女學校教員、婦女會及教會書記、文學會長等に任ぜり、年齢二十四。

孫慶焜 (Sun Ching-hun)

直隸省遵化縣人

前清中廣西省通判となり、全州苗州忻州等に歷任し、民國成立後陽朔縣署理知事に任ぜられ、民國四年十月巡按使田承斌の申請に依り尙同省に留任せり。

孫潤宇 (Sun Jun-yü)

字 子涵

江蘇省吳縣人

前清光緒二十六年北洋大學豫科を卒業するの翌年新嘉坡に往き實業を視察し、又轉じて奉天將軍增祺の聘に應じて盛京大學を經營しその教授となり、同三十年江蘇省より日本に派遣せられ法政大學を卒業せり、歸朝の後民政部憲政準備委員、陸軍部統計課長、財政學堂、高等巡警學堂、法政學堂の各教員に歷任す。

孫樹林 (Sun Shu-lin)

字 少荃

直隸省大城縣人

民國六年十二月現在歩軍統領衙門總參議兼總軍械庫總辦たり。

孫樹棠 (Sun Shu-t'ang)

字 蔭南

吉林省吉林縣人

前清中日本宏文學院に留學す、歸朝後中學校教員、全省教育會長中學校長、省立圖書館長等に歷任せり。年齢四十一。

孫澤沛 (Sun Tsé-p'ei)

四川省灌縣人

第一革命後聯隊長となり四川第五師長熊克武に従へり、第二革命に失敗し山澤に潜みしが民國四年十二月雲南獨立後熊克武の命に

應じ入川し灌縣地方にて第五師の退伍兵及び土匪を募集し護國軍を組織す、乃ち官衙を襲撃して軍餉兵械を獲軍容を整へ、四川北軍の又一敵國となる。

孫寶琦 (Sun Pao-ch'i)

字 慕韓

浙江省餘杭縣人

前清中曾て煥、獨、佛各國駐在公使の隨員となり、嗣いて駐獨公使に昇任し、後山東巡撫に轉任せり。

民國二年九月外交總長に任じ、四年一月審計院長となり同月中卿上卿銜を授けらる、五年四月財政總長に就職し鹽務署督辦を兼ね六月稅務處督辦に轉じ六年十二月現在該職に在り、氏又漢治萍煤鐵公司株主會長たり。年齡五十一。

孫寶璋 (Sun Pao-hsian)

字 仲璵

浙江省杭縣人

孫寶琦の弟にして前清中郵傳部船政司員外郎に拜命す民國元年十二月浙海關監督となり寧波交涉員を兼任せり、六年十二月現在浙江甌海關監督兼温州交涉員たり。

孫寶鑑 (Sun Pao-chien)

字 秋澄

江蘇省無錫縣人

法起草委員に擧げらる、第二革命前景耀月と共に脱會して政友會を組織し解散後は政事堂顧問となり、籌安會に加入し孫毓筠の股肱となりて帝制派の爲め大に活動せり、上海神州日報が同派に買収さるゝやその社長となり莫氏を諷刺せり、嗣いて莫氏死し民國恢復し國會再開するや復恬然として議場に登れり。近來に至り稍々民黨に葵向、並に政府を兼顧し外は排外志想を有し内は無恥無節操の小策士なりといふ。年齡三十三。

孫繼丁 (Sun Chi-ting)

字 丙然

山東省蓬萊人

初め山東高等學堂を卒業し嗣いて北京清華學校に入る、宣統三年官費を以て米國に留學し「ブロード」大學に電氣工學を修め民國四年學士號を得て卒業し、又「マ」州工業學校に入る後普通鐵路信託公司にて實習六ヶ月更に「ウ」エステインゲハウス「電氣製造公司」に實習するもの又一一年にして五年歸國せり。年齡三十。

孫耀 (Sun Yao)

字 禹行

直隸省高陽縣人

前清中保定軍官學堂を卒業し奉天砲兵隊標統(聯隊長)たりしが第一革命の際は第九師長として南京攻撃に功あり、國民黨に屬し直隸省民黨中の有力者となす。年齡四十六。

初め上海南洋中學、南洋公學に學び宣統三年米國に留學し「ウ」イスカンシン」大學に電氣工學を修め、民國三年卒業歸國す、嗣いて交通部に奉職し又北京電話局技師に任ぜらる。年齡三十一。

孫鏡清 (Sun Ching-ching)

字 性廉

四川省江津縣人

光緒三十一年日本に留學を命ぜられ早稻田大學豫科に修業せしが文部省取締規則に反對せるの故を以て退學を命ぜられ、同志と共に上海に回へり中國公學を創設せり、嗣いて北京に入り宣統二年京師法律學堂を卒業し、副貢生を授けられ直隸州知州を以て河南省候補に派遣せられ、中州法政學堂、法官養成所教員となり、同三年光州委署知州に任ず、民國の二年衆議院議員に選舉せられたり。年齡三十三。

孫鐘 (Sun Chung)

字 震東

河南省祥符縣人

光緒二十八年北洋大學露語科を卒業す、三十一年日本に留學し初め航海學校に入り、後中央大學經濟本科に學びしが、學術優良にして特待生となり宣統二年優等卒業せり、歸國の後學部の試験に應じ舉人となり、財政部主事に任ぜられ、北京陸軍測量學校豫學校教員となる。第一革命後國民黨に隸屬し蒙古より選ばれて衆議院議員となり憲

孫顯惠 (Sun Hsien-hui)

字 德卿

浙江省杭州人

初め上海聖約翰大學を卒業し、浙江高等學堂、安定學堂、金衢嚴公學英文教員に歷任す、宣統元年官費を以て米國に留學し「コロンビヤ」大學鑛業科に入り民國二年卒業歸國せり。嗣いて杭州中學校教員、三年湖南高等師範學校教員、四年湖南高等實業學校教員、杭州蕙蘭中學教務長兼教員、五年農商部委派駐湘礦務技術員等に歷任せり。年齡三十一。

唐人寅 (T'ang Jen-yin)

字 露園

浙江省仁和县人

前清中吉林省五常府知府に拜命す、民國成立後湖南銀行、銀行事務會辦となり、民國四年六月湖南財政廳長を臨時兼務し、同年九月職務怠慢の故を以て自ら辭職せしが同五年七月湖南銀行監理官に任命せらる。

唐元湛 (T'ang Yuan-chan)

字 露園

廣東省香山縣人

同治十一年(明治五年)官費を以て米國に留學し居ること十年光緒七年歸國せり、嗣いて中國電報局に奉職し累進して同局總辦に至

り民國二年辭職す、現に上海に在り、唐紹儀の親戚なりといふ。年
齡五十七。

唐文治 (T'ang Wên—chih)

字 蔚芝

江蘇省大倉縣人

光緒十八年進士に第し累進して商部右侍郎に至れり、同三十四年
挂冠して滬蘇の間に在りて教育實業に盡力す。
第一革命の際江蘇の獨立を助け皇帝退位を電奏し、後章炳麟張謇
等と中華民國聯合會を組織し更に共和黨を組織するに及び章氏と
共に入京し、其成立に盡力し、後郷里に歸臥し、復世事を問はず、
蓋し章氏と相合はざるに依るといふ。六年十二月現在上海工業專
門學校長たり。年齡五十餘。

唐天喜 (T'ang T'ien—hsi)

字 雲亭

河南省沈邱縣人

民國六年十二月現在陸軍第七混成旅長兼歩隊第一營長たり。

唐民莫 (T'ang Min—mo)

字 炳初

湖南省平江縣人

日本高等工業學校の卒業生なり。
第一革命の際湖北外交部翻譯科長に任じ、嗣いて漢陽砲兵團參事、

岳州鎮守府經理部長に歷任し、第二革命後日本に亡命せり。年
齡二十八。

唐在復 (T'ang Tsai—fu)

字 心奮

江蘇省上海縣人

前清中上海廣方言館、北京同文館を卒業し後佛國に留學せり、嗣
いて駐佛公使二等參贊となる、民國二年十二月和蘭公使に昇任し
四年二月上大夫少卿銜を授けらる、六年十二月現在仍ほ勳績せり。
年齡四十。

唐在禮 (T'ang Tsai—li)

字 執夫

江蘇省上海縣人

前清中日本陸軍士官學校を卒業す、歸朝後直隸督練處參議となり
嗣いて庫倫兵庫籌備處總辦に任ぜらる、民國成立するや大統領を
佐け軍務を處理し其功甚だ多く後陸海軍大元帥統率辦事處總務廳
長並に民國四年參謀次長に任ぜらる尋て同五年七月因病辭職せり。
年齡三十八。

唐在章 (T'ang Tsai—chang)

字 伯文

江蘇省上海縣人

曾て日本に留學し早稻田大學を卒業せり、民國成立後總統府秘書、

政治堂機要局參事、國務院秘書廳僉事等に歷任せり。年齡三十二。

唐汝謙 (T'ang Ju—chien)

江蘇省崑山縣人

前清中陸軍部軍需司統計科長に任ぜられ、民國成立後陸軍部軍需
司科長となる、六年十二月現在軍需司會計科長たり。

唐有恒 (T'ang Yu—hung)

字 少珊

廣東省香山縣人

初め香港皇仁書院に學び黃龍報主筆に任ず、光緒三十年官費を以
て米國に留學し「カーネル」大學に農學を修む、同三十三年學士號
を得て卒業し、三十四年碩士の學位を得、歸國して廣東農事試驗
場長に任ぜらる。

民國元年北京高等農業學校々長に、四年北京農林專門學校々長兼
中央試驗場長に歷任す。年齡三十一。

唐肯 (T'ang K'ên)

字 企林

江蘇省武進縣人

前清中湖北縣丞となり後日本に留學して法律を修め歸朝の後直隸
知縣に上奏せらる。

民國二年四月保定地方審判廳長となり嗣て知事試驗を免じ京兆良

郷縣、霸縣等の知事に委署せられ嗣て京兆尹沈金鑑の稱揚を蒙り
たり六年十二月現在霸縣知事たり。

唐宗愈 (T'ang Tsung—yü)

字 慕潮

江蘇省無錫縣人

前清中南京大清銀行、交通銀行各分店に關係あり、民國四年十月
黑龍江財政廳々長に任ぜられ並に同省廣信公司、官銀號、勸業銀
行督辦を兼管す六年八月一日免ぜらる。年齡四十一。

唐昌言 (T'ang Ch'ang—yen)

字 禹臣

江蘇省吳江縣人

前清の秀才なり、氏は本縣の富豪にして同省省會議員に選ばる。
年齡三十三。

唐咨夔 (T'ang Tzu—k'uei)

廣西省靈川縣人

前清中曾て廣東知縣、布政司署庫大使に歷任し、民國二年同省巡
按使李國鈞の推薦に依り廣寧縣署理知事に任命せられ嗣いて同縣
知事に昇任せり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

唐重萃 (T'ang Chung—ts'ui)

字 協甫

四川省開縣人

光緒三十二年日本に留學し早稻田大學專門部政治經濟科を卒業せり、歸朝後法政學堂教員となり第一革命後四川銀行總理に任ず、中國同盟會員たり。年齡三十六。

唐柯三 (T'ang K'o-san)

字 柯三

山東省鄒縣人

民國五年九月山東濟南道尹兼外交部特派交涉員となり六年十二月現在仍ほ該職に在り。

唐恩溥 (T'ang En-p'u)

民國六年十一月現在廣東粵海道尹となる。

唐恩良 (T'ang En-liang)

字 蜀眉

山東省青州人

初め山東高等學堂を卒業し該校助教となる、民國元年官費を以て米國に留學し「コロラド」礦業學校に入り、同二年「ブロード」大學に土木工學を修む、同五年學士號を得て卒業し同年歸國せり。年齡三十五。

唐家璣 (T'ang Chia-pi)

字 俊卿

浙江省嘉江縣人

前清の附生にして光緒三十年奉天將軍增祺の幕僚となり並に葦塘墾務局總辦に任ぜしが、宣統元年洮南府提調に同二年鎮東縣知縣に、同三年奉天將軍府秘書に歷任せり。

民國元年本省に回へり家居數年にして又出て、奉天東路清丈局に任じ、同四年十二月西豐縣知事となり兼ねて清鄉局長たり。年齡五十五。

唐悅良 (T'ang Yieh-liang)

上海人

初め上海「トーマス、ハンブリー」學校、聖約翰大學に學び、宣統元年官費を以て米國「エール」大學に留學し、教育及び心理學を修む、民國二年學士號を得て卒業し又「プリンストン」大學に市政學を修め同四年碩士の學位を得たり。

唐紹儀 (T'ang Shao-i)

字 少川

廣東省番禺縣人

初め上海「トーマス、ハンブリー」學校、聖約翰大學に學び、宣統元年官費を以て米國「エール」大學に留學し、教育及び心理學を修む、民國二年學士號を得て卒業し又「プリンストン」大學に市政學を修め同四年碩士の學位を得たり。

唐啓堯 (T'ang Chi-yao)

字 蕙庭

安徽省合肥縣人

前清中多年北洋軍界に在り遂に大隊長に昇り嗣いで吉林省の聘に應じ吉林巡警局總辦、吉林兵備處總辦たりしが巡撫朱家寶が安徽巡撫兼提督に轉ずるに及び亦隨從せり。

第一革命後復吉林に入り督練公所參議に任じ民國二年二月陸軍少將に補せらる、六年十二月現在察哈爾察東鎮守使たり、資性溫厚にして素養亦淺からざるも惜しいかな多病。年齡五十。

唐啓虞 (T'ang Chi-yü)

字 宥在

湖南省慈利縣人

民國五年九月署理雲南高等審判廳長となり、六年十二月現在該職に在り。

唐國謨 (T'ang Kuo-mo)

安徽省合肥縣人

前清の武備學堂を卒業す、第一革命に當りては天津馬廠に自重して形勢を觀望し、第二革命の際には李厚基に従ふて上海河南機器局を守備しよく陳其美の攻撃を退けたり、袁氏帝制聲中男爵に封ぜられ六年十二月現在陸軍第十混成旅長を以て廈門鎮守使たり。年

唐紹慈 (T'ang Shao-tzu)

民國五年雲貴軍が廣東肇慶に據るの時同地兩廣護國軍都司令部副官處々長たり。

唐紹儀 (T'ang Shao-i)

字 少川

廣東省番禺縣人

初め山東高等學堂を卒業し該校助教となる、民國元年官費を以て米國に留學し「コロラド」礦業學校に入り、同二年「ブロード」大學に土木工學を修む、同五年學士號を得て卒業し同年歸國せり。年齡三十五。

唐啓堯 (T'ang Chi-yao)

字 蕙庭

安徽省合肥縣人

前清中多年北洋軍界に在り遂に大隊長に昇り嗣いで吉林省の聘に應じ吉林巡警局總辦、吉林兵備處總辦たりしが巡撫朱家寶が安徽巡撫兼提督に轉ずるに及び亦隨從せり。

第一革命後復吉林に入り督練公所參議に任じ民國二年二月陸軍少將に補せらる、六年十二月現在察哈爾察東鎮守使たり、資性溫厚にして素養亦淺からざるも惜しいかな多病。年齡五十。

齡四十五。

十 畫 [唐]

唐 堅 (T'ang Chien)

貴州省息烽縣人

前清の國子監出身者にして民政部衛生司郎中に任ぜられ、民國成立後内務部總務廳會計科僉事となり民國四年七月中大夫を授けらる。

唐景崧 (T'ang Ching—jun)

浙江省嘉興縣人

前清の進士にして完縣知縣に任ぜられたり、民國成立後直隸省清苑縣知事となり民國四年巡按使朱家寶の稱揚を蒙り五等金質單鶴章を給せらる。

唐瑞銅 (T'ang Jui—tung)

貴州省貴陽縣人

前清の進士にして度支部郎中に拜し四品卿銜を授けられ、嗣て河南正監理財政官となり、民國成立後中國銀行貴陽分行長に任ぜらる、六年八月吉林財政廳代理廳長に任ぜられ、同年十一月劉彭壽と交代す。

三六一

唐瑞華 (T'ang Jui—hua)

字叔珥 上海人

初め香港皇仁書院、上海南洋公學に學び、光緒三十四年米國に學し宣統二年「カーネル」大學に機械工學を修む、民國二年機械工程師の學位を得歸國す、嗣いて漢陽鐵廠副工程師となる。年齢二十二。

唐福懋 (T'ang Fu—mou)

鑲紅旗滿洲人

前清の舉人にして北京歩軍統領衙門筆帖式となり民國成立後同處秘書科副科長に昇任す。

唐榮禧 (T'ang Jung—hsi)

字榮禧 廣東省香山縣人

唐紹儀の甥なり、光緒二十九年半官費を以て米國に留學し、春野高等工業學校に入り、同三十二年北「カロリナ」州大學林科に修學す、宣統二年卒業森林工程師となり、同三年「ハーバート」大學に入り民國元年歸國す。同年農林部技正となり、二年北京林場長を兼ね、三年林務處長兼津浦鐵路會文處々長に任じ、五年「ハーバード」大學より碩士の學

位を贈らる。年齢三十。

唐榮祚 (T'ang Jung—tsu)

廣東省人

光緒二十九年米國に留學し、宣統二年「ピッツバフ」大學、「イリノイス」大學に衛生及び土木工學を學び、民國四年歸國し北京市政公所衛生工程師となる。年齢三十。

唐爾錕 (T'ang Erh—kun)

貴州省貴縣人

故袁項城と惡縁あり、前清中知府知兵に歷任す。民國成立後曾て軍務に服せしが未だ幾ならずして歸臥す、帝制聲中西南起ちて反對し貴州獨立を宣言するや項城唐氏を起用して將軍銜を授け同省軍務を統轄せしめたるも大勢已に去り復手を下す能はざるなり。

唐爾鏞 (T'ang Erh—yung)

貴州省貴陽縣人

民國三年八月雲南滇中道尹に任ぜられ現にその職に在り。

十 畫 [唐]

唐篠厚 (T'ang Tiao—hou)

清末諮議局議員に擧げられ民國成立後廣西都督府教育部長となり現に桂林に在り。

唐 潔 (T'ang Chih)

字 廉江 四川省巴縣人

前清中日本に留學するもの二年養蠶學校を卒業せり、歸國後は郷里に閉居せしが、第一革命後唯一社を組織し哥老會員を統一し、又中國社會黨重慶支部を設立しその支部長に任ぜり。氏辭令に巧にして社會主義を鼓吹し機關紙國是報に關係あり。年齢三十八。

唐德萱 (T'ang Te—hsian)

字 日新 湖南省芷江縣人

前清中郵傳部主事となり民國成立後交通部漢粵川鐵路漢宜工程局副局長に任ぜられ、六年十二月現在該路湘鄂工程局副局長たり。

唐 蟒 (T'ang Mang)

字 桂良 湖南省瀏陽縣人

三六三

志士唐才常(黃興傳參照)の子にして頗る膽力あり善く乃父の氣魄を傳ふ曾て日本陸軍士官學校を卒業す。

第一革命以來岳州鎮守使、湖南都督府參謀長、湖南砲兵籌備處々長、湖南第一混成旅々長に歴任せしが第二革命に失敗し日本に亡命せり、其後第三革命起るに及び歸國して兩廣上海の間を奔走し龍璋と共に漢口を経て湖南に赴き當時の都督湯壽潜と交渉するところありたり。年齢三十一。

唐寶潮 (T'ang Pao—ch'ao)

廣東省香山縣人

前清中日本に留學す歸朝後軍諮府第五科員に任ぜられ民國成立後軍事參事官となる。

唐寶鏐 (T'ang Pao—è)

廣東省香山縣人

前清中曾て日本に留學し早稻田大學を卒業し歸清後延試に應じ進士となり、翰林院檢討となれり、曾て駐日支那公使館隨員となり北洋々務局會辦兼直隸調查局課員に轉じ、同時に陸軍部一等諮議官を兼ね。

革命以後直隸都督幕僚となり外交科長に任ぜらる、又曾て衆議院議員として内蒙古より選舉せらる。年齢四十。

唐寶桐 (T'ang Pao—t'ung)

上海人

初め上海安瑪漢北學校に學び光緒二十九年米國に留學し春野高等工學校に入る、同三十四年「マ」州工業學校に土木工學を修め民國二年學士號を得て卒業せり、同年歸國し、三年上海黃浦水利局副工程師に任ず現に該職に在り。年齢三十。

唐犧支 (T'ang Hsi—chih)

湖南省桃源縣人

前清中湖北軍に在り小隊長たり。

第一革命の際宜昌軍政分府司令官に任じ、民國元年九月陸軍中將に進補し、湖北第七師長となりしが第二革命に敗れ日本に亡命せり。

唐繼禹 (T'ang Chi—yii)

雲南省東川縣人

曾て雲南陸軍講武學堂を卒業し民國二年貴州軍警局長、警察廳長に、三年九月雲南混成團中校に、四年一月雲南省會警察廳長に任じ混成團々長を兼務す、嗣いで該團が警衛軍第一團に改編せらるるに方り仍ほ兼職せり。

氏は雲南都督唐繼堯氏の弟にして齡未だ而立ならずして要職に歴任し成績觀るべきものあり性狷介にして俗流に蟬脫せり、未だ必らずしも阿兄の名を辱むるものにあらざるなり、六年十二月現在仍ほ雲南省會警察廳長兼全省警務處長たり。年齢二十七。

唐繼堯 (T'ang Chi—yao)

雲南省東川縣人

支那革命の元勳を數ふれば唐氏當に其一に居るべし氏容貌婦人の如く、人となり謙讓なりと雖も亦内殺然として果斷あり由來北洋派の一敵國として目せらる。

前清中秀才に擧げられ雲南高等學堂を卒業し嗣いで日本に留學し光緒三十四年十月陸軍士官學校砲兵科を卒業せり、歸朝後奉天に來り軍務に服し後雲南に回へり雲貴總督府參謀處參謀、雲南講武學校長に歴任せり。

第一革命の際は故蔡錕、李烈鈞等と雲南獨立を畫策し嗣いで民國成立し蔡錕が雲南都督となるや其參謀長となれり之より蔡氏と密接なる關係を結び旋がて貴州都督に推薦され民國二年蔡錕の後を襲ぎ雲南都督となり開武將軍に任ぜられ以て今日に及べり而して同四年帝制問題起るや十二月雲南首先義を發し復蔡李二氏と袁の罪狀を聲らし獨立を宣言し雲貴兩廣を連絡し軍務院を設立し撫軍長に推され兵を四川湖南を出し項城終に悶死するに至れり。六年六月中央政府段氏解職され張勳が調停條件として國會解散を要求するや首として之に反對し嗣いで七月一日復辟事件の際は清

廷より雲南巡撫に任ぜらるるの滑稽あり、後段内閣に反對し中央と關係を斷ち北軍と干戈相見ゆるに至れり然るに中央政府の職員錄に據れば現に仍ほ雲南督軍兼代理省長たり、亦段氏が好んで兵を用ふるにあらざるを見るべし。年齢三十四。

夏仁灝 (Hsia Jen—hao)

江蘇省江寧縣人

前清中京師初級審判廳錄事に任ぜられ民國成立後京師地方審判廳書記官に拜命、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

夏元璪 (Hsia Yuan—li)

浙江省杭縣人

初め上海南洋公學に學び嗣いで米國「エール」大學に入る、光緒三十四年學士號を得て卒業し更に獨逸に留學せり、六年十二月現在北京大學理科學長たり。年齢三十三。

夏同龢 (Hsia Tung—ho)

貴州省麻哈縣人

光緒戊戌の狀元にして翰林院修撰を授けらる、民國成立後政事堂法制局僉事となり、民國四年四月第四期知事試驗委員を命ぜられ嗣いで同年七月中大夫を授けらる、六年八月農商部秘書に任ぜら

れ、六年九月江西實業廳長に任ぜられたり。年齢四十九。

夏炎甲 (Hsia Yen—chia)

湖北省人

民國二年湖北省武漢黃德觀察使に任じ四年三月江西廬陵道尹に轉任、五年九月免ぜらる。年齢三十六。

夏寅官 (Hsia Yin—kuan)

江蘇省東臺縣人

前清の進士にして翰林院に奉職し嗣て資政院議員に擧げらる、民國三年五月肅政廳肅政史に任命せられ民國四年一月上大夫を授けらる。

夏啓瑜 (Hsia Ch'i—yü)

浙江省鄞縣人

前清中多年官游し曾て湖北池口徵收局長、沙市徵收局長に歴任せり、學問深からざれ共資性温良なり。年齢五十餘。

夏詒霆 (Hsia I—ting)

字 挺齋

江蘇省江陰縣人

前清の附貢生にして駐獨、駐佛公使館付留學生を命ぜられ後駐佛公使館書記生となる、民國成立後入りて外交部秘書、國務院秘書に歴任せしが又出使して横濱總領事、西班牙代理公使に任じ、歸朝後政治研究會秘書長、外交部參事となり又曾て外交次長を代理せり。年齢三十九。

夏超 (Hsia Ch'ao)

字 定侯

浙江省青田縣人

浙江武備學堂卒業生にして、同校學生隊長、浙江督練公所調査員、廣西兵備處籌備科長兼教練所訓練科長等に歴任す。

第一革命の際軍功あり浙江都督府顧問官、同參謀副長、第五軍司令部副官處長、陸軍小學校長兼陸軍補官辦事處長、省城警察廳長に歴任し陸軍少將を授けらる、民國五年四月又浙江獨立に功あり、嗣いて錢塘道尹代理となり同年十二月浙江全省警務處長に任ぜらる。年齢三十六。

夏偕復 (Hsia Chieh—fu)

浙江省仁和縣人

前清中雲南交涉員を命ぜられ民國成立後駐米全權公使に任ぜらる民國四年二月少卿を授け同年十月本職を免じ歸朝待命せしむ。

夏循壇 (Hsia Hsin—k'ai)

字 爽夫

浙江省杭縣人

東京法學院卒業生にして前清中農商工部主事たり、民國成立後農商部商標登錄局籌備處長僉事となり嗣いて參事に昇任せしが六年九月四川實業廳長に任ぜらる。年齢三十八。

夏壽田 (Hsia Shou—t'ian)

湖南省桂陽縣人

前清中榜眼の學位を授けられ翰林院編修となり民國三年三月約法會議員嗣て總統府内史に任ぜられたり、民國四年十月三等嘉禾章を給與せられしが袁氏歿後帝政の禍首として逮捕命令を發せられ七年三月十五日大總統令を以て特赦されたり。

夏壽康 (Hsia Shou—k'eng)

字 仲英

湖北省黃岡縣人

前清の進士にして翰林院編修となる、第一革命の際湖北都督府參議となり内政整理に功あり、元年六月同省内務司長、十月署理民政長、二年九月政事堂銓鈞局長、三年五月肅政廳肅政史に歴任し四年一月上大夫少卿銜を授けらる、嗣いて總統府秘書長となり六年八月平政院長に任ぜられたり。年齢四十餘。

夏毓汶 (Hsia Yü—wên)

字 星叔

浙江省桐鄉縣人

前清中郵傳部の學習主事となり民國成立後交通部郵傳會計司總務科主事に任ぜらる。

夏錫祺 (Hsia Hsi—ch'i)

浙江省鎮海縣人

前清の舉人にして曾て學部の主事たりしが後日本に留學し京都帝國大學文科を卒業せり、民國成立後北京師範學校長となり嗣て北京大學文科學長に昇任し、民國六年一月大學總長胡仁源氏が辭職するに方り行動を共にせり。

夏遵武 (Hsia Tsun—wu)

江蘇省人

明治四十四年五月日本陸軍士官學校工兵科を卒業す、前清中新軍武官に歴任し、曾て第十三旅長たり。年齢三十五。

夏繼泉 (Hsia Chi—ch'ian)

字 溥齋

山東省人

前清中直隸候補知州となり民國三年四月河南省河洛道尹に拜命し
民國四年中大夫を授けらる、五年九月辭職陶燭照と交代せり。

秦光第 (Ch'in Kuang—ti)

字 少元

雲南省大理縣人

前清の廩貢生にして雲南武備學堂の卒業生なり、後武備學堂々長
速成隊々官、步隊第一標督隊官、執事官、步隊第三十七協執事官、
陸軍小學堂提調等に歴任す。

民國成立の後雲南陸軍被服廠長、都督府軍需課長及軍需局長等と
なり陸軍歩兵少校を授けられ、民國四年唐繼堯の任命を以て織絨
廠總辦兼軍需局長となれり、嗣いで製革廠長を兼ね、年齢四十三。

秦汝欽 (Ch'in Ju—chin)

字 亮功

江蘇省無錫縣人

前清の舉人にして曾て學部司務廳司務たりしが、民國成立後サモア
島領事館領事官補に任用せらる、六年十二月現在外交部通商司商
約科主事たり。

秦汾 (Ch'in Fèn)

字 景陽

江蘇省嘉定人

て江蘇吳縣地方審判廳推事たりしが後農商部參事に昇任す、蓋し
張謇氏の薦むるところなりといふ、六年十二月現在仍ほ該職に在
り。年齢四十四。

秦毓琦 (Ch'in Yü—chi)

字 雅樵

浙江省紹興縣人

福建、江蘇、四川、江西各省の藩臬衙門幕僚に歴任し、光緒三十
二年吉林巡撫朱家寶の一等秘書となり、同三十四年朱氏に隨ふて安
徽に轉任し軍警各事宜に任せらる。

民國元年浙江行政公署秘書兼總務處員たり、同三年三月復朱家寶
直隸民政長に任せらるゝに隨ひ。直隸行政公署秘書兼總務處員た
り、嗣いで浙江民政長風映光の推薦に依り政治堂存記道尹となれ
り。年齢四十六。

秦錫銘 (Ch'in Hsi—ming)

字 友荃

山東省廣饒縣人

前清の舉人にして曾て學部錄用主事たりしが、民國成立後教育部專
門教育司第一科僉事となれり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

秦錫光 (Ch'in Hsi—kuang)

字 石甫

奉天省蓋平縣人

十 畫 [秦]

曾て米國「ハーバード」大學に在り天文、數學を學ぶ、宣統元年學
士、碩士の學位を得同二年歸國し、南京江南高等學堂教務長、上
海浦東中學校々長、上海南洋中學及び南洋公學教員、北京大學數
學教員に轉任せり、現住北京。

秦昌濟 (Ch'in Chang—chi)

字 霖生

廣西省桂林縣人

曾て雲南講武學堂を卒業す、爾來雲南速成隊々官、歩兵第一標及
び第三十七協執事官、雲南陸軍小學堂提調、都督府被服廠々長、
軍需課長、審査分處長、織絨廠總辦に歴任し嗣いで軍需局長とな
り製革廠長を兼任す、六年十二月現在直隸井陘縣知事たり。年齢
四十三。

秦望瀾 (Ch'in Wang—lan)

字 少觀

甘肅省會寧縣人

前清の進士にして曾て民政部主事たりしが、民國三年五月參政院參
政兼約法會議々員に擧げられ民國四年一月上大夫を授けらる、六
年九月臨時參議院議員となれり。

秦瑞玲 (Ch'in Jui—chieh)

字 晉華

江蘇省無錫縣人

曾て日本法政大學を卒業し歸朝後知縣に歴任せり、民國成立後曾

前清の廩貢生たり安徽壽國縣知縣、宿州知州、皖南營務處提調、
牙盤局提調、省城戒煙局提調に歴任して民國元年吉林總監獄典獄
長に陞り更に吉林扶餘縣稅捐局長に轉じ同五年十月以來現職昌圖
縣稅捐局長の任にあり。年齢四十八。

秦樹聲 (Ch'in Shu—shêng)

字 又衡

河南省固始縣人

前清の翰林にして雲南道員となる、當時雲貴總督丁振鐸英國と緬
甸の境界を議定するや秦君大に衡争せり、宣統中廣東提學使たり。
第一革命起るや即ち挂冠し、民國成立後河南省教育使に薦められ
しも就かず上海に逍遙せり、民國三年政事堂禮制館に入り嗣いで
國民代表となり項城を皇帝に推戴せり、六年十二月現在於酒行政
評議會々員たり。

秦君博學にして文筆に長ず性情常軌を逸し文詩書法亦その人とな
りの如し。

秦鴻恩 (Ch'in Hung—ên)

四川省合川縣人

前清の分部郎中にして北京法政專門學校法律科卒業後重慶中學校
を創辦し監督を兼ね宣統元年四川諮議局議員に選舉せらる。

民國二年四川都督兼民政長胡景伊に聘せられ顧問となり後四川檢
察行署參贊を兼ねたり、嗣いで將軍行署の組織せらるゝや改めて

書記委員に任ぜられ同四年五月成武將軍四川軍務督理胡景伊の申請に依り政事堂の記録に登れり。

凌重倫 (Ling Chung—lun)

字 慎夫

安徽省合肥縣人

前清中直隸候補道となり那桐が直隸總督を代理するや總督衙門文案に推薦せられ、又張錫鑾都督の知遇を得通商科長に昇任す。年齢五十四。

凌發彬 (Ling Fa—pin)

字 雅林

廣西省靖西縣人

前清中日本に留學し明治大學を卒業せり歸朝の後育英に從事せしが民帝成立後復筆を投じて戎軒を事とせり、嗣いで衆議院に議席を占め侃諤の議を爲すとす。

凌 鉞 (Ling Yieh)

字 子黃

河南省固始縣人

前清中本省の中學校、天津の北洋法政專門學校に修業せしが第一革命に投じ爆裂彈隊長となり北清に活動せり、民國元年北京に入り軍政執法處に捕はれ嗣いで釋されて後衆議院議員に當選す、二年七月第二革命に失敗し日本に亡命し袁氏長逝し國會恢復するの

後復議院に入りしが六年六月再び解散せらる。年齢三十五。

凌道揚 (Ling Tao—yang)

字 潤臺

廣東省寶安縣人

初め上海聖約翰大學を卒業す、宣統元年米國に留學し「マ」州農業學校に入る、民國元年卒業し又「エール」大學森林科に修學し同三年林科碩士の學位を得、同年歸國し上海青年會講演部員となり又中國林業論(上海商務印書館出版)を著せり、現に上海に住す。年齢二十九。

凌福彭 (Ling Fu—p'êng)

字 潤臺

廣東省番禺縣人

前清の進士にして戸部主事兼軍機章京、同郎中、天津知府兼天津工藝局及習藝所督辦、天津道、長蘆鹽運使、順天府尹代理、直隸布政使等に歷進し宣統三年辭職す、民國四年四月參政院參政に擧げられ同年十月外省に轉任せり。年齢五十九。

凌 霄 (Ling Hsiao)

字 壯華

浙江省崇德縣人

曾て日本に留學し海軍中校となり曾て參謀本部科長たりしが、六年十二月現在同部第六局第二科長たり。

耿之翰 (K'eng Chih—han)

字 杏珊

河南省孟縣人

前清の舉人にして軍諮府地形股班員となりしが民國成立後參謀本部地形課班長となれり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

耿春宴 (K'eng Ch'un—yen)

字 杏珊

河南省孟縣人

曾て日本に留學し宏文學院師範博物速成科、實科學校理化速成科を卒業せり。歸朝の後孟縣勸學所總董、許州中學監督、衛輝中學監督、河朔法政學校長等の職に歷任し民國二年衆議院議員に當選せり。

耿葆燿 (K'eng Pao—k'uei)

字 杏珊

江蘇省華亭縣人

前清中雲南省永昌府知府に任ぜられ後進東驛堡兵備道に昇進せり、民國四年三月四川省西川道尹を命ぜられ民國四年九月中大夫上大夫銜を授けらる。同年十月免職。

耿 毅 (K'eng I)

字 杏珊

湖北省人

字 鵬聲

直隸省廣平縣人

前清中保定速成武備學堂を卒業し第一革命の時北伐軍司令官王芝祥の參謀長たりしが後九江鎮守使代理となる、第二革命に失敗して日本に亡命し、民國五年春雲南省軍唐繼堯の駐滬代表を命ぜられ上海に至れり。年齢四十一。

耿臻顯 (K'eng Chên—hsien)

字 揚延

山西省渾源縣人

清末日本に留學し盛岡高等農林學校を卒業し民國元年歸國せり、嗣いで山西高等農林學校農科主任教師に任じ勸學公所礦農科副科長を兼ね、民國二年一月衆議院議員に選ばれ初次解散後は石岐税關總辦に奉職せしが國會再蘇して辭職して議席に就きしも六年六月再び解散せらる。年齢三十二。

耿觀文 (K'eng Chin—wên)

字 揚延

湖北省人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校を卒業す、前清中陸軍部に奉職せしが、第一革命に方り南旋し南京留守府參謀處長たり、第二革命後は常に上海に住す、同盟會員なり、又邦語に精通す。年齢三十四。

柴春霖 (Ch'ai Ch'un—lin)

甘肅省蘭州人

宣統三年官費を以て米國に留學し「ウイスカンシン」大學に政治學を學ぶ、民國四年學士號を得歸國し九江南潯鐵路文案、北京高等師範學校教員に歷任す、又「中俄關札蒙事之交涉」一書を著せり、現に北京に住す。年齢三十。

柴得貴 (Ch'ai Tè—kuei)

山東省肥城縣人

民國六年十二月現在河南第二混成旅長たり。

柴維桐 (Ch'ai Wei—t'ung)

山東省人

宣統二年奉天總督趙爾巽の推舉を以て署理奉天道尹となり、後辭職して又黑龍江省推運局總辦に任ぜらる、民國二年吉林官錢銀號會辦兼同省官產處主任、同五年四月二十九日代理吉長道尹兼長春交涉員に歷任し、同年九月辭職せり。
柴氏性質溫厚にして且膽量あり、又稍、露語を解せり。年齢三十九。

容星橋 (Yung Hsing—ch'iao)

廣東省廣州人

前清中非律賓總領事館三等書記官となり民國成立後巴那馬總領事館隨習領事となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

原頌周 (Yian Sung—chou)

字 頌周

初め廣州中學、游學豫備館に學び光緒三十三年米國に留學し「シムブロン」學校に入りて普通文科に修學す、同三十四年「アイオ

勢力あり、五族聯合會員たり。年齢五十七。

恩華 (En Hua)

字 詠春

江蘇省丹徒縣人

鎮江旗蒙古人にして前清中進士に第し會て學部主事、陸軍部總務司郎中、弼德院參議等に歷任す、民國三年三月約法會議々員となり、嗣いて國務院統計局參事に任ず、六年十二月現在烏里雅蘇臺佐理員たり。年齢四十六。

恩懋 (En Mou)

京兆宛平縣滿洲人

前清中北京國子監を卒業す、獻金を以て知縣となり福建に派遣せられ、署理閩縣知縣、廈防分府、惠安縣知縣、宣統三年十一月興泉永道に歷任す。

恩培 (En P'ei)

奉天省遼陽人

前清の附生にして宣統元年遼陽自治研究所長、二年第五鄉議事會議長に選ばれ、第一革命後遼陽州議事會副議長、遼陽電燈公司(日支合辦) 監查役等となる。年齢四十。

恩順 (En Shun)

奉天省滿洲人

前清の佐領銜を有し多年奉天に在り、農務總會總理に任じ民間に

廣東省香山縣人

英國海軍に留學す、第一革命の時廣東都督府交通司副司長たり。年齢三十五。

容揆 (Yung K'uei)

字 贊虞

廣東省新會縣人

曾て米國「エール」大學、「コロンビヤ」大學を卒業す、前清中米墨秘政各國駐在公使館の二等參贊官となり民國成立後駐米公使館に參事銜署理一等秘書に任用せらる、六年十二月現在同館在勤參事銜一等秘書たり。年齢五十五。

容嘉言 (Yung Chia—yen)

廣東省新會縣人

前清中非律賓總領事館三等書記官となり民國成立後巴那馬總領事館隨習領事となる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

原頌周 (Yian Sung—chou)

字 頌周

廣東省廣州人

初め廣州中學、游學豫備館に學び光緒三十三年米國に留學し「シムブロン」學校に入りて普通文科に修學す、同三十四年「アイオ

勢力あり、五族聯合會員たり。年齢五十七。

恩華 (En Hua)

字 詠春

江蘇省丹徒縣人

鎮江旗蒙古人にして前清中進士に第し會て學部主事、陸軍部總務司郎中、弼德院參議等に歷任す、民國三年三月約法會議々員となり、嗣いて國務院統計局參事に任ず、六年十二月現在烏里雅蘇臺佐理員たり。年齢四十六。

恩懋 (En Mou)

京兆宛平縣滿洲人

前清中北京國子監を卒業す、獻金を以て知縣となり福建に派遣せられ、署理閩縣知縣、廈防分府、惠安縣知縣、宣統三年十一月興泉永道に歷任す。

恩培 (En P'ei)

奉天省遼陽人

前清の附生にして宣統元年遼陽自治研究所長、二年第五鄉議事會議長に選ばれ、第一革命後遼陽州議事會副議長、遼陽電燈公司(日支合辦) 監查役等となる。年齢四十。

恩順 (En Shun)

奉天省滿洲人

前清の佐領銜を有し多年奉天に在り、農務總會總理に任じ民間に

祝惺元 (Chu Hsing—yuan)

字 硯溪

京兆大興縣人

民國五年四月安徽署理蕪湖道尹に任ぜらる。

祝從恩 (Chu Ts'ung—ên)

字 善甫

安徽省渦陽縣人

前清中軍諮府製圖股班員となり民國成立後參謀本部製圖課員に任用せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

前清中外部承參廳參事に任ぜられ、民國成立後駐米公使館一等秘書となれり、嗣いて外交部總務廳僉事たりしが六年十二月現在同部交際司禮儀科僉事たり。

祝毓瑛 (Chu Yi—ying)

直隸省天津人

河南省固始縣に生る、初め天津育才館、山東大學堂、天津新學書院に學び、嗣いて北洋大學を卒業し學人を授けらる、光緒三十三年官費を以て米國に留學し「エール」大學に入り同三十四年「ペンシルバニヤ」大學に商業、財政學を修め學士號を得て歸國す、爾來財政部秘書、全國煤油礦事務所秘書に歷任せり。年齢三十四。

祝撰望 (Chu Hsian—wang)

河南省固始縣人

前清中湖北省の府經歷となり曾て日本に官費留學し政治經濟を研究し卒業後考試に應じ七品小京官改めて即用知縣を授けられ江蘇省に赴任す。民國成立後江蘇籌辦選舉事務所司選科長、同省行政公署內務司科員となり民國三年第一期知事試験に合格し湖北省蒲圻縣署理知事に任ぜられ嗣いて同縣知事に昇任せり。

桂林 (Kuei Lin)

江西省臨江縣人

前清の増貢生にして北洋官報局總編纂、北洋大學教員、江甯學務公所課長、駐英公使館三等參贊官に歷任す。民國成立後新蘭士領事となり「ヒリッピン」領事に轉ず、六年十二月現在「ヒリッピン」總領事たり。年齢四十五。

桂壻 (Kuei Chih)

字 東原

廣東省南海縣人

江西省貴谿縣人

前清の附生にして候補知縣となり民國成立の初め興安永豐各縣の署理知事となり第一期知事試験に合格し固始縣署理知事に任ぜらる、六年十二月現在並に署理內鄉縣知事たり。

桂森 (Kuei Sen)

奉天省法庫縣住滿洲人

前清の秀才にして曾て法庫廳勸學所長となり、宣統三年省議會議員常置員に選ばれ兼ねて警務長に任ず。年齢四十。

り、民國四年湖北巡按使段雲書の推薦に依り湖北省に赴任す。

桂鑄西 (Kuei Chu—hsi)

原名 汝劫 字 末辛 湖北省蘄春縣人

曾て京師大學堂を卒業し學人を授けらる、嗣いて北京銀行學堂教員となり、宣統元年官費を以て「ハーバード」大學に入り商業管理法を修め同三年歸國せり、嗣いて黎副總統の顧問となり、民國二三年間湖北省夏口廳知事となる、六年十二月現在同省署理蘄縣知事たり。年齢三十六。

殷汝耕 (Yin Ju—kêng)

浙江省人

殷汝驪の弟にして曾て日本に留學し熊本第五高等學校、早稻田大學政治科を卒業し歸朝後衆議院書記官長に任ぜらる本年八月中國銀行特派員として日本に來りしが是れより先き寺尾博士の媒介に依り高知縣人故井上宅輔氏の長女惠子と婚約整ひ八月十七日東京日比谷大松閣にて結婚式を挙げたり。

殷汝驪 (Yin Ju—li)

字 鑄夫

浙江省溫州人

氏は溫州の名族たり前清中曾て上海震旦書院に修業し後日本早稻

田大學に留學せり、其卒業歸國するや適第一革命に方り具さに奔力せり嗣いて民國二年選ばれて衆議院議員となり國民黨に隸籍し雄を北京政界に稱せしが第二革命に及び遂に日本に亡命す、同三年冬上海に歸り黃群と共に上海時事新報を發刊し侃々諤々の論をなせり此より同志を糾合し大に反袁運動を起し西南義旗を翻へし浙江獨立するに至るに及び各派を連絡し恢復に渾身の力を盡せり既にして袁氏死亡し黎氏繼任するや民國五年七月張弧の後を襲ぎ財政次長に任じ六年四月辭職し事を以て亡命し其の行く處を知らず客死の説あるも信じ難し氏は鄭孝胥の姻戚にして人となり慧敏にして辭令に巧なり邦人にも知人多く甚だ將來を有す。年齢三十五。

殷承燾 (Yin Ch'êng—hsien)

字 叔桓

雲南省陸良縣人

前清中日本陸軍士官學校工兵科に入學し明治四十一年十一月卒業す、歸朝後雲南陸軍第十九鎮正參謀官、參謀處總辦等となる。民國成立後參謀總長、援藏軍司令官、總統府顧問官等に歷任せしが民國五年故蔡鏐と共に北京を逃がれ雲南に入りて第三軍を起したり、五年八月四川省川邊鎮守使に任じ嗣いて熊克武と交代せり。年齢三十六。

殷恭先 (Yin Kung—hsien)

字 錦波

民國二年七月陸軍中將に任ぜられ武衛前軍前路統領に拜命す五年四月安徽省皖北鎮守使に署して今日に及べり。

殷 貴 (Yin Kuei)

直隸省天津縣人

民國元年一月陸軍中將となり九月陝西省漢中鎮總兵に任ぜらる、五年七月熱河朝陽鎮守使に任じて今日に及べり。

殷 源之 (Yiu Yuan—chih)

安徽省合肥縣人

初め廬州中學校、安徽高等學堂、江南高等學堂に學び宣統二年官費を以て米國に留學し「マ」州工業學校に入學す、民國三年學士號を得て卒業し四年歸國し北京中華大學教員、督辦兵工事務所辦事員となる。年齢二十六。

殷 錡 (Yin Chêng)

江蘇省江都縣人

前清の附貢生にして北京外城巡警總廳行政處僉事を拜命し民國成立後内務部總務廳文書科僉事兼秘書を命ぜらる、六年十二月現在同部職方司長たり。

殷 鴻壽 (Yin Hung—shou)

民國二年十一月陸軍少將に任ぜられ同三年一月中將に進み蘇州鎮守使に拜命し六月蘇常道尹に轉じ、五年一月蘇常鎮守使を兼ね七月免ぜらる、六年十二月現在陸軍々法裁判所長たり。

席 聘莘 (Hsi Ping—hsin)

雲南省昆明縣人

民國六年九月貴州教育廳長に任ぜらる。

席 綬 (Hsi Shou)

湖南省人

前清中附生より法部郎中を授けられ清末に至り資政院の多額納税議員となれり。

辛亥革命の際湖南々路保安總會長となり又天民報社を創立し民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢三十八。

席 德柄 (Hsi Tê—ping)

上海人

初め上海繩正學堂、南洋公學に學び、宣統元年米國に留學し三一學

たり。年齢四十四。

倪 惟欽 (I Wei—chin)

雲南省昆明縣人

前清の進士にして貴州提學使、糧儲、兵備道たり、民國二年雲南警備隊總司令部警務處處々長、同四年十二月獨立後都督府顧問官、軍法課長、鐵路局長等に歴任せり。年齢六十二。

倪 欽 (I Chin)

江蘇省大倉縣人

前清の舉人にして曾つて北京外城總廳六品警官となり民國成立後順天武清縣知事に昇任し、六年九月現在京兆昌平縣知事たり。

倪 嗣冲 (I Ssu—chung)

安徽省阜陽縣人

前清中軍界に累進し奉天提法使、黑龍江省民政使より宣統三年河南布政使となり、安徽省布政使に轉じ第一革命の際は安徽省の軍隊を統括せり。

民國成立後辦理豫邊事宜、總統府軍事顧問官、皖豫指揮官、皖北鎮守使兼領皖北觀察使に歴任す、民國二年七月安徽省都督となり民政長を兼ね、四年陸軍中將に進補、一等公に封じ、五年四月安

校に理科を修む、同二年「マ」州工業學校に入り衛生工學を學び民國三年學士號を得、同年又英國に遊び「パーミングハム」大學商科に入り卒業歸國す、嗣いで北京清華學校測量員及び衛生工程師となる。年齢二十六。

倪 兆春 (I Chao—Ch'un)

浙江省杭縣人

曾て寧波三一書院、上海聖約翰大學に修學し、嗣いで天津新學書院教員兼監督、上海務本女塾兼南洋中學英文總教員に歴任す、宣統三年米國に留學し「ミッドルブリー」學校に教育學を修む。

民國元年哥倫比亞大學師範科に教育行政學を修め同二年學士號を得、嗣いで該校に外交法律を學び四年碩士の學位を得たり、當時「米國の外交」一書を著し、又哥倫比亞大學師範學會々計、巴奈馬博覽會萬國教育會議中國代表に任じ哥倫比亞大學漢文教員となる、五年歸國し浙江杭州中皮市巷に住せり。年齢三十三。

倪 春田 (I Ch'un—fien)

奉天省瀋陽縣人

初め稅局、行政官廳に職を奉じ後奉天、興京にて商を營む次で原籍に歸りて農を業とせしが日露戰後再び活動し公主嶺、郭家店、四平街等にて種々の事業を創め傍ら私塾を開き又四平街實業補習學校の講師に聘せらる民國二年以來公舉せられて同地商務會協理

徽巡按使兼長江巡閱副使となる、六年五月北京に督軍會議あり當時暴徒議會を包圍せしことありしが倪氏實に主謀者なりしと傳へらる、嗣いで五月二十九日段氏免職さるゝや中央に反對して獨立を宣言し各督響應して兵を擧げて北京に迫り、段氏復職するに及び始めて解き去る、同年七月張勳復辟に反對し馮國璋、張懷芝と共に三方共に進み徐州の巢窟を衝く、張勳失敗の後江蘇督軍に任ぜり。年齢五十。

倪錫純 (I Hsi-chün)

字 燮臣 上海人

初め上海聖芳齋書院、中西書院に學び嗣いで聖約翰大學を卒業せり、爾來該大學教員、南京高等實業學校教員に歴任せしが光緒三十三年官費を以て米國に留學す、初め「エール」大學に土木工學を修め宣統二年學士號を得、同三年「ペンシルバニヤ」大學理科に入り碩士の學位を得、乃ち又「サイロクス」大學工科に學び民國元年土木工程師の學位を得たり。同年歸國し中國鐵路協會工程顧問、同二年盛杏蓀の秘書、三年上海東方地産公司經理に歴任せり。年齢三十六。

倪謙 (I Chien)

江蘇省無錫縣人

前清の舉人にして軍諮府第二廳第三科員に奉職し民國成立後陸軍

部軍學司科長に拜命せり。

翁之麟 (Wêng Chih-lin)

字 振伯 江蘇省常熟縣人

民國六年十二月現在陸軍部軍械司長たり。

翁恩裕 (Wêng Ân-yü)

字 問卿 奉天省本溪縣人

前清中筆帖式、候補主事となり民國二年衆議院議員に擧げられ、六年九月臨時參議院議員となる。年齢四十二。

翁浩 (Wêng Hao)

福建省閩侯縣人

前清中日本に留學し、明治四十年頃警察學校を卒業せり、歸朝後直隸候補道となり天津にて警務を掌る、第一革命後福州に歸り曾て福建警務司長となれり。性硬直にして熱烈、皮相を學び實際に疎きに似たり、是れ革黨急進派たる所以なり。年齢四十三。

翁敬棠 (Wêng Ching-t'ang)

福建省閩侯縣人

前清中曾て日本に留學し法政大學を卒業す、歸朝後即ち學部主事に拜命し爾來福建提法司刑科々長、京師地方檢察廳檢察官に歴任す。民國四年四月天津地方審判廳長に轉任し今日に至り勤續せり稍々邦語を解す。

涂熙雯 (Tu Hsi-wên)

四川省江津縣人

前清の舉人にして法部主事及京師初級審判廳推事となり、民國成立後司法部監獄司第三科主事となれり。

郝伯陽 (Ho Po-yang)

直隸省天津人

初め南京宏育書院を卒業す、宣統三年米國青年會員の應援に依り渡米し同會附屬學校に入り體育を學び民國三年學士號を得歸國せり、嗣いで上海青年會體育部幹事に、四年遠東運動大會運動場經理、江蘇體育傳習所教員、上海正樂社社員及書記等に歴辦せり。年齢二十八。

郝延鍾 (Ho Yen-chung)

四川省梓潼縣人

曾て本縣の學校を卒業し日本に留學して早稻田大學を卒業せり、歸朝後奉天總督衙門交渉委員に拜命し宣統二年公主嶺交涉局長に轉任せり。氏温厚淑雅、革命思想を有し地方に信望あり、邦語に通ず。

涂廣泉 (Tu Kuang-ch'ian)

字 惠山 直隸省臨榆縣人

奉天東三省官銀號員として久しく精勤したる功に依り民國元年同號開原に分號を創むると共に分號主任に擧げらる。年齢三十四。

涂鳳書 (Tu Fêng-shu)

字 子厚 四川省雲陽縣人

前清中黑龍江省交涉局會辦に任じ嗣いで龍江府尹を兼ね。第一革命後黑省提學使となり仍ほ交涉局會辦を兼任し民國三年五月同省巡按使署政務廳長に任じ五年五月辭職、六年十二月現在國務院參議たり。年齢四十。参考 同省は專任巡按使を置かず、鎮安右將軍之を兼務するを以て政務廳長は實際上巡按使の職を執り省内行政官に對しては相當勢力を有せり。

郝國璽 (Ho Kuo—hsi)

字 正卿

湖南省澧縣人

宮毅 (Kung I)

字 文卿

北京人

北京陸軍大學卒業生にして、民國五年四月浙江省獨立宣布前後第四十九旅參謀、第六師砲兵第六團長に歴任せり、六年十二月現在浙江第一師砲兵第一團長たり。

郝樹基 (Ho Shu—chi)

字 昂初

京兆三河縣人

師景雲 (Shih Ching—yun)

字 嵐峰

直隸省徐水縣人

前清中農工商部庶務司主事となり、民國成立後農商部鑛政司第二科僉事に任ぜらる。

郝濯 (Ho Cho)

字 仲青

直隸省霸縣人

倉爾楨 (Ts'ang Êrh—chên)

字 周卿

河南省中牟縣人

曾て直隸師範學校を卒業し保定第一中學校教師、育德中學校々長に任ぜられ、民國二年參議院議員に當選せり。年齢三十九。

宮邦鐸 (Kung Pang—to)

山東省德平縣人

民國六年十二月現在陸軍第六師第十二旅長たり。

倉永齡 (Ts'ang Yung—ling)

字 錫青

河南省中牟縣人

曾て直隸長芦鹽運使署科長に任ず、居ること數年にして、民國三年山西河東鹽運使に昇任し、同年四月上大夫を授けらる、嗣いて東三省鹽運使を命ぜられ六月營口に著任、五年九月免ぜらる。年齢四十六。

晏安瀾 (Yen An—lan)

字 海澄

陝西省鎮安縣人

前清中度支部承政廳郎中、度支部清理財政處總辦、度支部右參議憲政編查館二等諮議官に歴任せり。民國成立後四川鹽運使となり、民國四年五月上大夫少卿銜を授けらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。年齢五十七。

修承浩 (Hsin Ch'êng—hao)

湖南省沅陵縣人

民國六年十一月四川政務廳長に任ぜらる。

索景昌 (So Ching—ch'ang)

字 其丞

奉天省海城縣人

十 畫 [倉、晏、修、索、茹、貢、桑]

光緒三十年東游し外國語學校支那語教師となり、餘暇を以て早稻田大學、日本大學を卒業せり。

民國三年歸國して山東省商埠巡警局局長となり、四年同省々會警察廳長に任ず、邦語に精通せり。年齢三十七。

軍官學堂卒業生にして禁衛軍參謀長に躋る、民國二年十二月馮國璋に従ふて南京に來り江蘇都督府軍械處長に任じ、同三年六月官制改正後將軍府參謀長となり陸軍中將に補せらる、師君深沈寡言蓋し馮門の第一人なりといふ。年齢三十五。

前清の廩生にして曾て江西省袁州に知府たり、民國成立後直隸省正定縣知事に任ぜられ、嗣て民國四年巡按使朱家寶の上申に依り五等嘉禾章を給與せらる、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

曾て安東縣商務會協理たりしが後鴨綠江採木公司營業課長となる、同地商界に勢力あり、滿洲人なり。年齢六十。

茹臨元 (Ju Lin—yüan)

字 澤涵

浙江省紹興縣人

前清の監生出身にして曾て吉林雙陽縣知縣たりしが嗣いて審判廳々長となり、民國成立後順天寶坻縣知事に任用せらる、並に京兆調署薊縣知事たり、六年十二月現在仍ほ該職に在り。

貢桑諾爾布 (Kung—sang—norp)

字 樂亭

蒙古喀喇沁王

曾て東游し歸蒙後日本教師を聘し學校を設立或は學生を日本に派遣し文化の輸入に努力す。第一革命後は參議院議員蒙藏局總裁となり、六年十二月現在蒙藏院總裁たり並に正白旗滿洲都統たり。氏は肅親王の妹を夫人となし清室と密接なる關係を有し六年七月一日復辟發表の際には理藩部尙書に任命せられたり。年齢五十二。

桑宣 (Sang Hsüan)

前清の候選道臺にして經濟特科の試験に合格し高等官職に列り、湖北督臬兩署の審理となりて交渉事件を處理し、又農備倉武穴籌

餉局に奉職し並に學務に干與するもの十有餘年成績頗る卓越せり又曾て湖北譯書局に在り日本書籍を翻譯するもの十數種に上れり民國成立するや禮制館編纂に任ぜられ同四年中朱瑞の上申に依り政治堂記録に登れり。

荆育瓚 (Ching Yü-tsan) 山西省猗氏縣人

前清の進士にして吏部主事となり日本に留學し東京法政大學を卒業し曾て襄陽路政、學部文選司主稿、憲政籌備處參議、員外郎等に任ぜらる。民國成立後本省に歸り國民會參事、山西都督府參議兼山西教育總會々長に任ぜられたり。

祖章義 (Tsu Chang-i) 直隸省人

光緒三十四年十月長春附屬地に旅館を開業し嗣いで哈爾濱、奉天に支店を設立す、使用人二百人純益年一萬五千圓と稱す。祖君任侠を好み多く貧民を救助せり、又民國四年長春北門外に私立祖氏小學校を設立し學生百四五十名を教育せしが後事を以て閉鎖せり。年齢四十三。

書少章 (Shu Shao-chang) 直隸省人

奉天省開原縣人

滿洲人にして前清の附生なり、光緒三十四年開原城守尉代理となり、民國元年開原議事會議長に選ばる。年齢四十七。

恭親王溥偉 (Kung-Ch'in-wang Pu'wei) 現住青島

清の宗室にして光緒三十三年七月滿洲正黃旗副都統となり、同三十四年四月禁煙大臣に、同八月北京崇文門監督となりしが、第一革命以後青島に栖隱す、爾來六年の間各地宗社黨と氣派を通じ宗社中興を謀りしが六年七月張勳失敗により一頓挫を來たせり。年齢三十餘。

烏澤聲 (Wu Tsé-shêng) 吉林省人

前清中日本に留學し早稻田大學を卒業せり、民國成立後國會議員に擧げられ二年十月解散後は大同報、國華報、毎日新聞の社長として經營に努め現に臨時參議院議員並に新民報社長たり、七年三月北京報界赴日視察團を組織し東游せり。年齢三十五。

十一 畫

【陳○商○張○郭○梁○許○陸○陶○章○

曹○崔○畢○莫○康○盛○戚○婁○莊○

梅○連○區○常○麥○符○望○塔○訥○

祥○逢○啓○崇○鹿○焉○巢○寇○

陳九詔 (Ch'en Chiu-shao) 湖南省郴縣人

前清の廩貢生にして度支部軍餉司主事に任じ、又曾て財政學堂、國立法政學堂政治經濟科に入り卒業せり、民國六年衆議院議員に選舉せらる。

陳三立 (Ch'en San-li) 江西省人

氏は江西の大族にして前清湖南巡撫陳寶箴の子たり、曾て江西鐵道の總裁に推され視事多年、嗣いで兩江總督幕僚となりしが未だ久しからずして罷め、爾來野に在りて重きを爲せり、又曾て郷人と共に上海に江西共和討論會を組織し並に江西鐵道名譽總理たり。

陳大齊 (Ch'en Ta-ch'i) 浙江省海鹽縣人

早歲日本に留學し東京帝國大學文科に哲學を研究し文學士の稱號を得たり、その邦語に巧なるは勿論英語獨逸語皆佳、人となり謹嚴定に品學兼優の教育家なり。歸朝後浙江高等學校校長となり、嗣いで北京法政專門學校教員に任ぜしが民國三年九月北京大學文科教授となる。年齢三十。

陳子斌 (Ch'en Tzu-pin) 江西省石城縣人

前清中北京法律學堂を卒業し大理院法官に任ず、民國二年衆議院議員に當選せり。

陳之麟 (北京音 Ch'en Chih-lin) 福建省海澄縣人

前清の舉人、地方の富豪にして銀行業、鹽館を經營す、宣統中福建諮議局副議長に推さる。第一革命後福建財政司長に任じ今福建禁烟局長たり、六年九月臨時參議院議員となる。質性溫厚、主義穩健、高登鯉(前福建民政司々長)劉崇佑(前福建

民政司次長)と友善。年齢三十餘。

陳之驥 (Ch'ên Chih—chi)

字 淑良

直隸省豐潤縣人

明治四十一年十一月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業し江蘇第八師々長たりしが、民國元年陸軍中將に補せらる。六年十二月現在將軍府參軍たり。年齢三十五。

陳子丹 (北京音 Ch'ên Tzu—tan) (廣東音 Chan Tzu—tan)

廣東省潮州人

舊學に長じ素と政治に關與せず、乃父創設せるところの新嘉坡取引店乾泰隆の支配人たり。年齢五十。

陳文海 (Ch'ên Wên—hai)

京兆大興縣人

前清舉人出身にして曾て軍諮局地形股班員たり民國成立するや參謀本部地形課審査に任せらる。

陳文燦 (Ch'ên Wên—ts'an)

京兆宛平縣人

北京に來り北京「ガゼット」を買収し大に毒筆を振つて日本を中傷せり、同氏は前大總統黎氏と關係あり本年五月日支密約の記事を掲げ京師警察廳に拘禁せられしが繼で放免せられ北京を去つて上海に赴けりといふ、當時上海にて新聞再刊の計畫ありと傳へらる年齢三十五六。

陳允中 (Ch'ên Yün—chung)

字 權均

江蘇省金壇縣人

戊戌政變後慨然として政事の改革に志し、日本に遊び、遍く風俗政教の進歩を考查し、歸朝の後師範學校々長となり地方自治を處理し、省會議員に選舉せらる。

第一革命の當時本省都督府參謀として軍事に參畫し、民國元年正式國會成立後衆議院議員に當選せり、年齢四十三。

陳天驥 (Ch'ên T'ien—chi)

字 公亮

上海人

初め上海南洋中學、民立中學、聖約翰大學に學び、宣統二年官費を以て米國に留學し「ミシガン」大學に土木工學を修め、民國元年「リハイン」大學に入り同三年卒業、四年「コロンビヤ」大學に學び同年冬歸國す、五年唐山路礦學校教員となる。年齢二十三。

前清監生出身にして曾て雲南侯山縣知縣たり、民國三年十一月兼署理安徽巡按使倪嗣沖の呈請に依り安徽省盧江縣知事に任せらる。

陳文緯 (Ch'ên Wên—wei)

湖南省長沙縣人

前清の江蘇巡撫陳啓泰の弟にして前清中邑廩生より道員となり又湖南商會總理たり。

第一革命後湖南財政司長、湖南鐵路局々長となり、今湖南電燈公司總理たり。氏資性硬直内方外圓、鐵路事業に經驗あり地方に名望を有す。年齢六十餘。

陳文運 (Ch'ên Wên—yin)

字 郁臣

河南省光山縣人

明治三十七年十月日本陸軍士官學校歩兵科を卒業す、民國元年十月陸軍少將に補せられ王占元に屬し白狼を討伐せり二年九月陸軍中將に進補、騎兵第一旅長となり嗣いて張家口高等軍事顧問となる。年齢三十九。

陳友仁 (Ch'ên Yu—jên)

玫瑰に生まれ幼にして英國に留學し同國大學を卒業せり、前年來

陳天祺 (Ch'ên T'ien—chi)

字 念祖

浙江省海寧縣人

日本語に通ぜり、知府の資格を有し曾て江蘇都督繙譯科長たり年齢四十三。

陳介 (Ch'ên Chieh)

字 蕪青

湖南省湘鄉縣人

獨逸伯林大學法科卒業生にして民國成立後工商部商務司々長となり、後工商部、農林部合併するに及び農商部商工司長に任せらる、六年十二月現在山東實業廳長たり。年齢三十三。

陳少悟 (Ch'ên Shao—wu)

福建省同安縣人

廈門に三大姓あり曰く吳、紀、陳而して陳族尤も懽懽、地方官と雖も手を下す能はざるなり、陳氏同族の牛耳を執り曾て鹽課總辦たり。年齢四十餘。

陳正魁 (Ch'ên Chêng—k'nei)

民國元年十月陸軍少將中將銜に補せられ甘肅涼州軍統領となる。

陳世第 (Ch'ên Shih—ti)

字 稚鶴

浙江省杭縣人

初め杭州求是書院、上海聖約翰大學に學び、浙江高等學堂、安定、宗文兩中學に教鞭を執りしが、光緒三十三年官費を以て米國に留學し「カリホルニヤ」大學に政治學を修め又「ハーバード」大學に學び宣統三年歸國す。

民國成立後審計院審計官に任ぜらる。年齢三十六。

陳玉符 (Ch'ên Yü—fu)

字 果光

奉天省本溪縣人

光緒三十一年奉天師範學堂を卒業し翌年東豐縣大肚川高等小學校長に就職し、嗣いで同縣視學、勸學所員等より民國二年同縣教育公所長となり以て今日に至れり。年齢三十七。

陳玉麟 (Ch'ên Yü—lin)

福建省福州人

光緒三十四年署理吉林度支使となり宣統元年實任に昇る翌二年官を罷めしが未だ幾ならずして第一革命に遭ひ逃れて上海に来るや上海都督に囚はれ當時租界局と一問題を惹起せり。

陳白 (Ch'ên po)

字 少白

廣東省新會縣人

曾て香港醫學校を卒業し英語及び日本語に精通せり、夙に孫仲山と革命を主張し光緒三十年廣州に事を擧げ敗れて日本に亡命せり當時村田海石、犬養木堂の知遇を得、又宮崎滔天と訂交し、姓を服部と改む、同二十五年香港に中國日報を發刊し嗣いで商界に入り李煜堂と貨殖に従事せり。

第一革命の際廣東の獨立に力を致し、獨立政府の外交司長に推され、其手腕と見識は外人の共認するところたり、氏の支那革命界に於けるや、其名聲孫中山と雁行し胡漢民の先輩たり、故に胡氏(胡氏當時廣東都督たり)の下に在るを屑とせず遂に辭職して九龍に栖隱せり。

氏は支那革命黨員として日本士林に接する最も早しといふ。年齢四十四。

陳以復 (Ch'ên I—fu)

字 任才

江蘇省江陰縣人

前清曾て駐澳國二等書記官たり民國成立するや駐伊公使館署理隨員に任ぜらる。

陳必淮 (Ch'ên Pi—huai)

湖南省岳陽縣人

前清監生出身にして曾て甘肅籌州知州たり、民國三年五月寧夏觀察使より甘肅寧夏道尹に任ぜられ、四年四月五日上大夫を授けらる。

陳同善 (Ch'ên T'ung—shan)

河南省開封縣人

前清曾て山東省の直隸州知州候補たり民國成立するや鄒縣署理知事、河工稅釐等に歴任し、六年十二月現在山東廣德縣署理知事たり。

陳同壽 (Ch'ên T'ung—shou)

字 受彤

江蘇省蘇州人

初め上海南洋公學に學び光緒三十一年官費を以て米國に留學し、「カリホルニヤ」大學に土木工學を研究す、同三十三年「ウイスカシオン」大學に普通文科を修め三十四年「イリノイス」大學に鐵路管理法及び經濟を學び、宣統二年學士號を得、三年碩士となる、同年歸國し進士を授けられ、北京財政學校教員に任ず。

民國元年上海南洋公學教員、交通部技士、二年交通部技正及び視察、三年交通部鐵路會計司科長に歴任し、五等嘉禾章を給せらる。年齢三十七。

陳同紀 (Ch'ên T'ung—chi)

字 彝仲

廣東省人

曾て日本明治大學を卒業す、歸朝後北京稅務處、齊々哈爾及及び夔州の稅局長、重慶海關監督兼交涉員、交通銀行重慶分行監督兼務等に歴任す。

氏人となり溫良恭謙、但し事務の經驗に乏しきの憾あり。年齢三十七。

陳份 (Ch'ên Chieh)

雲南省保山縣人

前清曾て貴州松桃直隸廳同知たり、民國成立するや、雲南財政廳長署理に任ぜられ、四年四月十三日に待命となる、六年七月農商部代理秘書に八月同部秘書に任ぜらる。

陳兆璇 (Ch'ên Chao—hsitan)

湖南省湘鄉縣人

前清監生出身にして曾て湖北省鄖西縣知縣たり、民國成立するや國史館纂修官に任ぜらる。

陳兆焜 (Ch'ên Chao—kun)

字 希堯

廣東省廣州人

光緒二十九年の廣東鄉試舉人にして吏部揀選知縣となり、同三十四年京師大學堂を卒業して又舉人を授けらる、宣統元年分省補用通判を以て學部に分屬せられしが、此年自費米國に留學し、「カーネル」大學に農科を修め、同二年「コロンビヤ」大學に政治學を修む、三年碩士の學位を得更に經濟學を修む、同年「中國賦稅沿革攷」一書を著はし博士の學位を得たり、嗣いで歸國し、四年政事堂留學生試験甲等に合格し財政部に分屬せらる、五年北京鹽務署僉事上行走に任じ北京大學法科教員を兼ねたり、年齡三十二。

陳仲麓

(Ch'ên Chung—ch'ih)

字 和聲

廣東省香山縣人

光緒十三年米國に留學し十六年「オーマーハ」大學に醫學を學び、二十三年醫學博士の學位を得、又「カリホルニヤ」大學醫科に入り二十四年歸國せり。
二十六年廣州博濟醫院醫師、二十八年廣州時敏學堂教員に任じ、三十二年優等醫科舉人を授けらる、宣統二年上海海關稅務司醫官三年上海郵政局醫官を兼任せり、年齡四十六。

陳汝湘

(Ch'ên Ju—hsiang)

字 筱帆

廣東省人

初め上海中西書院、天津新學書院、北洋大學に學び、光緒三十二年官費を以て米國に留學し「ブラウン」大學及び、「エール」大學に土木工學を學び學士號を得宣統元年「コロンビヤ」大學に水力工學を修め、同二年「アイオー」大學に鐵路工學を研究し、宣統三年歸國嗣いで廷試に應じ進士を授けらる。
民國三年川漢鐵路副工程師、同四年廣東水利局副工程師等に歴任す。年齡三十一。

陳先甲

(Ch'ên Hsien—chia)

四川省華陽縣人

前清優貢生出身にして曾て直隸省固安縣知縣たり、民國成立するや同四年四月十三日雲南魯河縣知事試署に任じらる。

陳光譜

(Ch'ên Kuang—p'u)

字 耀遠

安徽省宣城縣人

光緒二十八年本省の高等學校に入り同三十二年陸軍軍醫學校に改入せしが事を以て退學し、宣統中本縣の教育事業に盡瘁せり。
民國成立後省に在りて民衆日報を創刊し同二年衆議院議員に選ばれ民主黨に隸籍せり、初次國會解散後は本省視學に任じ、後辭して華興煤公司を組織せり、五年國會再蘇して議席に復歸し議員にして行政官を兼ねるの非を痛論せりといふ、六年九月臨時參議院議員となる。年齡三十八。

陳光遠

(Ch'ên Kuang—yüan)

字 秀峰

京兆武清縣人

氏は北津軍人派中直隸派に屬するものなり、多年軍界に歴職し、民國元年九月陸軍中將に補せらる、曾て總統府軍事諮議官、赤峰鎮守使たりしが後第十二師長として北京西苑に駐し、六年五月段氏國務總理を免ぜられ各省督軍兵を擧げて黎總統に反抗するや、京津一帶警備副司令を命ぜらる、七月一日宣統帝復辟の際は清廷より直隸提督を命ぜられ、嗣いで七月二十七日江西督軍に任ぜられ第十二師長を兼ねぬ。

陳光弼

(Ch'ên Kuang—pi)

字 子均

四川省人

日本留學生出身にして曾て直隸都督府實業科長たり。年齡五十三

陳光遠

(Ch'ên Kuang—k'nei)

京兆武清縣人

民國六年十二月現在陸軍第三混成旅長たり。

陳光憲

(Ch'ên Kuang—hsien)

江蘇省江寧縣人

前清廩生出身にして曾て度支部員外郎、軍諮局第一科々長たり、民國成立後に及び江蘇省淮揚道尹に任ぜられ、四年三月二十九日中大夫並上大夫銜を授けらる、五年十月國務院に存記されたり。

陳在新

(Ch'ên Tsai—hsin)

字 化民

北京人

初め北京滙文大學を卒業し該校教員となる、宣統二年滙文大學公費を以て米國に遊び「コロンビヤ」大學に教育學及び數學を修め、民國元年碩士の學位を得嗣いで歸國す、現に滙文大學教員たり。年齡三十八。

陳安濤

(Ch'ên An—tao)

字 靜波

廣東省澄海縣人

幼時より汕頭商界に年を歴、目下銀行業滙安の支配人たり、又水道公司の協理となる。年齡四十七。

陳安良

(Ch'ên An—liang)

字 禮泉

廣東省人

前清中香港官立學校に入り英學を修め英語教員として上海南京

等に寓居し、後湖南高等學堂教習となり、革命思を鼓吹想せり、第一革命後湖南外交司次長となる、氏孫中山に交誼あり。年齢四十九。

陳任義 (Ch'ên Jên—i)

安徽省合肥縣人

日本陸軍士官學校を卒業し奉天第二師及び陸軍部に歷任し工兵大佐に至る、民國四年七月四川陸軍製革廠長に轉任せり。年齢三十九。

陳克燿 (Ch'ên K'o—yao)

湖北省江陵縣人

前清癸卯科進士出身にして曾て法部主事たり、後京師地方審判廳民科推事となり、民國成立するや司法部典獄司第一科主事に任ぜらる。

陳志元 (Ch'ên Chih—yüan)

浙江省餘姚縣人

前清中銀行事業に従事するもの殆んど二十年、曾て大清銀行に奉職せしが民國四年沙市中國銀行(大清銀行の後身)分行總理に任じ現に沙市に在り。年齢四十四。

陳芝昌 (Ch'ên Chih—chang)

廣東省新會縣人

前清廩生出身にして曾て法部主事たり。

陳廷英 (Ch'ên Ting—ying)

湖北省鄂城縣人

前清舉人出身にして各省土藥統稅大臣柯逢時及兩江總督端方の幕中にある事多年、後知縣を以て江蘇省の揚子、興化、江都各縣の知縣に歷任す。

民國成立するや湖北都督署の幕内に入り、湖南巡按使署顧問財政司法行政監督事宜を兼ね四年一月三等嘉禾章を授けられ、湖南省に分發せられて酌量の上任用さる事となる。

陳廷均 (Ch'ên Ting—chün)

上海人

字少雲

初め唐山(直隸)路鐵學堂に學び、民國元年官費を以て米國に留學し「ウイスマカンシン」大學に政治學を修め、同四年學士號を得、又「プリンストン」大學に學び同五年碩士の學位を得同年歸國せり、現に廣東省城に住す。年齢二十五。

陳廷訓 (Ch'ên Ting—hsün)

字漢憲

廣西省桂林縣人

前清舊式軍隊の砲兵たりしが洪江會員の小頭目なりしを以て第一革命の際一部會員の推すところとなり九江衛戍司令官に任じ、民國二年七月陸軍中將に補し今將軍府參軍の閑職に在り。陳君目に一丁字なしと評せらる、傑物なり。年齢三十七。

陳廷勛 (Ch'ên Ting—hsün)

奉天省遼陽縣千山人

氏は州内の豪農にして前清中國子監を卒業し光緒三十四年自治期成會員に、宣統三年遼陽參事會議員に歴選されたり。年齢四十四。

陳廷葵 (Ch'ên Ting—fên)

字穉蘇

貴州省安順縣人

現雲南教育廳長陳廷策氏の弟にして前清中舉人となり、曾て貴州都督府秘書長たりしが六年十二月現在貴州鎮遠道々尹たり。年齢四十一。

陳廷策 (Ch'ên Ting—ts'è)

貴州省平壩縣人

字幼蘇

前清の舉人にして日本法政大學を卒業し稍々日本語に通せり、歸朝後内閣中書を授けられ河南法政學堂教務長となれり。

民國成立後南京臨時參議院議員となり、正式國會成立するや衆議院議員に選ばれしが、民國四年六月同省民政廳長に任じ、五年九月辭職、六年十二月現在教育廳長たり、

氏學識深遠資性溫順些の圭角なし、氏の弟廷葵貴州省鎮遠道尹たり。年齢四十四。

陳伯浩 (Ch'ên Po—hao)

廣東省人

光緒三十二年米國に留學し「ミシガン」大學に政治經濟教育を修め、民國元年學士號を得、同二年碩士の學位を得、三年歸國し廣東嶺南學校教員、四年南京金陵大學教員に歴任せり。年齢三十三。

陳辛恒 (Ch'ên Hsin—hêng)

字醒盦

江蘇省松江人

初め上海聖約翰大學、尙賢堂に學び嗣いで該堂教員となる、光緒三十年米國に留學し「バンダービルト」大學に理學を修め、宣統元年卒業碩士となり、更に「シカゴ」大學に入り宣統二年歸國す。嗣して上海商務印書館編輯、復旦公學化學物理教員、南洋公學化

學地質學教員、武昌外國語學校教員、同文華大學教員に歴任し、現に武昌高等師範學校英文教員に任ぜり。年齢三十一。

陳步墀 (北京音 Ch'en Pu-chih) (廣東音 Chan Po-tsze)

字 子丹 廣東省潮州人

漢學に通じ又北京語に通ず、現に香港に住居し乾泰隆の支配人となり米穀、南洋物産を賣買す、並に華通輪船公司の代理店を營み該公司の大株主たり。氏幼にして赤貧、乾泰隆の先主彼を養ひ子となせり、曾て渡日實業觀光團を組織し香港華商を代表し發して上海に至りしが適、武漢革命に遭ひ中止せり。年齢五十。

陳明壽 (Ch'en Ming-shou)

字 受敏 江蘇省蘇州人

宣統三年官費を以て米國に留學し「マ州工業學校に機械工學を學び民國三年「コロンビヤ」大學に物理を研究し五年碩士となる、同年歸國して漢口揚子機器公司に入る。年齢二十六。

陳昌毅 (Ch'en Chang-ku)

字 子式 貴州省息烽縣人

前清中北京陸軍貴冑學堂を卒業す、二年四月蘇州稅關監督、蕪湖

り世上噴々として煩言なきにあらざるも身を微賤より起し遂に上海軍民の長官に躋る、死して而して餘光あるものと謂ふべし。

陳其采 (Ch'en Chi-tsai)

字 藹士 浙江省歸安縣人

光緒二十五年日本に留學し成城學校に入學し嗣いで明治三十四年十月日本陸軍士官學校に轉じ支那留學生第一期第一名を以て歩兵科を卒業せり、歸朝後軍界の要職に歴任し軍諮府(我參謀本部に相當す)第三廳長たりしが、適々辛亥革命に遭ひ職を棄て、南旋し、革命に投じて南京攻圍軍總司令官徐祥禎の參謀となり遂に張勳を走らしむ第二革命に及び上海にて家兄陳其美を輔けて製造局(兵器製造所)を攻撃せしも利あらず遂に日本に亡命せしが、袁氏帝制聲中又上海に歸り黨務に盡力せり。

陳其達 (Ch'en Chi-ta)

字 書圃 京兆大興縣人

前清日本に留學し東洋大學高等警務科を卒業す、歸國後江西省警察事務の各要職にありしが民國第四期の知事試験に合格して江西省に任命せられ、同五年三月九江警察廳長に任ぜらる。年齢三十六。

稅關監督となる、六年十二月現在京兆財政分廳長に歴任す。年齢三十八。

陳其美 (Ch'en Chi-mei)

字 英士 浙江省湖州人

壯歲にして曾て質店の一店員たりしが清末の稅政を慨し、革命するにあらざれば能く救國に補ふなきを思ひ、憤然業を抛ちて日本に留學し、居ること一ヶ年警察監獄學校を卒業せり、當時中華同盟會に加入し爾來孫中山股肱の倚たり、其日本より歸るや各地を游歴し革命を鼓吹し又上海民立報の探訪員となりたり。

辛亥革命の秋武昌義旗を翻すや故宋教仁と連絡し上海獨立、江南機器局(軍器製造所)占領に殊功あり上海都督に推さる、然るに氏の經歷は未だ以て衆を服するに足らず、幾く艱辛を嘗めて其地位を保ち、當時上海道臺衙門の公款四十萬兩を沒收し協濟會の名を以て窮民を賑はせり、第二革命に方り又孫黃と共に事を擧げしが軍南京に敗れ功上海に成らず、遂に日本に亡命せり氏又孫文麾下の實行家として袁氏帝制聲中萬難を排して上海に返り着々進行を計りしが民國五年五月上海の寓居に於て遂に袁の刺客の手に斃ふる享年三十九。

六年以還革命の巨人にして袁の毒手に死するもの前に宋漁父あり後に陳英士あり、趙炳鈞、鄭康成等袁の股肱にして且つ免かるゝを得ず、所謂目的の爲めに手段を擇ばざるもの乃ち袁氏の志なり、而して身も亦暴に死し功業遂に空し、陳氏思慮周密にして才氣あ

陳武 (Ch'en Wu)

字 釗民 廣東省人

前清の候補知縣にして直隸都督衙門一等科員たり。年齢四十一。

陳官桃 (Ch'en Kuan-tao)

字 恭甫 廣東省東莞縣人

前清中日本に留學し法政大學專門部を卒業し歸朝部試に應じ法政科舉人を授けらる、乃ち内閣中書に任じ知縣として地方に派遣せられしが。

民國二年河南警察廳長、廣東高等檢察廳長に歴任し、六年十二月現在河南高等審判廳長たり。

陳官韶 (Ch'en Kuan-shao)

字 書圃 廣東省順德縣人

前清舉人出身にして宣統二年曾て陝西省白河縣知縣たり、民國となり同四年三月貴州政務廳々長に任ぜらる。

陳宗蕃 (Ch'en Tsung-fan)

字 蓋衷 福建省閩侯縣人

光緒三十年の進士にして進士館に修業し、嗣いで日本法政大學に入學し優等首席を以て卒業せり、歸朝後京師地方審判廳推事、刑部、法部、郵傳部等の主事となる。民國成立後審計處審計員に任ぜられ、審計院設立するや審計官となり、審査決算委員會坐辦を兼務す、六年十二月現在國務院統計局參事たり。年齢四十。

陳宗良 (Ch'ên Tsung—liang)

字 中樑 湖北省漢口人

初め武昌文華書院を卒業し該校教員となる、宣統三年米國に留學し「コロンビヤ」大學に教育學を修め、民國元年學士號を得て卒業す、同年歸國し武昌文華大學豫科教務長に任ぜり。年齢三十三。

陳宗雍 (Ch'ên Tsung—yung)

字 邵平 福建省閩侯縣人

前清江蘇省知縣候補たり、曾て上海清道局幫辦滬寧鐵路工程購地局文案委員たりし事あり。民國成立するや隴秦豫海鐵路東路工程局長に任ぜらる。

陳佩璋 (Ch'ên Pei—chang)

字 仙舫 直隸省甯河縣人

陳承篔 (Ch'ên Ch'êng—ch'i)

字 子裘 福建省泰寧縣人

前清の廩貢生にして汀州府學教授、中學監督、自治研究所々長、農林會々長、臨時省議會議員等に歷職し民國二年衆議院議員に選舉せらる。年齢四十九。

陳承修 (Ch'ên Ch'êng—hsiu)

字 淮生 福建省閩侯縣人

前清の舉人出身にして曾て學部小京官たり。民國成立するや農商部僉事權度製造所長に任ぜられ、四年農商部より巴拿馬博覽會委員として派遣せられ交通館審查員となり、七月二十七日上士を授けらる、嗣いで農商部工商司第三科々長僉事となり並に建築漢口商場籌備處長たりしが六年十二月農商部工商司長たり。

陳威 (Ch'ên Wei)

字 公孟 浙江省紹興縣人

光緒丙午舉人出身にして日本早稻田大學政治經濟科を卒業す、歸朝後曾て度支部七品小京官たり、民國成立するや中國銀行副總裁に任ぜられ四年一月二十七日中大夫並上大夫銜を授けらる、五年

幼年より書を読み前清の監生たりしが十九歳の時始めて商界に入る、後營口滙兌莊の聘を受けて副經理となり、次で擢んでられて現職安東東三省官銀號經理に就く。年齢三十五。

陳秉鑑 (Ch'ên Pin—chien)

字 靜涵 直隸省天津縣人

前清の廩貢生にして山東縣丞より農商部主事に任ぜられ、爾來天津の考工場、實習工場、勸工陳列所長、農商工部工藝局坐辦、工藝司見習、財政部印刷局總辦、蒙藏院統計科員、財政部印鑄局長に歷任せり。年齢五十。

陳秉焜 (Ch'ên Ping—hun)

字 次明 廣東省番禺縣人

前清舉人出身にして曾て駐韓總領事署三等通譯官たり、民國成立するや鎮南浦副領事署隨習領事に任ぜらる。

陳宜慈 (Ch'ên Yi—tzu)

字 讓旃 浙江省海鹽縣人

日本早稻田大學師範部を卒業す、歸朝後本省嘉興中學校々長たりしが民國五年六月現在之江日報主筆となり同省獨立宣布後參議會議員に推さる。年齢三十三。

陳星庚 (Ch'ên Hsing—k'eng)

字 鈞侯 浙江省鄞縣人

前清舉人出身にして曾て度支部金銀庫員外郎たり、四品卿銜を授けられ貴州副監理財政官に任ぜられ、民國成立するや稅務處第二股帮理に任ぜらる。

陳保棠 (Ch'ên Pao—tang)

字 鈞侯 安徽省人

前清の舉人出身にして河南省汝寧府知府、河南營務處提調准鹽局總辦聽職局會辦等に歷任し嗣いで學務公所の課長となる、民國成立するや汝州府知府に進み、民國二年安徽省巡按使署諮議に充てられ政事堂の存記に登る。

陳冠 (Ch'ên Kuan)

字 鈞侯 直隸省人

前清貢生より鹽大使となり知縣の格を得て江蘇省の要職にありしが山東省金鄉新城蓬萊觀城等の各縣知縣に歷任し、嗣いで道員に陞進す、民國成立するや兩淮鹽務となり民國四年京兆籌備隊總司

令處警務科長兼執法科長に任ぜらる。

陳炳煥 (Ch'ên Pin—huan)

字 樹藩

湖南省湘陰縣人

前清の秀才にして文章に長ず、光緒三十四年湖南諮議局議員に擧げられ副議長に推さる、第一革命の際には湖南財政司長に任ぜられたり。

氏容貌魁偉辯論に巧なり、前湖南督軍譚延闓と友善にして前湖南第一護國軍梯團長陳嘉祐の父なり、氏又前清中湖南留日學生監督として日本に赴けり。年齢五十六。

陳炳焜 (Ch'ên Ping—hun)

字 舜卿

廣西省桂平縣人

陳氏學術に精、前清中身を行伍に起し哨官より管帶に昇り、廣西營務所提調、新軍辦統諸職に歴辦す、嗣いで廣西講武堂を卒業し龍州第二標統に任ぜり。

辛亥革命の秋龍州軍政分府總長に任じ、民國三年七月廣西陸軍第一師長兼桂林鎮守使に昇任、陸軍中將を授けられ、四年十月一等男に封ぜられたり、五年三月第三革命の日廣西獨立を宣布し、同年七月廣西督軍兼省長となり、十月勳三位に叙し、六年四月廣東督軍に轉任せり、同年六月李烈鈞、陳炯明、朱慶瀾等と督軍署に會し、西南六省を連衡して北伐せんことを決定し朱省長の警兵二

萬を收め、同月二十日廣西督軍譚浩明と共に中央に對し關係離脱を電告せり、然るにこれ一時の術策にして遂に七月十八日以來孫文等理想派と衝突せり。年齢五十七。

陳洪道 (Ch'ên Hung—tao)

字 演九

浙江省溫嶺縣人

曾て法律學校を卒業し廣西永福縣知縣、梧州府桂林府の地方審判廳々長、高等審判廳々丞に歴任す。民國成立後浙江法院長、都督府秘書長に任じ二年參議院議員に擧げらる。年齢三十八。

陳洪道 (Ch'ên Hung—tao)

字 澤夫

江蘇省蘇州人

曾て日本に留學し法政大學を卒業す、民國成立後浙江省法院長たりしことあり。年齢三十三。

陳秋安 (Ch'ên Chin—an)

字 佩蘭

廣東省曲江人

曾て廣州嶺南學校に學び宣統三年米國に留學し「ミシガン」大學に歴史政治學を學ぶ、民國四年學士號を得て歸國し香港英華學校教員に任ず。年齢二十八。

陳長鏞 (Ch'ên Chang—tsu)

湖南省瀏陽縣人

前清優貢出身にして縣丞として湖北省に任命せられ曾て湖南省瀏陽縣事務所々長たり、民國第二期知事試験に合格して湖北省興山縣知事署理に任じ、六年四月同縣知事を實授せらる。

陳洋讚 (Ch'ên Yang—tsan)

廣東省香山縣人

布哇に生る、初め布哇英華學校、彌勒學校に學び嗣いで聖路易學校を卒業す、宣統二年半官費を以て米國に渡り紐育學校理科に入り同三年「ロンビヤ」大學に礦業科を研究す、民國二年「ピッツバフ」大學に石油工學を修め、四年石油工程師となり、五年礦工程師となる、同年歸國し現に北京に住せり。年齢二十七。

陳茂康 (Ch'ên Mao—k'ang)

字 晋侯

四川省重慶人

初め重慶廣益中學を卒業し該校教員となる、宣統二年官費を以て米國に留學し「カーネル」大學に機械工學を修め民國三年卒業す、嗣いで「ユニオン」大學に入り五年碩士の學位を得、即ち同校電氣試驗室助教となり、幾何計算尺及び複數計算尺を發明す、五年歸

國して重慶廣益中學教員となる。年齢三十。

陳英梅 (Ch'ên Ying—mei)

女士

現住上海

香港に生る、初め上海中西女塾、香港公立學校に學び、光緒三十一年米國に留學し林園大學普通文科に入る、宣統元年「ウエレスリー」學校に體育を學び民國二年學士號を得て歸國せり、嗣いで上海青年會書記となり、五年上海青年會學校々長となる。年齢二十七。

陳衍 (Ch'ên Yen)

字 石遺

福建省閩侯縣人

陳氏は民國有数の詩家なり、前清中學人より學部の主事となり又京師大學堂教授たるもの年あり、民國二年十二月該學堂の後身北京大學の文科教員となりしが、同六年正月辭職歸郷し本省の囑托を受け福建省志を編纂せり、而して邦人氏の教を奉ずるもの亦少なからずといふ。年齢六十。

陳亮功 (Ch'ên Liang—kung)

江蘇省江寧縣人

前清の秀才にして清末奉天省法庫廳同知となりしが第一革命の當